

全学共通科目シラバス・履修案内

平成 28 年度

(2016 年)



大阪市立大学学務企画課

目 次

I. 全学共通科目の履修案内	
1. 全学共通教育の目標と位置付け	1
2. 全学共通科目の理念と目的	1
(1) 総合教育科目	1
(2) 基礎教育科目	2
(3) 外国語科目	2
(4) 健康・スポーツ科学科目	2
3. 単位の基準	2
4. 授業時間	3
5. 全学共通科目の履修について	3
6. 履修登録等について	3
7. 障がいをもつる学生の受講等について	3
8. 試験及び成績について	3
(1) 定期試験等	3
(2) 成 績	4
9. 各種掲示について	4
10. 交通スト、台風時等の授業について	4
11. 単位互換について	5
12. 地域志向系科目について	5
13. 科目ナンバーについて	5
14. 全学共通科目 Q & A	6
II. 全学共通科目の授業科目	
1. 全学共通科目の分類体系	10
2. 配当クラスの表記について	11
3. 平成 28 年度全学共通科目の授業科目一覧	12
参考(1) 平成 28 年度新設廃止科目名変更一覧	43
参考(2) 平成 13 年度から 28 年度までの総合教育科目の開講実績一覧	44
4. 地域志向系科目	50
III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等	
1. 総合教育科目 A	51
2. 総合教育科目 B	75
3. 基礎教育科目	165
4. 外国語科目	201
英語	202
新修外国語	215
ドイツ語	220
フランス語	231
中国語	238
ロシア語	248
朝鮮語	254
日本語	261
5. 健康・スポーツ科学科目	265
健康・スポーツ科学科目の履修について	266
実習授業時の集合場所	267
シラバス	268
IV. 教室等施設配置図	289
V. 学 則	297
VI. 各学部等の電話番号・所在地	325

平成28年度カレンダー

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	
4月						1	2	1日(金) 新生ガイダンス
	3	4	5	6	7	8	9	2日(土) 新生TOEFL
	10	11	12	13	14	15	16	4日(月) 入学式
	17	18	19	20	21	22	23	7日(木) 新生健康診断
	24	25	26	27	28	29	30	8日(金) 前期授業開始
								21日(木) 新歓祭5限休講 22日(金) 新歓祭午後休講

	日	月	火	水	木	金	土
5月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土
6月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土	
7月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	25日(月)～8月5日(金) 授業・試験期間
	31							

	日	月	火	水	木	金	土	
8月		1	2	3	4	5	6	5日(金)～9月15日(木) 夏季休業期間 (ただし5日(金)は 授業・試験を実施)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土	
9月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	16日(金)～30日(金) 研修期間
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	
10月							1	3日(月) 後期授業開始
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

	日	月	火	水	木	金	土	
11月			1	2	3	4	5	2日(水) 大学祭5限休講
	6	7	8	9	10	11	12	4日(金) 大学祭休講
	13	14	15	16	17	18	19	8日(火) 振替授業日 (金曜の授業を実施)
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				

	日	月	火	水	木	金	土	
12月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	23日(金)～1月7日(土) 冬季休業期間
	25	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土	
1月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	13日(金) センター試験に伴う 休講措置
	15	16	17	18	19	20	21	17日(火) 振替授業日 (金曜の授業を実施)
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土	
2月				1	2	3	4	1日(水)～14日(火) 授業・試験期間
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	15日(水)～3月19日(日) 研修期間
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28					

	日	月	火	水	木	金	土	
3月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	20日(月)～春季休業期間
	26	27	28	29	30	31		

□ 振替授業日 ■ 休業期間 ■ 休講日 ■ 授業・試験期間

平成28年度学年暦

学 年 開 始	4月 1日 (金)
新 入 生 ガ イ ダ ン ス	4月 1日 (金)
入 学 式	4月 4日 (月)
新 入 生 健 康 診 断	4月 7日 (木)
前 期 授 業 開 始 日	4月 8日 (金)
創 立 記 念 日	6月 1日 (水) (通常通り授業実施)
授 業 ・ 試 験 期 間	7月 25日 (月) ～ 8月 5日 (金)
夏 季 休 業	8月 5日 (金) ～ 9月 15日 (木)
研 修 期 間	9月 16日 (金) ～ 9月 30日 (金)
後 期 授 業 開 始 日	10月 3日 (月)
振 替 授 業 日	11月 8日 (火) 金曜日の授業を実施
冬 季 休 業	12月 23日 (金) ～ 1月 7日 (土)
振 替 授 業 日	1月 17日 (火) 金曜日の授業を実施
授 業 ・ 試 験 期 間	2月 1日 (水) ～ 2月 14日 (火)
研 修 期 間	2月 15日 (水) ～ 3月 19日 (日)
春 季 休 業	3月 20日 (月) ～

※ 振 替 授 業 日 —— 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。

※ 研 修 期 間 —— 集中講義や補講などが行われることがある。

※ 授 業 ・ 試 験 期 間 —— 定期試験や授業を行う。

※ 卒 業 式 —— 日程確定後、ホームページ（ホーム>教育・学生生活>授業・履修関係>行事予定・授業時間）に掲載します。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、1セメスターで授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。（平成28年度においては8月5日が夏季休業期間ですが、授業・試験を実施）

☆ 参 考

- ・ 新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月21日（木）5時限、22日（金）3～5時限

[歓迎祭開催日程：4月21日（木）5限～、22日（金）午後～、23日（土）終日]

- ・ 大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

11月2日（水）5時限、11月4日（金）全時限

[大学祭開催日程：11月3日（木）～11月6日（日）]

- ・ センター入試準備に伴う休講

平成29年1月13日（金）全時限

[センター試験：1月14日（土）・15日（日）]

I 全学共通科目の履修案内

I 全学共通科目の履修案内

ポイント

- ◆ 履修登録をしないと、単位は修得できません。所定の期間内に必ず履修登録を行って下さい。
- ◆ 平成 27 年度から授業時間が一部変更されています。
- ◆ 平成 27 年度以降の入学生は、「地域志向系科目」が必修となります。

1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

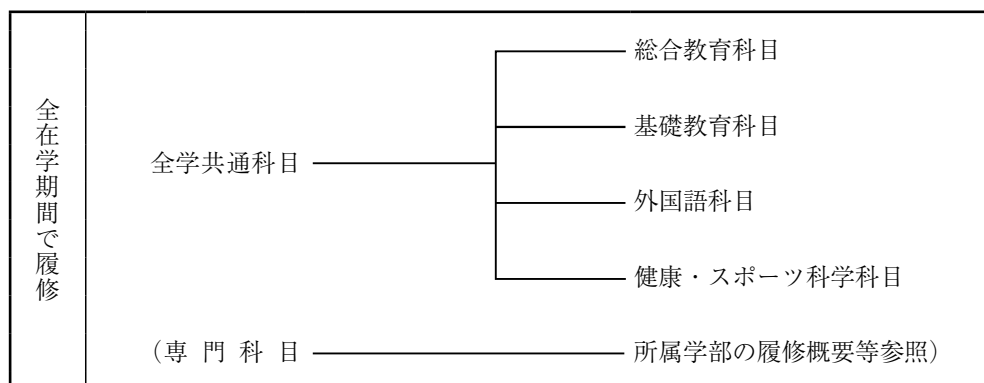
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、「初年次教育」のような1年生向けの科目もありますが、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester 制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



2. 全学共通科目の理念と目的

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目 A と総合教育科目 B の二つに区分されます。

① 総合教育科目 A は、人類の生存や市民生活等に直接かわり、すぐれて現代的・実的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目 A は、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限に開講されています。

② 総合教育科目 B は、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」、大学で学問することの意味を体験する「初年次教育」という五つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに十の主題が設けられて

います。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目 A・Bの中から、各々の関心や興味に応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間(医学部を除く)の中で計画的に修得するようにしてください。

③ 総合教育科目Bの演習科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

④ 総合教育科目 A の特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目 B の初年次教育「初年次セミナー」は1回生を対象に前期に開講される科目で、新入生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的としています。

⑤ 総合教育科目 B の特別枠「単位互換科目」は、個別大学の枠を超えた大学相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献することを目的として大学コンソーシアム大阪並びに、大阪府立大学及び大阪商業大学との協定によって科目が提供されます。

(注) 履修登録をするだけで、受講しない者が多く見受けられます。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。履修する科目を慎重に選んで履修登録をするように注意してください。
履修希望者が定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

(2) 基礎教育科目

主として理系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

(注) 実験、実習科目では安全かつ効果的に実習を行うため、各科目に定員を設けています。

(3) 外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な理解を目標として総合的な見地から行われています。そのために教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器(外国語特別演習室)を利用した授業も提供されています。

(4) 健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準の規定に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

〔新修外国語〕特修…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回(時限)の授業時間を2時間としているので、各科目の学習時間と単位は次のとおりです。

	授業時間数	自習時間数	期間(回数)	合計時間数	単位数
講義、演習科目	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
外国語科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1
新修外国語〔特修〕	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
実験、実習科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1

4. 授業時間 (杉本キャンパス)

教室移動や実験実習、体育実技等の受講準備の利便性を考慮し、平成 27 年度から杉本キャンパスの授業時間を変更しています。

第 1 時限	8 : 5 5 ~ 1 0 : 2 5
第 2 時限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0
第 3 時限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
第 4 時限	1 4 : 4 5 ~ 1 6 : 1 5
第 5 時限	1 6 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0

5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、所属する学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なっていたり、科目数を指定していたりする場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

◎演習科目

平成 10 年度から開講された総合教育科目 B の演習科目は、概ね主題ごとに 1~2 科目を提供します。
演習科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

◎留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として日本語 1 A ~ 5 B、総合教育科目 B として日本事情 I A ~ II B が開講されています。初回授業には必ず出席して下さい。

日本事情 I A・I B は、留学生以外の学生は履修できません。

6. 履修登録等について

単位を修得しようとする科目は、履修登録期間中に Web 履修システムにて履修登録を行って下さい。履修登録をしなければ、単位は修得できません。

(1) 履修登録及び確認

① 履修登録期間に履修登録が必要な科目を Web 上で登録してください。

前期に登録する科目：前期科目および、前・後期集中講義科目

(集中講義は後期履修登録時に登録はできません。)

後期に登録する科目：後期科目

② クラス指定がある科目は、該当クラスを登録してください。

③ 抽選結果発表日に、抽選結果および登録内容を確認してください。追加可能な科目について全学ポータルサイトおよび掲示板に掲載します。追加登録を希望する学生は、登録方法を確認してください。

④ 確認・修正登録期間に Web 上で履修登録の修正・追加・削除が可能な科目を登録できます。

⑤ 最終確認日に履修登録内容を確認してください。

(2) 登録上の注意

① 同一科目の単位を複数回修得することはできません。

② 抽選になった科目の辞退（登録削除）はできません。その他、修正・追加・削除できない科目に注意してください。

③ 具体的な登録方法は「Web 履修システム操作マニュアル」を参照してください。

④ その他、履修登録についての詳細は、全学ポータルサイトおよび掲示板に掲載されますので、必ず確認してください。

7. 障がい有する学生の受講等について

障がい有する学生の受講等について要望があるときは、学生サポートセンター所属学部教務担当に申し出て下さい。

8. 試験及び成績について

(1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに各授業内で実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合があります。さらに、その他随時実施される試験があります。

◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、所属学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後所定の期日までに、受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、**所属学部教務担当**に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は各学部履修概要で確認してください。

「学校において予防すべき感染症」に罹患し、定期試験を受験できなかった場合は、所属学部教務担当に申し出て下さい。

(注) 試験に関する詳細は適宜、全学共通教育棟1階掲示板および学生サポートセンター1F 掲示板に掲示します。また、追試験を許可された者の学籍番号及び実施日程等も、定期試験終了後定められた日に、上記掲示板に掲示します。

◎ 試験において不正行為を行った場合、そのセメスターの全科目の単位が無効となります。

(2) 成績

成績は下記の表記をもって通知します。

◎平成 24 年度以前の入学者

合格科目→「A」 80 点以上 「B」 70 点～ 79 点 「C」 60 点～ 69 点

不合格科目→「E」 60 点未満

◎平成 25 年度以降の入学者

合格科目→「AA」 90 点以上 「A」 80 点～ 89 点 「B」 70 点～ 79 点 「C」 60 点～ 69 点

不合格科目→「F」 60 点未満

成績通知は Web 履修システム上で確認することができます。成績通知日は所属学部からお知らせします。

9. 各種掲示について

全学共通科目に関する事項(授業、休講、履修等)やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。全学ポータルサイトに掲載する情報もあります。

全学共通科目に関する掲示板は、全学共通教育棟1階および、学生サポートセンター1階にあります。なお、健康スポーツ科学科目に関する掲示はすべて第1(旧)体育館前掲示板にて行います。

10. 交通スト、台風時等の授業について

(1) 交通スト当日の杉本学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は休講とします。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。

- ① JR 阪和線
- ② 私鉄(近鉄、阪急、阪神、南海、京阪)の1社以上
- ③ 地下鉄及び JR 環状線が同時

(2) 台風時等の杉本学舎の授業について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

〈別表〉

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前 7 時 以前		全 時 限
午前 10 時 以前	1 ・ 2 時 限	3 ・ 4 ・ 5 時 限
午前 10 時を過ぎても解除されない場合	全 時 限	

11. 単位互換について

・大学コンソーシアム大阪センター科目

・大阪府立大学・大阪商業大学の単位互換科目

上記の科目を履修して、単位を修得できる制度があります。

所属学部によって単位認定等の取扱が異なりますので、必ず所属学部の履修規程等を参照してください。

シラバス等の詳細は、全学ポータルサイトに掲載します。

出願時期が限られているので注意してください。

12. 地域志向系科目について（平成 27 年度以降入学生のみ）

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」として、本学と大阪府立大学との共同申請「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」が採択されました。本事業は、大学と自治体の連携を通して、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めていくものです。

以上の理念に基づき、平成 27 年度入学生より、「地域志向系科目」として指定されている科目から、2 単位以上を修得することが必要になります。平成 27 年度以降に入学された学生の皆さんは、在学中に「地域志向系科目」から必ず 1 科目は受講するようにして下さい。

「地域志向系科目」にあたる科目については、Ⅱ. 4. 「地域志向系科目」を参照してください。また所属する学部の履修案内も必ず参照するようにして下さい。

13. 科目ナンバーについて

本学では、平成 28 年度より、すべての科目に番号を付け、分類する「科目ナンバリング」を導入します。科目ナンバーは、その科目の分野、水準、学年等を示すものです。学習の段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するための一つのツールとして、履修科目を選択する際などに利用して下さい。

※科目ナンバリング コード配分

例	<u>GE</u>	<u>FIR</u>	<u>01</u>	<u>01</u>
	①	②	③④	⑤

① 科目の提供組織（全学共通・学部・学科・副専攻など）（1・2桁目）
全学共通科目はすべて「GE」とする。

② 科目の分野（3～5桁目）
（別表1）を参照。

③ 各学部の学習マップでの学習段階（6桁目）
全学共通科目はすべて「0」。

④ 対象学年または難易度（7桁目）（別表2・3）
全学共通科目では対象学年または難易度を表している。
6桁目まで同一の科目内での学習順序を示す。

⑤ 科目別の識別番号（8・9桁目）
1～7桁目が同一で、異なった科目を識別するための番号。

なお、上記7桁の後ろに小数点以下の桁を設ける場合がある。（別表4）

全学共通科目では「地域志向系科目」を識別するために、「.CO」を付している。

【別表1】科目の分野（3～5桁目）

科目群	主 題	記 号
総合教育科目 A		GEN
総合教育科目 B	人間と社会	HUM
	歴史と文化	HIS
	自然と人間	NAT
	情報と人間	INF
	初年次	FIR
基礎教育科目	数学	MAT
	物理学	PHY
	化学	CHE
	生物学	BIO
	地球学	GEO
	図形科学	GRA
外国語科目	英語	ENG
	ドイツ語	GER
	フランス語	FRA
	中国語	CHN
	ロシア語	RUS
	朝鮮語	KOR
	日本語	JPN
健康・スポーツ科学 科目	講義	HEA
	実習	SPO

【別表2】対象学年（7桁目）

対象学年	記 号
1 回生以上	1
2 回生以上	2
3 回生以上	3
4 回生	4

【別表3】難易度（7桁目）

難易度	記 号
初級・入門	1
中級・応用	2
上級	3
発展	4

【別表4】小数点以下

科目名	記 号
地域志向系科目	.CO

14. 全学共通科目Q&A

Q 1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の専門を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこもることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持って考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの“人間づくり”のために積極的に履修して下さい。

Q 2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移行しました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修することで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

Q 3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。

本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためですので、在学中の履修計画を立てるために必ず目を通して下さい。

本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

Q 4 4年一貫教育とは？

最近、「4年一貫教育」（全在学期間を通じての体系的教育という意味）という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養

課程、3回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです（なお、医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています）。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になっても履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に多く開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用して下さい。

Q 5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取ってしまうと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

Q 6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

（注）授業の空登録（受講の決心をしていないのに登録だけしておく）は、本当に受けたい人の受講を妨げることになりますので、絶対にやめてください。また、履修登録が確定した科目の授業は必ず受けてください。

Q 7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の科目が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回（水・金）の5時限に開講しています。

1. 全学共通科目の分類体系

日 本 語			英 語		
総合教育科目 A			Integrated General Courses A		
	主 題	人間と環境 都市・大阪 生命と人間 特 別 枠		主 題	Humanity and the Environment Studies of Osaka Humanity and Life
総合教育科目 B			Integrated General Courses B		
科目群	人 間 と 社 会		科目群	Humanity and Society	
	主 題	人間と知識・思想 現代社会と人間 社 会 と 人 権		主 題	Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights
科目群	歴 史 と 文 化		科目群	History and Culture	
	主 題	歴 史 地域と文化 文学と芸術		主 題	History Regions and Culture Literature and the Arts
科目群	自 然 と 人 間		科目群	Nature and Humanity	
	主 題	現代の自然科学 自然科学と人間		主 題	Modern Natural Science Natural Science and Humanity
科目群	情 報 と 人 間		科目群	Information and Humanity	
	主 題	情報と人間		主 題	Information and Humanity
科目群	初年次教育		科目群	First Year Experience	
	主 題	初年次教育		主 題	First Year Experience
基礎教育科目			Basics in the Sciences		
	主 題	数 学 物 理 学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科 学		主 題	Mathematics Physics Chemistry Biology Geosciences Graphics
外国語科目			Foreign Languages		
	主 題	英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語		主 題	English German French Chinese Russian Korean Japanese
健康スポーツ科学科目			Health, Exercise and Sport Sciences; HESS		
	主 題	健康スポーツ科学講義 健康スポーツ科学実習 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> { 実験実習 スポーツ実習 </div>		主 題	Health, Exercise and Sport Sciences throughtout Life Practice Courses <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> { Experimental Education for HESS Practice-Field Work for HESS </div>

2. 配当クラスの表記について

配当クラスとは、当該科目を履修できる、あるいは履修する必要のある学生の所属する学部やグループ等をさします。

例		
<u>J</u>	<u>I</u>	<u>b</u>
①	②	③
<u>S</u>	<u>II</u>	<u>物(数)</u>
①	②	④

① 学部等の略称

略 称	学部等	略 称	学部等
全	全学部	全文	文科系の全学部
「再」	再履修者用クラス	全理	理科系の全学部
C	商学部	E	経済学部
J	法学部	L	文学部
S	理学部	T	工学部
M	医学部医学科	N	医学部看護学科
H	生活科学部		

② 履修年次

略 称	履修年次	略 称	履修年次
I	1 回生	II	2 回生
III	3 回生	IV	4 回生
低	1・2 回生		

③ クラス分け

アルファベット小文字によるクラス分けを示しています。外国語科目等に使用されます。詳細はシラバス(P.218・219)を参照してください。

④ 学科の略称によるクラス分けを示しています。外国語科目・基礎教育科目に使用されます。基礎教育科目については、() のない学科は必修科目、() のある学科は選択もしくは選択必修科目であることを示しています。

学 部	略 称	学 科
理	数	数学科
	物	物理学科
	化	化学科
	生	生物学科
	地	地球学科
工	機	機械工学科
	電	電子・物理工学科
	情	電気情報工学科 (2013～)・情報工学科 (～2012)
	化	化学バイオ工学科
	建	建築学科
生	都	都市学科
	食	食品栄養科学科
	環	居住環境学科
	人	人間福祉学科

3. 平成 28 年度 全学共通科目の授業科目一覧

○総合教育科目A

総合教育科目Aでは、すぐれた現代的・実的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つひとつの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つひとつ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

主題	授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
人間と環境	環 境 と 歴 史	2	2	水・5		全	大黒 俊二		1	52
	日 本 の 公 害	2	2		木・4	全	除本 理史		2	52
	技 術 と 環 境	2	2		金・5	全	寺井 章他		3	53
	開 発 と 環 境	2	2		水・5	全	岩波 由香里		4	53
	人 間 と 居 住 環 境	2	2	金・5		全	上田 博之他		5	54
都 市 ・ 大 阪	歴 史 の な か の 大 阪	2	2		水・5	全	塚田 孝		6	56
	都 市 生 活 と 人 間 福 祉	2	2	金・5		全	野村 恭代他		7	56
	大 阪 の 自 然	2	2		金・5	全	三田村 宗樹他		8	57
	大 阪 の 都 市 づ くり	2	2	金・5		全	嘉名 光市他		9	58
	大 阪 の 地 理	2	2	水・5		全	水内 俊雄		10	59
	現 代 都 市 論	2	2		木・5	全	富澤 修身		11	59
	都 市 の 経 済 と ビジネス	2	2	水・4		全	新藤 晴臣他		12	60
	国 際 地 域 経 済 と 都 市	2	2		水・4	全	有賀 敏之他		13	61
	大 阪 落 語 へ の 招 待	2	2	水・5		全	久堀 裕朗他		14	62
	都 市 ・ 地 域 政 策	2	2		金・4	全	藤塚 吉浩他		15	63
	市 大 都 市 研 究 の 最 前 線	2	2		金・5	全	全 泓奎他		16	63
	コ ミ ュ ニ テ ィ 防 災	2	2	水・5		全	生田 英輔他		17	64
生 命 と 人 間	生 と 死 の 倫 理	2	2		水・5	全	土屋 貴志		18	66
	生 命 と 法	2	2		金・5	全	三島 聡他		19	66
	戦 争 と 人 間	2	2	火・1		全	佐賀 朝		20	67
	生 命 と 進 化	2	2		水・5	全	若林 和幸他		21	68
	現 代 の 医 療	2	2	水・5		全	元村 尚嗣他		22	69
	人 体 を 考 え る	2	2	金・5		全	池田 一雄他		23	70
	光 と 生 命	2	2		金・5	全	寺北 明久他		24	71
特 別 枠	大 阪 市 大 で どう 学 ぶ か	2	2	水・5		全	大久保 敦他		25	72
	大 阪 学 (学 長 特 命 科 目)	2	2		水・5	全	桐山 孝信他		26	73

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

主題	授 業 科 目 名	週 時間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前期	後期					
人間 と 知 識 ・ 思 想	論 理 学 入 門	2	2		火・4	全	佐金 武		27	76
	性 格 心 理 学 入 門	2	2		金・3	全	田端 拓哉		28	76
	心 理 学 へ の 招 待	2	2	月・3		全	佐伯 大輔		29	77
	心 理 学 へ の 招 待	2	2	木・4		全	矢田 尚也		30	78
	心 理 学 へ の 招 待	2	2	火・3		全	池上 知子		31	79
	心 理 学 へ の 招 待	2	2	金・1		全	田端 拓哉		32	79
	ゲームで学ぶ社会行動	2	2		木・3	全	渡邊 席子		33	80
	日常の中の不思議を探す(演習)	2	2		火・3	全	渡邊 席子		34	81
	教育と発達心理学	2	2	火・2		全	西垣 順子		35	82
	教育と発達心理学(演習)	2	2		木・3	全	西垣 順子		36	82
	リテラシー教育の思想と方法	2	2		火・4	全	西垣 順子		37	83
	心理学・認知科学と人間	2	2		火・4	全	平 知宏		38	84
現 代 社 会 と 人 間	現代文化の社会学	2	2	水・4		全	笹島 秀晃		39	85
	宗 教 と 社 会	2	2	木・4		全	仲原 孝		40	85
	社会科学のフロンティア	2	2		水・2	全	中村 健吾		41	86
	日 本 国 憲 法	2	2	火・1		全	阿部 和文		42	87
	日 本 国 憲 法	2	2	金・5		全	中谷 実		43	87
	現代社会学入門	2	2	月・2		全	進藤 雄三		44	88
	現代の社会問題	2	2		火・3	全	川野 英二		45	88
	家 族 と 社 会	2	2		木・4	全	佐々木 洋子		46	89
	世界のなかの日本経済	2	2	火・4		全	小川 亮他		47	90
	現代経済学入門	2	2	金・3		全	長沼 進一		48	90
	法 と 社 会	2	2		木・4	全	恒光 徹		49	91
	日 本 の 企 業	2	2	木・2		全	高橋 信弘		50	92
	現代社会と健康	2	2	水・3		全	吉川 貴仁		51	92
	現代社会と健康	2	2		水・3	全	吉川 貴仁		51	92
	現代社会と健康	2	2	木・2		全	鴨井 博		51	92
	現代社会と健康	2	2		木・2	全	鴨井 博		51	92
メディアの社会学	2	2	水・3		全	石田 佐恵子		52	93	
現代社会におけるキャリアデザイン	2	2		火・3	全	飯吉 弘子		53	94	
現代社会と大学	2	2	木・4		全	飯吉 弘子		54	95	
地 域 実 践 演 習	2	2		火・2	全 I・II	長尾 謙吉		55	97	
地 域 実 践 演 習	2	2		集中	全 I・II	生田 英輔 他		56	98	

主題	授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
現代社会と人間	地域実践演習	2	2		月・5 (集中あり)	全 I・II	水内 俊雄 他		57	98
	地域実践演習	2	2	集中		全 I・II	嘉名 光市 他		58	99
	地域実践演習	2	2		月・5	全 I・II	中川 眞 他		59	100
	データから見る大阪市大(演習)	2	2		木・4	全	平 知宏		60	101
	現代社会と大学(演習)	2	2		木・3	全	飯吉 弘子		61	102
社会と人権	エスニック・スタディ応用編	2	2		金・2	全	金 光敏		62	103
	現代の部落問題	2	2	金・2		全	齋藤 直子		63	103
	メディアと人権	2	2	金・1		全	中村 一成		64	104
	部落解放のフロンティア	2	2		金・1	全	齋藤 直子 他		65	105
	部落差別の成立と展開	2	2	金・1		全	上杉 聰		66	106
	世界のマイノリティ	2	2		金・2	全	川越 道子		67	106
	障がい者と人権 I	2	2	金・2		全	松波 めぐみ		68	107
	障がい者と人権 II	2	2		金・2	全	松波 めぐみ		69	108
	平和と人権	2	2		金・2	全	高 誠晩		70	108
	平和学	2	2	金・2		全	役重 善洋		71	109
	ジェンダーと現代社会 I	2	2	金・2		全	古久保 さくら 他		72	110
	ジェンダーと現代社会 II	2	2		金・2	全	古久保 さくら 他		73	111
	エスニック・スタディ入門編	2	2	金・2		全	朴 一		74	111
	企業と人権	2	2	金・5		全	李 嘉永		75	112
地球市民と人権	2	2	金・2		全	阿久澤 麻理子		76	113	
人権と多様性の研究(演習)	2	2		金・4	全	齋藤 直子 他		77	113	

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

主題	授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
歴史	日本史の見方	2	2	火・3		全	磐下 徹		78	115
	東洋史の見方	2	2	木・2		全	上野 雅由樹		79	115
	西洋史の見方	2	2	火・4		全	北村 昌史		80	116
	日本社会の歴史	2	2		木・3	全	仁木 宏		81	117
	東洋社会の歴史	2	2		木・2	全	平田 茂樹		82	117
	西洋社会の歴史	2	2		火・3	全	草生 久嗣		83	118
	現代の歴史	2	2	木・4		全	野村 親義		84	119
	考古学入門	2	2		火・2	全	岸本 直文		85	119
ことばの歴史	2	2		木・1	全	丹羽 哲也		86	120	
地域 と 文化	現代の地理学	2	2		木・2	全	山崎 孝史		87	121
	都市の地理学	2	2		月・3	全	大場 茂明		88	121
	文化人類学入門	2	2	火・3		全	多和田 裕司		89	122
	環境と文化	2	2	火・1		全	祖田 亮次		90	123
	アジアの文化	2	2		月・3	全	中川 眞		91	123
	民族と社会	2	2		火・3	全	多和田 裕司		92	124
	観光研究入門	2	2	水・3		全	天野 景太		93	125
	観光と文化	2	2		水・3	全	天野 景太		94	126
	アーツマネジメント	2	2		水・5	全	中川 眞 他		95	127
	アジアの地域と文化(演習)	2	2		月・2	全	中川 眞		96	128
	日本事情 I A	2	2	金・2		全	高坂 史朗	留学生以外の学生は 単位修得不可	97	128
	日本事情 I B	2	2		金・2	全	高坂 史朗	留学生以外の学生は 単位修得不可	98	129
日本事情 II A	2	2	水・2		全	増田 聡		99	129	
日本事情 II B	2	2		木・4	全	コロナトウスキ・ヒェラルド		100	130	
文学 と 芸術	日本の古典文学 I	2	2	火・4		全	小林 直樹		101	131
	日本の古典文学 II	2	2		水・2	全	山本 真由子		102	131
	東洋の文学	2	2		木・2	全	福田 知可志		103	132
	日本の近代文学	2	2	木・3		全	奥野 久美子		104	132
	東洋美術の流れ	2	2		火・2	全	土井 久美子		105	133
	音楽の諸相	2	2	水・3		全	増田 聡		106	134
	視覚文化の世界	2	2		木・4	全	石川 優		107	134
	文学と芸術へのいざない(演習)	2	2		月・2	全	高梨 友宏		108	135

科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生、生活科学部人間福祉学科と医学部看護学科の学生を対象とする。

主題「自然科学と人間」は、文科系及び理科系の学生を対象とする。

主題	授 業 科 目 名	週 時間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
現 代 の 自 然 科 学	数学の考え方1	2	2		月・2	全文・H(人)・N	河内 明夫		109	136
	ニュートンからアインシュタインへ	2	2	木・2		全文・H(人)・N	内藤 清一		110	136
	ミクロとマクロの世界	2	2		火・3	全文・H(人)・N	牲川 章		111	137
	化学の世界	2	2	月・3		全文・H(人)・N	小嵯 正敏 他		112	137
	現代の分子科学	2	2		火・3	全文・H(人)・N	中島 信昭		113	138
	新しい動物行動学	2	2	金・3		全文・H(人)・N	幸田 正典		114	139
	生物学への招待	2	2	水・3		全文・H(人)・N	田中 俊雄 他		115	139
	地球の科学	2	2		火・1	全文・H(人)・N	益田 晴恵 他		116	140
	体験で知る科学と技術	4	4		水・3-4	全文・H(人)・N	篠田 圭司 他		117	141
	地球学入門	2	2		火・1	全文・H(人)・N	前島 渉		118	142
自 然 科 学 と 人 間	科学と社会	2	2	水・4		全	木野 茂		119	143
	現代科学と人間	2	2	木・4		全	宮田 真人 他		120	143
	心と脳	2	2		月・2	全	川邊 光一		121	144
	ドキュメンタリー・環境と生命	2	2		水・4	全	木野 茂		122	145
	森林環境と人間社会	2	2		火・4	全	大久保 敦		123	146
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題	2	2		火・3	全	飯野 盛利 他		124	146
	植物の機能と人間社会	2	2		月・2	全	曾我 康一		125	147
	植物と人間(演習)	2	2	集中		全	飯野 盛利 他		126	148

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

主題	授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
情報 と 人間	情 報 基 礎	4	2	月・3-4		全	村上 晴美		127	149
	情 報 基 礎	4	2	月・3-4		全	西村 雄一郎		128	150
	情 報 基 礎	4	2	水・1-2		全	村上 晴美		127	149
	情 報 基 礎	4	2	木・3-4		全	豊田 博俊		127	149
	情 報 基 礎	4	2	木・3-4		全	大西 克実		128	150
	情 報 基 礎	4	2	金・1-2		全	ベンカテッシュ ラガワン		128	150
	情 報 基 礎	4	2	金・1-2		全	豊田 博俊		127	149
	情 報 基 礎	4	2	金・3-4		全	永田 好克		127	149
	情 報 基 礎	4	2	金・3-4		全	米澤 剛		128	150
	情 報 基 礎	4	2		木・1-2	全	村上 晴美		127	149
	情 報 基 礎	4	2		金・1-2	全	安倍 広多		127	149
	プログラミング入門	4	2	月・3-4		全	松浦 敏雄 他		129	151
	プログラミング入門	4	2	金・3-4		全	石橋 勇人 他		130	151
	プログラミング入門	4	2		月・3-4	全	石橋 勇人 他		130	151
	プログラミング入門	4	2		木・3-4	全	大西 克実		131	152
	プログラミング入門	4	2		金・3-4	全	松浦 敏雄 他		129	151
	情報の探索と利用	2	2	月・2		全	吉田 大介		132	152
	情報の探索と利用	2	2		水・1	全	米谷 優子		132	152
	情報の探索と利用	2	2		水・2	全	米谷 優子		132	152
	地図と地理情報	2	2		火・2	全	木村 義成		133	153
情報化の光と影	2	2		木・2	全	福井 充 他		134	154	
ジオ・リテラシー入門	2	2	集中		全	木村 義成		135	155	

科目群：初年次教育

初年次セミナーは、学生が自ら選んだ問について調査・検討して報告し、議論することを通じて、次の目標を実現するための科目です。

- ・異なる学部の学生との議論等を通じて興味関心の幅を広げ、自分の考え方や態度を相対化できること。
- ・これからの人生において大学生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになること。
- ・異なる考え方や知識をもつ人々との対話・コミュニケーションができること。
- ・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキルを活用・増強させること。

主題	授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
初 年 次 教 育	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	木・2		全I	大久保 敦		136	156
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	火・4		全I	西垣 順子		137	157
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	火・4		全I	飯吉 弘子		138	157
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	木・3		全I	渡邊 席子		139	158
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	水・2		全I	小田中 章浩 他		140	159
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	水・4		全I	天野 景太		141	160
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	火・5		全I	荻尾 彰一		142	161
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	月・5		全I	高橋 太		143	161
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	木・2		全I	徳原 大介		144	162
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2	2	月・5		全I	鶴田 大輔		145	163

○基礎教育科目

授 業 科 目 名	週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
			前 期	後 期						
数 講	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		SI数	鎌田 聖一		146	166
	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		SI物 TI情1～32	奥原 沙季		146	166
	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		SI(化・生) HI(環)	河田 成人		146	166
	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		SI(地) TI(化)	河内 明夫		146	166
	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		TI電・(都1～28)	佐官 謙一		146	166
	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		TI建・(都29～)	加藤 信		146	166
	線形代数Ⅰ	2	2	木・1		TI機・情33～	綾野 孝則		146	166
	線形代数Ⅱ	2	2		木・1	SI数	河田 成人		147	166
	線形代数Ⅱ	2	2		木・1	SI物 TI情1～32	尾角 正人		147	166
	線形代数Ⅱ	2	2		木・1	SI(化・地) TI(化) HI(環)	古澤 昌秋		147	166
	線形代数Ⅱ	2	2		木・1	TI電・(都1～28)	小松 孝		147	166
	線形代数Ⅱ	2	2		木・1	TI建・(都29～)	安部 哲哉		147	166
	線形代数Ⅱ	2	2		木・1	TI機・情33～	小坂 篤志		147	166
	解析Ⅰ	2	2	火・2		SI数	伊達山 正人		148	167
	解析Ⅰ	2	2	火・2		SI物 TI情1～32	加藤 信		148	167
	解析Ⅰ	2	2	火・2		SI(化・生) HI(環)	柘田 幹也		148	167
	解析Ⅰ	2	2	火・2		SI(地) TI(化)	尾角 正人		148	167
	解析Ⅰ	2	2	火・2		TI電・(都1～28)	濱野 佐知子		148	167
	解析Ⅰ	2	2	火・2		TI(建・都29～)	河内 明夫		148	167
	解析Ⅰ	2	2	火・2		TI機・情33～	齋藤 洋介		148	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	SI数	高橋 太		149	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	SI物 TI情1～32	谷崎 俊之		149	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	SI(化・生) HI(環)	橋本 要		149	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	SI(地) TI(化)	濱野 佐知子		149	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	TI電・(都1～28)	堀口 達也		149	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	TI(建・都29～)	兼田 正治		149	167
	解析Ⅱ	2	2		火・2	TI機・情33～	齋藤 洋介		149	167
	解析Ⅲ	2	2	火・1		SII物・(化・生・地) TII(都)	佐官 謙一		150	168
解析Ⅲ	2	2	火・1		TII(電・情・建) HII(環)	岩渕 司		150	168	
解析Ⅲ	2	2	火・1		TII機・(化)	橋本 要		150	168	
解析Ⅳ	2	2		火・1	SII物・(化・地) TII(機)	釜江 哲朗		151	168	
解析Ⅳ	2	2		火・1	TII(電・情・化・建・都) HII(環)	佐官 謙一		151	168	
応用数学 A	2	2	月・1		SII(物・化) TII機	伊達山 正人		152	169	
応用数学 A	2	2	月・1		SII(生・地) TII(化・建・都)	吉田 雅通		152	169	
応用数学 A	2	2	月・1		TII(電・情) HII(環)	小松 孝		152	169	
応用数学 B	2	2		月・1	SII(物) TII(機・電)	西尾 昌治		153	170	
応用数学 B	2	2		月・1	SII(化・生・地) TII(情・化・建・都) HII(環)	釜江 哲朗		153	170	
応用数学 C	2	2		金・4	SII(物・化・生・地) TII(機・電・情・化・建) TIII(都) HII(環)	吉田 雅通		154	170	
基礎数学 A	2	2	月・4		CEIa	齋藤 洋介		155	171	

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
数 講	基礎数学 A	2	2	月・4		CEIb	古澤 昌秋		155	171
	基礎数学 A	2	2	月・4		CEIc	小坂 篤志		155	171
	基礎数学 A	2	2	月・4		CEId	金信 泰造		155	171
	基礎数学 A	2	2	火・4		HI	佐官 謙一		155	171
	基礎数学 B	2	2		月・4	CEIa	古澤 昌秋		156	171
	基礎数学 B	2	2		月・4	CEIb	兼田 正治		156	171
	基礎数学 B	2	2		月・4	CEIc	綾野 孝則		156	171
	基礎数学 B	2	2		月・4	CEId	佐官 謙一		156	171
	基礎数学 B	2	2		火・4	HI	河内 明夫		156	171
	統計学 A	2	2	木・3		MI	福井 充		157	172
	統計学 B	2	2		木・3	MI	福井 充		158	172
物 講	基礎物理学 I	4	4	月1・金4		SI物(数・地)	有馬 正樹		159	173
	基礎物理学 I	4	4	月1・金4		SI(化・生)TI電	中川 道夫		159	173
	基礎物理学 I	4	4	月1・金4		TI機	牲川 章		159	173
	基礎物理学 I	4	4	月1・金4		TI建(情)	河合 俊治		159	173
	基礎物理学 II	4	4		月1・金4	SI物(数・化・生・地)	浜端 広充		160	173
	基礎物理学 II	4	4		月1・金4	TI(機)	河合 俊治		160	173
	基礎物理学 II	4	4		月1・金4	TI電(情)	中川 道夫		160	173
	基礎物理学 I-A	2	2		水・1	SI物	糸山 浩		161	174
	基礎物理学 I-A	2	2		水・1	TI電	牲川 章		161	174
	基礎物理学 II-A	2	2	水・3		SII物 TII(電)	西川 裕規		162	174
	基礎物理学 I-E	2	2	月・1		SI(数・化・生) S低(地) H低(食・環)	菊地 右馬		163	175
	基礎物理学 I-E	2	2	月・1		TI(化)	浜端 広充		163	175
	基礎物理学 I-E	2	2	月・1		TI(都)	井上 慎		163	175
	基礎物理学 II-E	2	2		月・1	S低(地) SI(数・化・生・選) H低(食・環)	菊地 右馬		164	175
	基礎物理学 II-E	2	2		月・1	TI(化・建)	牲川 章		164	175
	基礎物理学 III	2	2	水・1		SII物(数・化・生・地)	矢野 英雄		165	176
	基礎物理学 III	2	2	水・1		TII電	中川 道夫		165	176
	基礎物理学 III	2	2	水・1		TII(機・情)	井上 慎		165	176
	基礎物理学 III	2	2	水・1		TII(化・建・都)	畑 徹		165	176
	基礎物理学 IV	2	2		水・1	SII物(数・化・生・地) TII(機) TIV(建)	中尾 憲一		166	176
	基礎物理学 IV-E	2	2		水・1	SII(数・化・生・地) TII(機・化・情) TIV(建)	畑 徹		167	177
	物理学 I	2	2	木・1		MI	牲川 章		168	177
	物理学 II	2	2		木・1	MI	村田 恵三		169	178
	入門物理学 I	2	2	月・1		SI(数・化・生) S低(地) TI(化)	吉野 裕高		170	178
	入門物理学 I	2	2	月・1		H低(食・環) NI	佐藤 弘一		170	178
	入門物理学 II	2	2		月・1	SI(数・化・生) S低(地) TI(化)	佐藤 弘一		171	179
	入門物理学 II	2	2		月・1	H低(食・環)	吉野 裕高		171	179
実 験	入門物理学実験	4	2		金3・4	S低(数・化・生・地) HI食(環)	岩崎 昌子 他		172	179
	基礎物理学実験 I	6	3	火3・4・5		SI物 TI(機①・都)	田越 秀行 他	①学籍番号 奇数	173	180

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
				前 期	後 期						
物 理 学	実 験	基礎物理学実験Ⅰ	6	3	木3・4・5		TI情(機②)	丸 信人 他	②学籍番号 偶数	173	180
		基礎物理学実験Ⅰ	6	3		火3・4・5	S低(数・化・生・地) TI電(建・化) HI(環)	小原 顕 他		173	180
		基礎物理学実験Ⅱ	6	3	月3・4・5		TII電(情) SII(化)	山本 和弘 他		174	181
		基礎物理学実験Ⅱ	6	3		月3・4・5	SII物(数・生・地) TII(機)	常定 芳基 他		174	181
化 学	講 義	基礎物理化学 A	2	2	水・1		SI化	宮原 郁子 他		175	182
		基礎物理化学 A	2	2	水・1		TI(機・電)	佐藤 和信 他		175	182
		基礎物理化学 A	2	2	水・1		HI(食・環) TII(都)	麻田 俊雄		175	182
		基礎物理化学 A	2	2	水・1		MI	神谷 信夫		175	182
		基礎物理化学 A	2	2		木・3	SI(数・物・生・地) TI(情・建)	麻田 俊雄		175	182
		基礎物理化学 B	2	2		水・2	SI化(数・物・生・地)	豊田 和男		176	182
		基礎物理化学 B	2	2		水・2	TI(建・都・電) HI(食・環)	宮崎 裕司		176	182
		基礎有機化学Ⅰ	2	2	月・2		SI化(数・物・生・地)	坂口 和彦		177	183
		基礎有機化学Ⅱ	2	2		月・2	SI化(数・物・生・地)	小嵯 正敏 他		178	183
		基礎有機化学	2	2	水・2		TI(機・建・電・都)	古市 公彬		179	183
		基礎有機化学M	2	2		火・3	MI	飯尾 英夫		180	184
		基礎無機化学	2	2	水・2		SII化	早坂 和将		181	184
		基礎無機化学	2	2	火・4		SII(数・物・生・地) TII(機・電・建・都・情)	磯邊 清		181	184
		基礎無機化学	2	2		水・1	MI	市村 彰男		181	184
		基礎分析化学	2	2	金・3		SII化	東海林 竜也		182	185
		基礎分析化学	2	2	金・3		SII(数・物・生・地) TII(電・建・都) HII(食・環)	市村 彰男		182	185
		入門化学	2	2	月・2		NI SI(数・物・生・地)	中澤 重顕		183	185
		物 理 学	実 験	基礎化学実験Ⅰ	6	3	火3・4・5		TI化(建)	篠田 哲史 他	
基礎化学実験Ⅰ	6			3	木3・4・5		TII(情) HI食(環)	篠田 哲史 他		184	186
基礎化学実験Ⅰ	6			3		火3・4・5	S低(数・物・生・地) TI(都)	篠田 哲史 他		184	186
基礎化学実験Ⅰ	6			3	木3・4・5		SI化 TII(機) SI(選) TI(電)	篠田 哲史 他		184	186
基礎化学実験Ⅱ	6			3	月3・4・5		TII(化)	舘 祥光 他		185	187
基礎化学実験Ⅱ	6			3		月3・4・5	SII化	舘 祥光 他		185	187
化学実験	4			2		木3・4	HII食	古澤 直人 他		186	187
生 物 学	講 義	生物学概論 A	2	2	水・1		SI TI(建・電) TII(機) TIII(都)	幸田 正典 他		187	188
		生物学概論 A	2	2		火・1	TI(化) H低(食・環)	伊東 明 他		187	188
		生物学概論 B	2	2		水・2	SI TI(電・建) TIII(都) H低(食・環)	藤田 憲一 他		188	189
		生物学概論 C	2	2		水・2	SII TII(建・電)	後藤 慎介 他		189	189
		生物学概論 D	2	2	水・2		SII TII(機・電) TIII(都) TIV(建) HII(食)	中村 太郎		190	190
		生物学概論Ⅰ	2	2	水・2		MI	幸田 正典 他		191	190
		生物学概論Ⅱ	2	2		水・2	MI	宮田 真人 他		192	191
生物学概論Ⅲ	2	2	火・4		NI	福永 昭廣		193	191		
物 理 学	実 験	生物学実験 A	4	2	木3・4		TII(機・化・都) S低(化)	水野 寿朗 他		194	192
		生物学実験 A	4	2	金3・4		SI生(地) S低(数・物) TII(建)	水野 寿朗 他		194	192
		生物学実験 B	4	2		木3・4	TI化(46人程度) HI食	水野 寿朗 他		195	192
		生物学実験 B	4	2		金3・4	TI化(10人程度) SI生(地) S低(数・物・化)	水野 寿朗 他		195	192

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
				前 期	後 期						
地 球 学	講	一般地球学A-I	2	2	水・2		SI地 S低(数・物・化・生)	升本 眞二 他		196	193
		一般地球学A-II	2	2		水・2	SI地 S低(数・物・化・生)	篠田 圭司		197	194
	義	一般地球学B-I	2	2	水・2		TI(機・建・電) TII(都) H低(環)	井上 淳		198	194
		一般地球学B-II	2	2		水・2	TI(機・建・電・都) H低(環)	柵山 徹也		199	195
		建設地学	2	2		月・3	TII(建・都) HII(環)	柵山 徹也 他		200	196
		建設地学	2	2		火・3	TI(建・都) HI(環)	山口 覚 他		200	196
	実 験	建設地学実習	2	1		月・4	TII(建・都) HII(環)	柵山 徹也 他		201	196
		建設地学実験	4	2		火 4・5	TI(建・都) HI(環)	山口 覚 他		202	197
		地球学実験 A	4	2	木 3・4		SI地 S低(数・物・化・生) TII(機)	奥平 敬元 他		203	197
		地球学実験 B	4	2		木 3・4	SI地 S低(数・物・化・生) TII(建・都)	江崎 洋一 他		204	198
図 形 科 学	講	図形科学 I	2	2	月・2		TII(情) HI環	瀧澤 重志		205	199
		図形科学 I	2	2	金・3		TI建(電)	瀧澤 重志		205	199
		図形科学 I	2	2	金・4		TI(都)	瀧澤 重志		205	199
	義	図形科学 II	2	2		月・2	TII(情) HI環	瀧澤 重志		206	199
		図形科学 II	2	2		金・3	TI建(電)	瀧澤 重志		206	199
		図形科学 II	2	2		金・5	TI(都)	瀧澤 重志		206	199

○外国語科目

授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
			前期	後期					
英 College English I 語	2	1	月・1		CLIa	Richards		207	203
			月・1		CL Ib	Sievert		207	203
			月・1		CL Ic	Quinn		207	203
			月・1		CL Id	Thorson		207	203
			月・1		CL Ie	Leigh		207	203
			月・1		CL If	Fenstermaker		207	203
			月・1		CL Ig	McAvoy		207	203
			月・1		CL Ih	野田		207	203
			月・1		CL Ii	Campbell		207	203
			月・1		CL Ij	Stepanczuk		207	203
			月・1		CL Ik	Feldman		207	203
			月・1		CL II	Vaughan		207	203
			月・1		CL Im	井狩		207	203
			月・1		CL In	山本		207	203
			月・1		CL Io	Chen		207	203
			月・2		EJIa	Stepanczuk		207	203
			月・2		EJIb	Richards		207	203
			月・2		EJIc	Feldman		207	203
			月・2		EJId	Sievert		207	203
			月・2		EJIe	Jones		207	203
			月・2		EJIf	Quinn		207	203
			月・2		EJIg	Thorson		207	203
			月・2		EJIh	Leigh		207	203
			月・2		EJ Ii	McAvoy		207	203
			月・2		EJ Ij	Fenstermaker		207	203
			月・2		EJ Ik	Chen		207	203
			月・2		EJ II	Campbell		207	203
			月・2		EJ Im	Jacobs		207	203
			月・2		EJ In	Mansfield		207	203
			月・2		EJ Io	Vaughan		207	203
			月・3		TNIa	Chen		207	203
			月・3		TNIb	Jacobs		207	203
			月・3		TNIc	Campbell		207	203
			月・3		TNI d	Stepanczuk		207	203
			月・3		TNI e	Vaughan		207	203
			月・3		TNI f	Mansfield		207	203
月・3		TNI g	Sievert		207	203			
月・3		TNI h	Feldman		207	203			
月・3		TNI i	Jones		207	203			

授 業 科 目 名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁			
			前期	後期								
英	College English I	2	1	月・3		TNIj	Thorson		207	203		
				月・3		TNIk	Quinn		207	203		
				月・3		TNII	McAvoy		207	203		
				月・3		TNIm	Fenstermaker		207	203		
				月・4		SMHIa	McAvoy		207	203		
				月・4		SMHIb	Leigh		207	203		
				月・4		SMHIc	Fenstermaker		207	203		
				月・4		SMHI d	Chen		207	203		
				月・4		SMHIe	Jacobs		207	203		
				月・4		SMHI f	Jones		207	203		
				月・4		SMHIg	Campbell		207	203		
				月・4		SMHIh	Stepanczuk		207	203		
				月・4		SMHIi	Mansfield		207	203		
				月・4		SMHIj	Sievert		207	203		
				月・4		SMHIk	Feldman		207	203		
				月・4		SMHIl	Vaughan		207	203		
				月・4		SMHI m	Quinn		207	203		
				月・4		SMHI n	Thorson		207	203		
							月・5	全「再」	野田	CE I の成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
							月・5	全「再」	井狩	CE I の成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
			水・5	全「再」	高島	CE I の成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213				
語	College English II	2	1	水・1		EJIa	多賀		208	204		
				水・1		EJIb	Selzer		208	204		
				水・1		EJIc	Leigh		208	204		
				水・1		EJI d	Richards		208	204		
				水・1		EJIe	Sievert		208	204		
				水・1		EJI f	Micklas		208	204		
				水・1		EJIg	Fenstermaker		208	204		
				水・1		EJIh	Feldman		208	204		
				水・1		EJIi	Thorson		208	204		
				水・1		EJIj	Lau		208	204		
				水・1		EJIk	Campbell		208	204		
				水・1		EJI l	Silva		208	204		
				水・1		EJI m	Vaughan		208	204		
				水・1		EJI n	高森		208	204		
				水・1		EJI o	Hudgens		208	204		
				水・2		CL Ia	Thorson		208	204		
				水・2		CL Ib	Lau		208	204		
				水・2		CL Ic	Silva		208	204		

授 業 科 目 名	週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
			前 期	後 期					
英 College English II 語	2	1	水・2		CLId	山崎		208	204
			水・2		CLLe	Campbell		208	204
			水・2		CLIf	多賀		208	204
			水・2		CLIg	Hudgens		208	204
			水・2		CLIh	Vaughan		208	204
			水・2		CLLi	山本		208	204
			水・2		CLLj	Selzer		208	204
			水・2		CLLk	Micklas		208	204
			水・2		CLLl	Fenstermaker		208	204
			水・2		CLLm	Feldman		208	204
			水・2		CLLn	Jacobs		208	204
			水・2		CLLo	高森		208	204
			水・3		SMHIa	Feldman		208	204
			水・3		SMHIb	Thorson		208	204
			水・3		SMHIc	Silva		208	204
			水・3		SMHI d	多賀		208	204
			水・3		SMHIe	Campbell		208	204
			水・3		SMHIf	Lau		208	204
			水・3		SMHIg	Hudgens		208	204
			水・3		SMHIh	Jacobs		208	204
			水・3		SMHIi	Vaughan		208	204
			水・3		SMHIj	山本		208	204
			水・3		SMHIk	Sievert		208	204
			水・3		SMHIl	Micklas		208	204
			水・3		SMHI m	Fenstermaker		208	204
			水・3		SMHI n	高島		208	204
			水・3		SMHI o	Selzer		208	204
			水・4		TNIa	Vaughan		208	204
			水・4		TNIb	Sievert		208	204
			水・4		TNIc	Micklas		208	204
			水・4		TNI d	Silva		208	204
			水・4		TNIe	Fenstermaker		208	204
			水・4		TNI f	Feldman		208	204
			水・4		TNIg	Thorson		208	204
			水・4		TNIh	Campbell		208	204
水・4		TNI i	Lau		208	204			
水・4		TNI j	Selzer		208	204			
水・4		TNI k	Hudgens		208	204			
水・4		TNI l	Jacobs		208	204			
水・4		TNI m	田中-		208	204			

授 業 科 目 名	週 時 間 数	単 位 数	開 講 期 ・ 曜 日 ・ 時 限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
			前 期	後 期					
College English II	2	1		月・5	全「再」	野田	CE IIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
				月・5	全「再」	井狩	CE IIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
				水・5	全「再」	高島	CE IIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
College English III	2	1		月・1	CL Ia	Sievert		209	205
				月・1	CL Ib	Quinn		209	205
				月・1	CL Ic	Thorson		209	205
				月・1	CL Id	Leigh		209	205
				月・1	CL Ie	McAvoy		209	205
				月・1	CL If	Fenstermaker		209	205
				月・1	CL Ig	Chen		209	205
				月・1	CL Ih	Campbell		209	205
				月・1	CL Ii	Stepanczuk		209	205
				月・1	CL Ij	Vaughan		209	205
				月・1	CL Ik	井狩		209	205
				月・1	CL II	山本		209	205
				月・1	CL Im	野田		209	205
				月・1	CL In	Feldman		209	205
				月・1	CL Io	Richards		209	205
				月・2	EJ Ia	Feldman		209	205
				月・2	EJ Ib	山本		209	205
				月・2	EJ Ic	Sievert		209	205
				月・2	EJ Id	Mansfield		209	205
				月・2	EJ Ie	Quinn		209	205
				月・2	EJ If	Thorson		209	205
				月・2	EJ Ig	Leigh		209	205
				月・2	EJ Ih	McAvoy		209	205
				月・2	EJ Ii	Chen		209	205
				月・2	EJ Ij	Fenstermaker		209	205
				月・2	EJ Ik	Jones		209	205
				月・2	EJ Il	Jacobs		209	205
				月・2	EJ Im	Campbell		209	205
				月・2	EJ In	Stepanczuk		209	205
	月・2	EJ Io	Vaughan		209	205			
	月・3	TN Ia	Fenstermaker		209	205			
	月・3	TN Ib	Campbell		209	205			
	月・3	TN Ic	Chen		209	205			
	月・3	TN Id	Jacobs		209	205			
	月・3	TN Ie	Mansfield		209	205			
	月・3	TN If	Stepanczuk		209	205			
	月・3	TN Ig	Vaughan		209	205			

英

語

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
				前 期	後 期						
英 語	College English III	2	1		月・3	TNIh	Sievert		209	205	
					月・3	TNIi	Feldman		209	205	
					月・3	TNIj	Quinn		209	205	
					月・3	TNIk	Jones		209	205	
					月・3	TNIl	Thorson		209	205	
					月・3	TNI m	McAvoy		209	205	
					月・4	SMHIa	Thorson		209	205	
					月・4	SMHIb	Leigh		209	205	
					月・4	SMHIc	McAvoy		209	205	
					月・4	SMHI d	Fenstermaker		209	205	
					月・4	SMHI e	Campbell		209	205	
					月・4	SMHI f	Chen		209	205	
					月・4	SMHI g	Jacobs		209	205	
					月・4	SMHI h	Jones		209	205	
					月・4	SMHI i	Mansfield		209	205	
					月・4	SMHI j	Stepanczuk		209	205	
					月・4	SMHI k	Feldman		209	205	
					月・4	SMHI l	山本		209	205	
					月・4	SMHI m	Vaughan		209	205	
					月・4	SMHI n	Sievert		209	205	
					月・4	SMHI o	Quinn		209	205	
					月・5		全「再」	山本	CEⅢの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					月・5		全「再」	井狩	CEⅢの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					火・4		全「再」	野田	CEⅢの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					水・5		全「再」	高森	CEⅢの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
	水・5		全「再」	田中孝	CEⅢの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213				
	College English IV	2	1		水・1	EJIa	高島		210	206	
				水・1	EJIb	Hudgens		210	206		
				水・1	EJIc	Vaughan		210	206		
				水・1	EJI d	多賀		210	206		
				水・1	EJI e	高森		210	206		
				水・1	EJI f	Leigh		210	206		
				水・1	EJI g	Sievert		210	206		
				水・1	EJI h	Micklas		210	206		
				水・1	EJI i	Fenstermaker		210	206		
				水・1	EJI j	Feldman		210	206		
				水・1	EJI k	Thorson		210	206		
				水・1	EJI l	Campbell		210	206		
				水・1	EJI m	Selzer		210	206		
				水・1	EJI n	Lau		210	206		

授 業 科 目 名		週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
英 College English IV 語		2	1		水・1	EJIo	Silva		210	206
					水・2	CL Ia	Thorson		210	206
					水・2	CL Ib	Campbell		210	206
					水・2	CL Ic	Selzer		210	206
					水・2	CL Id	Silva		210	206
					水・2	CL Ie	多賀		210	206
					水・2	CL If	Lau		210	206
					水・2	CL Ig	高森		210	206
					水・2	CL Ih	山本		210	206
					水・2	CL Ii	Richards		210	206
					水・2	CL Ij	Jacobs		210	206
					水・2	CL Ik	Vaughan		210	206
					水・2	CL Il	Micklas		210	206
					水・2	CL Im	Fenstermaker		210	206
					水・2	CL In	Hudgens		210	206
					水・2	CL Io	Feldman		210	206
					水・3	SMH Ia	Hudgens		210	206
					水・3	SMH Ib	Feldman		210	206
					水・3	SMH Ic	Campbell		210	206
					水・3	SMH Id	Silva		210	206
					水・3	SMH Ie	Thorson		210	206
					水・3	SMH If	Richards		210	206
					水・3	SMH Ig	Selzer		210	206
					水・3	SMH Ih	Lau		210	206
					水・3	SMH Ii	Jacobs		210	206
					水・3	SMH Ij	高森		210	206
					水・3	SMH Ik	Vaughan		210	206
					水・3	SMH Il	Sievert		210	206
					水・3	SMH Im	Micklas		210	206
					水・3	SMH In	山本		210	206
					水・3	SMH Io	Fenstermaker		210	206
					水・4	TN Ia	Lau		210	206
					水・4	TN Ib	Fenstermaker		210	206
					水・4	TN Ic	Richards		210	206
					水・4	TN Id	Feldman		210	206
	水・4	TN Ie	Vaughan		210	206				
	水・4	TN If	Micklas		210	206				
	水・4	TN Ig	Silva		210	206				
	水・4	TN Ih	Thorson		210	206				
	水・4	TN Ii	Sievert		210	206				

授 業 科 目 名	週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
			前 期	後 期					
College English IV	2	1		水・4	TNIj	Hudgens		210	206
				水・4	TNIk	Selzer		210	206
				水・4	TNII	Jacobs		210	206
				水・4	TNIm	Campbell		210	206
			月・5		全「再」	山本	CEIVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
			月・5		全「再」	井狩	CEIVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
			火・4		全「再」	野田	CEIVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
			水・5		全「再」	高森	CEIVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
			水・5		全「再」	田中孝	CEIVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
College English V	2	1	火・1		CIIa	片岡		211	208
			火・1		CIIb	清川		211	208
			火・1		CIIc	山澤		211	208
			火・1		CII d	高		211	208
			火・1		CIIe	倉恒		211	208
			火・1		CIIf	熊懐		211	208
			火・1		CIIf	筒井		211	208
			火・1		CIIh	村上		211	208
			火・2		JIIa	筒井		211	208
			火・2		JIIb	熊懐		211	208
			火・2		JIIc	倉恒		211	208
			火・2		JII d	清川		211	208
			火・2		JIIe	高		211	208
			火・2		JII f	山澤		211	208
			火・2		JII g	笹倉		211	208
			火・3		TIIa	田中一		211	208
			火・3		TIIb	関		211	208
			火・3		TIIc	笹倉		211	208
			火・3		TII d	豊田		211	208
			火・3		TIIe	山澤		211	208
			火・3		TII f	名和		211	208
			火・3		TII g	片岡		211	208
			火・3		TII h	田中孝		211	208
			火・3		TII i	村上		211	208
			火・3		TII j	野末		211	208
			火・3		TII k	古賀		211	208
			木・1		IIIa	津田		211	208
木・1		IIIb	藤井		211	208			
木・1		IIIc	山口		211	208			
木・1		III d	高橋		211	208			
木・1		III e	北岡		211	208			

英 語

授 業 科 目 名		週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
英 語	College English V	2	1	木・2		SIa	北岡		211	208
				木・2		SIb	高橋		211	208
				木・2		SIc	山口		211	208
				木・2		SId	野末		211	208
				木・2		SIe	藤井		211	208
				木・2		SIIf	津田		211	208
				木・2		SIIf	古賀		211	208
				木・3		EIIa	長嶺		211	208
				木・3		EIIb	上里		211	208
				木・3		EIIc	フィゴーニ		211	208
				木・3		EIIc	荒木		211	208
				木・3		EIIe	杉井		211	208
				木・3		EIIe	野末		211	208
				木・3		EIIg	関		211	208
				木・3		EIIIh	高島		211	208
				木・3		MIIa	廣田		211	208
				木・3		MIIb	中村		211	208
				木・3		MIIc	大久保		211	208
				木・4		LIIa	フィゴーニ		211	208
				木・4		LIIb	荒木		211	208
				木・4		LIIc	高橋		211	208
				木・4		LIIc	長嶺		211	208
				木・4		LIIe	豊田		211	208
				木・4		LIIe	古賀		211	208
				木・4		LIIg	上里		211	208
				木・5		全「再」	古賀	CEVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					火・4	全「再」	熊懷	CEVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					火・4	全「再」	名和	CEVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					水・5	全「再」	野末	CEVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
					木・5	全「再」	関	CEVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
	College English VI	2	1	木・4		MIIa	大久保		212	209
				木・4		MIIb	廣田		212	209
				木・4		MIIc	中村		212	209
				火・1	CIIa	筒井		212	209	
				火・1	CIIb	熊懷		212	209	
				火・1	CIIc	倉恒		212	209	
				火・1	CIIc	山澤		212	209	
				火・1	CIIe	清川		212	209	
				火・1	CIIIf	片岡		212	209	
				火・1	CIIIf	高		212	209	

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前 期	後 期					
英 語	College English VI	2	1		火・1	CIIIh	村上		212	209
					火・2	JIIa	高		212	209
					火・2	JIIb	笹倉		212	209
					火・2	JIIc	清川		212	209
					火・2	JII d	山澤		212	209
					火・2	JII e	倉恒		212	209
					火・2	JII f	熊懷		212	209
					火・2	JII g	筒井		212	209
					火・3	TII a	田中孝		212	209
					火・3	TII b	野田		212	209
					火・3	TII c	名和		212	209
					火・3	TII d	片岡		212	209
					火・3	TII e	笹倉		212	209
					火・3	TII f	村上		212	209
					火・3	TII g	田中一		212	209
					火・3	TII h	関		212	209
					火・3	TII i	杉井		212	209
					火・3	TII j	古賀		212	209
					火・3	TII k	筒井		212	209
					木・1	HII a	北岡		212	209
					木・1	HII b	津田		212	209
					木・1	HII c	高橋		212	209
					木・1	HII d	藤井		212	209
					木・1	HII e	山口		212	209
					木・2	SII a	山口		212	209
					木・2	SII b	津田		212	209
					木・2	SII c	藤井		212	209
					木・2	SII d	高橋		212	209
					木・2	SII e	北岡		212	209
					木・2	SII f	廣田		212	209
					木・2	SII g	山崎		212	209
					木・3	EII a	大久保		212	209
					木・3	EII b	荒木		212	209
					木・3	EII c	上里		212	209
					木・3	EII d	フィゴーニ		212	209
					木・3	EII e	廣田		212	209
					木・3	EII f	杉井		212	209
					木・3	EII g	中村		212	209
					木・3	EII h	長嶺		212	209
					木・4	LII a	田中孝		212	209

授 業 科 目 名	週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
			前 期	後 期						
英	College English VI	2	1		木・4	LIIb	中村		212	209
					木・4	LIIc	荒木		212	209
					木・4	LIId	フィゴーニ		212	209
					木・4	LIIE	大久保		212	209
					木・4	LIIf	長嶺		212	209
					木・4	LIIg	上里		212	209
				火・4		全「再」	熊懐	CEVIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
				火・4		全「再」	名和	CEVIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
				水・5		全「再」	田中一	CEVIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
				木・5		全「再」	豊田	CEVIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213
	火・4	全「再」	古賀	CEVIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	224	213				
ACE : TOEFL80	2	1	木・2		全	川端		213	210	
				木・2	全	川端		213	210	
ACE : TOEFL80+	2	1		木・3	全	川端		214	210	
ACE : TOEIC650	2	1	月・2		全	高森		215	211	
			木・1		全	川端		215	211	
				月・2	全	高森		215	211	
				木・1	全	川端		215	211	
ACE : Comparative Culture	2	1	火・1		全	Mansfield		216	211	
ACE : Critical Writing	2	1	月・3		全	山崎		217	211	
				火・1	全	Mansfield		217	211	
				木・4	全	Chen		217	211	
ACE : Media English	2	1	月・4		全	山本		218	211	
				月・4	全	高森		218	211	
ACE : Literature	2	1	火・2		全	野田		219	212	
ACE : Presentation	2	1		水・2	全	Leigh		220	212	
ACE : Discussion	2	1	木・4		全	Chen		221	212	
ACE : Intensive Reading	2	1	火・3		全	杉井		222	212	
				火・2	全	豊田		222	212	
ACE : Films	2	1		水・3	全	多賀		223	212	
ド イ ツ 語	※ドイツ語基礎1・2	4	2	月・1		EIa	竹内 一高	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	225	220
				月・1		EIb	長谷川 健一		225	220
				月・1		JIa	高井 絹子		225	220
				月・1		JIb	藤原 美沙		225	220
				月・2		CIa	藤原 美沙		225	220
				月・2		CIb	神野 ゆみこ		225	220
				月・2		LIa	長谷川 健一		225	220
				月・2		LIb	國光 圭子		225	220
				月・3		SIa	國光 圭子		225	220
				月・3		SIb	土谷 真理子		225	220

授 業 科 目 名		週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
ド イ ツ 語	※ドイツ語基礎1・2	4	2	月・3		SIc	神野 ゆみこ	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	225	220
				月・3		MIa	高井 絹子		225	220
				月・3		MIb	竹内 一高		225	220
				月・3		HI	三上 雅子		225	220
				月・4		TIa	土谷 真理子		225	220
				月・4		TIb	神野 ゆみこ		225	220
				月・4		TIc	竹内 一高		225	220
				月・4		TIId	長谷川 健一		225	220
				月・4		TIeNI	三上 雅子		225	220
				水・1		CIa	廣瀬 ゆう子		225	220
				水・1		CIb	林田 陽子		225	220
				水・1		LIa	田島 昭洋		225	220
				水・1		LIb	神竹 道士		225	220
				水・2		EIa	中村 恵		225	220
				水・2		EIb	林田 陽子		225	220
				水・2		JIa	田島 昭洋		225	220
				水・2		JIb	田中 秀穂		225	220
				水・3		TIa	中村 恵		225	220
				水・3		TIb	廣瀬 ゆう子		225	220
				水・3		TIc	田島 昭洋		225	220
				水・3		TIId	田中 秀穂		225	220
				水・3		TIeNI	土谷 真理子		225	220
				水・4		SIa	神竹 道士		225	220
				水・4		SIb	中村 恵		225	220
				水・4		SIc	廣瀬 ゆう子		225	220
				水・4		MIa	田中 秀穂		225	220
				水・4		MIb	田島 昭洋		225	220
				水・4		HI	土谷 真理子		225	220
ド イ ツ 語 基 礎 3		2	1		月・1	EIa	竹内 一高		226	223
					月・1	EIb	長谷川 健一		226	223
					月・1	JIa	神野 ゆみこ		226	223
					月・1	JIb	藤原 美沙		226	223
					月・2	CIa	藤原 美沙		226	223
					月・2	CIb	神野 ゆみこ		226	223
					月・2	LIa	長谷川 健一		226	223
					月・2	LIb	國光 圭子		226	223
					月・3	SIa	國光 圭子		226	223
					月・3	SIb	土谷 真理子		226	223
					月・3	SIc	神野 ゆみこ		226	223
					月・3	HI	三上 雅子		226	223

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
ド イ ツ 語	ド イ ツ 語 基 礎 3	2	1		月・3	MIa	高井 絹子		226	223
					月・3	MIb	竹内 一高		226	223
					月・4	TIa	土谷 真理子		226	223
					月・4	TIb	神野 ゆみこ		226	223
					月・4	TIc	竹内 一高		226	223
					月・4	TIId	長谷川 健一		226	223
					月・4	TIeNI	三上 雅子		226	223
	ド イ ツ 語 基 礎 4	2	1		水・1	CIa	廣瀬 ゆう子		227	224
					水・1	CIb	林田 陽子		227	224
					水・1	LIa	田島 昭洋		227	224
					水・1	LIb	神竹 道士		227	224
					水・2	EIa	中村 恵		227	224
					水・2	EIb	林田 陽子		227	224
					水・2	JIa	田島 昭洋		227	224
					水・2	JIb	田中 秀穂		227	224
					水・3	TIa	中村 恵		227	224
					水・3	TIb	廣瀬 ゆう子		227	224
					水・3	TIc	田島 昭洋		227	224
					水・3	TIId	田中 秀穂		227	224
					水・3	TIeNI	土谷 真理子		227	224
					水・4	SIa	神竹 道士		227	224
					水・4	SIb	中村 恵		227	224
					水・4	SIc	廣瀬 ゆう子		227	224
				ド イ ツ 語 応 用 1 A	2	1	金・3		JIa	大森 智子
	金・3		JIb				江川 英明		228	225
	金・4		LIa				江川 英明		228	225
	金・4		LIb				中村 恵		228	225
ド イ ツ 語 応 用 2 A	2	1		金・3	JIa	大森 智子		229	226	
				金・3	JIb	江川 英明		229	226	
				金・4	LIa	江川 英明		229	226	
				金・4	LIb	中村 恵		229	226	
ド イ ツ 語 応 用 1 B	2	1	火・2		CIIa	神野 ゆみこ		230	226	
			火・2		CIIb	海老根 剛		230	226	
ド イ ツ 語 応 用 2 B	2	1		火・2	CIIa	神野 ゆみこ		231	227	
				火・2	CIIb	海老根 剛		231	227	
ド イ ツ 語 特 修 1 a	2	2	火・2		全II~IV	ジモン・エルトレ		232	228	
ド イ ツ 語 特 修 1 b	2	2	水・4		全II~IV	ジモン・エルトレ		232	228	

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
ド イ ッ 語	ドイツ語特修2	2	2		水・3	全Ⅱ～Ⅳ	ジモン・エルトレ		232	228
	ドイツ語特修3a	2	2	火・3		全Ⅱ～Ⅳ	海老根 剛		233	228
	ドイツ語特修3b	2	2	木・3		全Ⅱ～Ⅳ	田島 昭洋		233	228
	ドイツ語特修4	2	2		木・3	全Ⅱ～Ⅳ	田島 昭洋		233	228
	ドイツ語特修5	2	2	金・3		全Ⅱ～Ⅳ	中村 恵		234	229
	ドイツ語特修6	2	2		金・3	全Ⅱ～Ⅳ	中村 恵		234	229
	ドイツ語特修7	2	2	火・4		全Ⅱ～Ⅳ	神野 ゆみこ		235	229
	ドイツ語特修8	2	2		火・3	全Ⅱ～Ⅳ	海老根 剛		235	229
	ドイツ語特修9	2	2	金・4		全Ⅱ～Ⅳ	大森 智子		236	230
ドイツ語特修10	2	2		金・4	全Ⅱ～Ⅳ	大森 智子		236	230	
フ ラ ン ス 語	※フランス語基礎1・2	4	2	月・1		EI	久後 貴行	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	237	231
				月・1		JI	藤本 智成		237	231
				月・2		CI	辻 昌子		237	231
				月・2		LIa	白田 由樹		237	231
				月・2		LIb	福島 祥行		237	231
				月・3		SI	津川 廣行		237	231
				月・3		MI	中條 健志		237	231
				月・3		HIa	辻 昌子		237	231
				月・3		HIb	酒井 美貴		237	231
				月・4		TNI	酒井 美貴		237	231
				水・1		CI	小田中 章浩		237	231
				水・1		LIa	福島 祥行		237	231
				水・1		LIb	白田 由樹		237	231
				水・2		EI	秋吉 孝浩		237	231
				水・2		JI	鈴木田 研二		237	231
				水・3		TNI	小林 裕史		237	231
				水・4		SI	ロラン・バレイユ		237	231
				水・4		MI	小林 裕史		237	231
				水・4		HIa	津川 廣行		237	231
水・4		HIb	有田 豊	237	231					
フ ラ ン ス 語	フランス語基礎3	2	1		月・1	EI	久後 貴行		238	232
					月・1	JI	藤本 智成		238	232
					月・2	CI	辻 昌子		238	232
					月・2	LIa	福島 祥行		238	232
					月・2	LIb	中條 健志		238	232
					月・3	SI	津川 廣行		238	232
					月・3	MI	中條 健志		238	232
					月・3	HIa	辻 昌子		238	232
					月・3	HIb	酒井 美貴		238	232
					月・4	TNI	酒井 美貴		238	232

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
フ ラ ン ス	フ ラ ン ス 語 基 礎 4	2	1		水・1	CI	小田中 章浩		239	233
					水・1	LIa	白田 由樹		239	233
					水・1	LIb	福島 祥行		239	233
					水・2	EI	秋吉 孝浩		239	233
					水・2	JI	鈴木田 研二		239	233
					水・3	TNI	小林 裕史		239	233
					水・4	SI	ロラン・バレイユ		239	233
					水・4	MI	小林 裕史		239	233
					水・4	HIa	有田 豊		239	233
					水・4	HIb	白田 由樹		239	233
ン	フ ラ ン ス 語 応 用 1A	2	1	金・3		JI	藤澤 秀平		240	234
				金・4		LIa	藤本 智成		240	234
				金・4		LIb	有田 豊		240	234
ス	フ ラ ン ス 語 応 用 2 A	2	1		金・3	JI	藤澤 秀平		241	234
					金・4	LIa	有田 豊		241	234
					金・4	LIb	藤本 智成		241	234
語	フ ラ ン ス 語 応 用 1 B	2	1	火・2		CII	藤田 あゆみ		242	235
	フ ラ ン ス 語 応 用 2 B	2	1		火・2	CII	藤田 あゆみ		243	235
	フ ラ ン ス 語 特 修 1	2	2	火・3		全II~IV	岩本 篤子		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 2	2	2		火・3	全II~IV	岩本 篤子		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 3	2	2	火・4		全II~IV	藤田 あゆみ		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 4	2	2		火・4	全II~IV	小田中 章浩		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 5	2	2	木・3		全II~IV	中條 健志		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 6	2	2		木・3	全II~IV	小林 裕史		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 7	2	2	金・3		全II~IV	ロラン・バレイユ		244	236
	フ ラ ン ス 語 特 修 8	2	2		金・3	全II~IV	ロラン・バレイユ		244	236
中 国 語	※中国語基礎1・2	4	2	月・1		EIa	秋岡 英行	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	245	238
				月・1		EIb	福田 知可志		245	238
				月・1		EIc	韓 艶玲		245	238
				月・1		EId	田淵 欣也		245	238
				月・1		JIa	大岩本 幸次		245	238
				月・1		JIb	山口 博子		245	238
				月・2		CIa	山口 博子		245	238
				月・2		CIb	秋岡 英行		245	238
				月・2		CIc	福田 知可志		245	238
				月・2		LIa	岩本 真理		245	238
				月・2		LIb	韓 艶玲		245	238
				月・3		MHI	長谷川 慎		245	238

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
中	※中国語基礎1・2	4	2	月・4		TIa	山口 博子	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	245	238
				月・4		TIb	長谷川 慎		245	238
				月・4		TIcNI	田淵 欣也		245	238
				水・1		CIa	趙 冬輝		245	238
				水・1		CIb	王 標		245	238
				水・1		CIc	大野 陽介		245	238
				水・1		LIa	史 彤春		245	238
				水・1		LIb	松浦 恆雄		245	238
				水・2		EIa	王 標		245	238
				水・2		EIb	史 彤春		245	238
				水・2		EIc	大野 陽介		245	238
				水・2		EId	南 真理		245	238
				水・2		JIa	井出 克子		245	238
				水・2		JIb	山口 博子		245	238
				水・3		TIa	趙 冬輝		245	238
				水・3		TIb	井出 克子		245	238
				水・3		TIcNI	大野 陽介		245	238
				水・4		MHI	趙 冬輝		245	238
国 語	中国語基礎3	2	1		月・1	EIa	秋岡 英行		246	239
					月・1	EIb	福田 知可志		246	239
					月・1	EIc	韓 艶玲		246	239
					月・1	EId	田淵 欣也		246	239
					月・1	JIa	大岩本 幸次		246	239
					月・1	JIb	山口 博子		246	239
					月・2	CIa	山口 博子		246	239
					月・2	CIb	秋岡 英行		246	239
					月・2	CIc	福田 知可志		246	239
					月・2	LIa	岩本 真理		246	239
					月・2	LIb	韓 艶玲		246	239
					月・3	MHI	長谷川 慎		246	239
					月・4	TIa	山口 博子		246	239
					月・4	TIb	長谷川 慎		246	239
					月・4	TIcNI	田淵 欣也		246	239
	中国語基礎4	2	1		水・1	CIa	趙 冬輝		247	241
					水・1	CIb	王 標		247	241
					水・1	CIc	大野 陽介		247	241
					水・1	LIa	史 彤春		247	241
					水・1	LIb	松浦 恆雄		247	241
					水・2	EIa	王 標		247	241
					水・2	EIb	史 彤春		247	241

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
中 国 語	中国語基礎4	2	1		水・2	EIc	大野 陽介		247	241
					水・2	EId	南 真理		247	241
					水・2	JIa	井出 克子		247	241
					水・2	JIb	松浦 恆雄		247	241
					水・3	TIa	趙 冬輝		247	241
					水・3	TIb	井出 克子		247	241
					水・3	TIcNI	大野 陽介		247	241
					水・4	MHI	趙 冬輝		247	241
	中国語応用1A	2	1	金・3		JIa	王 標		248	242
				金・3		JIb	馮 艶		248	242
				金・4		LIa	范 紫江		248	242
				金・4		LIb	馮 艶		248	242
	中国語応用2A	2	1		金・3	JIa	王 標		249	243
					金・3	JIb	馮 艶		249	243
					金・4	LIa	范 紫江		249	243
					金・4	LIb	馮 艶		249	243
	中国語応用1B	2	1	火・2		CIIa	田渕 欣也		250	243
				火・2		CIIb	張 新民		250	243
				火・2		CIIc	大岩本 幸次		250	243
	中国語応用2B	2	1		火・2	CIIa	田渕 欣也		251	244
					火・2	CIIb	張 新民		251	244
					火・2	CIIc	大岩本 幸次		251	244
	中国語特修1	2	2	月・3		全II~IV	韓 艶玲		252	244
	中国語特修2	2	2		月・3	全II~IV	韓 艶玲		252	244
	中国語特修3	2	2	火・3		全II~IV	岩本 真理		253	245
	中国語特修4	2	2		火・3	全II~IV	岩本 真理		253	245
	中国語特修5	2	2	水・3		全II~IV	南 真理		254	245
中国語特修6	2	2		水・3	全II~IV	南 真理		254	245	
中国語特修7	2	2	木・3		全II~IV	張 新民		255	246	
中国語特修8	2	2		木・3	全II~IV	張 新民		255	246	
中国語特修9	2	2	金・3		全II~IV	范 紫江		256	247	
中国語特修10	2	2		金・3	全II~IV	范 紫江		256	247	
ロ シ ア 語	※ロシア語基礎1・2	4	2	月・2		THI	江村 公	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	257	248
				月・3		CEJLSMNI	バクン・エレナ		257	248
				水・1		THI	ズマグロワ・アイヌーラ		257	248
				水・4		CEJLSMNI	江村 公		257	248
	ロシア語基礎3	2	1		月・2	THI	江村 公		258	249
					月・3	CEJLSMNI	バクン・エレナ		258	249
	ロシア語基礎4	2	1		水・1	THI	ズマグロワ・アイヌーラ		258	249
				水・4	CEJLSMNI	江村 公		258	249	

授 業 科 目 名	週 時間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
			前 期	後 期						
ロ シ ア 語	ロシア語応用1A	2	1	金・4		全I	ズマグロワ・アイヌーラ		259	250
	ロシア語応用2A	2	1		金・4	全I	ズマグロワ・アイヌーラ		260	251
	ロシア語応用1B	2	1	月・4		全II	バクン・エレーナ		261	252
	ロシア語応用2B	2	1		月・4	全II	バクン・エレーナ		261	252
	ロシア語特修1	2	2	水・3		全II～IV	江村 公		262	252
	ロシア語特修2	2	2		水・3	全II～IV	江村 公		262	252
	ロシア語特修3	2	2	金・3		全II～IV	ズマグロワ・アイヌーラ		263	253
	ロシア語特修4	2	2		金・3	全II～IV	ズマグロワ・アイヌーラ		263	253
朝 鮮 語	朝鮮語基礎1・2	4	2	月・2		CTI	野崎 充彦	この科目は、 月曜と水曜の ペア科目です。 両方を履修す ること。	264	254
				月・3		EMHNI	野崎 充彦		264	254
				月・4		JLI	野崎 充彦		264	254
				水・3		CTI	北島 由紀子		264	254
				水・4		EMHNI	北島 由紀子		264	254
				水・4		JLI	金 宝英		264	254
	朝鮮語基礎3	2	1		月・2	CTI	野崎 充彦		265	255
					月・3	EMHNI	野崎 充彦		265	255
					月・4	JLI	野崎 充彦		265	255
	朝鮮語基礎4	2	1		水・3	CTI	北島 由紀子		266	256
					水・4	EMHNI	北島 由紀子		266	256
					水・4	JLI	金 宝英		266	256
	朝鮮語応用1A	2	1	木・3		全I	金 宝英		267	257
	朝鮮語応用2A	2	1		木・3	全I	金 宝英		268	257
	朝鮮語応用1B	2	1	木・4		全II	金 宝英		269	258
	朝鮮語応用2B	2	1		木・4	全II	金 宝英		270	258
	朝鮮語特修1	2	2	火・3		全II～IV	野崎 充彦		271	259
	朝鮮語特修2	2	2	水・3		全II～IV	金 宝英		271	259
	朝鮮語特修3	2	2		火・3	全II～IV	野崎 充彦		272	259
朝鮮語特修4	2	2		水・3	全II～IV	金 宝英		272	259	
日 本 語	日本語1A	2	1	月・3		全	堀 まどか		273	261
	日本語1B	2	1		月・3	全	堀 まどか		273	261
	日本語2A	2	1	火・3		全	坂本 美加		274	262
	日本語2B	2	1		火・3	全	坂本 美加		274	262
	日本語3A	2	1	月・2		全	堀 まどか		275	262
	日本語3B	2	1		月・2	全	堀 まどか		275	262
	日本語4A	2	1	火・4		全	坂本 美加		276	263
	日本語4B	2	1		火・4	全	坂本 美加		276	263
	日本語5A	2	1	水・4		全	堀 まどか		277	263
日本語5B	2	1		水・4	全	堀 まどか		277	263	

○健康・スポーツ科学科目

(健康・スポーツ科学講義)

授業形態	授業科目名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
講	健康運動科学	2	2	木・3		全	渡辺 一志		278	268
	健康運動科学	2	2		木・3	全	渡辺 一志		278	268
	健康運動科学	2	2	木・4		全	横山 久代		279	268
	健康運動科学	2	2		木・4	全	横山 久代		279	268
	スポーツ実践科学	2	2	木・3		全	萩田 亮		280	269
	スポーツ実践科学	2	2		木・4	全	萩田 亮		280	269
義	体力トレーニング科学	2	2	火・2		全	岡崎 和伸		281	270
	体力トレーニング科学	2	2		火・2	全	岡崎 和伸		281	270
	体力トレーニング科学	2	2		木・3	全	今井 大喜		282	270

(健康・スポーツ科学実習)

授業形態	授業科目名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
実習	アーチェリー 1	2	1	火・3		CLI(全文)	渡辺 一志		283	271
	アーチェリー 1	2	1	火・4		全	渡辺 一志		283	271
	アーチェリー 1	2	1	木・1		EJI(全文)	渡辺 一志		283	271
	アーチェリー 2	2	1		火・4	全	渡辺 一志		284	271
	バスケットボール 1	2	1	火・3		CLI(全文)	萩田 亮		285	272
	バスケットボール 1	2	1	火・4		全	萩田 亮		285	272
	バスケットボール 1	2	1	木・1		EJI(全文)	萩田 亮		285	272
	バスケットボール 1	2	1		火・3	CLI(全文)	萩田 亮		285	272
	バスケットボール 1	2	1		火・4	全	萩田 亮		285	272
	バスケットボール 2	2	1		木・2	STI(全理)	萩田 亮		286	273
	ジョギング・マラソン 1	2	1	火・3		CLI(全文)	岡崎 和伸		287	273
	ジョギング・マラソン 1	2	1	火・4		全	岡崎 和伸		287	273
	ジョギング・マラソン 1	2	1	木・2		STI(全理)	岡崎 和伸		287	273
	ジョギング・マラソン 1	2	1		火・3	CLI(全文)	岡崎 和伸		287	273
	ジョギング・マラソン 2	2	1		火・4	全	岡崎 和伸		288	274
	サッカー 1	2	1	火・3		CLI(全文)	今井 大喜		289	275
	サッカー 1	2	1	火・4		全	今井 大喜		289	275
	サッカー 1	2	1		火・3	CLI(全文)	今井 大喜		289	275
	サッカー 1	2	1		火・4	全	今井 大喜		289	275
	サッカー 1	2	1		木・1	EJI(全文)	今井 大喜		289	275
フットサル 1	2	1	木・1		EJI(全文)	今井 大喜		290	275	
フットサル 1	2	1	木・2		STI(全理)	今井 大喜		290	275	
ソフトボール 1	2	1	木・3		全	今井 大喜		291	276	
タグラグビー 1	2	1	火・3		CLI(全文)	鈴木 雄太		292	276	
タグラグビー 1	2	1	火・4		全	鈴木 雄太		292	276	

授業形態	授業科目名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁	
				前期	後期						
実習	タグラグビー1	2	1	木・3		全	鈴木 雄太		292	276	
	タグラグビー1	2	1		火・3	CLI(全文)	鈴木 雄太		292	276	
	タグラグビー1	2	1		火・4	全	鈴木 雄太		292	276	
	タグラグビー1	2	1		木・3	全	鈴木 雄太		292	276	
	タグラグビー1	2	1		木・4	全	鈴木 雄太		292	276	
	ソフトボール1	2	1	水・2		全	鈴木 雄太		293	277	
	ソフトボール1	2	1	木・2		STI(全理)	鈴木 雄太		293	277	
	ソフトボール1	2	1	木・4		全	鈴木 雄太		293	277	
	バレーボール1	2	1	火・3		CLI(全文)	中嶋 紀子		294	277	
	バレーボール1	2	1	火・4		全	中嶋 紀子		294	277	
	バレーボール2	2	1		火・3	CLI(全文)	中嶋 紀子		295	278	
	バレーボール2	2	1		火・4	全	中嶋 紀子		295	278	
	ソフトボール1	2	1	火・2		全	加藤 由香		296	279	
	ソフトボール1	2	1	火・3		CLI(全文)	加藤 由香		296	279	
	ソフトボール2	2	1	火・4		全	加藤 由香		297	279	
	ゴルフ1	2	1	火・3		CLI(全文)	上野 聖志		298	280	
	ゴルフ1	2	1	火・4		全	上野 聖志		298	280	
	ゴルフ1	2	1		火・3	CLI(全文)	上野 聖志		298	280	
	ゴルフ1	2	1		火・4	全	上野 聖志		298	280	
	武道	1	2	1	火・4		全	木下 勇		299	281
	武道	2	2	1		火・4	全	木下 勇		300	281
	テニス	1	2	1	木・1		EJI(全文)	松原 慶子		301	282
	テニス	1	2	1	木・2		STI(全理)	松原 慶子		301	282
	テニス	1	2	1	木・3		全	松原 慶子		301	282
	テニス	1	2	1	木・4		全	松原 慶子		301	282
	テニス	2	2	1		木・1	EJI(全文)	松原 慶子		302	282
	テニス	2	2	1		木・2	STI(全理)	松原 慶子		302	282
	テニス	2	2	1		木・3	全	松原 慶子		302	282
	テニス	2	2	1		木・4	全	松原 慶子		302	282
	ダンス	1	2	1		木・1	EJI(全文)	加藤 真由子		303	283
	ダンス	1	2	1		木・2	STI(全理)	加藤 真由子		303	283
	バドミントン1	2	1	木・3		全	正岡 毅		304	284	
	バドミントン1	2	1	木・4		全	正岡 毅		304	284	
	バドミントン1	2	1		木・3	全	正岡 毅		304	284	
	バドミントン1	2	1		木・4	全	正岡 毅		304	284	
	体力トレーニング科学実験実習1	2	1	木・1		EJI(全文)	岡崎 和伸		305	284	
	健康運動科学実験実習1	2	1		木・1	EJI(全文)	渡辺 一志		306	285	
	健康運動科学実験実習1	2	1	火・3		CLI(全文)	横山 久代		307	286	
	健康運動科学実験実習1	2	1	木・2		STI(全理)	横山 久代		307	286	
	健康運動科学実験実習1	2	1		火・3	CLI(全文)	横山 久代		307	286	

授業形態	授業科目名	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
実習	健康運動科学実験実習1	2	1		木・2	STI(全理)	横山 久代		307	286
	※健康管理1	2	1	火・4		全	横山 久代		308	286
	※健康管理1	2	1		火・4	全	横山 久代		308	286

※健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者を対象とする。

参考(1)

平成 28 年度 新設廃止科目名変更一覧

下記のとおり、平成 28 年度から科目を新設、廃止及び科目名の変更をします。

新設・廃止・ 変更	教 科	科目群	主 題	科目名
新設	総合教育科目 A		都市・大阪	コミュニティ防災
廃止	総合教育科目 A		都市・大阪	コミュニティと防災
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	現代社会と人間	ライフサイクルと教育
変更	総合教育科目 B	歴史と文化	文学と芸術	日本の古典文学(旧) 日本の古典文学I(新)
新設	総合教育科目 B	歴史と文化	文学と芸術	日本の古典文学Ⅱ
廃止	総合教育科目 B	歴史と文化	文学と芸術	日本の詩歌
新設	総合教育科目 B	自然と人間	現代の自然科学	体験で知る科学と技術
廃止	総合教育科目 B	自然と人間	現代の自然科学	実験で知る自然の世界
廃止	総合教育科目 B	自然と人間	自然科学と人間	近代科学の成立
廃止	基礎教育科目		物理学	物理学 A
廃止	基礎教育科目		物理学	物理学 B
廃止	基礎教育科目		生物学	生物学 A
廃止	基礎教育科目		生物学	生物学 B
廃止	基礎教育科目		生物学	生物学実験 M
新設	基礎教育科目		地球学	建設地学実験

(参考①) 下記のとおり、平成29年度から科目を廃止します。

新設・廃止・ 変更	教 科	科目群	主 題	科目名
廃止	基礎教育科目		地球学	建設地学実習

(参考②) 下記のとおり、平成27年度から科目を新設、廃止及び科目名の変更をします。

※平成 27 年度全学共通科目シラバス・履修案内「新設廃止科目名変更一覧」掲載科目を除く。

新設・廃止・ 変更	教 科	科目群	主 題	科目名
新設	健康・スポーツ科学科目		健康・スポーツ科学科目実習	タグラグビー 1
新設	健康・スポーツ科学科目		健康・スポーツ科学科目実習	武道 1
新設	健康・スポーツ科学科目		健康・スポーツ科学科目実習	武道 2

4. 地域志向系科目

平成 27 年度以降の入学生のみ、「地域志向系科目」として指定されている科目から、2 単位以上を修得することが必要になります。(詳しくは所属学部の履修案内を参照)

地域志向系科目：

医学部生 (医学科及び看護学科)：医学部の履修案内を参照。

医学部生以外：下記の科目の中から選択。

H28年度「地域志向系科目」

科目	科目群	主題	科目名	開講期	備考
総合教育科目A		①人間と環境	人間と居住環境	前・金5	
総合教育科目A		②都市・大阪	歴史のなかの大阪	後・水5	
総合教育科目A		②都市・大阪	都市生活と人間福祉	前・金5	
総合教育科目A		②都市・大阪	大阪の自然	後・金5	
総合教育科目A		②都市・大阪	大阪の都市づくり	前・金5	
総合教育科目A		②都市・大阪	大阪の地理	前・水5	
総合教育科目A		②都市・大阪	現代都市論	後・木5	
総合教育科目A		②都市・大阪	都市の経済とビジネス	前・月4	
総合教育科目A		②都市・大阪	国際地域経済と都市	後・水4	
総合教育科目A		②都市・大阪	大阪落語への招待	前・水5	
総合教育科目A		②都市・大阪	都市・地域政策	後・金4	
総合教育科目A		②都市・大阪	市大都市研究の最前線	後・金5	
総合教育科目A		②都市・大阪	コミュニティ防災	前・水5	H27年度「コミュニティと防災」から改称
総合教育科目A		特別枠	大阪学:グローバル視野から見る大阪	後・水5	
総合教育科目B		人間と社会	⑥現代社会と人間	現代の社会問題	後・火3
総合教育科目B	⑥現代社会と人間		データから見る大阪市大: 演習	後・木4	
総合教育科目B	⑦社会と人権		現代の部落問題	前・金2	
総合教育科目B	⑦社会と人権		部落解放のフロンティア	後・金1	
総合教育科目B	⑦社会と人権		部落差別の成立と展開	前・金1	
総合教育科目B	⑦社会と人権		エスニック・スタディ入門編	前・金2	
総合教育科目B	歴史と文化	⑧歴史	日本社会の歴史	後・木3	
総合教育科目B	地域と文化	⑨地域と文化	現代の地理学	後・木2	
総合教育科目B		⑨地域と文化	都市の地理学	後・月3	
総合教育科目B		⑨地域と文化	観光研究入門	前・水3	
総合教育科目B		⑨地域と文化	観光と文化	後・水3	
総合教育科目B		⑨地域と文化	アーツマネジメント	後・水5	
総合教育科目B	自然と人間	⑫自然科学と人間	植物と人間: 演習	前・集中	
総合教育科目B	情報と人間	⑬情報と人間	地図と地理情報	後・火2	
総合教育科目B		⑬情報と人間	ジオ・リテラシー入門	前・集中	
総合教育科目A	H28年度休講	①人間と環境	環境と経済		
総合教育科目B	H28年度休講	⑥現代社会と人間	都市的世界の社会学		

Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

1. 総合教育科目 A

[科目ナンバー : GE GEN 01 01]

掲載番号 1	科目名	環境と歴史	単位数	2	担当教員	大黒 俊二 (文)
	英語表記	Environment and History				

●科目の主題

環境という視点から世界の歴史をふり返る。人間は環境に規定され、環境に働きかけながら歴史を作ってきた。この当然の事実が意識されるようになってきたのは最近のことにすぎない。長く歴史の主役は人間以外にはないと素朴に信じられてきた。「進歩」、「発展」、「開発」という言葉は、いずれもこうした人間中心史観を表している。しかし人々は、「発展」や「開発」による環境破壊を前にして、ようやく環境に規定された人間の姿に気づくようになってきた。環境が歴史のもう一つの主役として登場してきたのである。こうした視点から過去を見直す試みが「環境史」である。講義では最近の環境史研究の成果を系統的に紹介したい。

●授業の到達目標

環境史は歴史を単純な「進歩」の過程としてはみない。また環境と人間を対等の主役としてあつかう。講義の第一の目的は、こうした「環境の中の人間」という視点から歴史をふり返り、「進歩」の意味を問い直すことである。第二に、環境を「問題」として意識する私たち自身も歴史的存在である。環境はこれまでいかに意識化されてきたか、その軌跡をたどることが第二の目的である。第三に、環境と人間の関係に焦点を合わせると、従来の時代区分は意味をなさなくなる。環境史においては20世紀以後とそれ以前との断絶が決定的な意味をもってくる。環境史における20世紀の意味を問い直すことが第三の目的である。

●授業内容・授業計画

- ① 環境と歴史への視点
- ② 自然と文化のはざま (1) —黒死病と14世紀の危機
- ③ 自然と文化のはざま (2) —予防抑制と14世紀の人口
- ④ 動物裁判とディープ・エコロジー

- ⑤ 移動と環境変化 (1) —コロンブスの交換
- ⑥ 移動と環境変化 (2) —コロンブスの不等価交換
- ⑦ 移動と環境変化 (3) —ウォールデンの森から
- ⑧ 地域の環境史 (1) —ヴェネツィアとラグーナ
- ⑩ 地域の環境史 (2) —満洲の森
- ⑪ 地域の環境史 (3) —岡山県のはげ山
- ⑫ 地域の環境史 (4) —琵琶湖のエコトーン
- ⑬ 「日のもとに新しきものあり」—20世紀環境史
- ⑭ 「自然と権力」—環境史は現代を異化する
- ⑮ 環境と歴史への視点、再考

●評価方法

出席 20点、レポート 40点、定期試験 40点。

●受講生へのコメント

本講義は文字どおり「環境」と「歴史」の双方に関わるが、具体的な内容は歴史の方に重点がある。世界史上のさまざまな事例にふれることになるので、高校世界史のアウトライン程度は復習しておいてほしい。

●教材

教科書：なし

- 参考書：1. A・クロスビー (佐々木昭夫訳)
『ヨーロッパ帝国主義の謎—エコロジーから見た10～20世紀—』岩波書店、1998年。
2. D・アーノルド (飯島・川島訳)
『環境と人間の歴史—自然、文化、ヨーロッパの世界的拡張—』新評論、1999年。
3. J・ラートカウ (海老根・森田訳)
『自然と権力』みすず書房、2012年。
4. J・マクニール (梅津・溝口他訳)
『20世紀環境史』名古屋大学出版会、2011年。

[科目ナンバー : GE GEN 01 02]

掲載No. 2	科目名	日本の公害	単位数	2	担当教員	除本 理史 (商)
	英語表記	Environmental Pollution in Japan				

●科目の主題

この科目では、日本の公害問題の歴史を学び、今日の環境問題解決のために活かすべき教訓について考える。

●授業の到達目標

この科目では、環境論や環境政策などの学習において、必要な基礎的知識を習得するためのものである。

日本の公害問題史に関する基本的知識を習得し、今日の環境問題解決において、市民として何ができるか、

考え行動できるようになることをめざす。

●授業内容・授業計画

以下の要領で進める予定である。

1. 戦後日本の公害研究：概観（1～3回）
2. 大気汚染公害と環境再生：西淀川（4～6回）
3. 水俣病事件と「もやい直し」（8～10回）
4. 福島原発事故と日本の公害（11回～）

●評価方法

授業時間中に実施する臨時試験（1回、70%）およびレポート（1回、30%）による。

●受講生へのコメント

授業の進行、教科書、成績評価などについては、第1回目のガイダンスでより詳しく説明する。

●教材

授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 03]

掲載番号	科目名	技術と環境 －電気と暮らし－	単位数	2	担当教員	寺井 章（工）他
3	英語表記	Technology and Environment -Electricity and Life-				

●科目の主題

電気は我々の現代生活になくてはならない技術の一つである。また、人類の持続的な繁栄や生存において今後も重要な役割を担うことが期待される。その電気のしくみやそれを応用した電子機器について概説する。

●授業の到達目標

電気および電子機器がどのような原理に基づいて動作するのか、我々の生活環境にどのような影響を及ぼしているか、将来どのような役割を担っていくと予測されるかを理解する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 電気の歴史 その発見と発展の歴史、電力事業の変遷：重川
- 第2回 電気を測る 電圧、電流、電力、電気を安全に使うには：田中
- 第3回 発電のしくみ 発電方法の違いによる長所と短所：武智
- 第4回 原子力発電の原理と制御の仕組：杉田
- 第5回 半導体の話 半導体の機能とグリーンエレクトロニクス：中山（正）
- 第6回 太陽電池の話 太陽光発電は本当に環境に貢献できる？：梁

第7回 燃料電池と触媒の表面科学：福田

第8回 「ナノ」の世界 ナノ材料がひらく未来：金

第9回 量子の話 その原理と応用：寺井

第10回 真空の話 身の回りにある真空技術：小林

第11回 プラズマ技術の環境応用：白藤

第12回 身の回りの電磁界：村治

第13回 光 永遠のフロンティア：竹内

第14回 電波技術と環境応用：菜嶋

第15回 試験

●評価方法

期末試験 60点以上合格。

●受講生へのコメント

電気や電子の分野には、半導体、太陽電池、原子力、プラズマなど、マスコミを通じて一般に言葉としては知られているが、その内容が正しく理解されていないものが意外に多い。本講義では、各教員がそれらについて原理まで立ち戻ってわかりやすく解説するので、電気や電子に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

●教材

講義でプリント等を配布することがある。

[科目ナンバー : GE GEN 01 05]

掲載番号	科目名	開発と環境	単位数	2	担当教員	岩波 由香里（経）
4	英語表記	Development and Environment				

●科目の主題

本授業では、主に開発に注目し、なぜ貧しい国と豊かな国が存在するのか、なぜ貧しい国は経済発展ができないのか、貧しい国はどうすれば豊かな国に

なれるのかについて考察する。

●授業の到達目標

開発に関する基本的な概念や理論の習得を目指す。

人間と環境

●授業内容・授業計画

第 1 回 はじめに	第 9 回 工業
第 2 回 貧困と不平等	第 10 回 企業家と革新
第 3 回 二重構造と失業	第 11 回 開発戦略
第 4 回 経済成長	第 12 回 国際貿易
第 5 回 人的資源	第 13 回 技術移転
第 6 回 都市化と集積	第 14 回 環境制約
第 7 回 産業構造	第 15 回 開発の課題
第 8 回 農業	

なお、授業計画は予告なく変更されることがある。

●評価方法

- ・期末試験 100%
- ・ただし、ゼミ形式となった場合は、レポートと発表に基づき総合的に判断する。

●受講生へのコメント

- ・受講生が少ない場合、ゼミ形式で授業を行う。

・私語や携帯電話の使用など、他の学生の迷惑となる行為を行った場合は失格にする。

●教材

ジェトロ・アジア経済研究所・高橋和志著. 2015年.『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣ブックス.

[科目ナンバー : GE GEN 01 06 .CO]

掲載番号	科目名	人間と居住環境	単位数	2	担当教員	上田 博之 (生) 他
5	英語表記	Life and Residential Environment				

●科目の主題

私たちを取り巻く居住環境は、日常生活が舞台となるため、さまざまな社会問題、環境課題と密接な関係がある。本講義では、高齢化や地球温暖化の中で、安全に安心して、そして快適に生活するために、居住環境に関連して必要となる多様な知識や実践例について学ぶ。

●授業の到達目標

居住環境学においては、生活者としての視点を持つことが重要である。その視点を通じて、人間とそれを取り巻く居住環境に対する今日的課題や今後の展望について理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

- 第 1 回 ガイダンス 居住環境に求められること (上田) 4/10
- 第 2 回 居住環境と建築設備その 1 (永村一雄) 4/24
- 第 3 回 その 2 熱環境と快適性 (ファーナム・クレイグ) 5/1
- 第 4 回 居住環境と建築設備その 3 (出口弘士) 5/8
- 第 5 回 居住環境と建築設備その 4 (出口弘士) 5/15

- 第 6 回 安全・安心な居住環境 その 1 (生田英輔) 5/22
- 第 7 回 安全・安心な居住環境 その 2 (延原理恵) 5/29
- 第 8 回 居住環境と照明 その 1 (土井 正) 6/5
- 第 9 回 居住環境と照明 その 2 (岩田三千子) 6/12
- 第 10 回 高齢社会と住まいの選択 (三浦 研) 6/19
- 第 11 回 高齢社会と伴侶動物 (吉本由美子) 6/26
- 第 12 回 住宅設備・生活機器の安全安心 1 (岡田明) 7/3
- 第 13 回 住宅設備・生活機器の安全安心 2 (長田敏) 7/10
- 第 14 回 世界遺産と居住環境 (福田美穂) 7/17
- 第 15 回 試験 (上田博之・福田美穂) 7/24

●評価方法

期末の筆記試験を原則とするが、講義内容によって小テストまたはレポートを課す場合がある。採点する小テストまたはレポート課題を課した場合、ひとつの課題について 14 分の 1 の配点を行う。最高点を 100 点として、60 点以上を合格とする。追試等は原則として一切行わない。

●受講生へのコメント

非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行いますが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏

まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、出された小テストや課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃から居住環境について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望む。

●教材

講義では、プロジェクターや OHP, スライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントを配布や、参考文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE GEN 01 09 .CO]

掲載番号	科目名	歴史のなかの大阪	単位数	2	担当教員	塚田 孝 (文)
6	英語表記					

●科目の主題

「近世都市大阪の社会組織と民衆生活」

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世(江戸時代)の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の社会組織と民衆生活にしぼって紹介する。

●授業の到達目標

近世大阪の都市社会の基本的なことを理解する。それを通して、私たちが現在くらしている現代都市大阪について、過去との共通性・異質性の両面から相対化して考えられるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この講義では、はじめに舞台となる大阪の都市空間の形成過程と構造について触れ、その後は、都市社会の主人公である都市民衆の生活に光を当てていく。その際、都市の住民生活の基礎単位である「町」に着目して、町の構造と機能をベースにしながら、そこで生きた家持や借屋などの生活をうかがっていく。

なお、各回の講義では、鍵となる近世の史料(活字)を入り口として話を進める。これにより大阪の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

- ① 三郷絵図…大坂の広がり和三郷

- ② 安井家の由緒書…道頓堀の開発と惣年寄

- ③ 水帳(土地台帳)と宗旨人別帳…町の空間と住民構成

- ④ 町掟(町法)…自律的な共同組織としての町

- ⑤ 孝子褒賞と忠勤褒賞…都市民衆の生活世界を探る

- ⑥ 裏借屋のくびと…小営業と働き渡世、女性の活計

- ⑦ 大店の盛衰…職人と商人

- ⑧ まとめ…近世から近代へ

各テーマについて1～2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する(例年は、授業期間中の土曜日に実施)。

●評価方法

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所(史跡など)に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

●教材

教科書:『史料から読む近世大阪《試行版》』2012年
参考書:塚田孝『歴史のなかの大阪』岩波書店、2002年

[科目ナンバー : GE GEN 01 10 .CO]

掲載番号	科目名	都市生活と人間福祉	単位数	2	担当教員	野村 恭代 (生) 他
7	英語表記					

●科目の主題

現代社会では、多くの人々が都市において生活を営んでいるが、社会の変化の中で様々な生活問題が顕在化し、これらに対応するための取り組みが実施されている。本講義では、人間福祉学の立場から、都市における生活上のニーズの特性、ニーズ充足のための人的・物的資源の現状、福祉に関する諸制度・施策の課題について理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

本科目は、受講者が今日の都市生活で起こる様々な

生活問題を自分なりに発見し、解決することを目標としている。講義を通して学んだことを知識として習得するだけでなく、それを踏まえた上で、受講者が自分で様々な生活問題について考察することができることを到達目標と考えている。毎授業終了時に課すレポートは、受講者によってそうした授業目標が達成されているかを評定する目安と位置づけられる。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式で、各教員が授業を担当する(順不同)。初回は、オリエンテーションと講義。

- ・オリエンテーション：野村 恭代
- ・都市生活と認知症（1回）：篠田 美紀
- ・清水 由香（1回）：都市生活における生活困窮とメンタルヘルス
- ・岩間 伸之（1回）：都市生活と生活困窮者支援
- ・服部 良子（1回）：消費者金融システムと消費力
- ・所 道彦（1回）：都市生活と貧困問題
- ・松木 洋人（1回）：都市生活と家族問題
- ・岡田 進一（1回）：地域における認知症高齢者に対する取り組みと今後の課題
- ・三船 直子（1回）：都市生活と臨床心理学
- ・都市と学校生活（2回）：多田 美智子
- ・都市生活と子ども・家族①（2回）：大堀 彰子
- ・都市生活と子ども・家族②（2回）：小積 律子

●評価方法

毎回、講義の最後に課すレポートに対し、講義担当者がその都度評価を行い、その評価の総計によって成績を付ける（出席点も含む）。なお、1回のレポートは、10点満点とし、その合計得点を最終的に100点満点に調整し、評価とする。

●受講生へのコメント

レポート作成・提出のため、結果的に授業時間が延長されることになるので十分留意すること。第1回目の授業から出席すること。

●教材

各々の授業中に、担当者から指示する（※オムニバス方式の授業形態を採るため、授業全体の教材はない）。

[科目ナンバー : GE GEN 01 12 .CO]

掲載番号	科目名	大阪の自然	単位数	2	担当教員	三田村 宗樹（理）他
8	英語表記	Natural History in and around Osaka Plain				

●科目の主題

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀（260万年前から現在まで）に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。また、このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況でもある。

この授業では、大阪平野とそれを取り巻く地域の形成史や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

●授業の到達目標

大阪の立地する大阪平野の形成史や自然環境の変遷の理解をつうじて、現在の都市大阪とその周辺の自然の位置づけや地盤災害との関係についての素養を深める。

●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷（三田村担当）
 - (1) 地形配置とそれを構成する地質の特徴(1回)
 - (2) 丘陵の地質 丘陵地を構成する地層とその

成り立ちと第四紀の自然環境の変遷(3回)

- (3) 平野の地質 縄文海進と平野の形成史(2回)
- (4) 地盤災害に関係する平野の地層の特性(2回)
- (5) 山地と低地間に介在する活断層と地震(1回)

2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史(塚腰 実 担当)

- (1) 化石植物群：メタセコイア化石植物群、第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生(2回)。
- (2) 現在の森林植生：植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響(3回)。

●評価方法

授業の初期に与えるフィールドワーク課題に関するレポート（20点）と期末試験（80点）で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

●教材

主な参考書：地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店)、大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』。

[科目ナンバー : GE GEN 01 13.CO]

掲載番号 9	科目名	大阪の都市づくり	単位数	2	担当教員	嘉名 光市 (工) 他
	英語表記	Urban Planning and Construction on "Osaka"				

●科目の主題

都市大阪は、古代からわが国の、あるいは近畿圏の中心として、また東アジアをはじめとする国際拠点として、その立地条件を活かしつつ、上町台地を中心に先端的都市づくりを行ってきた。この歴史的試算とそこで培われてきた個性を継承しつつ、現代の都市大阪では、グローバル化と社会経済の変化、特に東京及び関東圏への一極集中が強まる中においても、266.5万人の常住人口と350.3万人の昼間人口(2010年国勢調査)の多様な活動が活発に行われている。

本科目は、我が国で最も昼間人口比率が高く、それ故、複合化・高度化する都市大阪の活動を支える都市基盤システム、並びに人々の活動と住まいの場を快適に整える都市空間の計画・設計について、5つのテーマ(安全、循環、流動、水と緑、居住)を設けて講義する。それぞれ第一線で活躍する専門家が担当し、最新の情報とその具体例を通して各テーマの基礎知識をわかりやすく解説する。

●授業の到達目標

テーマ毎に専任講師と大阪市の担当者が学術と実務の両側面から講義することで、大阪の都市づくりの沿革とそこでの種々の課題を実践的に学び、将来の大阪の都市像を描く素養を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ① ガイダンス・都市大阪の沿革
嘉名光市(都市学科)
日野泰雄(都市学科)
- ② 災害から都市を守る(その1) 地震と火災
片山雅義【大阪市消防局】
- ③ 災害から都市を守る(その2) 台風
谷口徹郎(建築学科)
- ④ 資源を循環させる(その1) エネルギーのシステム
西村伸也(機械工学科)
- ⑤ 資源を循環させる(その2) 都市廃棄物のシステム
水谷聡(都市学科)

- ⑥ 人・物を物流させる(その1) 都市港湾のシステム
藪内弘【大阪市港湾局】
- ⑦ 人・物を物流させる(その2) 都市交通のシステム
日野泰雄(都市学科)
- ⑦ 法定都市計画
嘉名光市(都市学科)
- ⑧ 水と緑に親しむ(その1) 緑豊かな環境
上田正敏【大阪市建設局】
- ⑨ 水と緑に親しむ(その2) 水辺の空間
重松孝昌(都市学科)
- ⑩ 住まいとまちづくり(その1) 大阪の長屋
横山俊祐(建築学科)
- ⑪ 住まいとまちづくり(その2) 住宅まちづくり政策
野口邦彦【大阪市都市整備局】
- ⑫ 大阪の都市づくりビジョン(課題:まち歩き実践)
- ⑬ 総括レポートの作成と発表・討議(その1)
- ⑭ 総括レポートの作成と発表・討議(その2)

●評価方法

レポート(毎回、講義時間後半にレポートを作成・提出(全13回)および総括レポート)と発表・討議の総合点により評価する。60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

これからの都市には、個別技術の機能や効率だけでなく、安全・安心、環境、福祉に十分配慮した都市づくりが求められており、その結果、自然と歴史と共生し得る美しい都市の実現が可能となる。ここでは、多様な視点と技術の総合化が必要となる。受講生には、各回の講義資料、参考文献による学習に加えて、できるだけ都市づくりの現場に出かけて、講義内容を体感するように心掛けて欲しい。質問等があれば、原則として昼休み時間に嘉名またはTAを訪ねること。

●教材

それぞれの講義で、レジュメ・資料のプリントを配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。講義は原則として、プロジェクター、スライド等を用いて行う。

[科目ナンバー : GE GEN 01 14 .CO]

掲載番号 10	科目名	大阪の地理	単位数	2	担当教員	水内 俊雄 (都プラザ・文)
	英語表記	Geography of Osaka				

●科目の主題

現代都市、特に大阪市を中心しつつ、京阪神大都市圏にも言及しながら、こうした地域で生起するさまざまな都市開発や都市経営、都市問題の起源、歴史、現状について座学で学ぶと同時に、実際に都市のフィールドワーク3回を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。

●授業の到達目標

都市の歴史地理学として、都市形成の歴史や系譜をどのように発見し、地的教養を獲得してゆくことをめざしている。加えて特色として、フィールドワークを通じて、地域描写の文章化を課しているところにある。こうして京阪神とも比較しながら大阪の都市形成を学ぶこと、またそこでの系譜の遺産や課題を知ることは、大阪の将来を考えてゆく上での基礎的教養として役立つ。こうした教養が、大阪の将来を考えるにどのように貢献するのも紹介してみたい。歴史地理的な見方の醍醐味を味わっていただきたい。

●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 地図からみた杉本町と大阪市立大学の歴史
- 2) 絵図からみた近世都市空間
- 3) 明治初期の都市空間の特徴
- 4) フィールドワーク1 (大坂城下町)

- 5) 明治末期の大阪の都市景観
- 6) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 7) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 8) ベルエポック大阪 1930年代
- 9) フィールドワーク2 (郊外住宅地)
- 10) 戦争と都市
- 11) 空襲、そして戦後復興
- 12) バラック、闇市
- 13) 高度成長期の都市改造、都市再開発
- 14) フィールドワーク3 (大都市の光と影)

●評価方法

コミュニケーションカードの毎回の提出を出席の平常点とし、これに加えて、3回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。

●教材

水内俊雄 他共著 『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』(ナカニシヤ出版)、2008年を参考書としてお勧めする。授業のかなりの部分は、この書に掲載されているところと重なっているので、より深い丁寧な理解を求める読者にこの本を推奨する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 15 .CO]

掲載番号 11	科目名	現代都市論	単位数	2	担当教員	富澤 修身 (商)
	英語表記	Contemporary Urban Studies				

●科目の主題

ファッションをキーワードに都市のダイナミズムを学ぶ。歴史の中で現代を位置づける。大阪、東京、上海、ソウル、ニューヨークの順に取り上げる。

社会科学における課題発見と研究の進め方について、ファッションとファッション産業史を事例に追体験する。

て、ファッションとファッション産業史を事例に追体験する。

●授業の到達目標

社会科学ベースの問題意識と研究方法、研究成果のまとめ方について理解する。

都市・大阪

現代都市におけるイノベーション（革新）とクリエイション（創造）について、歴史的、制度的視点を理解する。「模倣から創造へ」という視点を理解する。

●授業内容・授業計画

- ① 問題意識と構成
- ② 絹糸素材産地(福井産地)に見るダイナミズム(1)
- ③ 絹糸素材産地(福井産地)に見るダイナミズム(2)
- ④ 綿糸素材生産都市・大阪のファッション産業史(1)
- ⑤ 綿糸素材生産都市・大阪のファッション産業史(2)
- ⑥ 消費都市・東京のファッション産業史(1)
- ⑦ 消費都市・東京のファッション産業史(2)
- ⑧ ファッション模倣陳列都市・上海(1)
- ⑨ ファッション模倣陳列都市・上海(2)
- ⑩ 「韓流ブーム」で創造性に踏み出したソウル東大門市場(1)
- ⑪ 「韓流ブーム」で創造性に踏み出したソウル東大門市場(2)

- ⑫ 衣服生産都市・ニューヨークのファッション産業史(1)
- ⑬ 衣服生産都市・ニューヨークのファッション産業史(2)
- ⑭ イノベーションとクリエイションの視点から
- ⑮ まとめ

●評価方法

定期試験（70％）と小テスト（30％）

●受講生へのコメント

社会科学の発想に触れたい学生に受講して欲しい。ファッションやライフスタイルに関心がある学生に受講して欲しい。

模倣と創造は一見すると水と油のように思われるが、本当にそうであろうか。ぜひ疑問を持って受講してほしい。

●教材

富澤修身著『模倣と創造のファッション産業史』（ミネルヴァ書房, 2013年）。

[科目ナンバー : GE GEN 01 17 .CO]

掲載番号	科目名	都市の経済とビジネス	単位数	2	担当教員	新藤 晴臣（創）他
12	英語表記	Urban Economy and Business				

●科目の主題

都市の発展において、ビジネスは重要な役割を果たしている。それでは経営者は、会社をどのように経営しているのだろうか？例えばソフトバンクやアップルといった企業は、どのようにビジネスを行い、発展しているのだろうか？

本講義では、そうした経営について考える「経営学」をベースに、学ぶことを目的とする。

そのために本講義は、3つのパートより構成されている。第1部（第2回～第6回）では経営者の資質や役割、社員の管理方法など、会社組織を動かす方法（経営組織論）について学習する第2部（第7回～第10回）では顧客や競合企業に対応する方法として、経営戦略論について学習する。さらに第3部（第11回～第14回）では都市成長の原動力となる新たな事業創出すなわち「アントレプレナーシップ」について学習する。これらを経て第15回では「確認テスト」を行い、知識の定着をはかる。

●授業の到達目標

本講義の到達目標は、以下の4点となる。

1. 経営学の成り立ちと体系を理解する
2. 経営組織論の基礎を理解する
3. 経営戦略論の基礎を理解する
4. アントレプレナーシップ論の基礎を理解する

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション

- 第2回 経営者の役割とアントレプレナー
- 第3回 ケース1：学生ベンチャーの創業
- 第4回 社員をどう動かすか（マイクロ組織論）
- 第5回 ケース2：チームワーク実験
- 第6回 組織のしくみ（マクロ組織論）
- 第7回 経営戦略とは何か
- 第8回 事業の取捨選択（PPM）
- 第9回 競争ポジショニング戦略
- 第10回 マーケティング戦略
- 第11回 起業環境の国際比較
- 第12回 アントレプレナーシップとは何か
- 第13回 外部講師による講演1
- 第14回 外部講師による講演2
- 第15回 確認テスト

※外部講師による講演については、講師の都合により、日程が上記と異なる場合がある。

●評価方法

平常点（授業内での発言、課題・宿題）＝70％
確認テスト＝30％

●受講生へのコメント

文系・理系を問わず、社会に出る上で、経営学の知識は必須要件になりつつある。経営学の知識を深めるために、日本経済新聞、ハーバード・ビジネスレビューなどの新聞・雑誌や、ワールドビジネスサテライトなどのテレビ番組を通じて、ビジネスに関する情報収集を行うことが望ましい。

また質問は原則として、授業内で受けつけるが、一定の時間を要する相談などがある場合には、アポイントを事前に入れることが望ましい。なお、成績に関する質問がある場合には、大学の規定の通り対応する。

●教材

以下のテキストを使用するので、各自で用意すること。
新藤晴臣 (2015) 『アントレプレナーの戦略論』
中央経済社

[科目ナンバー : GE GEN 01 18 .CO]

掲載番号	科目名	国際地域経済と都市	単位数	2	担当教員	有賀 敏之 (創) 他
13	英語表記	International Regional Economy and Cities				

●科目の主題

いまや世界を解くキーワードとなったグローバル化、その影響は世界のすみずみまで及ぶようになりました。われわれが身近に感じているように、21世紀は、隣の工場がアジアに移転したり、外国の商品や会社が入ってきたりする時代になってきているのです。

しかし、そのような中で各国の地域や地方には、独自の暮らしと経済活動があります。グローバル化の趨勢の中で地域が活性化していくためにも、地域独自の戦略や政策が必要となってきています。また経済がうまく機能するためには現地化・ローカル化といった働きも欠かすことができません。私たちの都市の暮らしが良くなるかどうか、こうした動きによって決まるといっても過言ではありません。

このように、グローバルのみならず、リージョナル、ローカルな視点から現代の経済の動向を捉える新しいコンセプトが「国際地域経済」という考え方です。この授業では、この国際地域経済という新しい視点から現在の世界とアジア各国経済の動きをわかりやすく説明し、各国の国民経済とそれを構成する主要都市との相互関係、またその振興策について考えてみたいと思います。

●授業の到達目標

経済のグローバルな動き、ローカルな動き、リージョナルな動きが互いに連動していること、自分のまちの変化が世界とつながっていることを理解してもらうことを目標とします。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の講義とし、以下のように各教員が分担で講じる。

[1] グローバルな経済の動きと分析レベル

- 第 1 回 イントロダクション— 担当部局の紹介と本講義の概要— (有賀) 10月5日
第 2 回 三層の分析レベルと企業— グローバル・リージョナル・ローカル— (有賀) 10月12日

[2] リージョナルな経済の動き

- 第 3 回 中国華東地域の概要 (有賀) 10月19日
第 4 回 華東地域と現地進出日系企業 (有賀) 10月26日

第 5 回 中国経済と上海の地域金融 (1) (王) 11月2日

第 6 回 中国経済と上海の地域金融 (2) (王) 11月9日

[3] ローカルな経済の動き

第 7 回 中国日系企業の現地経営 (1) (李) 11月16日

第 8 回 中国日系企業の現地経営 (2) (李) 11月30日

[4] アジア都市の状況

第 9 回 タイの都市の現状 (1) (金子) 12月7日

第 10 回 タイの都市の現状 (2) (金子) 12月14日

第 11 回 タイの都市の現状 (3) (金子) 12月21日

[5] 地域経済の動きと都市

第 12 回 グローバル化と国内のリージョン— 関西広域圏と東海広域圏の対比 (1)— (有賀) 1月11日

第 13 回 グローバル化と国内のリージョン— 関西広域圏と東海広域圏の対比 (2)— (有賀) 1月18日

第 14 回 国際地域経済と大阪 (有賀) 1月25日

[6] まとめと試験

第 15 回 まとめ— アジアの都市発展と経済成長— (有賀) 2月1日

第 16 回 定期試験 (試験期間内) 2月8日

●評価方法

期末の筆記試験 (記述・論述式) を原則とするが、出席率や受講姿勢が悪い場合には、平常点をみるための措置を別途考慮する。

●受講生へのコメント

この科目に限らないが、定期試験における出題意図とはすなわち担当教員の問題意識である。これを理解するために、平素の出席が欠かせない。

●教材

参考書: 有賀著『中国日系企業の産業集積』(同文館出版, 2012)

関下・有賀編著『東海地域と日本経済の再編成』（同文館出版, 2009）

李・郝編書『中国の現場からみる日系企業の人事労務管理』（白桃書房, 2015）

[科目ナンバー : GE GEN 01 19 .CO]

掲載番号	科目名	大阪落語への招待	単位数	2	担当教員	久堀 裕朗 (文) 桂 春之輔 (文 客員) 桂 春雨 (文 客員) 他
14	英語表記	Introduction to Osaka Rakugo				

●科目の主題

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸（東京）を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語（らくご）」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が育まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家を講師に迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情（優しさと思いやり）」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。

●授業の到達目標

落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

●授業内容・授業計画

① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落語を分析する。（テーマ）落語とは・

落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。（テーマ）長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。（テーマ）落語の中の男と女・親子の情愛など。

⑭ 終講にあたって

⑮ 授業全体のまとめ、レポート提出

●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見（コミュニケーションカードに記入・提出）と期末のレポートによる（評価の比重は、前者50%・後者50%）。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑭の授業のうち5回以上欠席した者については、原則として単位を認めない。

●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語家名鑑 第二版』（出版文芸社）

豊田善敬編『桂春団治はなしの世界』（東方出版）
DVD「極付十番 三代目 桂春團治」（松竹芸能株式会社）

DVD 繁昌亭らいぶシリーズ 1 桂春之輔「ぜんざい公社」「もう半分」「まめた」（テイテックエンタテインメント）

[科目ナンバー : GE GEN 01 20 .CO]

掲載番号	科目名	都市・地域政策	単位数	2	担当教員	藤塚 吉浩 (創) 他
15	英語表記	Urban Regional Policy				

●科目の主題

都市や地域が抱える現代的課題について知識を深め、政策的思考を身につける。

●授業の到達目標

都市や地域の経済や政策に関する問題について分析的に思考・表現することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

扱うテーマは、①都市の発展と衰退地区の再生、②人々の相違・多様性と都市の関係、③産業集積としての都市などである。各回、具体的な地域のトピックを扱う。①では、日本の都市を事例に、中心市街地の空洞化や衰退地区の再生政策について詳述する。②では、主に東京・大阪を事例に、階級・ジェンダー・セクシュアリティ・エスニシティに焦点を当てて、これらと都市の構造や変容について検討する。③では、主に産業活動の視点から都市の役割や課題を考える。

- 第 1 回 オリエンテーション—都市の発展—
- 第 2 回 インナーシティ問題
- 第 3 回 中心市街地の空洞化
- 第 4 回 ジェントリフィケーション
- 第 5 回 歴史的町並み景観の保全
- 第 6 回 都市と階級・ジェンダー・セクシュアリティ・エスニシティ

第 7 回 都市における生産と再生産の空間的分離

第 8 回 日雇い労働者の街の変容

第 9 回 エスニック・タウンの形成

第 10 回 同性愛者の歓楽街

第 11 回 産業集積

第 12 回 文化産業と知識生産

第 13 回 創造都市

第 14 回 住工混在問題

第 15 回 期末テスト

(担当)

第 1～5 回 藤塚吉浩 (創造都市研究科)

第 6～10 回 吉田道代 (非常勤, 和歌山大学)

第 11～15 回 立見淳哉 (創造都市研究科)

●評価方法

期末テスト、授業の参加意欲、出席状況等から総合的に判断する。

●受講生へのコメント

都市や地域での活動に興味を持つ意欲ある学生の受講を歓迎する。携帯電話の電源を切ってから、教室に入ること。

●教材

教科書：藤塚吉浩・高柳長直編『図説 日本の都市問題』古今書院、2016 年。

[科目ナンバー : GE GEN 01 21 .CO]

掲載番号	科目名	市大都市研究の最前線	単位数	2	担当教員	全 泓奎 (都プラザ) 他
16	英語表記	The Forefront of Urban Studies in Osaka City University				

●科目の主題

都市研究プラザは本学の建学精神（「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」）を受け継ぎ、「都市を学問創造の場」としてとらえ、都市の諸問題に正面から取り組んできた。そして、グローバル COE「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」を推進し、独自に築いた海外センター・オフィスを始めとする国際的なネットワーク、そして大阪や名古屋の都市に展開する現場プラザとの協力の下、先端的都市研究に向けた、学際的かつ広範囲の分野に渡る研究実績を積んできた。平成 26 年度より、これまでの研究活動の蓄積によって育まれた、国内外の包摂型現場ネッ

トワークの活用による共同研究活動を最大限活かす形で、文部科学省により共同利用・共同研究拠点として選ばれた。本講義は、本拠点による共同研究の成果の報告で構成される。授業内容・計画に提示している分野ごとに、先端都市研究に向けた研究活動の最新の研究動向を知ることができる。コミュニケーションカードを用いて双方向の対話を試み、理解の深度をたかめてゆく。

●授業の到達目標

複雑かつ多様化しつつある都市問題に対応し、大学の資源をどのように利用しながら都市の再生に取り組んでいくか、それが今後の都市研究の一つのカギとな

る。それらに対し、研究の第一線で活躍している関連研究者コミュニティによる最新の研究動向や実績をまず学び、理解することが求められる。またコミュニケーションカードを通じ、学生側のコメントとそれに対する講師の回答という双方向の意見交流を組み込むことにより、学生同士の切磋琢磨や講師の気づきなどの仕掛けも組み込んでいる。これらを通じて、当代の都市問題に対応した先端的都市研究の含意を理論的かつ実践的に理解してほしい。同時に都市問題の仕組みを理解し、課題把握、分析、都市の再生に向けた対策立案能力の取得のためのヒントを得ることを通じ、大阪市立大学で都市や地域を学ぶ優位性を高め、今後の受講生のキャリア形成の第一歩としたい。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式で、各教員が分担して講義するため、講義内容は毎年変わる。

以下は、参考として、これまでの講義内容の一例を紹介する。

【ガイダンス】(第1回)

ガイダンス(イントロダクション) 先端的都市研究拠点の取り組みと包摂的な都市再生に向けた実践

【包摂型創造都市】(第2回～第5回)

包摂型創造都市に関する共同研究課題の成果を紹介する。

例えば、「都市のガバナンス」、「まちとエスニックマイノリティー八尾市のケースから」、「包摂型社会形成：生活困窮者の地域社会への移行を支援するコミュニティに根づいた社会的企業」、「ネオリベラルな社会における人権運動を考える一部落問題を中心に」等

【アートによる社会包摂】(第6回～第9回)

アートが生み出す包摂型社会に向けた理論と実践を紹介する。

例えば、「LGBTの権利獲得運動とアートの関係を探る」、「アートと都市再生」、「じぶんの言葉で美を語る、釜ヶ崎から美を語る。釜ヶ崎美学学会のこころみ」、「えたいのしれない人との共存!?: 横浜市黄金町のまち

づくりとアート・プロジェクトから考える都市の包摂/排除」等

【包摂都市と居住福祉】(第10回～第13回)

包摂都市の構築に向けた課題と居住福祉の実践に関わる共同研究の成果を紹介する。

例えば、「日本におけるホームレス問題と居住のセーフティネット」、「アジアの都市貧困と居住福祉」、「東アジア包摂都市 東アジア先進国における公的扶助政策と補完的貧困政策」、「生活困窮者支援：生活困窮者自立支援の課題」等

【包摂都市の実践】(第14回)

「包摂型アジア都市の実践」

●評価方法

毎回の講義の終了時に提出するコミュニケーションカード及び平常点により評価を行う。

●受講生へのコメント

講義は、担当教員が招聘するゲスト講師を中心にオムニバス形式で行うが、実践を踏まえた多様な知識を提供するため毎回の講義出席が前提である。また、日頃から都市や地域の再生について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。なお、このコミュニケーションカードにかんしては、全般的、個別的回答を講師から受けることとなり、学生にもゲスト講師にもフィードバックできる方法を用いるので、短い時間ではあるが各講義後のコミュニケーションカードの記入には、真剣に取り組んでいただきたい。またゲスト講師の都合で順番が入れ替わることもあるため、授業期間中の掲示に注意すること。

●教材

講義では、プロジェクター等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントの配布を行うが、以下の参考文献を入手することが望ましい。

・全 泓奎、『包摂型社会：社会的排除アプローチとその実践』、法律文化社、2015

全 泓奎編、『包摂都市を構想する：東アジアにおける実践』、法律文化社、2016 刊行予定

[科目ナンバー : GE GEN 01 22 .CO]

掲載番号	科目名					
17	科目名	コミュニティ防災	単位数	2	担当教員	生田 英輔 (生) 他
	英語表記	Community based Disaster Management				

●科目の主題

頻発する自然災害に対して、レジリエントな地域づくりがわが国の課題となっている。今後懸念される巨大複合災害には従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの力を生かしたコミュニティ防災が重視されており、本講座ではコミュニティ防災の基礎となる災害事象とコミュニティ防災を実践する上

での基礎素養を学ぶ。

●授業の到達目標

コミュニティ防災においては、災害時における被災者の視点および対応者の視点が必要である。本講座では災害事象のメカニズムと被害・対策、人間行動、防災計画、災害弱者、災害医療、災害ボランティア、地域福祉、レジリエンス等の理解を目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

第1回	イントロダクション	森 一彦(生)
第2回	避難と避難行動	佐伯大輔(文)
第3回	近年の自然災害に学ぶ	重松孝昌(工)
第4回	地震のしくみと被害	三田村宗樹(理)
第5回	都市防災	谷口与史也(工)
第6回	災害と交通インフラ	大島昭彦(工)
第7回	災害情報の発信と入手	吉田大介(創)・ 米澤 剛(創)・ ラガワン(創)
第8回	身近でできる防災対策	渡辺一志(健)・ 生田英輔(生)
第9回	災害医療	山本啓雅(医)
第10回	災害とボランティア活動	岩間伸之(生)・ 野村恭代(生)
第11回	火災と防火対策	重松孝昌(工)
第12回	行政の災害対応	重松孝昌(工)
第13回	被害想定とハザードマップ	生田英輔(生)
第14回	地域の自主防災活動	生田英輔(生)・ 佐伯大輔(文)
第15回	まとめ	佐伯大輔(文)

●評価方法

毎回の授業で実施する小テストまたはレポートにより評価する。最高点を100点として、60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

講義は非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、積極的に取り組んで欲しい。また、日

頃からコミュニティ防災について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。

なお、本科目は、日本防災士機構の「防災士養成講座」として認証されており、受講者は、本科目を受講することで、防災士資格取得の要件の一部を満たすことができる。防災士資格取得に関する詳しい説明と資格取得希望者の募集は初回の授業で行うが、概要は以下の通り。

防災士とは、災害に対する十分な意識・知識・技能を有する人を育成するための制度として平成15年にスタートした、特定非営利活動法人「日本防災士機構」が認定する民間資格である。「防災士」の資格を取得するには、「コミュニティ防災」の授業を受講・レポートを提出し、科目を合格し、防災士資格取得試験を受験し合格する必要がある。さらに、大阪市消防局が実施する「普通救命講習」を受講する必要がある。費用として、防災士教本(3,000円)、資格取得試験受験料(3,000円)、試験合格後に認証料(5,000円)が必要になる。防災士に関する詳しい説明は、特定非営利活動法人「日本防災士機構」のホームページ(<http://bousaisi.jp/>)を参照のこと。

●教材

講義では、プロジェクターやOHP、スライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリント配布を行う。以下の参考文献を入手することが望ましい。

- ・いのちを守る都市づくり【課題編】東日本大震災から見えてきたもの、大阪市立大学都市防災研究グループ編、大阪公立大学共同出版会、ISBN978-4-901409-89-6
- ・いのちを守る都市づくり【アクション編】みんなで備える広域複合災害、大阪市立大学都市防災研究グループ編、大阪公立大学共同出版会、ISBN978-4-901409-98-8

[科目ナンバー : GE GEN 01 23]

掲載番号	科目名	生と死の倫理	単位数	2	担当教員	土屋 貴志 (文)
18	英語表記	Bioethics				

●科目の主題

生命倫理学 (bioethics) のトピックのうち、人工妊娠中絶を取り上げ、今日におけるその倫理的・法的・社会的問題について考える。

●授業の到達目標

人工妊娠中絶をめぐる今日の倫理的・法的・社会的問題を理解し、それに関して受講生諸君が自分の意見を持ち、意見の根拠を他者が納得できるように説明できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 妊娠と出産について
3. 中絶をめぐる日本の状況～法と統計～
4. 人工妊娠中絶の手術
5. 中絶論争 (1) 生命尊重派の主張
6. 中絶論争 (2) 中絶権擁護派の主張
7. 討論1(母体保護法の経済的理由を削除すべきか)
8. 中間的総括 (中間レポート)
9. 出生前診断と選択的中絶 (1)
10. 出生前診断と選択的中絶 (2)
11. 減胎手術
12. 中絶胎児の利用
13. 討論2 (中絶胎児の利用を進めるべきか)
14. 中絶カウンセリング
15. 全体の総括 (期末レポート)

これらのテーマについて、講義やプリント資料、ビデオ視聴などによって基本的知識を得たあと、問題点を絞り込み、そこで下される倫理的判断を抽出し、その根拠を検討する。倫理的判断の根拠の検討にあたっては、グループディスカッションや討論なども取り入

れる。

●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

●受講生へのコメント

1. 中間および期末の2回のレポート両方において合格点を取らなければ当科目の単位は取得できない。毎回出席し授業内容を正確に理解するだけでなく、自学自習してレポートを書くことが要求されるので、相当の覚悟をして履修すること。
2. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
3. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修登録者数が20人を越えた場合は、顔写真の受講カードへの貼付を受講者全員に義務づける。
4. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、8号館2階の全学共通教育担当まで各自受け取りに来ること。
5. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

●教材

教科書：とくに指定しない。

参考書：授業中に紹介する。

その他、プリント資料を配布し、ビデオを上映する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 24]

掲載番号	科目名	生命と法	単位数	2	担当教員	三島 聡 (法) 他
19	英語表記	Life and Law				

●科目の主題

「生命に関わる法的諸問題」を主題とする。

今日、生命の保障を含む「人権」がきわめて重要な

社会的価値として世界的に認識されるようになっている。だがその一方で、たとえば過労死を考えればわかるように、現実の社会では人の生命がないがしろにさ

れる事態も多々起っている。

また、科学のめざましい発展にともない人の生命を操作できる時代に入り、医学や生命倫理のみならず、法学においても、人の生命にかかる人為的操作にいかに対応するかが問われている。

古くから「生命と法」の一環として堕胎や安楽死の問題が論じられてきたが、現在では、これらに加えて、胎児以前の胚の保護、尊厳死や脳死などが問題になっている。さらに、医療を受ける権利、臓器移植、医療事故、医療における自己決定権、医療品アクセス問題、過労死、死刑など、関連する今日的課題は多岐にわたる。

●授業の到達目標

本講義では、生命と法をめぐる諸問題の中から重要だと思われるものを、オムニバス方式で論じていく。全学共通科目であることを考慮し、できるかぎり初学者にもわかりやすく講義する。先端の医療、法律、倫理の学問の現場から人間の生死の現在および未来像を多面的にグローバルな視点で検討する。

●授業内容・授業計画

授業は、医事法をはじめ、社会法、中国法、国際経済法、刑事法を専攻する本学あるいは他大学の法学関係教員が講師となり、オムニバス形式でおこなう。各回の授業では、それぞれ以下のようなテーマを取り上げることを予定しているが、変更になることもありうる。各回の授業のより詳細な内容については、最初の授業の時間に示す予定である。

	担当者	項目
第 1 回	三島 聡	「生命と法」を学ぶにあたって

第 2 回	手嶋 豊	患者の自己決定権・説明義務
第 3 回	手嶋 豊	医療事故の処理
第 4 回	手嶋 豊	生殖補助医療
第 5 回	木下秀雄	医療の公的保障と法
第 6 回	手嶋 豊	終末期医療・臨死介助の問題
第 7 回	手嶋 豊	感染症対策
第 8 回	手嶋 豊	実験的医療
第 9 回	王 晨	中国における臓器移植と法
第 10 回	王 晨	中国法における医療損害責任
第 11 回	平 覚	人や動植物の生命および健康を保護するための貿易制限の扱い
第 12 回	木下秀雄	過労死と法
第 13 回	三島 聡	死刑
第 14 回	三島 聡	胎児性致死傷、「生命と法」全体をふりかえって
第 15 回		試験

●評価方法

通常の試験による。

●受講生へのコメント

生命と法をめぐる諸問題は、私たちひとりひとりの生活や生き方と密接に結びついている。講義でとりあげる各項目につき、自分の生活や生き方に引きつけ自分自身に関わる問題として考えてほしい。

●教材

講義の際に、必要に応じて資料等を配布する。当該時限のみの配布とし、事後の配布要求は受け付けない。受領し忘れることのないよう注意すること。

[科目ナンバー : GE GEN 01 25]

掲載番号	科目名	戦争と人間	単位数	2	担当教員	佐賀 朝 (文)
20	英語表記	War and Human				

●科目の主題

本講義では、1931年の満洲事変に始まり、1945年の日本の敗戦によって終わった「日中十五年戦争」の歴史について、その推移を追うとともに、重要なトピックについては掘り下げる形で論じる。あわせて、「従軍慰安婦」問題や靖国神社をめぐる問題など、この戦争に関わる現代の諸問題についても考察したい。

●授業の到達目標

この講義では、現代の戦争と平和をめぐる問題ともかかわって様々な場で議論になっている日本の侵略と加害の問題について、史実にもとづいて基本的な知識を得ることを第一の目標とする。その上で、今後、日本やアジアがどのような道を歩むべきかについて、アジアの人びとと冷静で誠実な対話が可能となるための

方向性を探っていききたい。

●授業内容・授業計画

第 1 回 はじめに—「十五年戦争」とは何か

第 2 回～第 5 回

・大日本帝国／満洲事変と排外主義／「満洲国」と華北分離工作

第 6 回～第 9 回

・日中全面戦争と総動員体制／南京大虐殺／戦時下の市民生活

第 10 回～第 12 回

・アジア・太平洋戦争への道／「大東亜共栄圏」の実態／朝鮮人・中国人強制連行と「従軍慰安婦」／沖縄戦／本土空襲と原爆投下

第 13 回 戦争責任と戦後補償問題

生命と人間

第14回 靖国神社問題とは何か

第15回 おわりに—日本国憲法の現代的意義

●評価方法

平常点・小レポート（約40～50%）、定期試験（約50～60%）により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本が中国・朝鮮をはじめとするアジア諸国に多大な損害をあたえたこの戦争にかかわる史実を、史料にもとづいた歴史研究を基礎として認識・理解することは、今後、私たちがアジアの人びとと共に生きていこうとする上で不可欠である。現在、靖国神社や「従軍慰安婦」をめぐる問題では、史実を無視し、あるいは歪めた認識の上に立つ議論が横行しているが、過去の

事実に誠実に向き合うことなくして人間の未来はない。

●教材

随時、プリント等を配付するが、参考文献は以下の通り。

- ・江口圭一『十五年戦争小史〔新版〕』（青木書店、1991年）
- ・吉見義明『従軍慰安婦』（岩波新書、1995年）
- ・笠原十九司『南京事件』（岩波新書、1997年）
- ・吉田裕『アジア・太平洋戦争』（岩波新書、2007年）
- ・加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（朝日出版社、2009年）

以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 26]

掲載番号	科目名	生命と進化	単位数	2	担当教員	若林 和幸 (理) 他
21	英語表記	Life and Evolution				

●科目の主題

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、私達を含めた現在の生命体に残されている。この科目では、分子、細胞、個体のレベルで、進化について紹介する。

●授業の到達目標

現代社会における医療や環境、食糧、農業などの様々な問題を正しく理解するためには、ある程度の生物学の知識が必要である。社会人として、現代社会を生きる際に求められる教養の1つとして、私達を含む「生き物」の成り立ちや多様性を学習し理解する。

●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化（若林和幸担当）

地球の誕生から数億年を経て最初の生命である原核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞へと進化した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

2. 分子の進化（小柳光正担当）

進化の研究は、分子生物学の技術の導入によって大きく進展し、進化をDNAやタンパク質といった分子のレベルで研究する分子進化学が誕生した。この分子進化学の基礎、方法、その成果について具体的に解説する。

3. 個体の進化（厚井聡担当）

生物は、多細胞体制を獲得して陸上へ進出したことにより、飛躍的に多様化した。多細胞体制の進化と陸上での多様化について、植物を中心

に紹介する。

- (1) イントロダクション
- (2) 生命の基本単位である細胞の種類と機能。
- (3) 化学進化から生命（細胞）の誕生。
- (4)・(5) 原核細胞から真核細胞への道すじ。核や細胞小器官の形成。
- (6) 細胞のエネルギー生産系の進化。
- (7) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。
- (8) 分子時計や中立説など分子進化学の基礎となる概念を説明する。
- (9)・(10) 分子進化学によって初めて明らかとなった生物の系統関係や進化のメカニズムについて、方法論を交えて紹介する。
- (11) 多細胞体制の進化。
- (12) 生物の陸上進出。
- (13)・(14) 陸上生物（特に植物）の多様化。
- (15) まとめと試験

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

高校で「生物」を履修していない人にも理解しやすいように、生物学の基礎的事項・内容についての説明や解説を含めながら授業を進める。

●教材

主な参考書：宮田隆「分子からみた生物進化」（講談社ブルーバックス）、ニコラス H. バートンほか著、宮田隆監訳「進化」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、中村運「細胞の起源と進化」（培風館）

[科目ナンバー : GE GEN 01 27]

掲載番号 22	科目名	現代の医療	単位数	2	担当教員	元村 尚嗣 (医) 他
	英語表記	Recent Advances in Medical Treatment				

●科目の主題

医療の現場で日々疾患と戦う医師たちが、ドラマよりもドラマチックな臨床の実情について、熱いメッセージを学生に送る 15 回からなるシリーズである。

医療とは人が生まれてから死ぬまでを扱うものである。そこには計り知れない苦悩があり、痛みがあり、そして治癒した時の喜びがある。医療について語ることは人生について語ることに等しい。教養課程の学生にとって、どのように医師が患者と向き合い、戦い、時に絶望するかを学ぶことは、人の人生について思いを巡らし、生命の尊さを考えることにつながる。また高額な医療費、医療福祉、保険制度など医療を取り巻く問題について学ぶことは、現代の社会における最大の問題の一つを学ぶことにもなる。

「現代の医療」は、ただ単に病気についての知識を教える講座ではない。そこでは苦悩する患者を救うためにどのように最先端の治療法が開発されたかが紹介されるであろう。その最先端の医療が、いかに人の人生を変え、喜びをもたらしたかが伝えられるであろう。そこでは患者を救うために病院の中を駆け巡る医師の姿が映し出されるであろう。さらにはそうした最先端の医療をもってしても克服できない患者の絶望が描かれるであろう。

今、人は何に怯え、苦しむのか。臨床の各方面に携わる一流の医療人から、現場の生の声を聴き、「現代の医療」について各自が深く考えるきっかけにしたい。

●授業の到達目標

- (1) 医療の進歩について学び、それによる恩恵および負の側面について自ら考えるきっかけを得る。
- (2) 現代人に多い疾患、現代でもまだ治療法のない疾患、最近問題となっている疾患について学び、最先端の知識を得る。
- (3) 時代の変化とともに現代人、現代社会で起きている医療問題について知る。
- (4) 一線の医療現場でおきていることを直接に医師から学ぶことで、人生、社会について考える契機とする。

●授業内容・授業計画

1. 循環器内科
2. 救急

3. 神経内科「高齢化社会における脳卒中診療」
4. 形成外科「Better Quality of Life を目指して」
5. 整形外科
6. 代謝内分泌病態内科学
7. 皮膚科「皮膚の役割と疾患」
8. 神経精神科「ネット依存～スマホからオンラインゲームまで～」
9. 産婦人科
10. 消化器内科「ピロリ発見の物語」
11. 第1外科「現代の外科診療について」
12. 第2外科
13. 放射線科
14. 小児科
15. 血液内科「がんと緩和ケアについて」

●評価方法

15 回の講義のうち、何れか一つの講義についてのレポート (A4 指定 1000 字～2000 字) をその講義終了後下記の期限以内に提出すること。レポートの表紙に、「講義日・講義担当者・講義の題名・学籍番号・名前」を記載すること。記載漏れがあった場合は採点しない。レポートの内容は講義のサマリーではなく、講義に対する感想、考えさせられたこと、講義でとりあげた内容に対する意見、講義の内容に対して疑問に感じその後に自分で調べたこと、などが望ましい。

提出期限：各講義から 2 週間後の水曜日 17 時

(7 月 27 日 (水) は 8 月 3 日 (水) 17 時締切。)

提出先：学生サポートセンター 1 階 学務企画課共通教育担当レポートボックス

※ WEB 等からの盗作や、他人のものを写した場合は、不正行為とみなし単位を与えない。

●受講生へのコメント

大阪市立大学附属病院の第一線で働く 15 人の医師が、週替わりで 15 週間にわたって医療の現状を伝える貴重な講座である。医学生はもとより、一般の学生にとっても病気、健康、生死、医療問題などについて、これだけ多くの医師の生の声が聴ける機会はずまいと思われる。例年人気のある講座ではあるが、折角のチャンスを逃さないように、なるべく多くの学生に聴講してほしい。

●教材

特定のものを使用しない。

[科目ナンバー : GE GEN 01 29]

掲載番号	科目名	人体を考える	単位数	2	担当教員	池田 一雄 (医) 他
23	英語表記	Life Sciences of Our Body				

●科目の主題

「人体におけるあらゆる生体反応」を主題とする。

●授業の到達目標

本コースでは人体における基本的構造・機能をはじめとして、様々な環境要因による反応や疾患について学ぶこととする。

●授業内容・授業計画

1. 肝臓のかたちとはたらき (機能細胞形態学、池田 一雄)
人体最大の臓器である肝臓のかたちとはたらきについて概説する。
2. 肝代謝 (機能細胞形態学、松原 勤)
内因性物質と外来異物 (薬物など) の代謝における肝臓の役割を転写調節と酵素活性の視点から解説する。
3. 肝疾患 (機能細胞形態学、斎藤 千恵子)
肝臓を構成する細胞、その特性から肝疾患を引き起こすメカニズムについて解説する。
4. 人体の構造 (器官構築形態学、安部 みき子)
人体の基本構造を解剖学的に解説する。
5. 生命誕生と脊椎動物の体づくり (器官構築形態学、甲斐 理武)
受精卵から基本的なボディープランが形成される過程について解説する。
6. ヒトの体を構成する器官とその形成 (器官構築形態学、山岸 敏之)
人体を構築する器官の形態とその成り立ちについて概説する。
7. がんとは何か? (分子病理学、魏 民)
がんの定義、成り立ちおよび人体に及ぼす影響について概説する。
8. がんの予防 (分子病理学、梯 アンナ)
がんの発生原因と予防法について概説する。
9. 化学物質の発がんリスク評価 (分子病理学、鰐淵 英機)
化学物質の発がんリスク評価の意義と現状について概説する。

10. アルコールの身体への影響 (法医学、道上 知美)
身近な薬物であるアルコールの身体・精神への影響について概説する。
11. 様々なストレスに対する人体の反応について (法医学、石川 隆紀)
ストレス応答は細胞が持つ基本的な生命現象の1つであり、その破綻は、がん、循環器疾患、中枢神経系疾患など多様な疾患の発症要因となる。ストレスに対する人体の反応について概説する。
12. 薬物依存と中毒 (法医学、道上 知美)
覚せい剤等の薬物が身体・精神に与える影響および問題点について概説する。
13. 認知症の基礎医学 (脳神経科学、富山 貴美)
認知症の原因疾患とその発症機序、診断・治療の現状について解説する。
14. 記憶のしくみ (脳神経科学、梅田 知宙)
記憶という脳の高次機能について、個体レベル、細胞レベル、分子レベルそれぞれの次元で現在科学的に解明されている部分を解説する。
15. リンパ節の腫脹する疾患について (診断病理学、大澤 政彦)
リンパ節の腫脹は悪性疾患だけでなく、良性疾患においても見られる現象である。なぜリンパ節が腫脹するのかを代表的な疾患を通じて説明する。

●評価方法

出席とレポート。出席率70%以下のものには単位を与えない。レポートは興味のあるテーマについて、8月3日(水)までに学務企画課共通教育担当に提出すること。レポートの表紙は、表題、選んだテーマの講義担当者の氏名、学籍番号、名前を明記すること。

●受講生へのコメント

講義に出席し、考えることを重視する

●教材

必要がある場合に限り、講義の際、担当者から配布、紹介する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 32]

掲載番号 24	科目名	光と生命	単位数	2	担当教員	寺北 明久 (理) 他
	英語表記	Light and Life				

●科目の主題

太陽光は植物によって化学エネルギーに変換され、そのエネルギーは、地球上のほぼ全ての生物の生命活動を支える。さらに、生物は、光環境と様々にかかわりながら生命活動を営んでいる。この科目では、生物と光のさまざまなかかわりを題材として、生命現象やそのしくみを個体・細胞・分子のレベルでわかりやすく紹介する。

●授業の到達目標

生物と光のかかわりから、生命現象を科学的に理解する能力を修得するとともに、生命現象のしくみを考えるための基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

1：動物と光のかかわり (寺北明久担当)

(1) ガイダインス、序論

(2)・(3) 光を感じる・見る：さまざまな環境で生活する動物が持つ多様な眼とそれを用いた視覚の特徴について解説する。

(4) 光を放つ生物：動物はなぜ発光するのか。その生物学的意味、発光するメカニズムや生物発光物質の応用について紹介する。

(5) 光と動物のさまざまなかかわり：光は遺伝子に損傷を与えるなどさまざまな影響もたらす。光が生物にもたらすさまざまな影響・効果やそれらに対する生体の応答について紹介する。

2：生物時計と光のかかわり (担当者未定)

(1) 日長が動物・植物に与える影響：地球上では日の長さが場所と季節によって大きく異なる。どれくらい違うのか、動物・植物はそれにどう対応しているのか (ヒトへの影響も含めて) について解説する。

(2)・(3) 光と体内時計：光と体内時計を手掛

かりに生物は活動時間帯を決めているその意味とメカニズムについて概説する。

(4)・(5) 動物・植物の光周性と季節適応：生物は日の長さを手掛かりに季節に適応している。その実例、地理的変異などを紹介する。

3：植物と光のかかわり (飯野盛利担当)

(1) 光と植物：植物はその成長と生活に必要なエネルギーを光から得ている。まず、その仕組み (光合成) について解説する。植物は光を成長や生活環を調節するためのシグナルとしても利用している。シグナルとしての役割を環境適応戦略および植物多様性の視点から考える。

(2) 植物の光受容体：植物が光を環境シグナルとして利用するために使っている3種類の光受容体 (フィトクロム、クリプトクロム、フォトトロピン) について、研究史的背景、分子的性質などの視点から解説する。

(3)・(4) 個別の光環境応答反応：光をシグナルとする植物の光応答反応の代表的な例について、その生態学的役割 (環境適応上の役割)、反応に関与する光受容体、および光シグナルの受容から反応の発現までの仕組みについて解説する。

●評価方法

定期試験で評価する。但し、試験を受ける条件は出席回数10回以上とする。

●受講生へのコメント

ヒトにとって身近な存在である「光」とさまざまな生命との関係を題材に、生命現象やそのしくみの理解につながる話題を提供します。

●教材

講義の際、配布、紹介する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 33]

掲載番号	科目名	大阪市大でどう学ぶか	単位数	2	担当教員	大久保 敦 (大教) 他
25	英語表記	What and How to Learn in OCU				

●科目の主題

新入生の皆さん大阪市立大学へ入学おめでとうございます。ところで、皆さんは授業選択をどのようにしていますか？ 友達と相談？ 先輩からのアドバイス？ いろいろあると思いますが、シラバスを参考に授業の選択をした人はどのくらいいるのでしょうか？ 大学生活を開始するに当たり、授業選択は大学での学びをどのようにデザインするかに直接的に結びつきます。また、それは今後の人生のデザインへともつながっていきます。このような重要な授業選択をサポートするためのツールとしてシラバスは作られています。

「大阪市大でどう学ぶか」の授業ではそように重要なシラバスの読み方、使い方から始まります。そして、これからの社会において、大学とは何か、そこで学ぶ意義は何か、また自分がこれから学ぶ市大がどんな大学なのかを知り、そこで何をどう学び、どう人生をデザインし、どのような人間になり、そしてどのように社会に貢献していきたいかを入学直後のこの期間に考えます。

今年みなさんは本学の大学生となりました。これからの社会に何を求め、どのように築いていくかは皆さんに掛かっています。さらに、市民としてどのように関わり、どのように自己実現をはかっていくかも、これからの大学生活に掛かっていると言っても良いでしょう。その第一歩がこの授業です。

なお、科目の趣旨から、**授業は1回生ならびに編入学生を対象に行います**。2回生以上で受講を希望する人は最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を受けてください（履修登録だけでは受講できません）。

●授業の到達目標

- ① 大学とは何か、高校と大学の学びの違いを理解し、大阪市立大学で学ぶことの意味や意義を考えるきっかけとすること。
- ② 大学4年間（医学科は6年間）を通した学びの基本的デザインを行うこと。
- ③ 各学問分野等への興味・関心・意欲を涵養すること。
- ④ 大学で学んだことを卒業後どのように生かすのかを考えること。

●授業内容・授業計画

学長はじめ学内外よりその道の専門家が授業をオムニバ形式で担当し、大学とは何か、大学で学ぶ意義、そして大阪市大や各学部・研究科の生い立ちから現在そして未来への展望、また各学問分野の魅力やその誘

い、あるいは自らの学生時代などの体験談を基にしたアドバイス等々、各講師陣の個性を発揮した1回完結型の授業構成となっています。

- ① オリエンテーション シラバスの読み方と授業選択
- ② 市大を知る1 大阪市立大学の教育と研究
- ③ 市大を知る2 大阪市立大学の歴史
- ④ 大学での学びを知る1 大学の学び
- ⑤ 大学での学びを知る2 心の健康管理
- ⑥ 大学での学びを知る3 身体健康管理
- ⑦ 大学での学びを知る4 なぜレポートを書くか①
- ⑧ 大学での学びを知る5 なぜレポートを書くか②
- ⑨ 大学での学びを知る6 国際化と語学
- ⑩ 大学での学びと人生の設計1
- ⑪ 大学での学びと人生の設計2
- ⑫ 大学での学びと人生の設計3
- ⑬ 大学での学びと人生の設計4
- ⑭ 大学での学びと人生の設計5
- ⑮ まとめ 人生設計と大学での学びの設計

※上記は授業内容の項目を示したものです。実際の授業スケジュールは初回授業で知らせます。

●評価方法

- ① 最初の授業で、シラバスを使って1回生での授業選択を点検します。それを基にこれからの学びの計画や人生計画などをレポートにまとめます。
- ② 2回目以降の各授業で、その日の授業内容の要点をまとめ、それをもとに考えたことを授業の最後に小レポートにまとめます。
- ③ 最後の授業で、「この授業で学んだことは何か、それを今後の学びや人生にどう生かしていくのか」をテーマに最終レポートをまとめます。

成績評価は上記①から③のレポートで行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は例えるならば、大学での学びや、その先の人生を歩むためのルートマップ作りと捉えることができます。ここで作ったルートマップを用いて勉強を進めたり、その先の人生を歩むためには、それなりの心構えと基本的能力が必要です。つまり、心構えとは、大学での学びは高校までと大きく異なり、自ら学ぶ態度が求められます。一方、基本的能力とは、例えば最近では、インターネットによる情報の検索やコンピュータを活用した学習や研究など、ICT技術を効果的に活用する能力が求められています。このような

学びを効率的・効果的にするための基本的な能力をスタディ・スキルといいます。一回生の間にぜひスタディ・スキルの基礎を身につけてください。そのために全学共通教育の1回生だけを対象に少人数演習形式で行う「初年次セミナー」や各学部で開講される1回生対象の演習科目を合わせて受講することを推奨します。

[科目ナンバー : GE GEN 01 34 .CO]

掲載番号	科目名	大阪学 —グローバル視野から見る大阪— (学長特命科目)	単位数	2	担当教員	桐山 孝信 (法) 他
26	英語表記	Special Lectures on Osaka: Global Perspectives				

●科目の主題

国際的な競争の激化、企業のグローバル化など、日本を取り巻く社会情勢は国際化に向けて大きく変貌を遂げており、グローバルに活躍する人間へのニーズが一層高まっています。公立大学である本学にはこうした国際化の潮流のなかで、大阪という地域の地域社会にアイデンティティを抱きながら、世界で活躍できる人材の育成が求められています。そこで、グローバルな視野から大阪という地域を捉えられるような授業を開講し、それを機として、学ぶ意欲を高め、国際化に柔軟に対応できるような学生を育成したいと考えます。

授業の提供に際しては、世界で活躍する社会人、国内外に誇る教育研究成果を上げている市大の教員を講師として、グローバルな視野から、大阪との繋がりを念頭に置いて、授業を開いていただきます。受講生の皆さんには、授業を通じて、最先端の国際情勢、経済社会情況、テクノロジー、文化などを学んで、知的刺激を得るなかで、大阪という地域をより深く理解し、グローバルな社会における生き方の指針を見つけていただきたいと思います。

●授業の到達目標

- ・全世界に急速に広がりつつあるグローバル化の最先端の状況を知ること。
- ・グローバル化のなかでの大阪の現状と未来を考えるきっかけとすること。
- ・専門を越えた幅広い知識を身につけること。
- ・在学中だけでなく、卒業後も見据えて、どのような職業に就き、いかに生きていくかを考える手がかりとすること。

●授業内容・授業計画

グローバルな活動を展開している社会人、優れた教育研究成果を上げている本学教員がオムニバス形式で授業を担当します。大阪を中心として、国際的な企業活動、医療、スポーツ、文化などの現場からの報告・分析、国際水準の教育研究の成果を聞き、意見を交換するなかで、大学で学ぶ意味、実社会に接続するそれ

●教材

教科書：教科書は使用しませんが、**第1回目の授業では「シラバス」を必ず持参**してください（2回目以降は使用しません）。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

それぞれの進路、大阪の未来を考えてもらいます。

- ① ガイダンス
- ② いのちを守る都市づくり
- ③ ダボス会議に見る、世界で活躍する若者たちと社会の未来*
- ④ 超高齢社会における医療介護複合経営 —大阪の挑戦を世界へ*
- ⑤ 大阪を世界に売り出せ!*
- ⑥ 足もとの熱エネルギー資源を活用した低炭素まちづくり
- ⑦ グローバルな低炭素エネルギー社会構築に貢献するための人工光合成技術
- ⑧ 私の目から見たこれからのグローバル化とは*
- ⑨ 関西系商社の歴史的歩みとグローバル化*
- ⑩ 16世紀における東アジア海域世界の変容と大坂城
- ⑪ ラスベガス エンターテインメントの世界で働く*
- ⑫ 企業の求めるグローバル人材*
- ⑬ 水都大阪の都市デザイン
- ⑭ 大阪の底力と産学のグローバル化—なぜ道頓堀・心斎橋は賑わうのか*
- ⑮ まとめ+期末レポート

*上記は平成27年度の講義題目です。正式の題目および講師については初回の授業でお知らせします。

*が付けられている講師は学外社会人。

*各授業を担当するファシリテーター：桐山孝信、多治見左近、佐賀朝、嘉名光市、飯吉弘子、福島祥行

●評価方法

- ① 最初の授業のガイダンスで本授業の主旨を説明します。それを聞いたうえで、それぞれの進路、グローバル化、大阪の特色をミニ・レポートにまとめてもらいます。
- ② 2回目以降の授業で、その日の授業の要点をまとめ、それをもとに考えたことをコミュニケーションカードに記載し、提出します。
- ③ 第1回ガイダンスの時点での自分自身の考えを念頭に置きながら、それぞれの進路、グローバル化、大阪の未来像などをキーワードとして、

それまでの授業で学んだことを踏まえて期末レポートにまとめ、最後の授業で提出してもらいます。

成績評価は①から③によって行います。期末レポートの提出は必須です。評価の配点比率は①と③で40%、②で60%とします。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は、グローバル化のなかで地元大阪がどのような状況にあり、いかなる問題を抱えているのか、今後どのようにすれば新たな未来を切り拓くことができるのかを、受講生それぞれが考える場として提供します。単に授業を聞くのみならず、新聞、本、テレビ、その他各種メディアをフルに活用して、グローバル化に柔軟に対応できるような知力、実践力を培えるようにしてください。

また、学外講師による評価方法の工夫、双方向授業などの条件を考慮しなければならないので、受講者数は100名程度に制限します。

●教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

2. 総合教育科目 B

[科目ナンバー : GE HUM 01 02]

掲載番号	科目名	論理学入門	単位数	2	担当教員	佐金 武 (文)
27	英語表記	Introduction to Logic				

●科目の主題

論理学とは、正しい推論とその原理について研究する学問である。正しく推論できる能力がなければ、分野を問わず、どんな学問的研究も適切に行うことはできないし、そもそも我々の思考や知識の伝達が困難になる。本科目では、誰にとっても重要な推論の能力を養い、推論の正しさに対する鋭敏な感覚を磨くとともに、「論理的であるとはいかなることか」や「推論の正しさとは何か」について、基礎的な理解を得ることを主題とする。

●授業の到達目標

現代の記号論理学の基本である、命題論理および述語論理をタブロー法により習得することにより、論理的思考についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1課 論理的に正しい推論とはどのようなものか
- 第2課 真理関数的論理 I : 真理関数としての論理結合子
- 第3課 真理関数的論理 II : 推論の妥当性
- 第4課 真理関数的論理 III : トートロジーと矛盾
- 第5課 真理の木 I : タブロー法による分析 (1)
- 第6課 真理の木 II : タブロー法による分析 (2)
- 第7課 真理の木 III : 命題論理の健全性と完全性
- 第8課 中間テスト
- 第9課 一般性 I : 命題論理から述語論理へ
- 第10課 一般性 II : 量化文の意味論
- 第11課 一般性 III : 述語論理のタブロー
- 第12課 重なり合った一般性 I : 多重量化を含む述語論理

第13課 重なり合った一般性 I : 多重量化のタブロー

第14課 同一性

第15課 最終テスト

- ・授業では解説とともに、真理表やタブローを用いた論理計算の練習を多く取り入れる。
- ・授業ごとに課題 (2、3の小問) が出される。
- ・課題の解答用紙を回収し出席をカウント、受講生の理解を確認する。
- ・授業ごとの課題に加えて、中間テスト (8回目の授業) と最終テスト (15回目) を実施する。

●評価方法

- (1) 中間テスト 30%、最終テスト 50%。
- (2) 平常点 20% (課題提出 + a)。

●受講生へのコメント

受講生の理解を促進するため、できるだけ多くの課題や練習問題に取り組む。論理学は積み上げの学問である。欠席を重ね課題提出を怠ると、単位修得はかなり難しくなるので要注意。少しでも分からないことがあれば、遠慮せずに質問する積極性がこの科目では特に望まれる。また、多くの課題作業を通じて理解を確かめつつ進める必要があるため、受講者数は100名程度に制限する。

●教材

- ・講義はリチャード・ジェフリー著『形式論理学』にそって行う。予習と復習のために、テキストを入手すること。
- ・授業においては資料や課題等を配布する。
- ・ノートおよび計算用紙 (雑用紙可) を持参のこと。(授業では、実際に手を動かして論理計算を行う。)

[科目ナンバー : GE HUM 01 07]

掲載番号	科目名	性格心理学入門	単位数	2	担当教員	田端 拓哉 (非常勤)
28	英語表記	Introduction to Personality Psychology				

●科目の主題

「性格」とは日常的な用語であり、自己や他者が持つ特徴を説明するときによく用いられる。また、4択の質問に答えるだけで隠された性格が簡単にわかるという類の話がマスメディアで時折紹介されており、その結果に一喜一憂する人がいる。性格は、現代心理学

誕生以前のはるか大昔から関心が高く、様々な領域で研究対象とされてきた。その考え方は、今日の日本でも、顔貌や、生まれた月日と星座や、血液型といったものによる性格判断といった形で、私たちの日常的な性格の捉え方に影響を与えている。

現代の性格心理学は、それらの性格判断を疑問視し、

性格の捉え方を問い直して、新たに構築した性格心理学の観点から性格とはいかなるものかを論じる。

本講義では、性格心理学による性格の捉え方と、主要な性格の理論について概説し、性格心理学と星座や血液型といったものによる性格判断との違いを示す。本講義はその対比を通じて、性格心理学の理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常的に感じてきた性格と性格心理学における性格の違いを理解し、性格心理学の知識を通じて自身の日常を見つめ直すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

性格心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに1回または2回程度充てる予定である。

1. 古典的な性格理論：古代の体液説や占星術から身体的特徴や血液型まで
2. 性格の捉え方：分類方法の考え方、体格と性格、"Big Five"

3. 性格の捉え方：測定方法
4. 性格の捉え方の実際：自己愛
5. 性格の捉え方の実際：知能
6. 性格は氏か育ちか：遺伝と環境
7. 性格の捉え方の現在：見直しが続く捉え方

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：小塩真司著 『はじめて学ぶパーソナリティ心理学 個性をめぐる冒険』（ミネルヴァ書房）

基本的にスライド（PowerPoint）によって資料提示を行う予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	担当教員	佐伯 大輔 (文)
29	英語表記	Introduction to Psychology				

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業では、教科書に示した以下の章立てに従って、心理学分野の全般にわたり、講義形式で授業を進める。

- (1) 心理学の歴史
- (2) 心理学の方法
- (3) 感覚
- (4) 知覚
- (5) 学習
- (6) 複雑な学習
- (7) 動機づけと情動
- (8) 記憶
- (9) 意思決定
- (10) 思考と言語
- (11) 発達
- (12) パーソナリティ
- (13) 社会的行動
- (14) 心理臨床
- (15) まとめ

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

- ・同じ心理学であっても、研究分野によって、研究者の視点、研究対象、研究方法は異なる。受講生には、心理学における様々な考え方を習得し、幅広く知識を身につけることを期待する。
- ・心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、

授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合がある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：伊藤正人（編）「現代心理学：行動から見る心の探求」（昭和堂 2013）

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	担当教員	矢田 尚也（非常勤）
30	英語表記	Introduction to Psychology				

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査を実施したり、ビデオ教材等を活用する。

内容は、およそ以下のとおりである。

1. 心理学とは

2. 心理学の研究法

3. 感覚と知覚

4. 記憶と学習

5. 言語と思考

6. 社会的認知

7. 対人関係

8. 集団と個人

9. 社会と人間

10. 発達

11. 感情

12. 動機づけ

13. 性格

14. 臨床心理学：構造とアセスメントの実際

15. 臨床心理学：理論的モデルと介入の技法

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房） 無藤隆他著 『心理学』（有斐閣）

プロジェクトを使用する予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	担当教員	池上 知子 (文)
31	英語表記	Introduction to Psychology				

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して

講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査を実施したり、ビデオ教材等を活用する。

内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに2回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ
2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学
3. 精神疾患の脳生理
4. 心と身体疾患
5. 行動異常と心の力学
6. 心を動かす源泉：欲求と感情
7. 心の個人差と形成因

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）丹野義彦著 『性格の心理』（サイエンス社）

OHP、ビデオ、DVDを使用する予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	担当教員	田端 拓哉 (非常勤)
32	英語表記	Introduction to Psychology				

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者

は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。前半の7週に、有名な研究事例について解説しつつ、後半の各トピックにかかわる心理学の歴史について概説する。後半を1,2週ずつ残りの2~7のトピックに充てる予定である。

1. 心の捉え方の変遷：心理学の歴史と方法の多様性
2. 記憶の構造と過程：記憶には種類がある
3. 脳と心理学：記憶の観点から
4. 学習による行動の変化：記憶が行動に影響する
5. 動機づけにかかわる自己：自己についての記憶が影響する
6. 性格のとらえ方：性格を正確に知るには
7. 心の発達：加齢に伴う心の変化

8. 心の健康と精神疾患

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

基本的にスライド（PowerPoint）によって資料提示を行う予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 15]

掲載番号	科目名	ゲームで学ぶ社会行動	単位数	2	担当教員	渡邊 席子（大教）
33	英語表記	Learning about Social Behavior with Experimental Games				

●科目の主題

この授業は、自分のキャリア（＝労働を含む「生き方」全般）について「他者とともに、自分で考え、あらかわす」授業である。より具体的には、キャリアカウンセリング理論の基礎を学ぶとともに、ゲーミング・シミュレーション教材作成、および、意思決定ゲーミング・シミュレーション、ナラティブ・キャリアカウンセリングワークへの参画を通じて、受講生それぞれが自分を取り巻く環境（世界／社会）との折り合いをつけ、いかにして自分のキャリアを発達させるために行動するか／しないかについて少し時間をかけて考え、かつ、考えたことを頭の中だけにとどめず、自分の言葉で説明し、あらわして確認する機会を提供する授業である。

●授業の到達目標

この授業の到達目標は、①キャリアカウンセリング理論の基礎を理解できること、②各種課題を通じて自分のキャリアについて分析・考察し、自身を取り巻く環境と折り合いをつけながら社会とともに生きる自立した人となるために必要なことを自分なりの視点から見出せること、の2点である。

●授業内容・授業計画

この授業は、active learning（学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式）を可能な限り組み入れて運営される。受講生には、キャリアカウンセリング理論についての講義を受け、他受講生とともに各種課題（教材作成、グループワーク、ゲーミング・シミュレーションへの参画など）に取り組みながら、いかに自身のキャリアを発達させるために行動するか／しないか

を問い、語り、気づき、考えていただきたい。

第1回：ガイダンス+導入課題

第2～8回：ユニット1＝大学生向けキャリアデザイン・ゲーミング・シミュレーション教材をつくる（キャリアカウンセリング理論についての基礎講義、教材作成、相互評価、自己評価）

第9～15回：ユニット2＝意思決定ゲーミング・シミュレーションを通じて「自分」と「社会」を知る（ゲーミング・シミュレーションへの参画、討論、相互評価、自己評価、ナラティブ・キャリアカウンセリングワーク）、まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に最低2度、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

●評価方法

(1) 平常点(学ぼうとする意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、時間・期限を順守できていたか、授業期間中に行う小テスト、自己評価等)：80点満点

(2) 各種課題に対する学生同士の相互評価：20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
・この授業では、グループワークを多用する。

・授業は2つのユニットから成っている。全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていることが単位認定の最低ラインである。すなわち、授業に参画し、一定の学修成果を

おさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。

・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提として毎回の授業を進行する。

・他受講生との協同を通じて「積極的に自己と向き合い、表出し、確認し、いかに生きるかを考えること」が求められる授業である。自立的に生きるひとりの大学生として、他受講生とともに、自分の優れた側面を発見するのはもちろんのこと、不十分な点や曖昧な点、迷いや恐れ等々も含めて過去と現在の姿を受け止めつ

つ、自分の足で将来へと歩み進んでいく準備（キャリア・デベロップメント・レディネス）ができているかどうか、よく見極めたうえで受講するかどうかを決めていただきたい。つまり、「(今はまだ)自分のキャリアについて考えたくない、考える必要がない」、あるいは「もう十分考えているので自分には必要ない」と思っている人には向かない。

●教材

・教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。なお、教材となりうる素材を受講者自身が集めて持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー : GE HUM 01 16]

掲載番号	科目名	日常の中の不思議を探す (演習)	単位数	2	担当教員	渡邊 席子 (大教)
34	英語表記	Seminar: Let's Find Out Wonders in Our Daily Life				

●科目の主題

本演習は、少人数による active learning (学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式) を介して、われわれの周りにある身近な情報や、日々置かれている状況を当たり前と受け流さず、思い込みにとらわれず、鵜呑みにせず、今一度自分の全身(目・耳・頭・手足)を使って捉えなおしながら、自分なりの総合的思考力(=実践を伴う筋の通ったものの考え方)の確立を目指す科目である。

●授業の到達目標

本演習の主な到達目標は、受講生各自が自分に合った総合的思考力の基礎を確立できることである。あわせて、他受講生とともに創造的な討論の場を作るエンハンサー(促進者)としての役割を果たせるようになることを副次的目標とする。

●授業内容・授業計画

本演習では、個人またはグループで各種 active learning 課題に取り組む。演習のスケジュールは以下のとおりである。

第1回: ガイダンス+導入課題

第2~6回: 演習1 (ごく身近な時事テーマに関する討論、質疑応答、振り返りによる自己評価、相互評価)

第7~10回: 演習2 (より広い観点から見出した時事テーマに関する調査、発表/討論、質疑応答、相互評価、自己評価)

第11~14回: 演習3 (解きたい問題を発見し、本質を見極める調査、成果物作成、発表/討論、相互評価、自己評価)

第15回: まとめと総合自己評価

本演習は、単なる発表・討論スキルアップ講座ではない。自立した大人に資する総合的思考力とは何かを

受講生「自らが」掴み、「自分なり」の思考方法を見出すための演習である。専攻・学年の異なる他受講生との交流の中で、自らの立ち位置を確かめつつ、柔軟に思考し、失敗を恐れずに試行錯誤してみる積極性と行動力が求められる。

●評価方法

- (1) 平常点(参画への意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、授業目標達成にかかる具体的な問題解決とその結果に対する適切な自己評価、時間・期限を順守できていたか等): 80点満点
- (2) 各種課題に関する学生同士の相互評価: 20点満点
→合計 100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・受講人数の上限を12名とする。
- ・①全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていること、②節目ごとに行う個人目標設定とその達成度評価の提出、の2点をすべて満たすことが単位認定の最低ラインである。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・演習の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提に毎回の演習を進行する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掴みとる」意思を持つとともに、極度に失敗を恐れることなく試行錯誤してみる積極的を有する学生、ないしは、現時点の自分の力量に不足を感じ、もっと学ぶ力を伸ばしたい/積極性を持ちたいとの強い意志のある学生の受講を希望する。

- ・近年、抽選を経て履修登録を許可されておきながら1・2回目の段階で自ら履修放棄し、本演習の進行に悪影響を与える学生が増加していることを非常に遺憾に思っている。履修すると決めたのなら最後まで貫き通す覚悟をもって臨むこと。そう

でないのなら、履修登録そのものをしないこと。

●教材

- ・教材は演習中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講生自身が調査の上、集めて持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー : GE HUM 01 17]

掲載番号	科目名	教育と発達心理学	単位数	2	担当教員	西垣 順子 (大教)
35	英語表記	Psychology on Education and Development				

●科目の主題

人間の発達に関する3人の研究者の発達理論とその理論の成立背景を学びながら、「人間の発達とは何か」「すべての人の発達する権利を保障するために教育はどのような役割を果たすのか」という問題について考えます。

●授業の到達目標

- ① ピアジェ、ヴィゴツキー、田中昌人の3名の人間発達理論のエッセンスとその成立背景を理解すること
- ② 自分自身の発達過程を多面的に分析することを通じて、現代社会における教育と発達に関わる諸問題について、より広い視野から検討できるようになること
- ③ 「発達する権利」について理解し、その権利が保障される社会の創出に参画する市民として、自らの生き方を考察できるようになること

●授業内容・授業計画

- | | |
|---------|--------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | ピアジェの発生的認識論 |
| 第3週 | ヴィゴツキーの発達理論 |
| 第4-6週 | 「夜明け前の子ども達」視聴と考察 |
| 第7週 | 発達する権利とその保障 |
| 第8-13週 | 田中昌人による発達理論 |
| 第14-15週 | 「光の中に子ども達がいる」視聴と考察 |

●評価方法

期末レポートが22点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは43点、宿題が35点の計100点満点で評価します。期末レポートが13点以上かつ合計点60点以上が合格。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。本授業では受講生の皆さんに読み物を読んで考えたことを執筆してもらい宿題を7-8回出す予定をしています(評価方法の欄参照)。

受講生の数にもよりますが、授業中に4人一組でグループトークをします。そこで出た意見を発表してもらう可能性もあります。

なお、授業には遅刻せずに毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

次の本を教科書として指定します。必ず購入しておくこと。手元にないとレポートを書くことができません。

中村隆一 「発達の旅—人生最初の10年 旅支度編」クリエイツかもがわ (1,700円)

[科目ナンバー : GE HUM 01 18]

掲載番号	科目名	教育と発達心理学 (演習)	単位数	2	担当教員	西垣 順子 (大教)
36	英語表記	Seminar: Psychology on Education and Development				

●科目の主題

すべての人が「健康に発達する権利」が保障されなければならないという発達保障の思想を基盤に、「大

学生生活をゆたかにする心理学—心の科学への招待 (心理科学研究会編)」を読み解きながら、青年期を中心に生涯発達について検討します。

●授業の到達目標

- ① 発達する権利とその保障について、基本的な考え方を理解すること
- ② 自ら探究する課題を設定し、それについて資料等を収集しながら検討し、ひとつの回答を立てられること
- ③ 自ら設定した課題とその回答を、他の受講生と共有し、レポートにまとめられること。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
 第2週 発達保障論とその背景
 第3-14週 「大学生生活を豊かにする心理学」の各章を順次講読・発表と討論
 第15週 総合討論会

●評価方法

「大学生生活を豊かにする心理学」講読と議論への貢

献 50 点、レポート 30 点、平常点 20 点の割合で評価します（満点は 100 点）

●受講生へのコメント

演習形式の授業のため、受講生数を 16 名程度以下に制限します。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業を進めます。授業への積極的な関与を期待します。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の 2 時限目と昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示する。

●教材

次の書籍を教科書として指定します。手元にないと受講することができませんので、必ず購入しておいてください。

心理科学研究会（編）「大学生生活をゆたかにする心理学―心の科学への招待―」福村出版（1,700 円）

[科目ナンバー : GE HUM 01 19]

掲載番号	科目名	リテラシー教育の思想と方法	単位数	2	担当教員	西垣 順子（大教）
37	英語表記	Philosophical and Psychological Issues on Literacy Education				

●科目の主題

リテラシーは読み書き能力という意味が基本ではあるが、実際にはそれほど単純な概念ではない。本授業では、リテラシーという概念の多面的な意味を踏まえながら、リテラシーとその教育が人間個人と社会の発達において果たす役割について考え、これからのリテラシー教育のあり方について考察する。

●授業の到達目標

- ① 機能的リテラシー、批判的リテラシー等のリテラシー概念を理解し、多様に展開されているリテラシー教育について、その目的や意義を理解するとともに、批判的に検討できるようになること
- ② 自らが巻き込まれているリテラシー学習について、その目的と意義を理解しながら、批判的に検討できること

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
 第2週 言葉を自覚する
 第3週 機能的リテラシー
 第4-6週 フレイレの教育思想
 第7-8週 映画「こんばんは」の視聴と検討
 第9週 大学生のライティング
 第10-11週 「生きなおすことば」を読む
 第12週 レポートの相互検討
 第13-14週 批判的思考と市民リテラシー
 第15週 レポート返却と講評

●評価方法

期末レポートが 27 点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは 41 点、宿題が 32 点の計 100 点満点で評価します（配点は 5 点程度は変動する可能性があります。初回の授業の際に確定した数値を出します）。合計点 60 点以上かつ期末レポート 15 点以上が合格。

●受講生へのコメント

受講生の多くの方は受けたことがないと思われるリテラシー教育について知るために、参考資料を宿題として読み、それについて、授業中にディスカッション（グループトーク）をします。授業を聞くだけでなく、参加するという姿勢で取り組んでください。

期末レポート課題に相当するレポート課題を、正月明けに出してもらいます。1 月の授業ではそれをもとにしたグループトーク等も計画しています。そのつもりをしておいてください。

なお、授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

大沢敏郎（著）「生きなおす、ことば―書くことの中から―横浜寿町から」太郎次郎エディタス（1,800 円）を教科書とします。授業で使うので、必ず購入してお

くこと。

小柳正司（著）「リテラシーの地平：読み書き能力の教育哲学」（大学教育出版）（1,600円）を参考書と

します。授業を聞くだけでは理解できない部分はこの本を読んで復習してください。

[科目ナンバー : GE HUM 01 20]

掲載番号	科目名	心理学・認知科学と人間	単位数	2	担当教員	平 知宏 (大教 特任)
38	英語表記	Psychology, Cognitive Science, and Human Beings				

●科目の主題

本授業では、心理学および認知科学と呼ばれる分野の発展とその成果を概観し、「人間とは何か」という問いかけに対しての「暫定的で」「多角的で」「多領域にわたる」考え方を見ていく。

●授業の到達目標

「人間とは何か」という問題点から、人間のものの考え方やものの認識の仕方に対する理解を深めることを目的としている。いくつかのテーマ・観点から基礎知識を身につけた上で、自分なりに「人間とは何か」という問いに対する答えを、自発的に出せるようになること、またそうした自分なりの答えに応じて、他者と積極的に関わること、協働することの意義について理解できるようになることも目標としている。

●授業内容・授業計画

- 01 回：初回ガイダンス
- 02 回：歴史的背景
- 03 回：方法論とその意味
- 04 回：生物としての人間 (1) 神経科学
- 05 回：生物としての人間 (2) 発達
- 06 回：人間の在り方 (1) 感覚と知覚
- 07 回：人間の在り方 (2) 注意・意識
- 08 回：人間の在り方 (3) 学習
- 09 回：情報と人間 (1) 記憶
- 10 回：情報と人間 (2) 思考・知能
- 11 回：情報と人間 (3) 言語
- 12 回：文化・社会と人間 (1) 感情
- 13 回：文化・社会と人間 (2) 適応と障害
- 14 回：文化・社会と人間 (3) 文化・社会

15 回：まとめ

●評価方法

授業内課題の提出 (30%)

毎回の授業時に出す小テストの提出を求める。小テストの点数そのものは成績評価の対象外だが、提出および回答のあるなしを評価の対象とする。

期末試験 (70%)

講義内容に基づく期末試験を実施する。試験問題は、毎回授業時に出す課題の一部と応用問題より構成されている。

その他

別途心理学・認知科学に関連する実験・調査への参加を依頼することがある。実験・調査への参加は成績評価の必須要件ではないが、実験・調査への参加頻度に応じて、成績評価にボーナスをつける。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにすること。講義の進め方や本授業専用 Web ページへのアクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。

また本授業は講義形式であるが、積極的な授業への参加を求める。取り扱うテーマについてのコメントの記入だけでなく、話題提供や講義進行中に行う質問への回答などを求めることがある。

●教材

教材については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授業専用 Web ページを通じて、授業内外で活用できる参考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 21]

掲載番号	科目名	現代文化の社会学	単位数	2	担当教員	笹島 秀晃 (文)
39	英語表記	Cultural Sociology and Sociology of Arts				

●科目の主題

文化の社会学は、宗教・科学技術・メディア・ジェンダーなど幅広い現象を対象とするが、本講義では芸術に関わる論点を取り上げる。

●授業の到達目標

文化・芸術に対する社会的思考の基礎を理解することを旨とする。すなわち、個別の作品の表象分析ではなく、芸術作品・芸術家をめぐる政治経済的・組織的・制度的背景の分析を行う。

●授業内容・授業計画

授業は、「西洋と東洋」（第2回～第4回）、「大衆・複製芸術」（第5回～第7回）、「権力と芸術」（第9回～第11回）、「社会階層と芸術」（第12回～第14回）の4つのセクションからなる。

第1回 文化の社会学・芸術の社会学とは？

第2回 オリエンタリズム：西洋と東洋

第3回 近代西洋芸術の合理性：M・ウェーバー

第4回 近代日本における「美術」の構築

第5回 文化産業への批判：フランクフルト学派

第6回 複製技術時代の芸術：W・ベンヤミン

第7回 限界芸術論：鶴見俊輔

第8回 中間テスト

第9回 政治の美学：全体主義と芸術

第10回 放送禁止歌：権力と表現

第11回 文化政策

第12回 嗜好と地位：P・ブルデュー

第13回 逸脱集団としての芸術家：H・ベッカー

第14回 儀礼を通じた抵抗：労働者階級の若者文化

第15回 期末テスト

●評価方法

平常点：30%（出席（15%）+コメントペーパー（15%）
+中間テスト：30%+期末テスト：40%

●受講生へのコメント

1. 出席は、毎回、コメントペーパーの提出で確認。
2. 中間・期末テストでは、用語説明と論述を予定。

●教材

教科書：なし（講義では、適宜プリントを配布する）
参考書：なし

[科目ナンバー : GE HUM 01 22]

掲載番号	科目名	宗教と社会	単位数	2	担当教員	仲原 孝 (文)
40	英語表記	Religion and Human Society				

●科目の主題

あらゆる宗教は社会を構成する。したがって宗教には必ず社会的な問題がつきまとう。この授業ではこうした宗教をめぐる社会的問題を、講義形式で様々な角度から考察して行く。

●授業の到達目標

宗教と社会の関係をめぐる問題に関して、各自が自分独自の見解を形成することができるようになることを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

今年は「宗教多元主義」の問題について考察する。あらゆる宗教は自己自身を絶対的な真理と見なすものであり、無数の宗教が共存しなければならない現代世界では宗教対立が深刻な問題となっている。講義では、この問題に取り組んだ先人の思想を吟味しながら、宗

教共存の可能性を探る。

授業計画は次のとおり（ただし授業進捗の関係上、授業計画に多少の変更が行なわれる場合もありうることを付記しておく）。

1. 序論。宗教多元論の問題
2. 古典的宗教学の宗教一元論（1）
3. 古典的宗教学の宗教一元論（2）
4. ジョン・ヒックの宗教多元論（1）
5. ジョン・ヒックの宗教多元論（2）
6. ヒックの功績
7. ヒック思想の問題点
8. カール・ラーナーの「無名のキリスト者」論（1）
9. カール・ラーナーの「無名のキリスト者」論（2）
10. ラーナー思想の問題点
11. ニーチェの道徳多元主義（1）

12. ニーチェの道徳多元主義 (2)
13. ニーチェ思想の問題点
14. 「法」は宗教の多元性を保証しうるか
15. あるべき宗教多元論とは

●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はあり得ない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答えは最低の評価となるので注意すること。

●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 25]

掲載番号	科目名	社会科学のフロンティア	単位数	2	担当教員	中村 健吾 (経) 他
41	英語表記	Frontier of Social Science				

●科目の主題

今年度の「社会科学のフロンティア」は、2009年从今天まで続いているユーロ危機のもとでEU（欧州連合）加盟国の社会保障制度（福祉レジーム）において生じている変化の方向性を分析することに主眼を置きます。これは、社会科学上の従来の分類に従えば、比較福祉国家論または比較経済体制論ということになります。しかし、この講義では各国を単純に比較するのではなく、諸国家の上に立つEUという次元、ならびに国家以外の福祉供給主体（市場、家族、NGO、地域）にも着目します。EU加盟国の社会保障制度の変化に共通する方向性を示すキーワードは、「アクティベーション（市民の活性化）」と「社会的包摂」の2つであり、講義では、これら2つの政策理念が各国の制度改革にどのように現われているかを見ていくヨーロッパ1周旅行を経験してもらいます。

●授業の到達目標

「欧米」や「欧州」といった十把一絡げの見方を避け、社会保障制度の国別の多様性に敏感になることをめざしてほしいと思います。また、私たちの狭い経験や知見に閉じこもらず、他国の経験に学びながら日本の社会保障制度の将来を考えることを試みてほしいと思います。

●授業内容・授業計画

講義は、下に示す教科書に沿って進行します。講義の第2回目で、「福祉レジーム」、「アクティベーション」、「社会的排除／包摂」といった基本概念を説明し

たあと、第3回と第4回でユーロ危機後のEUの政策動向を概観します。第5回以降は各国の福祉レジームの変容をやや詳しく見ていき、講義の終盤では日本の社会保障制度改革のあり方を考えます。講義の計画は次のとおりです。

- 第1回 イントロダクション（中村）
- 第2回 基本概念の説明（中村）
- 第3回 ユーロ危機後の欧州経済と社会（中村）
- 第4回 ユーロ危機へのEUの対応策（中村）
- 第5回 イギリス（中村）
- 第6回 フランス（松原仁美：大阪市立大学）
- 第7回 ドイツ（中村）
- 第8回 スウェーデン（中村）
- 第9回 デンマーク（中村）
- 第10回 イタリア（土岐智賀子：立命館大学）
- 第11回 ハンガリー（中村）
- 第12回 欧州の経験からの教訓
(福原宏幸：大阪市立大学)
- 第13回 日本の社会保障制度（福原）
- 第14回 まとめ（中村）

●評価方法

期末試験の成績で評価します。

●教材

教科書：福原宏幸／中村健吾／柳原剛司編著『ユーロ危機と欧州福祉レジームの変容』明石書店、2015年。

[科目ナンバー : GE HUM 01 27]

掲載番号	科目名	日本国憲法	単位数	2	担当教員	阿部 和文 (法)
42	英語表記	The Constitution of Japan				

●科目の主題

日本国憲法の基礎知識

●授業の到達目標

本講義の基本的な目標は、日本国憲法とその解釈問題に関する基本的な知識を得ることにある。但し、割り当てられた時間内で全ての問題を扱うことは難しいため、今学期はいわゆる統治機構論に重点を置いて講義を進める。詳細は「授業内容・授業計画」の通りである。

●授業内容・授業計画

以下では各回で扱うテーマの概略を示す。内容や順序に変更が生じた場合には、第一回で改めて告知する。

- 1 イントロダクション
- 2 国民主権と立憲主義
- 3 立法権① (国会の地位と組織)
- 4 立法権② (議院・議員の地位、選挙制度)
- 5 行政権① (行政権の意味、内閣の組織と権限)
- 6 行政権② (議院内閣制)
- 7 司法権① (裁判所の組織と地位)
- 8 司法権② (裁判所の権限・司法権の概念)
- 9 司法権③ (法令審査権)
- 10 憲法上の権利① (総論・平等権)

11 憲法上の権利② (表現の自由)

12 憲法上の権利③ (経済活動の自由・財産権)

13 戦争放棄と防衛法制

14 地方自治

15 憲法改正

●評価方法

学期末に行う定期試験のみによって評価する。

●受講生へのコメント

受講に際して必要な前提知識は特にないが、日本国憲法の条文に目を通しておくこと、及び高校で政治・経済を履修している場合にはその知識を思い出しておくことは、非常に有益である。なお、法学部生に対しては、本講義は教職の単位としてのみ認定される。(全学共通教育の単位としては認定されない)

教職の単位を必要としない法学部生は専門科目の憲法Ⅰ・Ⅱのみを受講されたい。

●教材

小嶋和司・大石真『憲法概説 第7版』(有斐閣)

*なお、授業開始前に改訂が行われることが判明した場合には、教材購入に間に合う限りで改めて告知する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 27]

掲載番号	科目名	日本国憲法	単位数	2	担当教員	中谷 実 (非常勤)
43	英語表記	The Constitution of Japan				

●科目の主題

日本国憲法についての基本的な仕組みについて理解することを目的とする。具体的には、近代憲法の意義、統治のしくみ、人権保障のあり方等について、具体的な事件や判決、新聞報道などを題材にしながら検討する。

●授業の到達目標

日本国憲法の基本的仕組みを理解することを最終目的とする。

●授業内容・授業計画

以下では各回で扱うテーマの概略を示す。修正がある時は、授業で予告する。

授業計画

【1回目】最近の憲法問題－憲法って何ですか？

【2回目】立憲主義の展開－マグナカルタから現代まで

【3回目】国民主権・国会・内閣－議会制民主主義の回路

【4回目】司法権・人権総論1－違憲審査制の回路

【5回目】人権総論2－人権についての前書き

【6回目】幸福追求権－すべての人権を包摂する概念

【7回目】法の下での平等－人の根源的な感情

【8回目】思想良心の自由・信教の自由・学問の自由

【9回目】表現の自由1－自己実現と民主主義

【10回目】表現の自由2

【11回目】経済的自由

現代社会と人間

【12回目】 人身の自由・社会権 1

【13回目】 社会権 2

【14回目】 平和主義 - 戦争の放棄って何を放棄したのか？

【15回目】 まとめ

●評価方法

学期末に行う定期試験のみによって評価する。

●受講生へのコメント

- ① 5分でもテキストの次回の範囲をみておくことが望ましい。
- ② 日々の習慣として新聞に目を通すこと。
- ③ テキストは、とっつきやすいものを選んだ。そ

れを補完するため、授業当日、A3 1枚の資料を配布する。同資料は、次回に限り再配布する(それ以降は、配布しない)。

- ④ 法学部の学生に対しては、本講義は教職の単位としてのみ認定される(全学共通教育の単位としては認定されない)。教職の単位を必要としない法学部生は専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

●教材

中谷彰吾『よくわかる憲法 第5版』(自由国民社) 2,000円 著者、中谷彰吾氏と私の苗字は同じであるが、偶然の一致である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 30]

掲載番号	科目名	現代社会学入門	単位数	2	担当教員	進藤 雄三 (文)
44	英語表記	Invitation to Contemporary Sociology				

●科目の主題

現代社会で起きている多様な社会現象を素材に、社会学的分析を提示する。

●授業の到達目標

1. 社会学という学問領域についての概括的知識を習得する。
2. 現代社会の多様な現象に関する理解を深めるとともに、社会学的思考法についての理解を深める。

●授業内容・授業計画

1. 社会学:オリエンテーション
2. 自己論:「私」という存在を問う / 「個人化」
3. 逸脱:犯罪とは何か / ラベリング理論
4. 医療:医療とは何か / 医療の歴史 / 医療化
5. 政治:政治とは何か / 世界史における日本
6. 情報・メディア:メディアとは何か / メディア論
7. 教育:教育とは何か / 日本型学歴社会
8. 宗教:世界における宗教 / 宗教社会学的分析

9. 家族:家族とは何か / 現代家族の位相
10. ジェンダー:ジェンダー概念 / 家父長制と資本制?
11. エスニシティ論:エスニシティとは何か
12. エイジング論:エイジングとは何か / 「エイジズム」
13. グローバリゼーション論:それは何を意味するのか
14. 現代社会の歴史的位相:日本、世界の共時変容
15. 結語:社会学的想像力

●評価方法

出席2・コメント3・試験5の三者によって判定する。

●受講生へのコメント

次回講義のさいに使用されるキーワードを指示するので、参考書の該当箇所を読んでくること。

●教材

参考書:『新しい世紀の社会学中辞典』(ミネルヴァ書房、2005)

[科目ナンバー : GE HUM 01 31 .CO]

掲載番号	科目名	現代の社会問題	単位数	2	担当教員	川野 英二 (文)
45	英語表記	Contemporary Social Problems				

●科目の主題

現代の貧困と新しい社会問題の特徴について論じる。講義では、労働と貧困に関係する社会問題の歴史と現代におけるその変容を論じる。欧州を中心とした先進国における貧困の国際比較と、日本とくに大阪の都市

貧困を例にとりあげる。

●授業の到達目標

現代の社会は、非正規雇用やワーキングプアの増加、貧困の上昇や格差の増大など、新たな社会問題に取り組みざるをえなくなっている。これら現代の社会問題

に関する問題意識を深めると同時に、関連する統計や映像、インタビューなど様々なデータを読み解き、解釈する能力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1・2講 貧困の基本形態
- 第3・4講 貧困と社会問題の歴史
- 第5・6講 福祉国家と社会問題
- 第7・8講 新しい貧困と社会的排除の登場
- 第9・10講 貧困と社会的排除の国際比較
- 第11・12講 都市貧困と社会的排除
- 第13・14講 社会的不安定化の諸問題

●評価方法

出席とコミュニケーションカード(40%)、試験(60%)の結果を総合的に判断して評価する。

●受講生へのコメント

本講義をつうじて、新聞やニュースなどメディアで取り上げられるようなアクチュアルな問題を、歴史や社会構造などマクロな社会の変化と関係づけてとらえる想像力を養ってほしい。

●教材

教科書：セルジュ・ポーガム『貧困の基本形態』新泉社 2016年

参考図書は授業中に適宜指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 32]

掲載番号	科目名	家族と社会	単位数	2	担当教員	佐々木 洋子 (非常勤)
46	英語表記	Family and Modern Society				

●科目の主題

家族は、多くの人にとって非常に身近なものである。それゆえ私たちは、家族について、自身の経験から考察しがちである。しかし、家族(および家族生活)は、個人的な事柄であるだけでなく、文化的、社会的、歴史的なものでもある。本科目では、家族社会学の立場から家族にアプローチし、家族をめぐる様々な現象について考察する。

●授業の到達目標

家族に関する基礎的なデータや理論枠組みの理解を通じて自身の家族経験を相対化し、家族をめぐる諸現象について考察できるようになる。

●授業内容・授業計画

授業は、講義形式で進める。受講生には、毎回、講義内容についてのコメントを提出してもらい、次回以降でフィードバックしていく。

1. 家族のイメージ
2. 家族の定義
3. 統計で見る家族の姿
4. 近代家族の誕生
5. 家族の形成
6. 家族の解消
7. 子どもをもつということ
8. 夫婦関係

9. 子育てと親子関係

10. 高齢期と家族

11. 家族と貧困

12. 家族と暴力

13. 脱家族?

14. 家族と社会(まとめ)

15. テスト

●評価方法

持ち込み不可、論述形式を含む期末試験(100%)で評価を行う。

●受講生へのコメント

受講生には、第1回目の授業時に、質問等のための連絡先を伝える。

また、受講に際し、他の学生に迷惑をかけるような行為(私語など)を行う者には、退出を求めることがあるので、留意すること。

●教材

教科書：特に指定しない。資料を配付する。

参考書：神原・杉井・竹田編、2009『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房。二宮周平、2007『家族と法—個人化と多様化の中で』岩波書店(岩波新書)。筒井淳也、2015『仕事と家族—日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』(中公新書)。他、授業中に適宜紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 33]

掲載番号	科目名	世界のなかの日本経済	単位数	2	担当教員	小川 亮 (経) 他
47	英語表記	Japanese Economy from the World Viewpoint				

●科目の主題

本講義は、世界的な視野からみた日本経済の特徴、世界と日本の関連を考えることを主題とする。特に本年の講義では、日本経済論、経済地理学、地方財政論をそれぞれ専門とする3人の経済学部教員が担当することにより、日本全体および都市・地域の経済や財政が抱える課題について考えていく。

●授業の到達目標

講義を通じて、グローバル化が進むなかでの日本経済の実態や課題について見識を深め、テレビや新聞などで取り上げられる関連ニュースに対しては深い考察や議論ができるような力をつけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

次のような諸点を中心に講義することを予定している。

1. イントロダクション (小川 亮 (経))
2. 戦後から現在までの日本経済の概況① (滋野由紀子 (経))
3. 戦後から現在までの日本経済の概況② (滋野由紀子 (経))
4. 少子高齢化と日本経済① (滋野由紀子 (経))
5. 少子高齢化と日本経済② (滋野由紀子 (経))
6. グローバル化、機械化と雇用の地理 (長尾謙吉

(経))

7. グローバル化と都市経済 (長尾謙吉 (経))
8. 日本財政の維持可能性① (小川亮 (経))
9. 日本財政の維持可能性② (小川亮 (経))
10. 大都市・大阪の産業と経済① (小川亮 (経))
11. 大都市・大阪の産業と経済② (小川亮 (経))
12. グローバル競争下の企業誘致政策～大阪府を例に～① (小川亮 (経))
13. グローバル競争下の企業誘致政策～大阪府を例に～② (小川亮 (経))
14. グローバル競争下の企業誘致政策～大阪府を例に～③ (小川亮 (経))
15. まとめ (小川亮 (経))

●評価方法

基本的には学期末の試験による。

●受講生へのコメント

全学科目なので、経済学に関する予備知識は求めないが、世界経済と日本経済、都市・地域経済に関する新聞記事や新書類について読み、考える程度の問題関心は必要である。

●教材

教科書は用いない。参考文献については、各担当教員が講義中に指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 34]

掲載番号	科目名	現代経済学入門	単位数	2	担当教員	長沼 進一 (非常勤)
48	英語表記	Introduction to Modern Economics				

●科目の主題

経済学の目的は「さまざまな制約条件のもとにおいて人間の存在価値を最大にするための合理的かつ効率的な方法を見いだすこと」にあります。人間の生存に必要な資源はかぎられているため、それをどのように調達し、どのような用途にもちいるかは制約があります。世界の国々でそれらをどのように分け合うのか、一国においてもそれをどのような階層の人々で分け合うかは誰も大きな関心をもっているでしょう。希少資源を無駄なく用いるための心構えはすべての人が心がけねばならない重要課題です。

経済ということばは経世済民を意味し、世の中の秩

序をただし民衆の生活を援けるという儒教的精神が込められています。他方、ギリシャ語のエコノミー (economy) の語源には家産の管理法則という意味があり、そこから節約や儉約という意味が派生してきました。それらのことを考えると、私たちがエコノミー・マインドを身につけるといことは私たちの生き方に非常に役に立つということです。経済学を学び、エコノミー・マインドを身につけることが本講義の課題です。

●授業の到達目標

第1に人間の生存と経済とのかかわりを理解し、その基本的仕組みがわかること。第2に経済ニュースの

核心が何かを把握できること。第3に経済的選択が実際にできるようになること。以上の三つが本講義の目標です。

●授業内容・授業計画

授業は語学であれば文法に相当する経済学の原理について解説します。経済学の原理は経済モデルをもちいてかなり抽象的な命題を解くかたちになるので、それを具体的に把握する最新のトピックスを取り上げ、現在起こっている経済現象の分析へとつなげていきます。授業は以下の計画にしたがってすすめることにしましょう。

- 第1回 経済学は何のために学ぶのか
- 第2回 人間の生存がモノの消費であること
- 第3回 満足度と効用関数
- 第4回 需要曲線の導き方
- 第5回 あれかこれかの選択と効用極大
- 第6回 供給曲線の導き方
- 第7回 生産と利潤極大
- 第8回 経済的豊かさの指標GDP
- 第9回 消費関数の型
- 第10回 投資関数の型
- 第11回 国民所得の決定と失業
- 第12回 経済成長と経済循環
- 第13回 貨幣需要と貨幣供給
- 第14回 財市場と貨幣市場の同時均衡
- 第15回 自由貿易と経済厚生

●評価方法

中間小テストと期末テストの成績を総合して評価します。

●受講生へのコメント

授業を面白く聴くには日ごろから経済ニュースに関心をもつこと。新聞の見出しだけでも目を通しておくと授業の話題についていけます。質問や意見は授業終了後にお願いします。またはコミュニケーションカードを提出してください。黒板に板書した内容を整理し、サブノートを作ることをお奨めします。

●教材

どのようなものであれ、学術情報センターにある経済学の入門書を手元に置いて勉強すると便利です。参考書については授業中にその都度指摘します。

テキストの1例：井堀利宏『入門 ミクロ経済学』新世社、2005年。

井堀利宏『入門 マクロ経済学』新世社、2005年。

梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学』日本評論社、2000年。

脇田 成『マクロ経済学のナビゲーター』日本評論社、2000年。

自学自習用として：J.E. スティグリッツ『マクロ経済学（第3版）』東洋経済新報社、2012年。

J.E. スティグリッツ『ミクロ経済学（第4版）』東洋経済新報社、2013年。

[科目ナンバー : GE HUM 01 35]

掲載番号	科目名	法と社会	単位数	2	担当教員	恒光 徹 (法)
49	英語表記	Law and Society				

●科目の主題

ジェローム・ホール「窃盗・法および社会」を素材に、近代社会の財産犯罪の成立過程を、政治的・経済的背景との関連で考える。歴史的には、近代前は盗罪しか存在しなかった。それが、現在の近代社会では、財産犯罪として、窃盗・強盗、詐欺、横領、背任そして、盗品等引き受けが区別されるようになり、また、それらのあいだで、刑の重さに軽重がある。その背景には、政治的・経済的条件の変化がある。これらを踏まえて、イングランドにおける財産犯罪の成立過程を検討する。

●授業の到達目標

日常の犯罪報道や刑事裁判報道などを批判的に（否定的という意味ではなく、現実を無条件で肯定するのではなく、伸ばすべき点と変革すべき点を見極めるという意味で）理解するのみならず、現代社会と法を批判的に検討する力を身につけることを目標とする科目である。

●授業内容・授業計画

①②先史時代からのイングランドの歴史を、法制史を中心に考える

③-⑭ジェローム・ホール「窃盗・法および社会」第1部・歴史的考察を検討し、盗罪から、詐欺罪、横領罪、盗品等譲受け罪が、国内の商取引や、貿易の進展とともに枝分かれしていく過程を検討する。

●評価方法

定期試験60点、予告なしの小テスト40点で評価する。

●受講生へのコメント

授業中の質問は大歓迎。ただし、私語、途中退室は厳禁。授業後の質問も受け付ける。

●教材

参考書：ジェローム・ホール著・大野真義訳「窃盗・法および社会」

毎回、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 36]

掲載番号	科目名	日本の企業	単位数	2	担当教員	高橋 信弘 (商)
50	英語表記					

●科目の主題

経済のグローバル化は、皆さんの生活とどう関係するのだろうか。また、円高や円安によって、どのような企業が恩恵を受け、どのような企業が不利益を被ったのか。こういった日本経済や世界経済の様々な現象を一つひとつ取り上げ、経済学の視点から理解する。

●授業の到達目標

グローバル化の進展のなかで日本経済が進む方向と日本企業の展開のあり方を理解するための、最低限の知識を得られる。これにより、様々な問題について自分で考えられるようになる。また、世界の動きをより具体的に認識できるようになり、世界に対する視野が広がる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
2. 貿易の基礎
3. 短期的な為替レートの決定
4. 一国の国際収支
5. 長期的な為替レートの決定
6. 少子高齢化社会
7. アジア通貨危機
8. サブプライムローン問題と世界金融危機
9. 世界貿易機関 (WTO) と経済連携協定 (EPA)
10. 中国経済

11. 欧州債務危機
12. 日本の貿易と直接投資の拡大
13. 海外へのアウトソーシング
14. TPP
15. まとめ

●評価方法

期末試験のみ。出席はとらない。試験時の資料持ち込みについては、後日指示する。

●受講生へのコメント

受講生が経済学に対する基礎知識ゼロであることを前提に、教科書の内容を丁寧に説明していく。そのため受講の際には教科書を必携のこと。

誰もが、その生活において、経済の影響を強く受ける。就職活動時、そして卒業後、多くの人がこのことを強く実感する。また、理系の学生でも、課長になれば企業の経営の視点を持つことが求められるため、経済の知識は必須である。しかし、そのときには、経済についてじっくり学ぶ時間をとれない。だからこそ、自由にものを考える時間がある学生時代に、経済について学んでほしい。

●教材

高橋信弘著『国際経済学入門 改訂第2版』ナカニシヤ出版、2015年

[科目ナンバー : GE HUM 01 38]

掲載番号	科目名	現代社会と健康	単位数	2	担当教員	吉川 貴仁 (医) 鴨井 博 (医)
51	英語表記					

●科目の主題

文明の急速な進歩に伴い、我々の暮らす現代社会は便利でかつ快適になった。その反面、社会機構や人間関係は複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。産業廃棄物や原発事故などによる環境汚染、歪んだ食欲とアンバランスな食生活、運動不足、複雑な人間関係によるストレスなどの健康を阻害する要因で満ち溢れている。一方で、社会の高齢化が進み、健康寿命は延長しているが、生活習慣病や癌は増加の傾向を示し、メタボリック症候群や種々のアレルギー疾患の増加、HIV やエボラ出血熱のような新しい感染症が出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるよ

うになっている。

“現代社会と健康”の授業では、自分自身や身の回りの人々の健康をキーワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、積極的な健康づくりを支援する科目である。健康は自分自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識や科学的根拠に基づいて実践する必要がある。

本授業では、健康を守るためには「何が、なぜ必要なのか」に関して、医師としての経験も交えて、パワーポイントスライドやDVDの映写及びレジュメを用い、イラストを多用しながら、誰もが理解できるような形で解説する。

●授業の到達目標

- ・健康を阻害する要因を、内的要因（体質）と外的要因（環境）に分けて理解する。
- ・健康維持のための生活習慣（栄養や運動）の重要性、過食・拒食の問題を理解する。特に、これらは中高齢者だけでなく、人の一生を通じた問題であることを理解する。
- ・現代人を取り巻くアルコール、禁煙の問題を理解する。
- ・癌、感染症、アレルギー疾患の成り立ちを知った上で、その予防法を理解する。

●授業内容・授業計画

1. 総論（健康とは、病気とは、現代人の病気の傾向）
2. 健康の生理学
（健康に必要な心肺機能・栄養吸収・代謝機能）
3. 各病気の成り立ちと予防
 - ① 癌（肺癌、胃癌、大腸癌、子宮頸癌、乳癌など）
 - ② メタボリック症候群（肥満、高血圧、糖尿病など）
 - ③ アレルギー疾患（気管支喘息、鼻炎、湿疹など）
 - ④ 感染症（伝染病、結核、インフルエンザなど）
 - ⑤ 血管障害（心筋梗塞、狭心症、脳卒中など）

4. 健康と欲求（食欲・食行動）－現代病との関係
5. 健康と嗜好品（タバコ、アルコールなど）
－受講生のアルコール分解酵素の測定実習を行う－
6. 心の健康の問題
－悩んでいる人に気づき声掛け話を聞いて支援し見守る人、ゲートキーパー研修－

●評価方法

期末試験を中心に、平常の出席状況も加味して評価する。また、毎回コミュニケーションカード（出席票）を配布する。

●受講生へのコメント

自分自身や身の周りの人々の健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を歓迎します。特に、心身の成長が一段落したこの時期に、一生を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。

また、医師と学生の交流の場と考えて、授業時間を問わず、授業内容に限らず、気軽に質問してください。

●教材

1. スライドとプリントで提供する。
2. 参考図書があれば、授業の中で紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 39]

掲載番号	科目名	メディアの社会学	単位数	2	担当教員	石田 佐恵子（文）
52	英語表記	Media Studies, Sociology of Media				

●科目の主題

現代社会を対象とする社会学研究において、「メディア」というキーワードがより重要なものとして浮上したのは、20世紀後半のことである。当時は、テレビや電話、ファックスなどが「新しい」メディアとして社会に登場し、人々の関心を惹きつけてきた。メディアに関する文化理論、社会学的研究の枠組みを紹介し、メディアをめぐるさまざまな現象、メディアの文化を歴史的な視点から議論する。

●授業の到達目標

メディアは、私たちの日常生活にとって馴染みの深いものであり、もはやそれなしでは生きることができないほど深く浸透している。また、日本国内のみならず、グローバルな共通性を持って展開している文化である。

したがって、文系・理系の学生を問わず、私たち誰もにとって、このような文化のありようを理解することは、きわめて重要な意味を持つ。この講義を通して、「メディアの文化」のさまざまな現象についての理解を深め、それらを実践的に読み解く能力（メディア・

リテラシー）を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 「メディアの社会学」の射程
2. メディア・リテラシーとは何か
3. メディアと記憶：活字メディアの時代
4. メディアと記憶：映画とプロパガンダ
5. メディアと記憶：ラジオの時代
6. メディアと記憶：テレビとコマーシャル
7. メディアと記憶：クイズの時代
8. メディアと記憶：情報化社会論
9. メディアの現在：グローバル文化
10. メディアの現在：インターネット時代
11. メディアの現在：アイデンティティ
12. メディアの現在：メディアと権力
13. メディアの理論と研究方法
14. まとめ
15. 試験

●評価方法

授業時に随時行うミニ・レポートを出席点としてカウントする。学期末には、論述形式の試験を実施。試

験による評価は、成績全体の70%程度。

●受講生へのコメント

現代のメディア文化のさまざまな現象について、積極的関心を持っている受講生を望みます。なお、受講に際し、他の学生に迷惑をかけるような行為（私語・遅刻など）を行う者には、退出を求めることがあるので、充分留意してください。

●教材

教科書：指定しない。

参考書：石田佐恵子・小川博司（編）『クイズ文化の社会学』世界思想社、2003。石田佐恵子ほか（編）『ポスト韓流のメディア社会学』ミネルヴァ書房、2007年。伊藤守（編）『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2009年。

[科目ナンバー : GE HUM 01 40]

掲載番号 53	科目名	現代社会におけるキャリアデザイン	単位数	2	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
	英語表記	Career Design in Modern Society				

●科目の主題

本科目は、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリア（社会人としての人生）のあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考える科目である。就職支援・対策を目的とするのではなく、教養教育の一環としてキャリアデザインを考える。

知識基盤社会化やグローバル化が急速に進む中で、社会・世界のあり方も変化し、多様で複雑な課題が生じている。「就職」で人生の大半が決まるという従来日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルも変化・多様化している。そのような状況の中で、我々1人1人が、多様な価値観の中で、自らの「質の高い人生」をそれぞれに構築していくことや、民主主義社会の一市民として、「より上手に機能する社会」の実現に向けて多様な人々と協働しながら取り組んでいくことが必要となってきた。本科目では、こうした社会変化の中における、自らの役割や求められる力・姿勢等についても考え、その基本を学んでいく。

●科目の到達目標

急速な変化のなかにある社会において、個人の「質の高い人生」と「より上手に機能する社会」の両方を実現していくためには、「自ら取り組むべき課題に気づき、自ら考えつつ、多様な人々と協力しつつ解決に向けて行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが重要となる。こうした力を「クリティカル・シンキング」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考えたり、自分

の意見をまとめ・他者に伝え、相互に理解し合おうとしたりする力・姿勢の基礎の修得を目指す。

また、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリアのあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考える中で、最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

1 回目：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？ / なぜ今キャリアデザイン？ — 大学へ行く意味の変化

2 回目～15 回目の授業の中では、以下の 1. ～4. の側面についてそれぞれ 3 ～ 4 回分の授業を使って考えていく予定である。

1. 現代社会における職場・仕事をめぐる動向
2. キャリア選択の多様性と若年労働者を中心とする状況
3. 21 世紀に必要とされる能力・スキル等とは？
4. 自らのキャリアデザインについて考える（自己イメージと他者から見た自分像・仕事のイメージと現実・これからの自らの人生と現在の自分、現代社会におけるキャリアデザインとは等）

前半は講義を中心に、小グループワークや毎回の小レポート課題の意見のフィードバックを行い、中盤～後半は、課外課題・レポート等にもとづく発表やグループワーク、授業内ディスカッション等の学生参加をより重視した授業を行う予定。

●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと発表など授業参加度 55 点、および 2) 期末レポート等課外課題（複数の課外課題を予定）45 点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の 3 分の 2 以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、知識伝達のみではなく、授業における思考や論理的意見表明、

各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内小レポートや課外課題等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明してほしい。それらを出来る限り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。

また、全学共通教育科目であり、異なる学部学科の異なる考え方や観点を持つ多様な受講生のなかで、互

いの意見を分かりやすく伝え合い、意見交換を行い、自分の考え方を相対化する経験を得る機会として欲しい。そのため、授業内の発表やグループワーク等にも積極的に参加してほしい。

最終的には、社会における自らの今後の人生・キャリア・働くということについて考えることを通して、現在の自己や社会を相対化し把握する契機としてほしい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 41]

掲載番号	科目名	現代社会と大学	単位数	2	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
54	英語表記	University and Modern Society				

●科目の主題

同世代の2人に1人以上が大学や短大に進学する時代を迎えた日本の大学は、広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されている。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義やあり方を社会から問われている。

「大学」とはそもそもどのような場か？自分が通っている「自分の大学」はどういうところなのか？当たり前のように今通っている大学はどうやって出来たのか？考えてみたことはあるだろうか。

今ある「大学」はどのように出来たのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。大学および学生に対する社会からの現在の評価や社会との関係はいつ頃生まれたのか。本科目では、これらの点について、現在の問題を起点としつつ、歴史の側面からも考えることを通して、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

●科目の到達目標

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、今後の大学のあり方、大阪市大での自らの学びのあり方・学生としての関わり方について考えることを最終目標とする。

「大学」というテーマは、学生にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、大学とは何かを自分なりに考え、自分の大学の色（特色）を実感して、そこから広がる現代社会を考えつつ、これからの大学のあり方や学生としての自分を相対化して捉え直すことを目指す。

●授業内容・授業計画

以下の5つの側面について考えていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか？～大学の「制度」成立過程
2. 今の学生・昔の学生～大学で学ぶ「学生」の変化
3. 大学とはどういう存在なのか？～「社会との関係」の変遷
4. 大学で学ぶということは？～「教育機能」と21世紀の「教養教育」
5. これからの大学はどうなっていくのか？
～グローバル化・大学の質保証等

授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2～6回目授業で1.の側面について扱い、その後、7～10回目で2.と3.について、11～15回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその歴史的背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、自分がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何か、についても考えていく。

●評価方法

評価割合は1)毎時間提出のレポート課題と授業内活動参加度合いが60%、2)期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは本授業が知識伝達のみでなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講者へのコメント

この授業は、講義を聴き知識をただ吸収するだけでなく、大学に関するテーマについて、自らの問題と

して考えること等を通して、「学生」としての自らの立場や「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標としている。そのため毎回の小レポートや授業内発表や、グループディスカッション等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社

会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探すことを課外課題として課し、その要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。サブテキストとして『大阪市立大学の歴史』を使用する。

地域実践演習 (GATSUN)

大阪市立大学が文科省の「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたのに伴い、地域が抱える課題を発見し、解決できる人材育成を目標とし開講されたのが、「地域実践演習（GATSUN）」である。大阪はさまざまな地域課題を抱えており、それらは相互に関連し複合化しているため、ひとつの学問分野だけで対応できるものではない。そこでは学問分野を超えて、総合的にアプローチすることが求められている。

君たちは専門分野を決めて入学してきたが、本来は総合的にアプローチする重要性を認識したうえで、専門分野を学ぶべきであろう。と同時に、「鉄は熱いうちに打て」という諺が示唆するように、入学後できるだけ早い段階において地域で起きているさまざまな課題を自分の問題として認識し、大学生として学ぶ意義を社会と向き合うことによって確認していく機会は重要になってくる。そうした期待を込めて、全学生を対象とする多くの地域志向系科目とともに、1-2回生を対象とした少人数の演習科目である「地域実践演習（GATSUN）」が開講されている。

「地域実践演習（GATSUN）」は、学習形式として学生が主体的に課題に取り組むアクティブ・ラーニングという考え方を導入し、論理を実践につなげるスキル、自分の考えを他者に伝えるスキル、他者と協力しながら目的を実現するスキルなどの修得をめざしている。平成28年度は五つ開講される。

集中講義形式、土日祝祭日に現地での実習など、通常授業科目とは少々異なるスケジュールとなるうえ、演習内容によって交通費等の実費負担が生ずる。各演習のシラバスをよく確認した上、真剣に取り組む気構えが求められる。

また、本科目はフィールドワークなど学外での活動を伴うため、受講を希望する学生は、「学生教育研究災害傷害保険」（略称「学研災」）や「学研災付帯賠償責任保険」（※）などの傷害保険に事前に加入しておくこと。

（※保護者の方が教育後援会の保護者会員となっている場合は、別途加入手続きは不要。詳細はhttps://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/life_support/insurance）

なお、本科目は、全学共通科目であると同時に、CR副専攻（詳細は平成28年度副専攻ガイド冊子参照）の導入となる科目である。CR副専攻の履修を希望する学生は、必ず1-2回生のうちに本科目を受講するように注意されたい。地域実践演習はI～Vおよび大阪府立大学提供の単位互換科目「地域実践演習」があるが、そのうち**1科目（2単位）のみ履修・単位修得**することができる。

また、**本科目は1回生ならびに2回生を対象**に行うが、全学共通科目としては3回生以上も受講することができる。CR副専攻としては3回生以上での受講を原則認めないが、「聴講生」として受講を受け入れることがあるため、最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を得るようにすること。

受講を希望する学生は、**合同ガイダンス**に出席すること。また、**事前レポート・アンケートの提出が求められるため**（Web履修登録だけでは受講不可）、これら要件についてしっかり理解した上で受講にのぞむこと。なお、大阪府立大学提供の単位互換科目「地域実践演習」については、受講要件が異なるため、受講を希望する場合は全学ポータルや掲示の「単位互換科目」情報をチェックすること。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	担当教員	長尾 謙吉 (経)
55	英語表記	Active Learning on Local Community				

●科目の主題

1年次前期に学んだ大学生としての基礎的な調査・探究能力の修得を踏まえて、そうした能力を実際的な問題に応用してもらうことを目標とした演習科目です。「机上」における勉強とともに、大都市・大阪で「現場感覚」を養い、都市型総合大学で学ぶ学生として成長することをねらいにしています。

地元である大阪と関西の経済活動を対象として、現実の経済的・社会的課題について大学内外での活動を通して探求していきます。大阪市内の商店街と堺市や

和歌山県のものづくりをつなげる地域活性化をテーマにチームを構成し、演習に取り組む予定です。

●授業の到達目標

地域調査の方法について座学で学ぶとともに、現場で実践的に学び、地域の課題について考える能力を養うことを目標とします。

●授業内容・授業計画

2016年度後期の火曜日2限目に演習方式での授業、フィールドワークは別に時間を設ける予定です。

●評価方法

演習での報告と討論、ならびに報告会での発表内容を総合して評価します。

●受講生へのコメント

文献購読、資料収集、現地調査を交えながら課題を

探究することの楽しさと難しさを参加者全員で学んでいきたいと思っています。大阪府立大学や和歌山大学と連携した企画も設ける予定です。

●教材

未定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	担当教員	生田 英輔 (生) 他
56	英語表記	Active Learning on Local Community				

●科目の主題

近年、わが国では自然災害が頻発し、人々のいのちをどのようにして守るかが都市に課せられた課題となっている。大阪も例外ではなく、多様な災害リスクと災害脆弱性を持ち、南海トラフ巨大地震などで大きな被害が懸念されている。このような災害に対して、従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの共助を生かしたコミュニティ防災が重視されている。本演習では、大学周辺の地域をフィールドに災害脆弱性および防災上の課題を把握し、コミュニティ防災の基礎を実践を通じて学ぶ。

●授業の到達目標

本演習においては、災害事象のメカニズム、地域コミュニティ、公助・共助・自助の仕組みを理解し、課題把握、分析、対策立案能力および平常時・災害時に地域の防災リーダーとして活躍できる能力の取得を目指す。コミュニティ防災には、知識偏重の人材ではなく、コミュニケーション能力に長けた人材が必要であり、学生同士、地域住民、専門職と積極的にコミュニケーションを図ってほしい。加えて、演習の一環として地域の子どもや住民に対して受講生自身が防災に関する講義を行う。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義する。

第1回 ガイダンス コミュニティ防災とは 生田英輔 (生)

第2～4回 防災教育拠点「いのちラボ」の制作

森一彦 (生)

第5～7回 地域リスクを分析する 三田村宗樹 (理) 重松孝昌 (工)

第8～10回 災害対応力を養う 渡辺一志 (健ス)

第11～13回 コミュニティの防災計画を考える 生田英輔 (生)

第14～15回 成果発表 (全教員)

●評価方法

成果発表を原則とするが、講義内容によってレポートを課す場合がある。最高点を100点として、60点以上を合格とする。追試等は原則として行わない。

●受講生へのコメント

応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマでレポートを課す。応募人数が多い時は、レポートにより選抜し、受講生は最大20名とする。

講義は担当教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の演習出席が前提であり、出された課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、防災を学ぶ上で自分の災害対応力を知ることが前提であり、災害に関する知識だけでなく、身体能力も含めて現状を把握し、災害時にはリーダーとなる人材を目指して欲しい。

●教材

演習では、レジュメ・資料の配布およびプロジェクター、スライド、ビデオ等を用いる。必要に応じて参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	担当教員	水内 俊雄 (都プラザ) 他
57	英語表記	Active Learning on Local Community				

紀伊半島における地域再興の学修—都市・農山漁村の諸相に接する—

●科目の主題

紀伊半島は大阪の南に大きく広がる世界遺産の宝庫

である。隣県の和歌山にありながら、最も遠隔に位置する東牟婁郡は、東京より、鹿児島より遠い時間距離に位置している。陸路では遠くて不便な遠隔地であるが、太平洋を介して、全国、海外に羽ばたく進取の地でもあった。「都市＝地域を背景とした学問創造」をスローガンに掲げてきた本学に入学した学生諸君には、都市を考えることは同時に地方のことも考えていかねばならない。そのためには自分の足で、自分の眼で、山積する課題や新鮮な発見を共有しようではないか。合宿型の演習を導入し、紀伊半島、特に和歌山県のさまざまな地域課題に接し、日本の地方が抱える問題のエッセンスをつかみ取ってもらいたい。

●授業の到達目標

本演習は、地域にはいって体験することから始まる。県庁所在都市、河川流域都市、中山間地域にそれぞれ3度の合宿とそのレポート作成をゴールとして、その合宿に向けたチーム学習と、合宿を集中的に行う。そこでの地域との交流が、地域にどこかで刺激を与え、持続可能なビジネスを生み出し、セーフティネットを再編するような仕掛けを継続的に埋め込む、実践的な演習であることも目標としている。

●授業内容・授業計画

担当教員 水内 俊雄（都市研究プラザ）
西川 禎一（生活科学研究科）
祖田 亮二（文学研究科）

学習テーマは、県庁所在都市和歌山市、日高川河口の御坊市、そして熊野川流域の東牟婁郡中山間地域を対象にして、①地方中心でありながら活力の失われている中心市街地の再興の取り組みを知るか、②かつては河口都市として地域の中心であったが、人口減少の中で都市農村関係が不安定になっている地方都市の現状を知る、③高齢化が著しい中山間地域における農林業から6次産業による地域再興の学修、という大きく

三つから構成される。

- 1回目 演習の概要についての説明
- 2～3回目 県庁所在地が抱える問題についての情報収集、テーマと関心を絞る
- 4～5回目（11月） 1泊2日の第1回合宿 和歌山市において合宿
- 6～7回目 地方都市とその周辺の都市・農村関係についての情報収集、テーマと関心を絞る
- 8～9回目 1泊2日の第2回合宿（12月） 御坊市にて合宿
- 10～11回目 中山間地域に関する情報収集と、テーマと関心を絞る
- 12～14回目 2泊3日の第3回合宿（春休み実施）東牟婁郡圏域にて合宿
- 15回目 各々の体験、実践のまとめ、プレゼンを通じての設定課題に対する回答を発表（春休みに実施）

●評価方法

授業での貢献度（出席、議論、プレゼン）で評価する。

●受講生へのコメント

- ・応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらおう。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。最大受講可能数を15名までとする。
- ・またチームプレイを原則にした、遠隔地での調査合宿を含む授業なので、よほどの事情がない限り、毎回出席が求められ、合宿への参加は必須である。
- ・学生の都合を調整しながら、臨機応変な授業実施体制を取るのので、緊密な連絡体制のもとに授業に参加していただくことになる。

●教材

特になし、必要に応じて資料を配布。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	担当教員	嘉名 光市 (工) 他
58	英語表記	Active Learning on Local Community				

●科目の主題

本演習は地域のまちづくりを実践的に進めて行くため、現場に密着し、現状や課題に触れるとともに、具体的な課題を理解し、主体的に考える力を養う。また、地域の実情や資源、問題点や課題と直面する機会を得ることで、今後大学生として専門的な分野を学ぶ意義や、将来社会人としてあるべき自身の役割を再認識することを目指す。

本演習は特に地理・空間分野に焦点をあてている。大阪の都市を対象としたフィールドワークを積み重ね、

多面的な都市の見方や捉え方を理解したうえで、収集した情報を整理し、まとめ、コミュニケーションできる一連のプロセスを体験する。

●授業の到達目標

本実践演習は、地理・空間分野に焦点をあて、大阪の都市や建築を対象とした様々な視点でのフィールドワークを展開し、大阪という都市の地域特性を体感した上で、それらを通じて得た情報を整理する手法を学び、実践する。そして、それら一連のプロセスを通じて、ワークショップやプレゼンテーションなどの基礎的な

コミュニケーション能力を身につける。

●授業内容・授業計画

- ① ガイダンス
嘉名光市 (工)
- ② フィールドワーク入門 <都市計画>
嘉名光市 (工)
- ③ まち歩き (1) <都市計画>
嘉名光市・佐久間康富 (工)
- ④ まち歩き (2) <都市計画>
嘉名光市・佐久間康富 (工)
- ⑤ 収集した情報の整理 <都市計画>
佐久間康富 (工)
- ⑥ プレゼンテーション <都市計画>
嘉名光市・佐久間康富 (工)
- ⑦ エクスカーション入門 <地理>
大場茂明 (文)
- ⑧ エクスカーション (1) <地理>
大場茂明 (文)
- ⑨ エクスカーション (2) <地理>
大場茂明 (文)
- ⑩ レポートの作成 <地理>
大場茂明 (文)
- ⑪ レポート講評 <地理>
大場茂明 (文)
- ⑫ 建築スタディツアー (1) <建築>
倉方俊輔 (工)
- ⑬ 建築スタディツアー (2) <建築>
倉方俊輔 (工)
- ⑭ 収集した情報の整理 <建築>
横山俊祐・倉方俊輔 (工)
- ⑮ プレゼンテーション <建築>

横山俊祐・倉方俊輔 (工)

●評価方法

毎回の活動成果記録とプレゼンテーション、レポートの総合点により評価する。
60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

受講生は最大20名とする。履修を希望する学生は、ガイダンス (日程は別途掲示) に参加し、「講義に参加することへの期待」というテーマでのレポートを提出してもらう。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。

授業参加に伴い生じた経費は、学生自身が実費負担すること。フィールドワークなど学外での活動を伴うため、受講を希望する学生は、傷害保険等に事前に入しておくこと。

都市の地理・空間的な資源は、都市のあり方を考えるうえでの骨格をなしている。都市空間の基本的な見方、読み取り方やこうした情報の整理の方法を理解しておくことは、文系・理系を問わず今後の専門性に生きてくるはずである。大阪の歴史文化をより体感的に理解したいと考える学生諸君にも本演習は良い経験となる。本演習での経験を生かした自主的取組みを期待する。

なお、本演習は現場に出かける機会や作業時間を確保する関係上、2コマ連続での実施等を不定期に実施するなど、集中講義形式で実施する。日程についてはガイダンス時に公表する。

●教材

それぞれの回に、レジュメ・資料のプリントを配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	担当教員	中川 眞 (文) 他
59	英語表記	Active Learning on local Community				

コミュニティベースのアーツマネジメント実践

●科目の主題

アートを介在させることによって地域の日常をずらしたり、課題を解決できたりすることを、実践を通して学ぶ。コミュニティの綻び、裂け目を見出し、それをアートによって修復できるのかどうかを徹底的に考え、実践にまで落とし込んでゆく。またそのプロセスをドキュメントする。コミュニティの成員やビジターの視点を重視する。

●授業の到達目標

端的にいえば、アーツマネジメントを成功させることが目標であるが、そのプロセスは平坦ではない。様々なステークホルダー (利害関係者) との対話が必要である。結果として、コミュニケーション力が問われるが、それを磨くのも、イベントの成果とは別に、本授業の目標である。また、フィールドを、近年海外からの観光客の多い大阪市西成区に設定し、観光学で言われるインバウンドを強く意識した実践となるよう授業設計を行う。



〔釜ヶ崎オ！ペラ 2015年 大阪市西成区〕

●授業内容・授業計画

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2～4回 地域フィールドワーク
- 第5回 中間発表
- 第6～12回 地域で実践準備
- 第13～14回 地域で成果の公開（イベント）
- 第15回 ふりかえり

中川のほか、天野景太（文）、海老根剛（文）が共同担当する。

●評価方法

教員と受講生との情報交換を重視しながら、各プロセスのチェックを丁寧に行う。最終成果（イベント＋レポート）も大きなポイントとなる。

●受講生へのコメント

本科目を受講するために、アーツマネジメントの歴史的背景、今日的意義、方法論、参考事例等の理解を深める、共通教育総合科目B「アーツマネジメント」（前期水5）の事前履修を強く勧める。これと組み合わせることによって飛躍的な教育効果が期待できる。

本科目は地域でのフィールドワークならびにアーツマネジメント実践が活動の軸であり、教室よりも野外が学びの主たる場となる。たくましい行動力、他者への想像力、アート感受力、交渉能力、プレゼン能力を高めたい人には最適な科目となるであろう。

●教材

中川眞『アートの力』和泉書院、2013

中川真他（編）『これからのアートマネジメントーソーシャルシェアへの道』フィルムアート社、2011

その他、授業時にDVD教材など視聴覚ソフトを積極的に用いる。

[科目ナンバー : GE HUM 01 42 .CO]

掲載番号	科目名	データから見る大阪市大 (演習)	単位数	2	担当教員	平 知宏 (大教 特任)
60	英語表記	Seminar: Data Analysis of Osaka City University				

●科目の主題

大阪市立大学では、教員のみならず学生もまた大学での教育改善の担い手として、位置づけられている。本授業では、大阪市立大学での教育の在り方について、具体的なデータに基づいて、学生の立場から見えてくるものについて議論・考察していくことを目的としている。また本演習では、受講生が主体となって、簡易な調査立案のもと、データ収集を行うことを予定している。

●授業の到達目標

受講生が自分なりに「大阪市立大学で学ぶとはどういうことか」「大阪市立大学では何を学んでいるのか」という問いに対し答えを出し、更には大阪市立大学での教育について、学生の立場から意見を提案できるようになることを目標としている。また、基本的なアンケート調査実施を通して、調査計画の立案と実施までの基本的な流れを理解することも目標としている。

●授業内容・授業計画

授業の進行の目安は以下のとおりであるが、受講人数、調査の進行状況等に応じて、適宜スケジュール調整を行うことがある。

01回 : 初回ガイダンス

02回 : 「大阪市立大学の学生と教育」概観と議論

03-05回: データの解釈と議論

06回 : 中間発表、レポート提出

07-08回: 予備調査計画立案と議論

09-11回: 予備調査の結果解釈と本調査計画立案

12-13回: 本調査の結果解釈と発表準備

14-15回: 成果発表、議論、最終レポート提出

●評価方法

平常点 (30%)

毎回の授業への積極的な参加（態度・行動）、および授業内での課題・報告書等の作成と提出をもとに評価を行う。

中間発表・レポート (30%)

最終成果発表・レポート (40%)

中間発表時、および最終成果発表への参加、およびレポートの提出とその内容をもとに評価を行う。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにすること。講義の進め方や本授業専用 Web ページへのア

アクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。

また本演習では、基本的なオフィスソフトウェア（Word, Excel, PowerPoint等）の使用が前提となる。PCに関する基本的な作業・操作法については適宜サポートする予定であるが、自ら積極的に作業する姿勢

が必要となることに留意されたい。

●教材

教材や文献、資料については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授業専用 Web ページを通じて、授業内外で活用できる参考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 43]

掲載番号	科目名	現代社会と大学 (演習)	単位数	2	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
61	英語表記	Seminar: University and Modern Society				

●科目の主題

本授業では、現代の大学が抱える多様な問題を題材として調べ考え発表・ディスカッションすることによって、「大学」のあり方や「自分自身が大学で学ぶ意味」をより客観的に捉えなおしたり、考察したりすることを目指す。現代社会において大学が抱える諸問題や大学と学生の位置づけのあり方等さまざまなテーマについて、自分で調べ、考え、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッションを行う中で、自らテーマを設定し、自分の意見をまとめ、互いに伝えあい話し合う経験をする受講生参加型の演習授業である。

●科目の到達目標

その経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力や多角的に物事を捉える力・相互の考えを深めるコミュニケーションを行う力の基礎の修得を目指す、

このように大学という存在のあり方について考え、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の7つのテーマ（他に興味のあるテーマがあれば応相談）の中から、各自ないしはグループの調査希望に沿って選んだ4～5つのテーマに関して進める。

- 【テーマ】
1. 大学の学生と学力の問題
 2. 大学の入り口と初年次教育
 3. 21世紀に求められる教育内容
 4. 社会への出口としての大学・大学院
 5. 社会から求められる能力・スキル
 6. グローバル化と大学

7. 大学の目的・意義とあり方・大学像

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2～3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・収集と調査のまとめ方指導
- 4～15 回目：上記4～5テーマについて、テーマ毎に授業2～3回分を1サイクル（発表と補足講義・補足資料の配付→論点決定→次週までに論点に関する配付資料を読んだり自分の意見を考えたりしておく→次週にディスカッション）として授業を進める。

●評価方法

1) 授業内提出課題、2) テーマについての調査報告発表の相互評価、3) それをもとにまとめた最終レポート、4) ディスカッションへの参加度合い、5) 授業活動全体への参加度合いをそれぞれ20%ずつ総合評価する。(20点×5項目=100点)

なお、授業内の活動参加を重視する科目のため、全体の3分の2以上の出席回数が最低限求められる。

●受講生へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を20名程度に制限する

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 47]

掲載番号	科目名	エスニック・スタディ応用編 ～多文化共生に必要なこととは～	単位数	2	担当教員	金光敏 (非常勤)
62	英語表記	Ethnic Study II				

●科目の主題

在日する外国人在留者数が2005年に200万人を突破した以降、例外をのぞき増加傾向は続いている。日本による植民地支配政策を背景とする在日コリアンをはじめ、敗戦直後に日本が中国から徹底する過程で生み出された中国残留孤児問題、また1970年代に日本が初めて直面させられた難民問題。さらに1980年代から主に歓楽街で働く目的で東南アジアから来日した女性たちや、不足する労働力を補うため1990年の法律改定で招き入れられた南米の日系人たち等々。移民政策を採っていないはずの日本においても、多くの外国人たちが入国し、労働者として生活者として定住者として地域社会を担っています。こうした人々の渡日経過を辿り、多文化共生社会に向けた課題に焦点をあてる。また社会問題化する日本国内における排外主義の実態に迫り、差別を許さない共生社会のあり方について考える。

●授業の到達目標

日本社会が今後歩むべき国際化と多文化共生に関わる基本知識を培い、社会人としての教養と人権感覚を養う。

●授業内容・授業計画

- 1、エスニック・スタディ応用編を始める前に
- 2、在日コリアンとはどのような人々か？1
- 3、在日コリアンとはどのような人々か？2

- 4、中国残留孤児とはどのような人々か？1
- 5、中国残留孤児とはどのような人々が？2
- 6、日本にとっての難民問題1
- 7、日本にとっての難民問題2
- 8、JFCの視点から1
- 9、JFCの視点から2
- 10、在日ブラジルにとって日本とは1
- 11、在日ブラジルによって日本とは？
- 12、私たちは差別、排外とどう向き合うべきか？
- 13、映画が再現した排外主義のその果て1
- 14、映画が再現した排外主義のその果て2
- 15、多文化共生社会の実現に向けて

●評価方法

出席及び出席時に提出してもらったコミュニケーションカードの内容を精査した授業への参加度(平常点)、そして学期末試験の点数による評価。平常点で60点、学期末試験で40点の配分です。

●受講生へのコメント

エスニック・スタディ入門編との連続性はありません。授業冒頭の10分程度を使って注目を集めているニュース解説を行います。社会への深い関心は多文化共生にも欠かせないものです。

●教材

「外国人・民族的マイノリティ人権白書2016」(外国人権法連絡会)

[科目ナンバー : GE HUM 01 48.CO]

掲載番号	科目名	現代の部落問題	単位数	2	担当教員	齋藤 直子 (人権C 特任)
63	英語表記	Buraku Issues in Modern Japanese Society				

●科目の主題

部落問題とは、どのような問題なのだろうか。部落差別は増えているのだろうか、減っているのだろうか。差別はなくならないのだろうか。日本社会の変化とともに、部落問題のあり方にも変化があるのだろうか。

また、部落問題は「もうない」「昔のことだ」、部落差別を「若い人はしない」という意見をいう人もあるが、一方で「厳しい現実はある」、「知らないだけだ」という意見もある。なぜ、これほどまで大きく認識が異なるのだろうか。

部落問題は、日本社会の構造と密接に関係した問題である。これらの問いについて考えることは、日本社会のある面について深く考えることでもある。

講義では、データや資料を用いながら、現代の部落問題がどのように生起しているのかを概観し、上記の問いについて考えていく。

さらに、90年代以降、「部落」「部落民」の再定義に関する議論が盛んになっている。部落問題は「古い問題」ではなく、理論的にも実践的にも「古くて新しい問題」になった。なぜ、このような議論が巻き起こっ

社会と人権

たのだろうか。その社会的背景には何があるのか。部落問題に関する最新の議論についても考えていきたい。

●授業の到達目標

どうすれば部落差別をなくすことができるのか、部落差別が生じた場面でどのように対処すべきか、部落問題に関する言説をどのように解釈するのか、人に対してどのように部落問題を教えるのかといった点について、学生ひとりひとりが自分自身で考えて意見を述べられるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は、以下のような内容を中心におこなう。

- 1) 「部落問題とは何か」…ひとまずの定義
- 2) 近年の差別事象から、現在の差別のあり方を考える
- 3) 身元を調べるといふこと
- 4) 結婚差別を考える

5) もう一度「部落問題とは何か」を考える

また、2回程度、講師をお招きしての講義をおこなう。

●評価方法

出席、コミュニケーションカードの内容、期末の試験により判断する。

●受講生へのコメント

授業では、毎回、コミュニケーションカードを配布する。講義への意見や質問を求めることもあれば、設定された質問への回答を求めることもある。コミュニケーションカードを通じて、双方向的に授業をすすめるので、ただ講義を聞くだけではなく授業を構成する一員として参加してほしい。

また、授業に関連した書籍を少なくとも3冊読むことを希望する。

●教材

授業中に適宜、指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 49]

掲載番号	科目名	メディアと人権	単位数	2	担当教員	中村 一成 (非常勤)
64	英語表記	Media and Human Rights				

●科目の主題

《人権》を軸に、メディア総体を巡る問題について考えるのが授業のテーマである。

マス・メディアの大きな存在意義とは、人々の「知る権利」に応え、民主主義の基盤「情報の平等」を実現することにある。しかし新聞やテレビなどの既存メディアは、その役割を果たしているだろうか？ それを補う形で登場したインターネットの普及は、従来、国家や大企業の独占物だった情報発信を個人レベルで可能にし、それまで存在したさまざまな障壁を超えたコミュニケーションの革命をもたらした一方で、以前は想像もつかなかった人権侵害をも生み出している。

「テロ報道」に見える「命の格差」や、ネット空間が増幅していくレイシズムの問題、マイノリティ報道に現れるマス・メディア（≒多数派の常識）の「意識」や、既存メディアによる人権侵害の構造、誰もが被害者、加害者双方になり得るネット時代の「危険性」についても考えたい。

●授業の到達目標

身の回りに溢れるメディア情報を鵜呑みにせず、多角的に検証し、「人権」の観点から読み解く姿勢を身に付けること。「<知る権利><言論の自由>と人権」について自らの考えを展開できること。さらにはメディアを取り巻く問題から、日本社会それ自体の問題について抽出し、思考すること。

●授業内容・授業計画

- ①「オリエンテーション」◆②～③「私、私たちの

世界とは何処か」。痛ましいテロ報道の裏には、数ですら語られぬ死者たちがいる。なぜ彼彼女らは「私、私たち」の意識の外なのか？ 私たちの想像力とメディアとの関係は？◆④～⑧「総メディア時代とレイシズム」2013年以降、社会問題化した排外主義団体による差別デモ。インターネット普及との関係は？法規制は可能なのか？諸外国はどう対処しているのか？◆⑨～⑫「メディアとタブー」時に表面化するマス・メディアによる「差別報道」。お詫びや検証がなされて尚、問題が繰り返されるのは何故か？◆⑬～⑮「『犯罪報道』からメディアを読む」人権侵害と表裏のキラークンテンツ「犯罪報道」。その「有害性」は？構造的な原因とは？

●評価方法

期末レポートの提出及び、毎回のコミュニケーションカードの内容を基に総合的に判断する。詳細は授業で説明する。

●受講生へのコメント

講師は現役のフリージャーナリスト。今に至る経験を盛り込み、なるべく多くの「問い」を皆さんに提供し、共に思考を深めて行きたいと考えている。授業では映像資料などを頻繁に活用する。コミュニケーションカードは授業にも取り込んでいくので、参加者意識を持って記入して欲しい。

●教材

授業ごとにレジュメや記事資料などをその都度、配布する。参考書籍は逐次、紹介する。講義の性質上、

いわゆる「時事ネタ」に言及することも多い。レポート課題にも繋がってくるので、自らの問題意識に合致するニュースや、講義と関連する話題については新聞

各紙やネットメディアを読み比べるなど、問題意識を持って欲しい。

[科目ナンバー : GE HUM 01 50 .CO]

掲載番号	科目名	部落解放のフロンティア	単位数	2	担当教員	齋藤 直子 (人権C 特任) 他
65	英語表記	Frontiers of Buraku Liberation				

●科目の主題

本講義は、部落解放のフロンティア（最先端）で活躍する2名の講師を招き、いま部落問題において、何が問題であり、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。

部落解放運動の歴史は、日本の社会運動においても主要な位置を占めており、その動向を知ることは、この社会が人権を守る社会になるためのビジョンを、われわれに教えてくれるだろう。

部落問題は、「古い」問題ではない。日本社会の変容とともに、あるいは部落そのものの変容とともに、新しい視角や新しい課題がみえてくる。実践の最先端にいる講師に、最新の状況について講義してもらう。

●授業の到達目標

部落解放の最先端で活躍する2名の講師の講義を通じて、人権が守られる社会とはどのようなものか、そのような社会が構築されるために担えることは何かといった点について、受講者自身がビジョンを持てるようになることが本講義の到達目標である。

●授業内容・授業計画

本講義は、オムニバス形式でおこなう。谷元昭信先生は、部落解放同盟綱領の2011年改正にあたって中心的役割を担われた。その中で「差別克服への3つの戦略課題」を提起された。それがどのような問題意識から生まれたのかを、じっくりと話をしてもらう。大北規句雄先生は、隣保館活動の重要性を一貫して主張されてきた方であり、また茨木で「福祉と人権のまちづくり」をまったく新しい手法で実践されている。

本講義は、受講生がすでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育を受けていない人は、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。齋藤直子（本学、人権問題研究センター）が全体をコーディネートする。

授業計画は次の通りである。

第1回目：[齋藤担当] 部落解放運動の歩みを振り返る

第2回目：[谷元担当] 谷元先生講義のイントロダ

クション

第3回目：[谷元担当] 部落差別の実相と現状に関する認識論

第4回目：[谷元担当] 明治維新以降の部落差別の実態変遷

第5回目：[谷元担当] 部落差別を生み出す社会的背景への考察

第6回目：[谷元担当] 部落解放運動の歴史と日本の社会運動

第7回目：[谷元担当] 部落差別克服への基本方向と課題

第8回目：[谷元担当] 谷元先生講義のまとめ

第9回目：[大北担当] 排除と隔離の100年を問う

第10回目：[大北担当] 2000年大阪府部落実態調査が示したもの

第11回目：[大北担当] セツルメントから隣保館へ

第12回目：[大北担当] 福祉と人権のまちづくりへの挑戦

第13回目：[大北担当] 部落の経験を社会発展の糧に

第14回目：[齋藤担当] まとめと補足的な講義

第15回目：試験

●評価方法

出席、毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容、2名の講師それぞれが課す課題、そして期末試験によって総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実際に、部落解放運動の現場で活躍されている方々に講師になっていただき、実践的な立場からの議論を展開する講義である。その議論を十分に理解するためには、受講生は基礎的な部落問題の知識が必要である。したがって、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講したり、部落問題関連の書籍をあらかじめ読んでおくことを強く希望する。

●教材

それぞれの講師が、毎回、講義レジュメを配布する。なお、2名の講師それぞれの初回にあたる第2回と第9回には、レポートの課題についての説明があるので、必ず出席してもらいたい。

参考文献は、講義レジュメを参照されたい。

[科目ナンバー : GE HUM 01 51 .CO]

掲載番号	科目名	部落差別の成立と展開	単位数	2	担当教員	上杉 聡 (非常勤)
66	英語表記	History of Discrimination Against Buraku				

●科目の主題

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、学生諸君は小、中、高の段階である程度学んできたと思う。「士農工商えた非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初めにあるなど、聞き飽きた人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究は、とくにこの30年間めまぐるしく進展し、そうした固定観念は大きく変えられている。本講義は、そうした最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史（中世から現在まで）について、平易に、しかし本格的に、学問として検討したい。

●授業の到達目標

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ることは、現状を知り、将来の展望を導き出すために不可欠だ。大学に学んでいるこの機会に、部落問題をいちど根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、ぜひとも歴史学（実証と全体性）を通して深く学び考える方法を知ってもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

- 第1回 なぜ部落の歴史を勉強するのか
- 第2回 「士農工商えた・非人」のまちがい
- 第3回 「社会外」という部落のあり方
- 第4回 「部落は江戸時代に作られた」のまちがい
- 第5回 中世の部落の姿
- 第6回 戦国時代に部落に生じた変化
- 第7回 差別制度は江戸時代に本格化

- 第8回 討論
- 第9回 差別のゆるみと強制
- 第10回 賤民制度の廃止と限界
- 第11回 近代の差別と水平社の挑戦
- 第12回 日本国憲法と戦後の部落
- 第13回 大阪市立大学と部落差別
- 第14回 被差別部落への訪問（フィールド・ワーク）
- 第15回 予備

●評価方法

期末試験（50点満点）と出席（50点満点）で評価する。

●受講生へのコメント

真実は人を自由にする。厳しく不条理な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私たちの精神は自由となり、解放される。部落の歴史を知ることは楽しい。もし、お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がいれば、その人をガッカリさせてあげたいし、大学らしい知性溢れる授業にしたい。ただし、採点は厳密に行い、不勉強かつ欠席が多い場合は容赦なく欠点にする。

●教材

教科書：（毎回授業で使用し、試験にも使用するので、必ず入手ないし購入すること）

上杉 聡『これでわかった！部落の歴史』（解放出版社）

参考書：

上杉 聡『これでなっとく！部落の歴史』（解放出版社）

[科目ナンバー : GE HUM 01 52]

掲載番号	科目名	世界のマイノリティ	単位数	2	担当教員	川越 道子 (非常勤)
67	英語表記	Minorities of The World				

●科目の主題

国境を越える人の移動が加速している現代世界において、私たちは日常生活の中でマイノリティとされる少数者集団と出会ったり、生活をともにしたり、あるいは自分自身がマイノリティとなる状況下に置かれている。日本社会においても、社会の構成員が一層多様化しつつあり、多文化共生社会の実現が唱えられる一

方で、少数者を排斥する発言や活動が社会問題となっている。こうした背景を踏まえてこの講義では、マイノリティを取りまく社会の課題を検討し、改めてマイノリティの人権について考える。

「世界のマイノリティ」という科目名ではあるが、私たちが暮らしている社会を見つめ直すところからはじめたいため、授業では、主に日本のエスニック・マ

イノリティを取り上げていく。具体的には、「多文化共生」という概念が広まる契機となった震災後の神戸やその地に生きる在日ベトナム人をはじめ、主に1980年代以降来日した日系人、外国人研修生・技能実習生の現状を糸口として、他国の状況と比較しながら、マイノリティの直面する諸課題について考察する。

●授業の到達目標

日本のマイノリティの現状について理解を深める。日常生活の中に潜む課題を見出し、明らかにする視点、そしてその課題に対して自らどのように向かい合うかを考え続ける思考力を身につける。自己／他者理解を深めつつ、人権感覚を養うとともに、異文化コミュニケーション能力の向上を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グローバルな人の移動とマイノリティ
- 第3回 マイノリティと人権①：労働を考える
- 第4回 マイノリティと人権②：震災と多文化共生
- 第5回 ゲスト講演
- 第6回 グループ討論・発表
- 第7回 マイノリティと人権③：教育と若者を考える (1)
- 第8回 マイノリティと人権④：教育と若者を考え

る (2)

- 第9回 ゲスト講義
- 第10回 グループ討論・発表
- 第11回 マイノリティと人権⑤：福祉を考える (1)
- 第12回 マイノリティと人権⑥：福祉を考える (2)
- 第13回 マイノリティと人権⑦：違法行為を考える
- 第14回 市民活動の現状と展開
- 第15回 まとめ

●評価方法

出席、ミニレポートの提出を含む平常点 (60%)、および期末レポート (40%) を総合して評価する。

●受講生へのコメント

受講生参加型の授業を行う。講義にもとづいた課題を提起し、教員・受講生同士、対話を重ねる時間を重視する。性急に確定的な答えを求めるのではなく、異なる意見を聞き、忍耐よく対話を重ねる姿勢を期待する。積極的に授業に参加する人、繊細な感覚をもって他者の発言を聴く意欲のある人とともに、対話の空間を創ることを目指したい。

●教材

教科書は特に指定しない。適宜、参考文献を紹介し、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 53]

掲載番号	科目名	障がい者と人権 I	単位数	2	担当教員	松波 めぐみ (非常勤)
68	英語表記	Human Rights of Peoples with Disabilities I				

●科目の主題

「障害者」と呼ばれる人たちは、なぜ近所の子どもと別の学校に行くことになったり、美味しそうなお店で食事したくても叶わなかったり、旅行が難しかったり、「障害を乗り越えてがんばってる人だ」と勝手に思いこまれたりするのだろうか？ そもそも、「障害」って何なんだろう？ ——それを何より問うてきたのは、障害のある人たちである。かれらは1970年頃から、健常者中心の社会のあり方（社会構造や価値観）を告発し、地域社会のなかで「共に生きる」ことを模索してきた。その結果、まちは少しずつ変わってきた。さらに障害者運動の主張を理論化する努力が実を結び、2006年に国連で障害者権利条約が採択された。日本もついに2014年1月に条約を批准した。またこの条約の精神に基づく「障害者差別解消法」がいよいよ2017年4月から施行される。

この授業では「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害(者)のことを学んでいく。障害者はどのように社会を見つめ、権利を獲得してきたのか、そして未だにどのような差別があるのかを学ぶことを通して、社

会のあり方を多角的に捉えなおしていく。障害をもつゲストの方を数回、教室にお呼びし、直接お話をうかがう予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」「インクルーシブ教育」など、障害者権利条約の基本概念を理解するとともに、現在の日本社会で切実な課題となっている事柄について、自分なりの問題意識をもてるようになる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 自立生活について、ゲスト講義 (予定)
- 第3回 障害者はどう社会を変えてきたのか? ・ 1
- 第4回 障害者はどう社会を変えてきたのか? ・ 2
- 第5回 世界が認めた「障害者権利条約」
- 第6回 誰もが乗れるバス、電車をめざして
- 第7回 災害のとき、障害者は?
- 第8回 ゲスト講義 (予定)
- 第9回 情報・コミュニケーションの権利
- 第10回 「盲ろう者」とコミュニケーション
- 第11回 とともに学び育ちあうインクルーシブ教育

社会と人権

- 第12回 ゲスト講義（予定）
- 第13回 当事者どうして支え合い地域を変える
- 第14回 差別のないまちを目指して
- 第15回 課題レポート作成

●評価方法

平常点、および最終回に作成する課題レポートによ

り評価を行う。

●受講生へのコメント

積極的な受講を期待する。

●教材

教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 54]

掲載番号	科目名	障がい者と人権Ⅱ	単位数	2	担当教員	松波 めぐみ (非常勤)
69	英語表記					

●科目の主題

「障害」の世界にパラダイム・シフトが起こっている。かつて「障害」とは医学的・個人的問題であり、治療やリハビリテーションによって克服すべきものとされてきた。障害をもってうまれてきた子どもは、「障害の軽減、克服」のためには地域で暮らすことや、共に学ぶことや遊ぶことをあきらめさせられ、他の人と同じ「権利」が無くてもしかたがないとされてきた。

そんな社会に対して、障害者は異議をとなく、「障害の社会モデル」（個人の身体的欠陥ではなく、バリアや偏見などの「社会的障壁」こそが、障害者と括られた人を生きづらくさせている。変わるべきは社会である）という考え方をうみだし、それをテコに社会を変えてきた。この「障害の社会モデル」を理論化したのが、1980年代から発展してきた「障害学」（ディスアビリティ・スタディーズ）である。

この授業では、「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害（者）のことを学んでいく。「障害者と人権Ⅰ」が、障害者運動や障害者権利条約に力点があったのに対して、Ⅱでは「障害学」にふれ、「文化」を含め、より多角的に社会のあり方を見ていきたい。Ⅰと同様、ゲストの方を数回呼び出す予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」という概念を深く理解し、さまざまな事象をこの角度から捉えられるようになる。また、自分なりの問題意識を発展させる。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「障害」ということばと「障害学」
- 第3回 「障害の社会モデル」とその意義
- 第4回 インクルーシブ教育とその課題
- 第5回 ゲスト講義（予定）
- 第6回 「ろう文化」の世界
- 第7回 発達障害と「文化」
- 第8回 精神障害をもつ人のコミュニティ
- 第9回 今ここにある「優生思想」
- 第10回 ゲスト講義（予定）
- 第11回 複合差別を考える・1（女性障害者）
- 第12回 複合差別を考える・2（外国人ほか）
- 第13回 「働くこと」を考える
- 第14回 改めて考える「障害者の権利」
- 第15回 課題レポート作成

●評価方法

平常点、および最終回に作成する課題レポートにより評価を行う。

●受講生へのコメント

「障害者と人権Ⅰ」を既に受講していることが望ましい。できれば日常から、障害者と接する機会を積極的に持って欲しい。

●教材

教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 55]

掲載番号	科目名	平和と人権	単位数	2	担当教員	高 誠晩（非常勤）
70	英語表記					

●科目の主題

本講義では、「平和」と「人権」を、1945年を前後

とするアジア太平洋、その中でも特に島嶼地域における紛争経験を中心に、遺跡・遺物遺構（戦争遺跡）と

メモリアル（モニュメント、記念館）、弔い（慰霊と追悼）、米軍基地を主なキーワードにして考察する。

●授業の到達目標

植民地支配、「太平洋戦争」、東西冷戦構造の出現というアジア太平洋に激動をもたらした20世紀中葉における暴力現象とその「後」について着目して、なにゆえこうした事件が生起されたのか、そしてその経験はどのように記憶され言説化されてきたのか、さらにその「負の歴史」はいかに乗り越えられ、正義と和解、共生が達成されようとしているのかという、今日のアジア太平洋地域の根幹を規定する問題を解明する可能性を模索することに本講義のねらいがある。具体的には、20世紀前半のアジア太平洋において植民地体制の中心部であった日本と、そこからマージナルな島嶼地域といわれる南洋群島（特に、現在の北マリアナ諸島）、南西諸島、済州島、台湾などを射程におさめつつ、また各々の地域からマクロなアジア太平洋の体制移行を検証する国際比較の試みを通して、今後アジア太平洋の平和定着と人権伸長、相互理解の方途を模索するにあたってのよりダイナミックな見方を考察することが可能になると考える。

●授業内容・授業計画

第1回 イン트로ダクション

- 第2回～5回 20世紀アジア太平洋の島嶼地域における紛争経験といかに向き合うか
- 第6回～7回 戦争遺跡が語る紛争の記憶
- 第8回～9回 記念館における紛争の再現と表象
- 第10回～11回 モニュメントに刻まれた紛争の記憶
- 第12回～13回 紛争の記憶と弔いのポリテクス
- 第14回 アジア太平洋における「平和」と「人権」
- 第15回 まとめ（講義全体の復習と補足、理解度の確認および質問受付と解説）

●評価方法

平常点（出席点30%、小テスト①20%、小テスト②20%）及びレポート試験（30%）の成績を合わせて評価する。未提出者の成績評価は「F」とする。

●受講生へのコメント

授業に積極的に参加することを通して、「平和」と「人権」についての自分なりの問題意識と考え方を整理することを期待する。受講希望者は、第1回のイントロダクションに必ず出席すること。受講定員は150名を上限とする。

●教材

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。講義は配布資料とビデオやスライドの画像を中心に行う。

[科目ナンバー : GE HUM 01 56]

掲載番号 71	科目名	平和学	単位数	2	担当教員	役重 善洋（非常勤）
	英語表記	Peace Studies				

●科目の主題

授業では、国際的な平和問題の中心的課題であり続けているパレスチナ問題を取り上げる。日本の学校教育・メディアを通じて、パレスチナ問題を正確に理解する機会は極めて限られている。そのこと自体、私達が国際関係の網の目のなかでどのようなポジションに位置しているのかの一端を示している。実際には、パレスチナ問題は様々なかたちで東アジアに暮らす私達の社会・経済・政治に大きな影響を及ぼしている。15回の授業を通じて、パレスチナ問題の歴史と現在についての基本的な知識を伝えると同時に、そのことが私達の生活とどのように関わっているのかについて様々な視角から考察する。そのことによって、平和問題における自らの当事者性を認識し、個人と集団（民族・国家・市民社会）と国際平和とがどのように相互連関しているのかについて具体的なイメージが掴めるようにする。

●授業の到達目標

占領・離散・民族浄化の中を生き続けるパレスチナ人の歴史と現在を知り、また、パレスチナ問題に取り

組む様々な市民社会・NGO等の取り組みを学ぶことを通じて、グローバルな平和問題を自分自身の課題として捉えるための基礎的な知識と視点を獲得する。とりわけ、日本を取りまく種々の平和問題とパレスチナ問題とがどのように関係しているのかについて考察することを通じて、主体的に国際平和を展望するための複眼的思考力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 歴史：列強の中東進出と第一次大戦
- 第3回 歴史：第二次大戦とパレスチナ問題の発生
- 第4回 歴史：占領の恒常化とパレスチナ解放運動
- 第5回 歴史：オスロ合意とその挫折（ミニテスト）
- 第6回 各論：反ユダヤ主義とシオニズム
- 第7回 各論：キリスト教シオニズムとイスラモフォビア
- 第8回 各論：イスラエルの核問題とアメリカの中東関与
- 第9回 各論：パレスチナ問題と国際法・国連
- 第10回 各論：非暴力抵抗運動の展開と様々な和平

案（ワークショップ）

- 第11回 日本とパレスチナ：内村鑑三と矢内原忠雄
- 第12回 日本とパレスチナ：植民地支配責任と修復的正義
- 第13回 日本とパレスチナ：対テロ戦争・ODA・平和構築
- 第14回 日本とパレスチナ：市民運動とフェアトレード（ワークショップ）
- 第15回 総括

●評価方法

コミュニケーションカード(50点)・期末レポート(50

点)によって評価を行う。

●受講生へのコメント

授業の中でゲストスピーカーを迎えることがあるかもしれませんが。その場合、授業内容が多少変更される可能性もあります。分からないことは、授業中、あるいは、コミュニケーションカードやメール等で、積極的に質問してください。

●教材

各回毎にレジュメを配布する。他、適宜映像資料を用いる。

[科目ナンバー : GE HUM 01 57]

掲載番号	科目名	ジェンダーと現代社会I	単位数	2	担当教員	古久保 さくら (人権C) 他
72	英語表記	Gender in the Modern Society I				

●科目の主題

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とマスメディアという領域と、大学を卒業して出て行く労働社会の領域を中心に、ジェンダー化された社会の現状について、考察したい。

●授業の到達目標

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるものにできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。

そのうえで、大学卒業後の生活においてジェンダー化されている社会の中で、主体的に生きる力を身につけることを期待する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～5回 メディアにおけるジェンダー
- 第6回 グループディスカッション
- 第7回～10回 教育におけるジェンダー平等をめざして
- 第11回～14回 変容期にあるジェンダー
- 第15回 まとめ 質疑応答

●評価方法

毎回提出するコミュニケーションカードに基づく出席点(40点)・中間レポート(10点)・最終レポート(50点)により評価する。

中間レポートの提出とコミュニケーションカードの提出が8回以上がない者の最終レポートの提出を認めない。

レポートの課題などについては、初回授業時に説明する。

●受講生へのコメント

本科目では、ジェンダー平等教育のための市民活動の実践経験のある非常勤講師を複数お迎えする。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカード(感想文)の提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。ボランティアとして関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、30分以上の遅刻者は出席とはみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。

それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 58]

掲載番号	科目名	ジェンダーと現代社会Ⅱ	単位数	2	担当教員	古久保 さくら (人権C) 他
73	英語表記	Gender in the Modern Society II				

●科目の主題

本科目では、ジェンダースタディーズという学問で扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中心に取り上げる。とくに、メンズ・リブ運動の市民活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具体的方策などを講義いただく予定であり、セクシュアリティとジェンダーをめぐる課題を人権という視点から考察する。

●授業の到達目標

各テーマに関連して様々な観点からの問題提起型の授業をおこなう。講義を通じて、それぞれのテーマのもつ複雑さを理解し、関連問題の克服のための方策をともに考えるという姿勢を習得することが、本科目の到達目標である。

それは、物事を複眼的に考察するという能力を養う事でもあると考える。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 若者の性行動におけるジェンダー
- 第3回 異性愛だけが性愛か？
- 第4回 グループディスカッション
- 第5回 男性性とセクシュアリティ DVという問題
- 第6回 性暴力被害者の心理と援助者の役割
- 第7回 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントという問題
- 第8回 ワークショップ：アサーティブ・トレーニング
- 第9回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ
- 第10回 労働としての性の商品化
- 第11回 ジェンダー視角からみた性の商品化

第12回 グループディスカッション

第13回 生殖をめぐる商品化

第14回 まとめにかえて「自己責任」を考える

第15回 質疑応答とレポート提出

●評価方法

毎週提出するコミュニケーションカードに基づいた出席点(40点満点)ならびに15回時に提出するレポート(60点)による。

コミュニケーションカード提出が8回以下の者はレポート提出を認めない。

レポートの課題などについては、授業初回に指示する。

●受講生へのコメント

ある程度のジェンダーに敏感な視点をもった学生を対象としており、「ジェンダーと現代社会Ⅰ」を既習していることを前提に授業を進める。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、グループワークなどがあるため、10分以上の遅刻はみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 59 .CO]

掲載番号	科目名	エスニック・スタディ入門編	単位数	2	担当教員	朴 一(経)
74	英語表記	Ethnic Study I				

●講義の主題と目標

この講義では、在日外国人の人権をめぐる諸問題について学ぶ。日本に滞在、居住する外国人は、景気低迷期に入っても大きく減少せず、在日外国人の実数は200万人を超えている。このうちの日本に最も永い

居住歴を持っているのは在日コリアンで、彼らの多くは、戦前・戦中期にさまざまな事情で日本に渡ってきた人達とその子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本人と同じように、日本で生まれ、日本で育ち、日本社会のさまざまなフィールドで活躍している。

社会と人権

だが、彼らはルーツや国籍が違うという理由で、就職、労働条件、結婚、新居探しなど人生のさまざまな場面で、日本社会から人種的な迫害や差別を受けることが少なくない。どうして、こうした民族差別が起こるのだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光をあてて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業の到達目標

在日外国人問題についての基本的知識を身につけ、社会人としての人権感覚を養う。

●講義の概要

1. 私の生い立ち
2. ダーリンは外国人
3. 外国人への入居拒否は区別か差別か
4. 日本の中の外国人学校
5. あなたは在日の歴史を知っていますか

6. 二つの大震災と在日外国人
7. 神風特攻隊として散った在日コリアン
8. 忘れられた皇軍兵士たち
9. 外国人への指紋押捺をめぐる論争
10. 無年金外国人は訴える
11. 同情するなら職をくれ
12. 永住外国人への参政権に付与問題
13. ある帰化代議士の神話
14. 孫正義の挑戦
15. 在日コリアン新世代の生き方

●評価方法

出席（最低6割以上の出席が必要）、レポート、テストを総合して採点。

●教科書

・朴一『僕たちのヒーローはみんな在日だった』講談社

[科目ナンバー : GE HUM 01 60]

掲載番号	科目名	企業と人権	単位数	2	担当教員	李 嘉永（非常勤）
75	英語表記	Business and Human Rights				

●科目の主題

今日、企業の社会的責任（CSR）を求める動きが、各方面で高まっています。CSRとは、事業活動に社会的公正さや環境への配慮を組み込み、多様なステークホルダーに対して説明責任を果たしていくことを指しますが、その重要な問題領域の一つとして、人権問題が挙げられます。その背景には、経済不況のもとで、職場が余裕をなくし、しばしば人権侵害が発生していることが指摘されています。

そこで、この講義では、企業経営のさまざまな側面で発生している人権問題について概観し、その改善のために実施されているCSRの取り組みを紹介したいと考えています。

●授業の到達目標

企業を評価する際に、経済的指標に留まらず、社会的指標・環境的指標を含めた「トリプル・ボトムライン」を用いて判断できる思考を習得してほしいと考えています。また、企業が事業展開するにあたって、社会問題、とりわけ人権に関わる問題に対し、肯定的な影響を及ぼしうる配慮を組み込む工夫を理解していただければと思います。

●授業内容・授業計画

概ね、次のような構成で講義を進めたいと考えています。

1. イントロダクション：企業の社会的責任の概念
2. CSR促進の多様なツール
3. 労働問題（1）

4. 労働問題（2）
5. セクシュアル・ハラスメント
6. パワー・ハラスメント
7. 女性と労働
8. 障がい者の雇用促進
9. 非正規労働をどう考えるか
10. 児童労働・強制労働
11. 少子化対策
12. 消費者保護
13. サプライチェーンと人権
14. 人権問題解決に向けた社会貢献活動・NGOとの協働

●評価方法

期末に試験を実施しますが、授業中にも、数回小テストを実施できればと考えています。小テストは、数回の講義を簡単に振り返るものですから、復習を欠かさないようにしてください。

配点は次の通りです。

期末試験：80点

小テスト：20点

●受講生へのコメント

毎回コミュニケーション・カードをお配りしますので、ご意見・ご感想を自由に書いてください。

また、ご質問等については、レジユメにメールアドレスを記載しますので、メールでも受け付けています。

●教材

教科書は特には指定しません。毎回レジユメを配布

します。その際に、いくつか参考文献を提示しますので、各項目で関心を持たれた際には、それらを参照し

てください。

[科目ナンバー : GE HUM 01 61]

掲載番号	科目名	地球市民と人権	単位数	2	担当教員	阿久澤 麻理子 (創)
76	英語表記	Global Citizenship and Human Rights				

●科目の主題

近代市民革命によって、「市民」の誰もが生まれながらに人権を持ち、「国」には市民の権利を実現する義務がある、という考えが誕生した。だが、フランスの人権宣言が女性の権利を想定していなかったように、「市民」に文字通りすべての人が含まれ、人権が普遍的なものとして承認されるには、そこから排除された人びとが声を上げ、人間の尊厳とその権利の承認を求めてたたかうプロセスを通らねばならなかった。本講義では、人権の概念やそれを実現するメカニズムとともに、「マイノリティ」の視点にたち、社会的排除と差別に抗する社会システムのありようを人権の視点から皆さんと考えたい。

また、後半では、市民の人権を実現する一義的責務をもつ「国」と、「市民」の関係や、人権の制約について考えるため、刑罰と人権などの課題についても取り上げる。

●授業の到達目標

人権についての基本的な概念を理解するとともに、授業中で扱う諸課題について、「人権の視点」から考えることができるようになること。

●授業内容・授業計画

1. 受講生アンケート・「私にとっての人権」

2～3. Know Your Right 一人権とは何か

4. 人権を実現するとは
5. ジェンダー意識と「標準」「非標準」
6. 複合差別—ジェンダーと部落差別
7. 部落問題を知る
8. 部落問題の「いま」
9. ヘイトスピーチとマイノリティ
10. FIFA ルールと国際人権
11. 刑罰と人権—外部交通権を例に
12. 死刑制度を考える
13. 「映画」から考える
14. 応用問題を考える
15. テスト

●評価方法

出席とテスト

●受講生へのコメント

個別具体的な課題に対する知識や理解を深めるだけでなく、「人権の視点からものを考えるとはどういうことか」を考えながら受講してほしい。

●教材

本的に授業ではレジュメを配布するので、特定の教科書を指定しない。

[科目ナンバー : GE HUM 01 63]

掲載番号	科目名	人権の多様性の研究 (演習)	単位数	2	担当教員	齋藤 直子 (人権 C 特任) 他
77	英語表記	Seminar : Research of Human Rights and Diversity				

●科目の主題

日常生活やメディアの中で、普段から気になっているが深く考えたことのなかった人権問題・差別問題はないだろうか。あるいは、日常において「これは人権問題なのではないか」といった疑問を抱いたことはないだろうか。それらについて、実際に自分で調べ、グループで議論して、認識を深めていくのが本演習の主題である。

●授業の到達目標

受講生ひとりひとりの持っている問題関心について、関連する資料を収集し、考察し、議論をすることを通じて、その問題について一定の知識を備え、論理的な主張ができるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

演習では、1) まず最初に、関心をもっている差別問題・人権問題について報告をおこなう。2) その報告について、受講生全体で議論をおこなう。議論を通

じて、新しい視点を獲得したり、さらなる課題を発見する。3) 議論で得た視点や課題をふまえてテーマを設定する。4) 関連する書籍や調査研究報告、雑誌論文、新聞資料、実践記録、報告書などを収集する。5) それらの文献を、通読、分析し、報告する。6) 一定数の文献を読んだ上で、中間報告をおこなう。7) 中間報告をふまえ、さらに文献を収集する。8) 他の受講生の意見も求めながら、最終レポートにまとめる。

受講生が多数の場合、グループに分けて、グループごとに上記1)～3)を行い、グループとしての共通の研究テーマを設定してもらう。その共通テーマに沿って、受講生ひとりひとりのサブテーマや役割分担を決める。

また、必要に応じて、外部から講師を招き、議論をすることもある。

●評価方法

報告や議論での積極性などの平常点と、最後に提出するレポートによって評価する。当初持っていた問題関心について、演習内での報告や議論を通じて認識を深め最終レポートを仕上げていくプロセスを重視する。したがって、出席回数と最終レポートだけで、単位を

確実に取得できるというわけではない。

●受講生へのコメント

本演習の受講の前提として、すでに主題「社会と人権」に属する科目をいくつか受講しているか、現在受講していることを希望する。

また、受講生には自分の問題関心にそってテーマを決め、課題を発見して、レポートを作成してもらうため、差別問題や人権問題への関心や問題意識を強く抱いている学生の受講を望む。

演習では、それぞれのテーマに沿ってレジュメを作成して報告してもらう。また、他の受講生の報告に対しても、積極的に議論に参加してもらいたい。また、討論は単発ではなく本演習を通じて持続的に展開していくので、継続的な出席が必要である。

演習科目のため、受講者数は20名以内がのぞましいため、受講制限をする場合もありうる。

●教材

教材はとくに定めない。発表者は、レジュメおよび資料を全員に配布するように準備しておくこと。レジュメおよび資料は、人権問題研究センターのコピー機で印刷することができる。

[科目ナンバー : GE HIS 01 01]

掲載番号	科目名	日本史の見方	単位数	2	担当教員	磐下 徹 (文)
78	英語表記	An Introduction to the Japanese History				

●科目の主題

「歴史資料からみた日本史」

本講義は、日本古代史を中心とした多様な資料（古文書、出土文字資料、法制史料、古記録、金石文など）をとりあげ、その読解を通じて日本史の世界を多面的に描き出すことを目的としている。

●授業の到達目標

歴史学研究の基本は資料の読解にある。資料（データ）に即した事実の抽出と考察は、歴史学に限らず広く大学での学びに必要なスキルであり、また社会に出ても役立つかである。

本講義を通して「客観的な事実にもとづき、物事を注意深く考える」姿勢を身につけてもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2～4回 古文書から見た日本史
- 第5～6回 出土文字資料から見た日本史
- 第7～9回 法制史料から見た日本史
- 第10～12回 古記録から見た日本史

第13～14回 金石文から見た日本史

第15回 総括

* 講義内容は受講者の理解度等に応じて変更することもあります

●評価方法

期末の筆記試験を基礎とし（70%）、授業参加態度（感想・質問用紙への記入など、30%）も加味して総合的に評価する。

●受講生へのコメント

高校までの日本史は「暗記科目」としてのイメージが強いかもしれない。だがこの講義では、暗記は全く必要ない。

そうではなく、自ら考える姿勢を重視する。講義を聴いて自分なりの考えを持つことができるよう、積極的な意識・態度で授業に臨んでもらいたい。

●教材

毎回プリント・資料を配布し、それに即しながら講義を進めていく。参考文献・論文等に関しては必要に応じてその都度指示する

[科目ナンバー : GE HIS 01 02]

掲載番号	科目名	東洋史の見方	単位数	2	担当教員	上野 雅由樹 (文)
79	英語表記	Asian History and Culture				

●科目の主題

本講義では、バルカン半島および西アジア地域の近世・近代史に相当するオスマン帝国の歴史を題材として、宗教や言語、民族、文化、地域区分、そして帰属意識といった事柄について考え、それらを捉える視点を養う。

●授業の到達目標

世界の歴史、そして現代世界のあり方を理解するためには、宗教や言語、民族、文化、地域などの概念を用いること、そしてそれぞれの基準で区別・分類することがどうしても必要になってくる。ただし、そうした諸概念／区分が価値中立的であるわけではない。本講義では、それらが伴う「偏り」をいかに認識するかを、オスマン帝国の歴史という実例と、それが伴う様々な区分、すなわちイスラームやキリスト教、トルコ人や

ギリシア人、さらにはアジアとヨーロッパといった例を通して考える。それにより、世界の歴史、そして現代世界のあり方を見るための視点を学ぶこと、そして大学で歴史を学ぶというのがどのような営みなのかについて基本的な理解を身につけることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は、スライドと配布するプリントに沿って講義形式で行う。最初の二回は、オスマン帝国の歴史を学ぶ前提として、地域区分の問題を扱い、それ以降は1300年頃から20世紀にいたるオスマン帝国の歴史を、以下のテーマを軸に見ていく予定である。

1. 東洋と西洋、あるいはアジアとヨーロッパ、そして「西アジア」の位置づけ
2. 学問的伝統におけるイスラーム史
3. 初期オスマン史における王家のアイデンティ

歴史

ティと異種混淆の世界

4. イスタンプルの復興と多文化都市の形成
5. 近世オスマンの支配エリートと「トルコ人」
6. スンナ派イスラームと宗派化、寛容と不寛容
7. オスマン人キリスト教徒の世界と西欧から流入した宣教師たち
8. ヨーロッパから見たオスマン帝国、東洋趣味とオリエンタリズム
9. 西欧の覇権とオスマン帝国
10. 多言語社会における新式教育と新聞の普及
11. ムスリムと非ムスリムの平等、あるいは帝国と国民国家
12. 多宗教・多宗派都市イスタンプルにおける都市改革と「宗教」概念
13. ロシア帝国からのムスリム移民
14. 多民族国家としてのトルコ
15. 総括

●評価方法

授業中に適宜課される小レポート・質問用紙の記入(50パーセント)および期末の筆記試験(50パーセント)によって評価する。

●受講生へのコメント

予備知識は要求しませんが、歴史に対する関心と学ぶ姿勢は不可欠です。

知識は考えるための材料であり、授業は考えるきっかけです。安易な理解を得ることよりも、考えるプロセスを楽しむくらいの気持ちでいて下さい。また、授業内で適宜、関連文献を提示するので、受講をきっかけに、それぞれの関心を育てていって欲しいところです。

●教材

特定のテキストは使用しない。ほぼ毎回プリントを配布する。関連文献については授業時に適宜、紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 03]

掲載番号	科目名	西洋史の見方	単位数	2	担当教員	北村 昌史 (文)
80	英語表記	An Introduction to the Western History				

●科目の主題

1980年代以降研究手法として定着した観のある社会史研究の成果からみた、西洋史の見方を提示する。具体的には、16世紀から19世紀にいたるヨーロッパ史の動向を、高校の世界史のような政治史や経済史からではなく、人々の日常生活のレベルからヨーロッパ史を描きたい。

●授業の到達目標

高校までの「歴史」は、教科書の記憶が中心といえます。それに対して、大学における「歴史学」は、歴史的事実の意味を把握し、説明することを目的とします。できるだけ具体的な史料・素材から話を展開することによって、大学の「歴史学」の理解を深めることが目標です。

●授業内容・授業計画

18世紀後半か19世紀前半にかけての時期が、社会史の観点から見たヨーロッパ史の転換点であるという観点から授業を行う。3から6時間目で長期的な視野に立つ社会史研究の成果に基づき、この転換の流れを確認した後、7時間目以降では転換点前後の時期のヨーロッパ社会の諸相を描く。

1. 導入・ガイダンス
2. 社会史研究の背景
3. 『子供』の誕生
4. 近代家族

5. エリート文化と民衆文化

6. 食事・都市化
7. 転換点以前の社会 (1)
8. 転換点以前の社会 (2)
9. 転換点以前の社会 (3)
10. 転換点以前の社会 (4)
11. 転換点以前の社会 (5)
12. 転換点以後の社会 (1)
13. 転換点以後の社会 (2)
14. 転換点以後の社会 (3)
15. 転換点以後の社会 (4)

●評価方法

最終成績評価 100点満点すべてが定期試験の成績による。

●受講生へのコメント

高校の世界史の知識は特に必要としません。世界史で出てくる人物や事件はあまり授業では出てきません。どちらかといえば、高校までの歴史に抵抗感を感じた人に受講していただきたいです。受講するに当たっては予習や復習などは必要ありませんが、授業で紹介する文献に、図書館などで折を見て触れていただけるとありがたいです。

●教材

参考文献などは授業中適宜指示する。教科書はとくに用いない。教材は、プリントを授業で配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 04 .CO]

掲載番号	科目名	日本社会の歴史	単位数	2	担当教員	仁木 宏 (文)
81	英語表記					

●科目の主題

日本の中世都市は、古代の都（都城）とも、近世の城下町ともちがう個性的な姿かたちや性格をもっていた。西欧の中世都市や宋代・明代の中国都市とくらべると、似ている点、異なる点があって興味深い。

都市はどのような地形環境の所につくられるのか。港町の船着き場はどのような構造になっていたのか。市はどうやって立てられるのか。社寺や武士は都市にどのようにかかわったのか。都市はどのように描かれるのか。安土城下町は安土城ほど画期的であったのか。

現代に生きる私たちからみれば不思議なことがたくさんあった中世という時代（鎌倉・室町・戦国時代）の都市を、北は青森県から南は鹿児島県までの事例によって紹介しながらみてゆく。

●授業の到達目標

都市をキーワードにして日本中世社会の特色を垣間見、日本社会の歴史の多様性、特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことが理解できるようにする。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。

- 1：日本の中世都市の特徴
- 2：平安京から京都へ
- 3：市の立つ場所
- 4：港町と自然地形

5：港町ではやった宗派

6：山岳宗教都市の発見

7：寺と都市

8：武士が嫌った都市 武士を嫌った都市

9：室町時代の城下町

10：戦国城下町を守る

11：城塞都市 = 京都

12：安土城下町の力量

13：大坂の誕生

14：中世都市の潜在力

15：まとめ

講義は、プロジェクターの画像と、配布するプリントを中心におこなう。

●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的にかかわっているかを、小レポート（30/100）と定期試験（70/100）で評価する。

●受講生へのコメント

高校までの「日本史」受講の有無、暗記的知識の量は問わない。但し、受講にあたっては論理的展開をおってゆく努力が必要である。

●教材

テキスト：特になし。

参考文献：適宜しめす。

プリント：毎回配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 05]

掲載番号	科目名	東洋社会の歴史	単位数	2	担当教員	平田 茂樹 (文)
82	英語表記					

●科目の主題

「中国古代社会のネットワークとコミュニケーション」

中国人は、組織への所属を重視する日本人とは異なり、「関係」(ネットワーク)を重視し、多様なネットワークのもと、活動を展開すると言われていました。本講義では、古代社会において中国の人々がどのようなネットワークを有し、各種の活動を展開していたかについて紹介し、古代社会における「ネットワーク」と「コミュニケーション」のあり方について出席者に学んでもらう予定です。

●授業の到達目標

歴史学は過去の現象を単に研究する学問ではありません。過去、現在、未来という時間軸を中心に、社会全体の問題を深く考える学問です。本講義ではこの問題意識のもとに、中国の過去、現在、未来の問題、並びに日本との関係について多面的に言及することを通じて、日本と世界との関わり、あるいは自己について長期の時間軸を中心に見つめ直すことを狙いとします。

●授業内容・授業計画

第1講 中国人のネットワークの特徴（関係、人情、

歴史

面子)

第2講～3講 中国古代社会の家族、宗族（血縁ネットワーク）

第4講～5講 中国古代社会の村、都市（地縁ネットワーク）

第6講 「血縁」、「地縁」を越える「無縁」のネットワーク

第7講 中間試験

第8講～9講 科挙をめぐるネットワーク

第10講 旅の発達とそのネットワーク

第11講～12講 「友」の出現と「交遊圏」の発達

第13講 学問的ネットワークの発達

第14講 総括試験

第15講 まとめ

●評価方法

二回の中間試験と総括試験（70%）、及び期間中行う小テスト（30%）。

毎回小テストを行います、その中で2回について評価対象とします。

●受講生へのコメント

毎回簡単な小レポートを授業中に書いてもらいながら授業の内容の理解を深めていきますので、きちんと毎回出席するようにしてください。

●教材

参考書として、以下のものをあげておきます。

園田茂人『中国人の心理と行動』（NHK ブックス）

斯波義信『華僑』（岩波新書）

斯波義信『中国都市史』（東京大学出版会）

平田茂樹『科挙と官僚制』（山川出版社）

伊原弘『中国開封の生活と歳時―描かれた宋代の都市生活』（山川出版社）

佐竹靖彦『梁山泊一水滸伝・108人の豪傑たち』（中公新書）

羅信耀著・藤井省三他訳『北京風俗大全―城壁と胡同の市民生活誌』（平凡社）

網野善彦・谷川道雄『交感する中世～日本史と中国史の対話』（洋泉社 MC 新書）

[科目ナンバー : GE HIS 01 06]

掲載番号	科目名	西洋社会の歴史	単位数	2	担当教員	草生 久嗣 (文)
83	英語表記	History of Western Society				

●科目の主題

1453年にオスマン朝によって征服されるまで、東地中海で独特の存在感を発揮しつつきたビザンツ帝国の歴史と社会について講義する。ローマの後継者を自認していたこの中世帝国は、首都コンスタンティノープルを中心として三大陸にまたがる文化的影響力を持ち、それはオスマン帝国以後から現在に至るまで残っている。西ヨーロッパ世界とは違う歩みを経験した中世帝国とそれを取り巻いた東地中海世界の個性について論じてゆく。多民族間の交渉とともに形成されていったその社会は、現在のグローバル・ネットワーク影響下のわれわれの生活圏のありかたに重なる部分が多い。日本とは多くの意味で異質な世界について学ぶことを通して、今いる社会を見直す手がかりを得てもらう。

●授業の到達目標

- 1) 高校教科書におけるビザンツ史理解を最先端の知見に基づきアップデートする。
- 2) 現在に至るまでの東地中海世界における諸問題および社会の特徴の歴史的背景を理解する。
- 3) 我が国に馴染みの薄い言語文化や社会のあり方について理解を深める。

●授業内容・授業計画

キーワード群（各テーマ毎に2回ずつ講義予定）

0) イントロダクション

ビザンツ学・ギボン・オストロゴルスキー・井上浩一・「合同生活圏」

1) 世界史におけるビザンツ帝国

封建制度論・テマ（屯田兵制度）・プロノイア制度・皇帝教皇主義

2) 「古代末期 Late Antiquity」という時代

後期ローマ・初期キリスト教会・大迫害時代・聖者・隠修士

3) ユスティニアヌスの「再征服」からイスラーム勃興まで

コンスタンティノープル・ローマ法大全・ハギアソフィア聖堂

4) 多民族生活圏と覇権帝国の成立

イスラーム・スラブ・イコノクラスム・ローマ司教座・コンスタンティノス7世帝

5) 合同生活圏の危機（十字軍の禍い）

「ヘレニズム世界の後退」・ランシマン史観・第四回十字軍

6) パレオロゴス家と中世世界

オスマン朝・教会合同問題・正統オイクメネー

7) ビザンツ後のビザンツ

イスタンブル・近代ギリシャ史・パレスチナ・キプロス・アルメニア

8) まとめ

生活世界のコンテキストとコンフリクト

●評価方法

授業アンケート 20%、レポート 40%、試験 40%。

●受講生へのコメント

歴史学を含む人文社会系の学びは、1) 優れた書物群を教わり読みつなぐこと、2) 他人の知的経験を自分のやり方で追体験し、結果として他人とは異なる経験を積むこと、そして3) 他の人にその成果を分かるように伝える訓練をすること、の3つによって構成

されています。本講義は、1) の学びを手助けします。教材・教科書として指定する以外にも、膨大な量の名著があります。知や情報へのアクセスには、お金や時間を惜しまないでください。

●教材

井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』講談社
井上浩一・栗生沢猛夫『ビザンツとスラブ』中央公論新社
根津由喜夫『ビザンツの国家と社会』山川出版社

[科目ナンバー : GE HIS 01 07]

掲載番号	科目名	現代の歴史	単位数	2	担当教員	野村 親義 (文)
84	英語表記	The Modern History				

●科目の主題

1990年代前半以降の本格的な経済自由化とその後のおおそ順調といえる経済の発展により、10億を超える人口を抱える巨大なインド経済は、ここ10数年世界の注目を浴びてきた。2000年代半ば以降チャイナ・リスクを本格的に意識するようになった日本も、近年、遅ればせながら、世界中が熱い視線を向けるインド経済の動向に関心を向けるようになってきている。本科目の主題は、近年とみに注目を集める独立(1947年)後インド経済の概要を、近現代の政治・経済の歴史に十分配慮しながら、概観することである。

●授業の到達目標

本講義の到達目標は、独立後インド経済における基本的な論点を習得することである。

●授業内容・授業計画

1. 導入
2. 植民地支配からの独立: 政治
3. 植民地支配からの独立: 経済
4. インド経済概観: 供給サイドを軸に (1)
5. インド経済概観: 供給サイドを軸に (2)
6. インド経済概観: 需要サイドを軸に (1)

7. インド経済概観: 需要サイドを軸に (2)

8. 経済政策: 輸入代替工業化 (1950年代から1970年代)

9. 経済政策: 輸入代替工業化と農業

10. 経済政策: 輸出加工型工業化 (1980年代以降)

11. 輸出加工型工業化と企業

12. 輸出加工型工業化とその課題

13. 独立後インド政治: 概要と制度

14. 独立後インド政治: 制度とその運用

15. まとめ

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

近年急速に注目を集めているインド経済の動向を正確に理解するには、インドが1947年に独立して以降たどってきた歴史に対する深い理解が不可欠である。現代と過去のインド経済に対する深い関心を持ちつつ授業に参加することを期待する。

●教材

教科書ないが、参考文献を授業初日に紹介する。そのほか、プリントを授業中に配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 08]

掲載番号	科目名	考古学入門	単位数	2	担当教員	岸本 直文 (文)
85	英語表記	Introduction to Archaeology				

●科目の主題と目標

ひとびとが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている、

これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された遺構や遺物が

歴史

ら、そこで生活したひとびとの営みを復元する。考古学により明らかになった日本の歴史をたどり、興味をもってもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどんな時代であったのか、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

1. 考古学とはなにか
2. 考古学の資料は遺跡
3. 遺跡の発掘調査
4. 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
5. 縄文時代（1） 定住のはじまり
6. 縄文時代（2） 縄文文化の豊かさと限界
7. 弥生時代（1） 米作りの開始
8. 弥生時代（2） ムラからクニへ

9. 弥生時代（3） 墓にみる権力の形成
10. 古墳時代（1） 邪馬台国の考古学
11. 古墳時代（2） 巨大な前方後円墳の誕生
12. 古墳時代（3） 古墳時代から飛鳥時代へ
13. 古代 都城と官衙
14. 北海道と南西諸島の考古学

●評価方法

小レポート提出2回（各15点）。期末試験（70点）。

●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 09]

掲載番号	科目名	ことばの歴史	単位数	2	担当教員	丹羽 哲也（文）
86	英語表記	Japanese and Its History				

●科目の主題

日本語の歴史には様々な分野があるが、この授業では、その中で、音韻・表記の分野と敬語の分野を取り上げる。言語は体系性が強く、その体系の中で個々の要素がどのように変遷するか、あるいは、体系そのものがどのように移り変わるかという問題について講ずる。

●授業の到達目標

例えば、古文で「あふぎ（扇）」と書いて何故「オーギ」と読むのか。あるいは、謙讓語といわれる「申す」と「申し上げる」はどのように異なるのか。前半は、ハ行音、ア行・ヤ行・ワ行音など日本語の音韻がどのように変化し、それがどのような形で表記に反映しているか、という問題を扱い、後半は、日本語の敬語の体系を概観し、それがどのように移り変わってきたかという問題を考察する。

●授業内容・授業計画

- 1～3 日本語の音声と音韻

- 4・5 ハ行音など子音の変化
- 6・7 「い・ゐ」「え・ゑ」「お・を」の区別と合流
- 8・9 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い
- 10～12 敬語の体系
- 13～ 敬語の変遷

●評価方法

毎回課される課題の提出（1.5割）と学期末の試験（8.5割）による。

●受講生へのコメント

日本語を扱うとはいえ、なじみのない抽象的な概念が多く、難易度が低いというわけではない。また、古文の知識も前提とする。体系的な理解をするために、知識を積み上げていくという面が強いので、復習が必須である。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 21 .CO]

掲載番号	科目名	現代の地理学	単位数	2	担当教員	山崎 孝史 (文)
87	英語表記	Current Geography				

●科目の主題

現代世界の諸問題に取り組む地理学を理解するために、大きく「地域への地理学のまなざし」、「経済活動を空間的に読み解く」、「地理学が映し出す想像力の世界」、「過去と現在を繋ぐ地図」、「地理学と現実世界の接点」の5つの主題に分け、それぞれの主題における地理学の先端的なアプローチについて具体的事例を通して紹介します。

●授業の到達目標

現代の地理学は、都市と農村、景観、食糧供給、工業立地、流通システム、政治、観光、文化、地図、地理情報、公共政策・環境問題といった多面的な問題を学ぶことのできる分野です。地理学を通して、過去から現在（そして未来）の問題へと、そして人間相互の関係から人間と空間・環境の関係へと、私たちの思考をどのように拡充できるのか、受講生とともに考えていきます。

●授業内容・授業計画

- 1 地理学を学ぶために
- 2 都市のなりたち
- 3 変動する農村の社会
- 4 景観をつくる人々

- 5 農業と食のネットワーク
- 6 工業立地変動のダイナミズム
- 7 流通システムと消費生活の基盤
- 8 地政言説から政治を読む
- 9 観光空間を文化論的に理解する
- 10 地域文化について考える
- 11 現実世界の歴史地理
- 12 想像世界の歴史地理
- 13 地理情報システムを使いこなす
- 14 地理学の公共政策への応用
- 15 環境問題への地理学のかかわり

●評価方法

5つの主題ごとに行なう小テスト（100点）

●受講生へのコメント

下記教科書を必ず購入して、復習とテストに備えて下さい。

教員・科目ホームページ <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamatata/home.htm>

●教材

竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房（2014年）を使用します。

[科目ナンバー : GE HIS 01 22 .CO]

掲載番号	科目名	都市の地理学	単位数	2	担当教員	大場 茂明 (文)
88	英語表記	Geography of Urban Area				

●科目の主題

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長いが、現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について国内外の具体的事例を提示しつつ概説する。

●授業の到達目標

この講義では、地理学のアプローチを通じて、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考え、激動する現代社会の諸問題を理解するための術（すべ）を身につけてもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では、以下の項目にしたがって、映像資料などを用いて国内外の具体的な素材を提示しつつ講述する（数字は授業回数）。なお、最初の15～20分間程度を利用して、コミュニケーション・カードに基づき、質疑応答など前回内容の確認を行う。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか？
- ②～④ 都市の形成過程

地域と文化

- ⑤・⑥ 都市機能分化と空間構造の変容
- ⑦・⑧ 日本の都市
- ⑨・⑩ 現代社会と都市問題
- ⑪・⑫ 都市更新事業とまちづくり
- ⑬・⑭ 人口減少と都市の縮退
- ⑮ まとめと今後の展望：都市の未来像

●評価方法

評価は、毎回の授業終了時に記入してもらうコミュニケーション・カードによる平常点（20%）と、定期試験の点数（80%）によって行う。

●受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。専門用語については、その都度解説や補足説明を加えていくので、授業に集中して臨んでほしい。

●教材

教科書：使用しない（講義資料として、授業時にプリントを配布する）。

参考書：必要に応じて授業時に紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 23]

掲載番号	科目名	文化人類学入門	単位数	2	担当教員	多和田 裕司（文）
89	英語表記	Introduction to Cultural Anthropology				

●科目の主題

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて理解する。それとともに、受講者それぞれが「他者／異文化」と実際にかかわることで「他者／異文化理解」を自覚的に経験する。

●授業の到達目標

本講義は文化人類学を初めて学ぶ者にたいする入門的講義であり、文化人類学の基礎的知識や考えかたを身につけることを目標とする。あわせて人類学的フィールドワークの一端を自ら経験することで、「他者／異文化理解」という営為そのものについての理解の深化をはかる。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化
- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ フィールドワークおよびレポート作成についての説明と助言

- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解
- ⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向
- ⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学
- ⑪⑫ 文化を解釈する
- ⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて
- ⑮ 講義の総括

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。
（レポート課題）

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1) その人が「日本にたいして感じたこと」、(2) 自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生や教員をインタビューの相手とすることは認めない。詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

本講義では、レポート作成のためのインタビューはもちろんのこと、通常の講義においても能動的な姿勢で学ぶことが求められる。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 26]

掲載番号	科目名	環境と文化	単位数	2	担当教員	祖田 亮次 (文)
90	英語表記					

●科目の主題

本講義では、人間－環境関係について、様々な視点から考える。その際、自然科学的な作業から自然現象を明らかにするのではなく、人文学的な視点から、何を問題と捉え、どのように考えればよいのかということを中心に講義を進める。

●授業の到達目標

「自然」や「環境」の意味は、社会状況や時代によって大きく異なるものであることを理解し、我々が「認識」している自然環境と、どのような関係を切り結んでいけばよいのか、多角的・多面的にとらえるための知識と考察方法を身につける。

●授業内容・授業計画

水田や里山は自然なのか？ 近所を流れる河川はなぜこのような形になっているのか？ 国立公園や世界自然遺産はどのような意味を持つのか？ 熱帯雨林の消滅に日本はどう関わっているのか？ エコツアーの背景にはどのような政治的意図があるのか？ 自然災害をどう認識し、克服すべきなのか？

現代は、様々な環境問題が国際政治の場において語られる一方で、人々は「身近な自然」に対しても意識的になりつつある。この講義では、これらの自然や環境に関わる具体的な現象や問題を取り上げながら、私たちがどのように自然や環境と関わっていくべきかを考察する。

考察対象とする具体的事例としては、近畿圏の身近なものから、アジア・ヨーロッパなど世界各地のものを取り上げる。

- ① イントロダクション
- ②～③ 環境決定論・環境可能論、風土論、政治生

態学

- ④～⑦ 河川改修、自然再生、災害文化、流域社会論
- ⑧～⑩ 熱帯雨林、プランテーション、バイオマス社会論
- ⑪～⑫ 焼畑・狩猟採集・水田・里山、半自然・半栽培
- ⑬～⑮ 国立公園・世界遺産、エコツーリズム

●評価方法

評価のおよその内訳は以下のとおりです。出席：20%、小テスト・課題提出：40%、レポート40%

評価は「秀(AA) (2013年以降入学者のみ)」「優(A)」・「良(B)」・「可(C)」・「不可(F)」の4～5段階で、「欠」はありません。過去のおよその成績比率は以下の通り。

AA：5%、A：25%、B：30%、C：20%、F：20%

●受講生へのコメント

本講義は地理学の議論をベースにするが、高校時代に地理を履修していたかどうかは、一切問いません。高校までに地理を履修した人は、地理＝地名や特産品の暗記というイメージを持っているかもしれませんが、本来の地理学は、人間－環境関係を考察することを主眼としています。したがって、少しでも環境認識や環境問題、災害文化等に関心があれば、誰でも受講可能です。ただ、2～3回に1回の割合で、小レポートなどの課題提出を求めますので、それなりの負担にはなります。

●教材

特定のテキストは使用しません。参考図書などがある場合は、講義の際に提示します。

[科目ナンバー : GE HIS 01 27]

掲載番号	科目名	アジアの文化	単位数	2	担当教員	中川 眞 (文)
91	英語表記					

●科目の主題

アジア音楽、ダンス、祭礼などの文化を事例として、コミュニティ型のアーツマネジメントの実態や思想について学ぶ。

●授業の到達目標

アジアのなかでも、主として東南アジア、日本における音楽やダンス、祭礼などの映像を通して、その文化の特質を理解するとともに、それを運営するマネジメントの独特な手法を学ぶ。中産階級の価値観や美意

地域と文化

識を前提とした施設利用中心の欧米型マネジメントではなく、自然災害や紛争、貧困といった問題に直面する地において、アートがコミュニティ構築や再生にどのような役割を果たせるのかという、社会包摂的な実践活動の理解に焦点があてられる。

●授業内容・授業計画

- (1) イントロダクション
- (2)～(6) 東南アジア（タイ、インドネシア、ベトナムなど）におけるアーツマネジメント
- (7)～(13) 日本における社会的排除の強い地域、施設等（障害者施設、病院等）におけるアーツマネジメント
- (14) 東日本大震災とアーツマネジメント
- (15) まとめ

●評価方法

第2回の講義時に「私のなかのアジア文化」というテーマでレポート（800字程度）を提出することが受

講の条件である。この場合の「アジア」には日本は含まない。事前に調べる必要はなく、あなたの体験に即した感想文（レポート）を自由に書いてほしい。最終試験はレポート提出によるが、途中で小レポートの課題も出る。

●受講生へのコメント

「評価方法」の項で書いたように、多くの課題が出される講義なので、生半可な気持ちで受講すると挫折する可能性があるため、注意されたい。

また、レポート等でインターネット検索の文章をそのまま用いるという例が近年散見されるが、それに対しては極めて厳しい態度で臨む。

「アジア」「コミュニティ」「社会的包摂」「社会正義」などに関心のある学生には受講を勧める。

●教材

中川真『アートの力』和泉書院、2013

[科目ナンバー : GE HIS 01 29]

掲載番号	科目名	民族と社会	単位数	2	担当教員	多和田 裕司（文）
92	英語表記	Ethnicity and Society				

●科目の主題

民族は現代世界を理解する上で重要な概念である。それは、論理的に突き詰めれば内実のない存在であるが、しかし人々に強く働きかける力を持っている。民族意識がしばしば紛争や対立の原因となる一方で、民族意識をよりどころとせざるを得ない人々がいることも事実である。近年では民族文化や民族芸能が商品化され、消費の対象となることも日常的になった。本講義は、民族概念についての検討、ナショナリズムと民族、消費社会における民族、多民族国家の実際などをサブ・テーマとしながら、現代社会における民族について広範に考えていく。

●授業の到達目標

本講義では、受講者が民族概念についての理解を深め、かつ民族が前景化する事象に触れることで、現代社会における様々な民族問題について、より柔軟な視点でとらえる能力を養うことを目的とする。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 民族とはなにか：講義の問題設定
- ② 民族概念の変遷
- ③ 民族意識とナショナリズム
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤ 日本社会における多民族性
- ⑥ 現代世界における民族と国家
- ⑦ 対立と共存をどのようにとらえるか

⑧ 消費される民族

⑨ 観光における民族の実体化

⑩ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(1)

⑪ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(2)

⑫ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(3)

⑬ 多民族国家の実際：マレーシアの事例から(4)

⑭ これからの社会へ：民族の共存？解体？消滅？

⑮ 講義の総括

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポートについて）

本講義では「日本社会における民族の諸相」をテーマに、インタビューや参与観察等、いわゆるフィールドワークをもとにレポートを作成する。課題やレポート作成の詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

講義、レポート作成ともに能動的に取り組むことを求める。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 30 .CO]

掲載番号	科目名	観光研究入門	単位数	2	担当教員	天野 景太 (文)
93	英語表記	Introduction of Tourism Study				

●科目の主題

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目である。観光の歴史と現在に関して概観した後、それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半（第2～7回）は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関して考察する。中半（第8～10回）は、現代日本の国内・国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づきつつ概観する。後半（第10～15回）は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ説明する。

●授業の到達目標

21世紀は「観光の世紀」と謳われ、多方面から着目されている。このような中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的（幅広い視野から）、相対的（距離をおいて）、観光現象の本質を捉えるセンスを持てるようにする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「観光」とは何か～観光を定義する
- 第3回 旅と観光の社会史Ⅰ～古代から近世に至るまでの“旅人”の相克
- 第4回 旅と観光の社会史Ⅱ～近代マス・ツーリズムの誕生
- 第5回 旅と観光の社会史Ⅲ～近代マス・ツーリズムの展開とポスト・マス・ツーリズム
- 第6回 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留・混交点としての駅・空港・世界都市…
- 第7回 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の類型
- 第8回 現代日本人の観光スタイルを探る～国際観光アウトバウンド編
- 第9回 日本を訪れる外国人観光客の特徴～国際観光インバウンド編
- 第10回 観光政策の役割と「観光立国」論
- 第11回 観光研究の視点と方法Ⅰ～観光者の心理

と行動をつかむ（観光心理学）

第12回 観光研究の視点と方法Ⅱ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって（観光人類学・文化経済学）

第13回 観光研究の視点と方法Ⅲ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 理論編）

第14回 観光研究の視点と方法Ⅳ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 実践編）

第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～楽しみ（愉しみ）方をデザインする（観光メディア論）

講義形式で展開し、毎回写真や映像資料など、ビジュアルな資料を豊富に提示する予定である。板書は基本的に行わないので、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていく姿勢が求められる。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらう。コミュニケーションペーパーへの回答による平常点（30%）、と期末試験（70%）で評価する。ただし、コメントペーパーへの回答数（≒出席数）が通算で11回未満（出席率70%未満）の場合、原則として評点にかかわらずF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等でやむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが（コミュニケーションペーパーへの回答無き場合）平常点の加点は行わない。

●受講生へのコメント

観光研究は、その制度的側面（法学）、経済・経営的側面（商学・経済学）、社会・文化的側面（社会学・文化論）、工学的側面（地域・景観計画）、福祉・医療的側面（ソーシャル・ツーリズム）など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野である。旅行が好きの人、将来観光に関連する進路を目指す人、ゼミ等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部からの履修を歓迎したい。

●教材

安福恵美子編『「観光まちづくり」再考』古今書院
毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で使用したプリントの再配布はしない。

[科目ナンバー : GE HIS 01 31 .CO]

掲載番号	科目名	観光と文化	単位数	2	担当教員	天野 景太 (文)
94	英語表記	Lecture in Tourism and Culture				

●科目の主題

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会ったり、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光（文化観光）は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしている。観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのその地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまである。

本科目では、こうした“文化”が、どのように観光資源化され、演出され、観光客に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討する。

●授業の到達目標

自らの観光体験や異文化体験を本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来るようになる。文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に呈示する（例：外国の友人に日本文化を紹介する・日本の文化的観光資源をガイドする、など）ためのスキルの基礎が身につく。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光と文化とのかかわり～“世界遺産観光”の展開を例に
- 第3回 観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産の概要と世界遺産検定ガイダンス
- 第4回 観光と文化遺産Ⅱ～文化の継承と遺産の制度化・商品化
- 第5回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅰ
- 第6回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅱ
- 第7回 観光における宗教文化の呈示と消費の諸相
- 第8回 観光における都市文化の呈示と消費の諸相
- 第9回 観光アトラクションの文化史Ⅰ「タワー」

- 第10回 観光アトラクションの文化史Ⅱ「遊園地とテーマパーク」
- 第11回 観光アトラクションの文化史Ⅲ「観光鉄道とクルーズ船」
- 第12回 観光アトラクションの文化史Ⅳ「温泉旅館とホテル」
- 第13回 観光アトラクションの文化史Ⅴ「リゾート」
- 第14回 観光アトラクションの文化史Ⅵ「土産品」
- 第15回 観光とメディア文化～デジタルメディアによる現実拡張経験

授業は講義形式で行う。加えて写真や旅番組やCM等の映像、観光ガイドブックやWEBサイトなど、ビジュアルな資料を豊富に提示する。板書は基本的に行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていくことが求められる。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらおう。コミュニケーションペーパーへの回答(30%)、とレポート(35%)、期末試験(35%)で評価する。ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数(≒出席数)が通算で11回未満(出席率70%未満)の場合、評点にかかわらず原則としてF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが(コミュニケーションペーパーへの回答無き場合)平常点の加点はしない。

●受講生へのコメント

授業内容に関連する検定試験として「世界遺産検定」を本学で実施予定であるが、それに関連するガイダンスと申込受付を授業内で行う。世界遺産や就職に向けての資格取得に興味のある者は受験を推奨する。また、観光に関してより理解を深めたい者は、「観光研究入門」や、文学部の「観光文化論」等を併せて履修するとよい。

●教材

安福恵美子編『「観光まちづくり」再考』古今書院。
毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で用いたプリントの再配布はしない。

[科目ナンバー : GE HIS 01 32 .CO]

掲載番号	科目名	アーツマネジメント	単位数	2	担当教員	中川 眞 (文) 他
95	英語表記	Arts Management				

●科目の主題

コミュニティ再生や地域活性化の社会的技術として近年注目されているアーツマネジメントについて、その思想と実践の基本的手法を、外部講師を交えながら学ぶ。アーツマネジメントの理論と実践は1970年代以降、欧米で彫琢されてきたが、主にハコモノ（美術館や劇場）運営が主眼となってきた。本講義では、それとは一線を画して、社会の問題群と向き合いながら、それに相応しいアートの場を形成してゆくプロセスを丹念に追って社会関与型のマネジメントを学び、私たちとアートとの関係を再考したい。

●授業の到達目標

アーツマネジメントは極めて学際的な領域である。従来の経営学と芸術学の交差点といったところにとどまらず、都市計画、社会福祉学、地域経済学、障害学、環境倫理学といった領域と近接していることを学ぶ。いっぽう、実践知でもあることから、現場で生じる様々な問題群を糸口に、具体的な手法も（座学ではあるが）学ぶ。



〔事例：NPO ココロームの関連施設〕

●授業内容・授業計画

- (1) イントロダクション
- (2) アーツマネジメントの誕生とキーワード

- (3) 多様なアーツマネジメントの手法
- (4) 社会包摂型アーツマネジメント
- (5) 事例1
- (6) アーツマネジメントと文化政策
- (7) 資金調達
- (8) 評価の方法
- (9) 事例2
- (10) 災害とアーツマネジメント
- (11) 医療とアーツマネジメント
- (12) 事例3：外部講師によるレクチャー
- (13) 学生による発表1
- (14) 学生による発表2
- (15) まとめ

●評価方法

座学が基本であるが、様々な課題（宿題）が出され、それに答える必要がある。また、アクティブラーニングの手法を少し取り入れ、チームによる発表も行う予定である。それをまとめて終了レポートにしてもらうが、出席点も加味される。

●受講生へのコメント

「評価方法」の項で書いたように、多くの課題が出される講義なので、生半可な気持ちで受講すると挫折する可能性があるため、注意されたい。「コミュニティ」「アート」「表現」「社会正義」「社会的包摂」などに関心のある学生には受講を勧める。また適宜、野外見学も実施する。

なお、授業目標、計画を達成するためには受講生数が最大で40名が適切と考えており、それより受講希望が多い場合は選抜などの人数調整を行う。

●教材(参考書)

中川眞『アートの力』和泉書院、2013

中川真他（編）『これからのアートマネジメント－ソーシャルシェアへの道』フィルムアート社、2011

地域と文化

[科目ナンバー : GE HIS 01 33]

掲載番号	科目名	アジアの地域と文化 (演習)	単位数	2	担当教員	中川 眞 (文)
96	英語表記	Seminar: Regional and Cultural Studies of Asia				

●科目の主題

インドネシアのガムラン音楽の演奏実習により、アジアの文化を肌で感じる。

●授業の到達目標

ガムラン音楽演奏の基礎訓練からはじめ、いくつかの楽器の演奏法を習得した上で、3～4曲の合奏ができるようになるのが目標である。その過程で、音楽は楽譜にはなく演奏したり聴いたりする身体の側にあるということを実感するだろう。そういった音楽的身体を体験することによって、音楽に対するこれまでの先入観を打ち砕いていくことを期待する。また授業の成果として7月後半に公開のミニ・コンサートをを行う。



(理学部附属植物園での授業の成果公開)

●授業内容・授業計画

- (1) ガムランの手ほどき
- (2～6) ランチャラン形式の演奏法習得
- (7) ガムランに関する座学 (随時)
- (8～12) ラドラン形式の演奏法習得
- (13～14) 演奏の仕上げ
- (15) まとめ

授業は基本的に実習形式であり、初歩からの演奏の手ほどきを行う。音楽経験の有無は問わない。

●評価方法

学期末の終了時に実技習得の見極めチェックを行って評価とする。出席点も重視する。

●受講生へのコメント

楽器の数に制約があるため、受講生の数を18名に制限する。受講希望多数の場合は抽選選抜する。ガムランはコミュニティ重視の音楽であり、他者への関心と寛容性を心がけてもらいたい。また合奏であるから、欠席をして他者に迷惑をかけないという心構えが必要である。

●教材

授業中に配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 34]

掲載番号	科目名	日本事情 I A	単位数	2	担当教員	高坂 史朗 (非常勤)
97	英語表記	Current Japanese Culture and Society IA				

●科目の主題

「日本事情 I A」は留学生に対して現代日本の諸事情を紹介・解説する科目である。なお、本科目受講者は留学生を対象にしているため、留学生以外の学生は単位取得できないので注意すること。

●授業の到達目標

日本の現在の諸事情・諸状況を理解し、日本に関する基礎知識を身につけ、日本での生活を充実させる。

●授業内容・授業計画

日本の政治・経済・社会・法制度・地理・気候・風土などさまざまな事情について紹介する。また留学生が感じた日本人の慣習・価値観について議論する。

なお、期間中に他の専任教員による2回の特別講義が設けられている。

- ① ガイダンス・授業科目「日本事情」について
- ②～⑫ 日本の事情 日本の地理・歴史・風土の解説 現代日本の政治・経済・社会などについての講義をおこなう。
- ⑬⑭ 特別講義2回 (日程については後日連絡)
- ⑮ まとめ

●評価方法

レポート 40% 平常点 (出席・コメント) 60%

●受講生へのコメント

問題意識を明確にしたレポートを特に評価するが、授業中の積極的な参加・質問等についても重視する。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 35]

掲載番号	科目名	日本事情 I B	単位数	2	担当教員	高坂 史朗 (非常勤)
98	英語表記	Current Japanese Culture and Society I B				

●科目の主題

「日本事情 I B」は留学生に対して日本の事情を紹介・解説する科目である。なお、本科目受講者は留学生を対象にしているため、留学生以外の学生は単位取得できないので注意すること。

●授業の到達目標

とくに「都市とその歴史・文化」を主題に日本の歴史とその中心となった都市とその特色や文化を理解する。

●授業内容・授業計画

「日本の都市」で自分の興味をもつ街を調べ、その特色を発表する。なお、期間中に他の分野の専任教員による2回の特別講義が設けられている。

① ガイダンス・日本の都市の概説

②～⑦ 日本の都市 難波宮・平城京・平安京・鎌倉・室町・大坂・江戸・東京

⑧～⑫ 学生の調査 金沢・広島・長崎・札幌・神戸など

⑬⑭ 特別講義2回 (日程については後日連絡)

⑮ まとめ

●評価方法

レポート40% 平常点(出席・コメント)60%

●受講生へのコメント

授業中の積極的な参加・質問等を重視する。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 36]

掲載番号	科目名	日本事情 II A	単位数	2	担当教員	増田 聡 (文)
99	英語表記	Current Japanese Culture and Society II A				

●科目の主題

現代日本および諸外国のポピュラー音楽文化や都市の音楽環境の諸相について検討する。留学生が参加する授業という特性を生かし、受講者間の討議を交えながら授業は進行する。

●授業の到達目標

比較文化論的な観点から現代日本および諸外国の音楽文化・大衆文化を批判的に検討できる視座を獲得すること。および映像・音楽をもちいた効果的なプレゼンテーション技術を修得すること。

●授業内容・授業計画

カラオケ、携帯オーディオプレイヤー、多彩なCM音楽、携帯電話着信音楽、Jポップ、レンタルCD店、音楽配信、YouTube、ボーカロイドなど、現在の日本の都市空間やメディア空間で日常的に目に(耳に)することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本で生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の

音楽や音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と留学生以外の学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は大まかな方向性を示すものであり、受講生の関心に応じて内容は適宜変更される。

授業はゼミ形式を主軸に、ときおり講義を交えるかたちで行われる。数回のレポート提出を経た後、受講生は、日本の(あるいは自国の、または他国の)音楽文化について、PCやiPod等のIT機器を使用しつつ映像や音楽を交えたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。日本や諸外国のポピュラー音楽文化についての比較文化論的な知見を深めようとする学生の受講を期待する。

(1) イントロダクションと授業方針の決定

(2～5) Jポップ、歌謡曲における「日本的イメージ」の諸相

(6～9) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について

(10～15) 諸外国の都市音楽環境・音楽メディア環

地域と文化

境について

●評価方法

発表内容を中心に、出席点、討議への参加度、毎回課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する。

●受講生へのコメント

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、留学生以外の学生を選抜して受講生の上限を20名程度とする予定。留学生以外の学生は履修登録だけでは受講できない場合があるので注意すること。受講生の選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること（初回の授業に欠席した学生の受講は認めない）。また、出席と討議への参加度を非常に重視するので積極的な授業参加が望まれる。受講に際しては基礎的な情報処理技能（ウェブ閲覧と必要な情報の検

索、音楽・動画の提示、プレゼンテーション資料作成など）を身につけていることが前提となる。発表準備はかなりの負担となるので、覚悟して受講すること。

●教 材

- ・烏賀陽弘道『J ポップとは何か』（岩波新書）
入手の上通読しておくこと。また、次の参考文献も読んでおくのが望ましい。
- ・輪島裕介『創られた「日本の心」神話—「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社新書）
- ・津田大介＋牧村憲一『未来型サバイバル音楽論—USTREAM、Twitterは何を変えたのか』（中公新書ラクレ）
- ・円堂都司昭『ソーシャル化する音楽—「聴取」から「遊び」へ』（青土社）

[科目ナンバー : GE HIS 01 37]

掲載番号	科目名	日本事情Ⅱ B	単位数	2	担当教員	コルナトウスキ ヒェラルド (非常勤)
100	英語表記	Current Japanese Culture and Society II B				

●科目の主題

This course is originally intended for foreign exchange students, but Japanese students who wish to learn more about Japanese society from a different vantage point, or who are interested in social topics and wish to experience classes taught in English are welcome as well.

The aim of this course is to examine contemporary social and cultural issues in Japan from the standpoint of various minority groups. From there we will focus on how structural elements like economic tendencies, cultural ideologies and political decision-making interact with Japan's social fabric and its daily life. I will also provide comparisons with other East Asian states for reference.

●授業の到達目標

By examining contemporary social issues in Japan, the goal is to develop a further understanding of the Japanese society in general and to contextualize current daily-life patterns in particular. Fieldwork will be included in order to become familiar with Osaka's social structure.

●授業内容・授業計画

- Week 1: The Japan Phenomenon and the Social Sciences
- Week 2: Class and Stratification: An Overview
- Week 3: Geographical and Generational Variations

- Week 4: Excursion to Asaka Area (next to campus)
- Week 5 & 6: Forms of Work in Cultural Capitalism
- Week 7: Diversity and Unity in Education
- Week 8: Gender Stratification and the Family System
- Week 9: 'Japaneseness', Ethnicity, and Minority Groups
- Week 10 & 11: *Fieldwork Assignments*
- Week 12: Collusion and Competition in the Establishment
- Week 13: Popular Culture and Everyday Life
- Week 14: Civil Society and Friendly Authoritarianism
- Week 15: Reflections and prognoses

●評価方法

There is no written examination. Grades are based on class attendance (60%) and fieldwork assignments/presentations (40%).

●受講生へのコメント

Class attendance and fieldwork are important for this course. Each class will have 10 to 15 minutes for discussion and opinion-sharing.

●教 材

Course materials will be based on Yoshio Sugimoto's "An Introduction to Japanese Society: 3rd Edition", Cambridge University Press (2010) and summaries will be handed out every class.

[科目ナンバー : GE HIS 01 41]

掲載番号	科目名	日本の古典文学Ⅰ	単位数	2	担当教員	小林 直樹 (文)
101	英語表記					

●科目の主題

人間が、長い時間の経過によっても侵食されることのない、不易の側面を有していることは言うまでもない。古の書物をひもとけば、古人の喜び、悲しみ、悩む姿が現前して、我々の共感を誘い、また数々の智慧の言葉が発せられて、我々の心をとらえる。時代を超えて読みつがれる古典というものは、こうした点によって支えられている面が大きいと言えよう。

けれども、その一方で、人間の営みの中には、時代と共に変化し、あるいは失われて、後代の人間の常識や感覚では、もはや捉えがなくなってしまうような部分が存在することも否定できない。古典を読む際、この点はいくらかの障害となって前方に立ちふさがることであろう。が、我々が少し努力して古人の側に身を添わせるなら、そこに、日頃何らの疑念も抱かずに当然視してきた「常識」を相対化し、くつがえす新鮮な視点が潜んでいるのを発見することも稀ではないのである。

何百年という時を超えて、古典の世界に飛び込み、しばし古人と哀歓を共にし、また大いに彼らに学びたいと思う。

●授業の到達目標

前近代の日本人が遺した文章と絵画から、我々とは

異なる彼らの発想や思惟、世界観を読み取り、現代の「常識」を相対化する視点を養う。その上で、現代人が古典を読む意義を理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

本年度は、説話絵巻の二大名作、『伴大納言絵巻』と『信貴山縁起絵巻』をよむ。詞書(文章の部分)を読んだ後に、それに該当する絵画部分を鑑賞し、物語を総合的に味わう。予定している授業の概略は以下の通り。

ガイダンス(1回)、『伴大納言絵巻』(6回程度)、『信貴山縁起絵巻』(6回程度)、まとめ(1回)。

●評価方法

試験による。ただし、授業中に書いてもらうコミュニケーションカードの内容も加味する。

●受講生へのコメント

物語や歴史が好きな人向き。授業中はテキストとスクリーンに写される絵画世界にひたすら没頭してほしい。

●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：宮本常一『絵巻物に見る日本庶民生活誌』(中公新書)他

[科目ナンバー : GE HIS 01 42]

掲載番号	科目名	日本の古典文学Ⅱ	単位数	2	担当教員	山本 真由子 (文)
102	英語表記					

●科目の主題

日本文学は、上代から現代に至るまで、外国の文学の影響を受けて、その表現世界を豊かにしてきた。特に、平安時代の文学は、中国文学の濃厚な影響を受けている。まず、中国の漢詩・漢文をまねて、日本においても漢詩・漢文が作られた。また、古代日本人の発明した歌すなわち和歌にも、漢詩・漢文の表現が受容された。そして、漢字から万葉仮名を経て、「かな」が成立するに及んで、和歌に加えて、和文による「日記」や「物語」といった文学作品が書かれるようになった。

さらに、平安時代の文学の表現世界を豊かにしたのは、中国の漢詩・漢文からの一方的な影響のみでは

ない。日本の漢詩・漢文から和歌・和文へ、或いは和歌・和文から漢詩・漢文へという相互の関わりが、日本文学の新たな表現を生み出していったと考えられる。

外国の文学と日本文学との関わりは、今後も続くだろう。古典文学の表現を、外国の文学との関わりを考えて読み解くことにより、日本文学の表現の特質の一端を明らかにしたい。

●授業の到達目標

平安時代の文学作品を、漢詩・漢文と和歌・和文との関わりを考えて、読み解く方法を学ぶ。併せて、日本文学と外国の文学との関わりをとらえ、世界の文学作品に幅広く関心をもつ姿勢を培う。

文学と芸術

●授業内容・授業計画

平安時代の代表的な文学作品を読み、漢詩・漢文と和歌・和文とが関わりながら相互に表現世界を豊かにしてゆく諸相を具体的にとらえ、その意味を考える。授業の概略は以下の通り。

ガイダンス（1回）、和歌文学と漢詩文（4回程度）、日記文学と漢詩文（4回程度）、物語文学と漢詩文（4回程度）、まとめ（1回）。

●評価方法

期末のレポートによる。ただし、授業中に書いても

らうコミュニケーションカードの内容も加味する。

●受講生へのコメント

講義では、それぞれの文学作品から、特に皆さんに読んでおいてほしい箇所をとりあげる。興味を持った作品については、ぜひ作品を通して読んでほしい。

●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：三木雅博『和漢朗詠集』（角川ソフィア文庫）
他

[科目ナンバー : GE HIS 01 43]

掲載番号	科目名	東洋の文学	単位数	2	担当教員	福田 知可志 (非常勤)
103	英語表記	Oriental Literature				

●科目の主題

清代の恋愛小説である『紅樓夢』を読む。

●授業の到達目標

『紅樓夢』は十八世紀後半に成立した、中国の古典小説の傑作である。本授業では、実際に『紅樓夢』の原文に触れ、映像化された資料と合わせて鑑賞しながら、『紅樓夢』及び中国の古典小説に対する理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

初回は中国の古典小説の歴史と、『紅樓夢』の内容および評価について概説する。以後は全百二十回のうち、主人公賈宝玉とヒロイン林黛玉・薛寶釵らの描写を中心に、幾つかの回を取り上げながら読み進めていく。また授業の後半では、かつて大陸でテレビドラマとして放映された映像も紹介する。

授業計画は以下の通り。

第1回 ガイダンス及び作品概説

第2回～第14回 作品選読及び解説

第15回 期末試験

●評価方法

出席点（三分の一欠席、すなわち五回欠席者は不合格とする）及び授業中で課されるレポートを平常点として三割、期末試験を七割とし、総合して評価を決定する。

●受講生へのコメント

原文を扱うため、本来は漢文の基礎学力を身につけていることが望ましいが、映像を用いてストーリーを確認していくので、漢文初学者や『紅樓夢』を始めて読む者も身構える必要はない。『紅樓夢』の魅力とその面白さを味わって欲しい。

●教材

授業時に作成した資料を配布する。

参考書：魯迅著・中島長文訳注『中国小説史略』（平凡社、一九九七年）

訳本：『新訳紅樓夢』井波陵一訳（岩波書店、二〇一三・二〇一四年）

[科目ナンバー : GE HIS 01 45]

掲載番号	科目名	日本の近代文学	単位数	2	担当教員	奥野 久美子（文）
104	英語表記	Modern Japanese Literature				

●科目の主題

文学研究とは何なのか、大学で敢えて日本近代文学を学ぶとはどういうことか、その意味と面白さの一端を知ることが主題とする。またその前提として、代表的な作家や作品にできるだけ多く触れるための動機づけもおこなう。

●授業の到達目標

鑑賞とは異なる研究の方法を学び、その一端を身に付けることを目標とする。また作品に描かれる事象や思想の時代的背景を知り、自らの環境や思想との比較により考察を深める。

●授業内容・授業計画

本講義では、与謝野晶子、夏目漱石、志賀直哉など、日本の近代文学を代表する作家たちの作品の中から、特に、生命の誕生を描く場面を中心に抄出して、時代や風俗、思想など、作品の諸背景をふまえた読みを試みる。同様の場面をどう描くかで作家の個性が際立つこともあり、相互比較しつつ読みを深めていく。

1. ガイダンス
2. 与謝野晶子「産屋物語」ほか（1）
3. 与謝野晶子「産屋物語」ほか（2）
4. 夏目漱石「道草」（抄出）（1）
5. 夏目漱石「道草」（2）
6. 夏目漱石「道草」（3）
7. 志賀直哉「和解」（抄出）（1）
8. 志賀直哉「和解」（2）
9. 志賀直哉「和解」（3）

10. 有島武郎「小さき者へ」（1）
11. 有島武郎「小さき者へ」（2）
12. 芥川龍之介「河童」（抄出）ほか（1）
13. 芥川龍之介「河童」ほか（2）
14. まとめ
15. 授業内試験

●評価方法

授業への参加姿勢、一作品ごとに課する小レポート、および学期末試験（授業時間内）。

●受講生へのコメント

毎回、対象作品の下読みなどの準備を必要とする。抄出作品は、全体を各自必ず読んでおくこと。

●教材

プリントを配布する。各自通読しておくべき作品については授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 47]

掲載番号 105	科目名	東洋美術の流れ	単位数	2	担当教員	土井 久美子 (非常勤)
	英語表記	History of Eastern Art				

●科目の主題

日本を中心に東アジア各地の彫刻・絵画・陶磁・染織・金工・漆工など様々な視覚芸術についての歴史を概観する。

●授業の到達目標

受講生は受講期間中に、授業でとりあげられた作品を、実地見学し、作品に関する客観的知識を単に授業で身につけると同時に、作品を実際に見ることによって、その臨場感を直感的印象を記憶してほしい。

●授業内容・授業計画

- ① 「東洋」と「西洋」の概念、「美術史」について学ぶ。キーワード:西洋美術、東洋美術、日本美術、美術・工芸、美術史
- ②③ 生活と美術、芸術の関わりについて考える。キーワード:日常生活と美術
- ④⑤⑥ 日本の絵画について、中国、西洋との関わりを考える。キーワード:水墨画、やまと絵、漢画、絵巻、屏風絵、掛け軸
- ⑦⑧⑨ 日本の工芸、中国、朝鮮半島との関わりなどについて学ぶ。キーワード:正倉院、漆工、陶磁、金工、染織、蒔絵、工芸、美術工藝、クラフト、デザイン、伝統工芸
- ⑩⑪⑫ 日本の彫刻について学ぶ。キーワード:仏教美術、仏像、荘厳
- ⑬⑭ ジャンルを超えて。日本に人の美意識と美

術。キーワード:浮世絵、書、印籠・根付、小袖、茶湯、民芸

- ⑮ レポート（試験）のために（まとめ）

●評価方法

出席は全授業の8割を前提とする。開催中の展覧会、社寺の現地見学を前提とするレポートを必ず各一本、計二本提出すること。提出レポートの内容と本数によって評価する。出席と出席態度を評価の基準に加える。授業態度のよくない学生は退出願うこともある。出席点20点、小レポート1本20点×2本、期末レポート(または試験)40点の100点を持ち点として評価する。

●受講生へのコメント

芸術作品との出会いは現代においては直感的なものとして位置づけられる。しかしこの講義では、歴史的評価の定まった作品を通じて、その作られた背景、制作の意図などについて学習する。作品を通じて、現代生活のなかで忘れられている日本そして東洋文化の伝統を再認識する手がかりにしてほしい。

●教材

受講生の人数が多くなならない場合はプリントを配布する。(一定人数を超えた場合は配布しない)

●参考図書

『日本美術館』小学館ほか、講義のほかに必要に応じて示す。

[科目ナンバー : GE HIS 01 49]

掲載番号	科目名	音楽の諸相	単位数	2	担当教員	増田 聡 (文)
106	英語表記					

●科目の主題

英米圏のブルース、ジャズ、ロック、ブラックミュージックを中心とする20世紀のポピュラー音楽史を講じる。19世紀末に発明され、20世紀前半に欧米を皮切りに世界中へと普及していったレコードやラジオといった音響再生産メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多彩なポピュラー音楽が市場に出回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ20世紀の音楽産業の発展に最大の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、視聴覚資料に基づいて概観していく。

●授業の到達目標

20世紀英米ポピュラー音楽史の展開について標準的な知見を獲得し、それを社会史的・文化史的な背景と関連づけて理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽形成の社会的背景
- (2～4) 初期音楽産業、ジャズ、ブルース（アメリカ黒人音楽文化の浮上と複製メディアの役割）
- (5) ロックンロールの誕生（ティーンエイジャーと音楽産業）
- (6) 公民権運動とフォークロック、ビートルズ
- (7) 60年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黒人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック
- (10) 70年代ロックの拡大と展開
- (11) パンク・ロック

- (12) 70年代黒人音楽の発展(ディスク文化の浮上)
- (13) 80年代のMTV文化とヒップホップ
- (14) 90年代以降のテクノ/クラブカルチャーの展開
- (15) MTV以後の音楽/映像文化の諸相とインターネット

順序は入れ替わったり、二つの主題を一つのコマで行う場合もある。

●評価方法

学期末試験の点数のみにより評価する。出席は一切とらない。授業内容に強い関心を持つ学生の履修を希望する。

●受講生へのコメント

単位取得が困難な授業であるので、単に時間割を埋めるための履修登録はお勧めしない。初回授業に欠席した学生の受講は認めない。視聴覚資料を多用するので、授業中の私語には厳しく対処する。また、Wikipedia、YouTube等を活用して授業外での積極的な自学自習を行うこと。

●教材

授業内容と関連する、あるいは発展的な内容を含む参考書として下記を挙げる。購入の必要はないが、授業期間内に通読しておくことが望ましい。

- ・増田聡・谷口文和『音楽未来形—デジタル時代の音楽文化のゆくえ』（洋泉社）
- ・大和田俊之『アメリカ音楽史—ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ）
- ・長谷川町蔵+大和田俊之『文化系のためのヒップホップ入門』（アルテスパブリッシング）

[科目ナンバー : GE HIS 01 50]

掲載番号	科目名	視覚文化の世界	単位数	2	担当教員	石川 優 (非常勤)
107	英語表記					

●科目の主題

現代日本には、マンガ、アニメ、ゲーム、イラスト、動画といったさまざまな視覚文化があふれている。とりわけマンガはこれらをつなぐハブとして機能しており、今日の巨大な視覚文化群を特徴づける重要な要素

となっている。この授業では主に「表現」、「創作」、「受容」という観点から、私たちの身近な視覚文化であるマンガについて考察する。

●授業の到達目標

授業で扱う事例や理論について学ぶことをとおして、

身のまわりにある視覚文化をただ漫然と受容するだけでなく、それらを批判的に検討し、問題意識を言語化できるようになる。

●授業内容・授業計画

授業は講義形式でおこなう。まず、マンガについて概括的に理解を深め（第1～4回）、次に、「創作」と「読み」というふたつの視点からマンガを検討し（第5～10回）、最後に、多様な言語圏やメディア環境におけるマンガの諸相を論じる（第11～13回）。以下の授業計画は暫定的なものであり、受講生の人数や関心などを考慮して変更する場合がある。

1. 概論
 - (1) 視覚文化としてのマンガ
 - (2) 語義（の多層性）
 - (3) 形成史
 - (4) マンガの表現構造
2. マンガを「創作する」ということ
 - (1) マンガにおける「作者」
 - (2) 記号的な身体
 - (3) キャラクターの浮遊、拡散、伝播

3. マンガを「読む」ということ
 - (1) 少年マンガと「少年」
 - (2) 少女マンガと「少女」
 - (3) 「越境」的な読者
4. 現代におけるマンガの諸相
 - (1) 「本」ではないマンガのかたち
 - (2) 海外におけるマンガ
 - (3) ハイブリッド化するマンガ
5. 総括と補遺

●評価方法

毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容（40%）と期末試験（60%）で評価する。

●受講生へのコメント

受講生には、ただ講義を聴講するだけでなく、能動的に授業に参加する態度が期待される。意見を求められた際には積極的に発言してほしい。授業中の私語はほかの受講生の迷惑となるので慎むこと。

●教材

プリントを配布する。参考文献は、授業内で適宜指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 51]

掲載番号	科目名	文学と芸術への誘い（演習）	単位数	2	担当教員	高梨 友宏（文）
108	英語表記	Seminar:Introduction to the Literature and Art				

●科目の主題

芸術ないし芸術作品に関する共通理解を、美学・芸術学関係の文献の読習、発表、受講者相互のディスカッションを通じて深める。

●授業の到達目標

芸術諸ジャンルや時代を特に限定することなく広く芸術現象一般について、その本質、機能、魅力、意義等について、受講者とともに考察する。この演習を通じて、芸術ないし芸術作品への理解を深め、併せて、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を養う。

●授業内容・授業計画

授業は主として、受講者の「発表」によって構成される。発表に際して受講者は原則的に以下に挙げる1)～3)の手順に則ることとする。すなわち、

- 1) 発表に際して、受講者は、関心を持つ作品（あるいは芸術家）を挙げる（パソコンCD、DVD、書画カメラ、その他による作品提示）。
- 2) なぜその作品（あるいは芸術家）に関心があるのか、なぜそれが好きなのか等について、それぞれの見解を開陳してもらう。それぞれの意見表明に対して、他の受講者および講師から質疑

を差し向け、ディスカッションを展開する。講師は必要に応じて、美学・芸術学上の見解を紹介し、適当な文献の読習を指示するなど、ある程度の考察の方向を示す。受講者はそれぞれの課題を遂行しつつ、自らの見解を深め、更新する。

- 3) 二巡目降の発表者は、更新された見解について発表し、ディスカッションを深める。

授業計画は次の通り。

- ① イントロダクション（手順の説明、発表順の決定、自己紹介等）
- ② 講師による発表の例示。
- ③-⑭ 受講者による発表演習（1回につき2-3名）。
- ⑮ 総括

●評価方法

期末試験は行わない。発表50%、討議への参加30%、出席20%（ただし出席率が60%以下の場合は欠点とする）。

●受講生へのコメント

受講者数は15名までとする。

●教材

授業中に適宜指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 01]

掲載番号	科目名	数学の考え方 1	単位数	2	担当教員	河内 明夫 (理 特任)
109	英語表記	Concepts of Mathematics 1				

[平成24年度以前に「数学の歩み」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。]

●科目の主題と目標

数学は科学の言葉であり、現在の科学文明の礎をなしている。数ある学問の中で一番役に立っているのは数学であると言っても過言ではない。しかし数学には、役に立つという実益の面だけでなく、美意識に訴える芸術的な面があり、一つの文化をなしている。多くの数学者は、実益の面より、むしろ美意識に動かされて数学を作ってきたと思われる。また歴史は、美意識を動機として作られた美しい数学が、時代を経て役に立つことを証明している。

この講義では、数学の面白さ、美しさ、文化としての数学を伝えたい。そこから、数学の考え方が学び取れればと思う。

●授業内容・授業計画

結び目は、身近な生活に取り入れられているのみならず、現在、数学のいろいろな研究分野と関連しながら研究されており、またいろいろな科学の研究においても登場している。この授業では、結び目をキーワードに、いろいろな結び目に関する話題、特に数学やいろいろな科学に関する話題を紹介する。それが如何なる数学になっているかを学習することにより、数学の考え方を理解する。

●評価方法

指定回数以上の提出レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

数学の予備知識としては、大学への文系志望者が学習する高校までの数学を仮定する。

●教材

教科書は用いない。参考書は講義のなかで紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 02]

掲載番号	科目名	ニュートンからアインシュタインへ	単位数	2	担当教員	内藤 清一 (非常勤)
110	英語表記	History of Physical Concept from Newton to Einstein				

●科目の主題

古典物理学から相対性理論や量子力学に代表される現代物理学に至る歴史的過程において、種々の自然現象を理解するために先人達に依って工夫、発見された種々の物理的思考法を、出来るだけ易しく理解できるように講義する。

●授業の到達目標

この“文科系学生の為の講義”を通して、次のような「21世紀的認識」を獲得出来るようになる事を(講義者の)“大きな目標”とする:「絶対的真理」が(我々の人類世界を含む)全宇宙を支配している」と云う基本的認識は、“21世紀に生きる文科系若者達にとっても、欠かすことが出来なくなってくる”であろう。「ああ言えば、こうも言える」との従来の学問では、最早21世紀の諸問題に対処できず、21世紀を救うことは出来ない。

●授業内容・授業計画

特に、力学的現象を中心に、ビデオ教材を利用しながら授業を進める。

1) ニュートンの法則 2) リンゴと月 3) 調和振動 4) 宇宙の航行 5) エネルギーの保存 6) 運動量の保存 7) 角運動量 8) 四つの力 9) 落体の法則 10) 慣性 11) 円運動 12) ミリカンの実験 13) ケプラーの法則 14) 波動 15) 温度と気体の法則 16) 曲がった空間とブラック・ホール

更に、“物理学読本”(朝永振一郎編、みすず書房)を準教科書として採用し、以下の項目より適宜説明する。

1) 月はなぜ地球に落ちてこないか。地球の重さはどうしてはかるか。2) 光が波であるとはどういう意味か。3) エネルギーの旅 4) 電気振動 5) 原子論の発展 6) 原子内部の構造 7) 量子の概念と物理学の将来

●評価方法

出席率、中間試験及びレポートなど。

●受講生へのコメント

講義内容が広範囲にわたるので欠席しないように心がける。また、講義項目は講義の進捗状況により変わる。

ることがある。数式は若干使用する。

●教材

教科書 朝永振一郎 “物理学読本” (みすず書房)。

[科目ナンバー : GE NAT 01 03]

掲載番号	科目名	ミクロとマクロの世界	単位数	2	担当教員	牲川 章 (理 特任)
111	英語表記	Microscopic and Macroscopic Worlds				

●科目の主題

自然界の理解に向けたあくなき挑戦を通じて、一方でミクロ世界、他方でマクロ世界の理解が進んできた。ミクロ世界に分け入っていくと以下のような階層構造が見えてくる：物質→分子→原子→原子核+電子、原子核→陽子+中性子→クォーク。現在までにクォークは6種類確認されている。電子は、仲間と共にレプトンと呼ばれるグループを構成しているが、このグループも6種類の粒子から成っている。ここまでの、現在到達しているミクロ世界の最前線である。他方、恒星や宇宙などのマクロ世界に関する関心は太古の昔から存在した。現在では、星の構造やその進化、並びに宇宙そのものの進化に関する理解が深まり、これらは上述のミクロ世界の物理学と密接に関係していることが判明している。

本科目では、ミクロ世界からマクロ世界に亘る物理学を、その有機的つながりを軸にできるだけ数式を用いずに平易に解説する。

●授業内容・授業計画

以下の順序で進める。

1. 物性物理学

物質は分子、原子から出来ているシステムであ

るという視点から解説する。磁石、超低温での超伝導現象などをとりあげる。

2. 素粒子物理学

上述のミクロ世界の物理学を採りあげる。2008年度ノーベル物理学賞の受賞対象となった南部陽一郎 (大阪市大特別荣誉教授：故人)、小林・益川の理論についても概説する。

3. 宇宙物理学

恒星の構造とその一生、138億年前のビッグバンに始まる宇宙の進化と現在の宇宙の構造などについて概説する。

●評価方法

理解度 (毎回提出、出席票を兼ねる)、出席状況等による総合評価。

●受講生へのコメント

授業中の質問は歓迎する。又、理解度を計るために毎回配布する用紙に「質問」を書き加えることも歓迎する。尚、上記の授業内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、プリントを毎回配布する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 04]

掲載番号	科目名	化学の世界	単位数	2	担当教員	小寺 正敏 (理) 他
112	英語表記	World of Modern Chemistry				

●科目の主題

私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめとするエレクトロニクス、自動車、医療機器などに使われている素材は高度な科学技術の上に成り立っている。無論、私たちの身体は化学物質からできており、生命体としての機能は物質の性質に支えられている。本科目では、化学を専門としない学生に、化学に興味をもってもらえること、ちょっとした化学の知識と考え方が質の良い生活 (QOL = Quality Of Life) を日常的

に送るために大変役に立つことを念頭において、化学と私たちの関わりについて多彩な話題を提供する。

●授業の到達目標

日常的に接する身の回りの化学製品や、生物に由来する化学物質、歴史やニュースに登場する化学物質について表層的なとらえ方から一歩進んで、化学の原理・考え方に基づいて理解する力を養う。

●授業内容・授業計画

3名の講師によるオムニバス形式で実施する。各タームでは以下のテーマについて解説する。

現代の自然科学

第1ターム 身の回りの化学

化学の基礎をふまえて、身の回りの化学を考える。

第2ターム 香りの化学

香りを通して、化学物質と生物の関わりを解説する。

第3ターム 素材の化学

先端素材のなりたちを、化学の観点から解説する。

●評価方法

毎回の平常点に加えて、オムニバスの各タームで随時小テストを行い、総合的に成績を評価する。

●受講生へのコメント

なるべく専門用語は使わず、わかりやすく説明する。化学になじみのない受講生も歓迎する。

上記の講義内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、教材は担当者が提供する。

授業担当者 理学研究科物質分子系専攻 中沢 浩・小寄正敏・塩見大輔

[科目ナンバー : GE NAT 01 05]

掲載番号	科目名	現代の分子科学	単位数	2	担当教員	中島 信昭 (理 特任)
113	英語表記	Modern Molecular Science				

●科目の主題

我々は地球温暖化、エネルギー、原子力エネルギー問題に直面しており、避けて通れない。本科目ではこれら人類の危機にどう対処し、考えるかを分子科学(物理化学)の観点から紹介する。夏の暑さ、台風、節電、将来のエネルギー、原子力エネルギーとその廃棄物処理など、日常的にこれらの問題が顕在化しており、油断してそのままにしておくとは相当な困難に陥るであろう。

理科系の分野を専門としない学生に説明するが、空の色は青などの光に関連した現象の説明から入り、関連した簡単な実験、燃焼、熱膨張、LNGの作製、二酸化炭素で水が酸性化する、などを実演し、これらの根底にある物理、化学の法則はどのようなものかについて紹介する。

●授業の到達目標

地球温暖化とエネルギー、そして原子力に関連した問題に理解を深め、風力、太陽電池、人工光合成などの再生化のエネルギー、省エネ、原発、石炭、LNG火力発電所の位置付けを考える。今後どう対処していくのか、について各々考えをまとめる。これらを通じて物理、化学に親しみ、関心が深まることを期待している。

●授業内容・授業計画

以下の課題で講義し、中間テスト、レポートを課す。

① 爆発するエネルギー需要、未来のエネルギー

は？

② 光、色、空の青、水の青 夕焼け

③ 燃焼、ろうそくの科学

④ 熱膨張 海面上昇、LNG

⑤ 海の酸性化 過去の気象

⑥ 人類の危機：地球温暖化 対策？

⑦ 我々は何(元素)からできているか？どこから来たか。

⑧ 中間テスト

⑨ 核のエネルギー(核融合、核分裂)、レーザー

⑩ 原子力発電所事故、廃棄物、原爆

⑪ トリウムって何？

⑫ 人間100ベクレル

⑬ 水素エネルギー、再生可能エネルギー

⑭ レポート

●評価方法

レポートと、中間テスト、出席を含む平常点を加味した総合評価。

●受講生へのコメント

温暖化、エネルギー問題、原子力に関する疑問・質問に物理・化学の観点から応えます。

●教材

教科書の指定なし。教材はパワーポイントのコピー等を提供する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 06]

掲載番号	科目名	新しい動物行動学	単位数	2	担当教員	幸田 正典 (理)
114	英語表記					

●科目の主題

生命の誕生・進化・多様性など生物のさまざまな本質は自然淘汰理論で説明できる。この理論を背景に、動物の諸形質、社会構造、諸行動、さらには認知能力や知性の進化について、具体例を出しつつ幅広く説明する。ヒトも学習対象。

●授業の到達目標

講義内容をほぼ理解し、自然淘汰理論に基づく行動生態学や認知行動学などのものの見方を身につける。

●授業内容・授業計画

主な講義内容とキーワード

- 第1-2回 動物行動の研究はどのように進めるのか？(仮説検証研究の進め方。失敗の対処)
- 第3-4回 自然淘汰とは何か？自然淘汰と人為淘汰。生命誕生の過程。雄って何？雌って何？なぜ性比は1:1？最適戦略。その他多数の話題。
- 第5-8回 動物の子育てと多様な婚姻形態、性淘汰、利害の対立、動物の性転換と性決定様式、精子競争、動物の子殺し、脊椎動物の社会の進化。雌が雄を操る社会、利他行動。
- 第9回 アリやハチの社会：真社会性、血縁淘汰、利他行動。

- 第10-11回 社会行動の進化、脊椎動物の社会認知能力とその進化。顔認知、鏡像認知。
- 第12-13回 動物の会話、交信。動物の様々な社会的知性。動物の嘘、意図的騙し、意識、模倣。
- 第14-15回 ヒトは何処から来たのか？ヒトの多様性と「人種」とは？行動生態学から見るヒトの行動特性、ヒトにとっての性。

●評価方法

毎回の小テスト及び質問票(計30点)、定期試験(70点)の100点満点で採点する。

●受講生へのコメント

高校生物を履修していなかった人にも理解でき、履修していた人にとっても新しい内容の講義をする。特に、動物やヒトの行動に興味のある人に受講を薦める。「なるほどそういうことやったんか！」が多い授業。

●教材

毎回印刷物の資料を配布する。教科書は使わない。
参考図書:進化とは何か？(長谷川真理子)岩波ジュニア新書;クジャクの雄はなぜ美しい？(長谷川真理子)紀伊国屋書店;乱交の生物学(バークヘッド)新思索社;政治をするサル(ドヴァール)平凡社;銃・病原菌・鉄(上下)(ダイヤモンド)草思社;(その他は講義中に紹介)

[科目ナンバー : GE NAT 01 07]

掲載番号	科目名	生物学への招待	単位数	2	担当教員	田中 俊雄 (理) 他
115	英語表記					

●科目の主題

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、生命の最も基本的な単位である細胞(遺伝子・タンパク質)について理解し、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物の多様性やヒトとの関わりについて論じる。次いで、海洋大型動物を題材として形態や行動、繁殖システムなどマクロな視点から生物進化を解説する。さら

に、生命の特徴の1つである環境に対する反応について、主に植物を例にとって概説する。

●授業の到達目標

[第1ターム] まず、遺伝子DNAに刻まれた暗号が多様なタンパク質へと返還され、それらタンパク質のはたらきによって細胞を基本単位とする生命現象が営まれることを理解する。ヒトの遺伝子情報が解読された今日においても、微生物はあいかかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。このように多様な微生物の

姿をとおりして、その分類上の位置づけや生物界における意義と役割について理解する。

[第2ターム] ウミガメやペンギン、アザラシ、イルカなどの大型海洋動物と陸上動物の対比を軸に、形態、生理、回遊、繁殖システムなどマクロな視点から、セキツイ動物の進化について学ぶ。あわせて、迫りくる温暖化とその影響についても理解する。

[第3ターム] 生物は、まわりの環境の情報を捉え、それに適切に反応することによって生命活動を営んでいる。まず、植物の生命活動に影響する環境要因の種類と反応の概要について理解する、次に、各環境シグナルの受容のしくみ、受容されたシグナルの変換・伝達機構、そして伝達されたシグナルに対する応答や適応のメカニズムについて理解する。

●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞とは何か
2. 遺伝子、タンパク質とは何か
3. 微生物とは何か
4. 微生物の多様性
5. タームのまとめと小テスト

[第2ターム] 担当：松沢慶将

1. ハ虫類、鳥類、哺乳類の形態、生理、ならびに生息環境への適応
2. クジラやウミガメの回遊とその

意義、および定位能力

3. ハ虫類における性決定の仕組みと意義
4. タームのまとめと小テスト

[第3ターム] 担当：保尊隆享

1. 環境要因の種類と反応の概要
2. 光に対する反応
3. 重力に対する反応
4. 水に対する反応
5. 温度に対する反応

[まとめ] 担当：1. 田中俊雄

●評価方法

第1タームおよび第2タームに関しては、各タームの最終日に実施する小テストによって行う。第3タームに関しては、課題への回答の評価によって行う。3つのタームの成績を平均して評価するが、1つのタームにおいても評価点がゼロであった場合（例えば小テストを受けなかった場合）は不合格とする。

●受講生へのコメント

多様な生物界の構成要素について幅広く扱うが、それぞれに対して興味をもって受講してほしい。

●教材

プリント：適宜配布 参考書等：田中担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』（培風館）、保尊担当：テイツ・ザイガー『植物生理学』（培風館）

[科目ナンバー : GE NAT 01 08]

掲載番号 116	科目名	地球の科学	単位数	2	担当教員	益田 晴恵 (理) 他
	英語表記	Review of Earth Science				

●科目の主題

人間の社会活動と関係の深い地震や都市災害、環境汚染、天然資源などについて中心の話題としながら、地球の歴史や現在の姿、将来予測などを、地球に関係する科学史や最長の地球学の知識に基づいて概説する。

●授業の到達目標

21世紀は「環境の世紀」と言われる。日本列島は、元々地球上の自然災害の多い場所に立地している。特に、近年は大規模な災害の発生が続き、自然と私たちのつきあい方に関心が持たれている。本講義は、私たちが暮らす自然の環境は、様々な自然現象の微妙なバランスの上に保たれていることを、地球全体の活動（すなわちエネルギー移動）の観点から理解し、自然環境問題を考えるきっかけとしたい。さらに、未来を見通した社会的選択について、自然環境を基盤として考える素養を育てたい。

●授業内容・授業計画

1 地球の活動と地質災害

- (1) 地球の内部構造と年代測定
- (2) 地震
- (3) 津波と災害

(4) 活断層

(5) 火山と災害

(6) 都市地盤の特性

(7) 都市の環境変遷と災害（以上、井上直人担当）

2 地球のエネルギー物質循環と環境

(8) 水循環と水資源、地球システムの概念

(9) 大気圏・水圏の構造とエネルギー循環

(10) 大気と海洋の相互作用（ENSO イベント）

(11) 炭素循環と生物活動、地球温暖化

(12) プレートテクトニクスとブルームテクトニクス（地球内部のエネルギー循環）

(13) 元素濃縮と地下資源

(14) ハビタブルゾーン（宇宙の中の地球）

(15) 講義全体のまとめ（以上、益田晴恵担当）

●評価方法

出席点40点、レポート20点、期末試験40点。出席点には、講義ごとに行う小テストを含む。

●受講生へのコメント

これまでに地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然環境問題や自然災害に興味がある人はもちろん、持たない人にも、「地球の歴史と現

在の姿を知る」ことの大切さが分かる授業を行いたい。できるだけ欠席しないしてほしい。

●教材

講義の資料は準備する。参考書は授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 09]

掲載番号	科目名	体験で知る科学と技術	単位数	4	担当教員	篠田 圭司 (理) 他
117	英語表記	Experimental Learning of Science and Technology				

●科目の主題

現代では自然科学とそれを応用した技術は著しい発達をとげ、社会のあり方に大きな影響を及ぼしている。本科目は、人文系専攻（生活科学部人間福祉学科・医学部看護学科を含む）の学生を対象に、基本的な実験・実習を通して自然科学と技術に親しむことを目的とする。

●授業の到達目標

実験・実習を通じて、自然科学と技術の知識を幅広く身につけ、また自らこれを探求し読みとく能力を養う。

●授業内容・授業計画

第1週はガイダンスで、授業の概要説明、実験・実習にともなう注意、実験棟内の実験室見学、および消火訓練を行う。第2週からの内容は以下の通りで、日程はガイダンスで説明する。（開講初年度につき、内容は変更されることもある。）

1. 「顕微鏡による植物細胞の観察」レーウエンフックの顕微鏡と同じ原理の顕微鏡をガラスビーズとペットボトルを用いて作り、光学顕微鏡で得られる像と比較しながら植物細胞を観察する。（担当：曾我康一、若林和幸（生物学科））

2. 「地球の重力加速度」ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求める。（担当：井上 慎（物理学科））

3. 「楽器と声の音波」電子楽器や自分の声をマイクホンで電気信号に変え、音を波としてとらえて、音の基本的な性質を理解する。（担当：山本和弘（物理学科））

4. 「プリズムを通してみたLEDの光とプランク定数」光はエネルギーの塊であり、光の色はその波長と関係する。この実験では、プリズムをもちいて単色LEDの光を観察し、光とエネルギーを対応づける基本的な定数「プランク定数」を求める。この定数が0でないということが、現代物理学の根幹をなしている。（担当：小原 顕（物理学科））

5. 「二酸化炭素(CO₂)の性質」CO₂が地球温暖化の主役といわれている。CO₂が水に溶け、酸性を示し、溶けたCO₂は高温で気中に放出され、大理石に酸を加えるとCO₂が放される、などの実験からCO₂の性質

を確かめる。温室効果、温暖化について理解を深める。（担当：中島信昭（化学科））

6. 「偏光で見る自然」身の回りには光があふれているが、偏光板を通していろいろなものを見ると、日常見る光景と違った光景が見える。青空や、液晶モニター、方解石を通してみる二重文字も偏光と関係している。偏光板を用いて身の回りの光を観察し法則を考える。（担当：篠田圭司（地球学科））

7. 「生物発光と化学発光」生物発光および化学発光は熱を伴わない発光（冷光）である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。（担当：品田哲郎（化学科））

8. 「医薬品の活性成分 - 解熱剤からアスピリンの単離」身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。（担当：館 祥光（化学科））

9. 「DNAとRNAの抽出」生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性剤等を用い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。（担当：曾我康一、若林和幸（生物学科））

10. 「ニワトリの胚発生」めん鳥は卵を産み、卵からはヒヨコが生まれてくる。あたためられた有精卵の中で何が起きているのか、慎重に殻をひらき、覗いてみよう。（担当：水野寿朗（生物学科））

11. 「空中写真から読み取る活断層」地震をおこす可能性のある地下の活断層は、地表にも地形の違いとして明瞭に現れる。空中写真を用いて地形を立体的に観察し、活断層がどのような場所にあり、どのような変位が生じているのかを理解する。（担当：根本達也（地球学科））

12. 「キャンパスの植物で探る陸上植物の進化」植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のよう多様な姿に至ったのか、その過程を理解するために、杉本キャンパスに植栽されている実際の植物を観察しながらたどる。（担当：大久保敦（大教セ））

13. (未定)

●評価方法

すべてのテーマの評価を総合する。

●受講生へのコメント

初学者を歓迎する。ただし履修希望者が48名を超えるときは抽選とする。また『実験で知る自然環境と人間（～2012年度）』もしくは『実験で知る自然の世界（～2015年度）』を修得したものは本科目を履修することはできない。初回授業は基礎教育実験棟308教室へ集合すること。傷害保険への加入が受講に必要である。各実験室に技術職員が常駐しているため、困ったことがあれば指導を仰ぐこと。

●教材
初回に指導書を配布する。白衣などその他必要な道具は貸与する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 10]

掲載番号	科目名	地球学入門	単位数	2	担当教員	前島 渉 (理)
118	英語表記	Introduction to Geosciences				

●科目の主題

現在の地球の姿は46億年にわたる地球の生成流転のほんのつかの間の姿にすぎない。地球の創生以来、幾多のできごとがあり、地球は変貌をとげてきた。そして現在の豊かな地球が作りあげられてきた。惑星としての地球から身近な地域まで、さまざまなスケールで、かけがえのない地球を見つめなおす。

●授業の到達目標

人間社会と地球自然とのかかわりが問い直されているいま、地球についての理解をより深め、われわれ人間が今後地球に対してどうあるべきかを考える。

●授業内容・授業計画

まず現在の地球の構成と構造を概観する。とくに、人間の様々な活動の場である地球表層部の構成と運動について、自然災害との関連を含めて解説する。ついで、太陽系における地球の特異性を理解するために、地球環境の生い立ちと変遷を、他の惑星との比較を含めて解説する。また、地層に残された記録から過去の地球環境を探る方法とその具体例を紹介し、地球史規模での環境変動とその背景要因を考える

- 1) 地球の構成と構造：地球の内部を探る様々な方法、地震波の伝わり方と地球の内部構造。(2回)
- 2) 地球の表層部：地球表層部の物質と構造、大陸移動説、海洋底の拡大、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクス。(3回)
- 3) 日本列島周辺のプレート運動と地震活動：日本列島周辺のプレート配置と運動、沈み込みプ

レート境界における巨大地震の発生機構、内陸部における活断層と直下型地震。(1～2回)

- 4) 地球の生成と進化：隕石が語る原始太陽系と地球の創成、地球の大気・水の起源とその変遷、地球になれなかった金星と火星。(2～3回)
- 5) 過去の地球環境を探る：地層に残された過去の地球環境変遷の記録、地層から読みとる地球の変動リズム、地層に記録された年・月・日・時。(2回)
- 6) 生物の大量絶滅とその背景：古生代/中生代境界における大量絶滅-ブルームの冬-、中生代/新生代境界における大量絶滅-衝突の冬-(1回)。
- 7) 気候変動：人為的二氧化碳素排出の影響、自然変動としての気候変動、食料とエネルギー危機。(2～3回)

●評価方法

期末試験(50%)、レポート(30%)、出席(20%)を総合して評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で地学を履修しなかった学生を念頭において講義する。授業内容の講義項目は授業の進捗状況によって変わることがある。「地球の科学」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

●教材

授業に必要な資料をプリントとして配付する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 11]

掲載番号	科目名	科学と社会	単位数	2	担当教員	木野 茂 (非常勤)
119	英語表記	Science and Society				

●科目の主題

この授業では科学と社会のかかわりを、公害・原発・薬害・職業病など、身近な問題をテーマにして考える。

●授業の到達目標

この授業では身近に起こる問題に対してどうすればよいかを自分で考えることのできる力をつけることを目指す。そのためには、理解したことや考えたことを話せるようになることと、書けるようになることが必要である。

●授業内容・授業計画

この授業では、講義を聞いて知識を得るだけで終わらず、クラスメイトや先生とのコミュニケーションを通して知識を自分のものとし、互いに学び合う双方向のスタイルを進める。ディベート大会や対話型授業だけでなく、ペアワークやグループ討議なども適宜併用しながら進める。

1. 授業への誘いー水俣病と福島原発事故から
2. 公害の原点：水俣病とは
3. 水俣病は終わっていない
4. 公害と労災職業病（住民と労働者）
5. 原発問題でチーム・ディベート（ゲーム風に）
6. 原発対話型授業（ディベートを振り返って）
7. 原発で働く労働者
8. エネルギーと人間（小出裕章氏のビデオ講義あり）
9. 三池炭じん爆発（故原田正純氏のビデオ講義あり）
10. 環境問題と差別（途中、受講生による討論劇を予定）
11. 薬害エイズは今…（ゲスト：花井十伍氏・薬害HIV被害者）
12. 薬害を防いだ労働者（ゲスト：北野静雄氏・大鵬薬品労組）

13. 環境問題と行政（ゲスト：二木洋子さん・元高槻市会議員）

14. 環境問題と専門家の役割

15. 授業の振り返り

●評価方法

レポート評価4、平常評価（出席だけでなく日常の学習に対する評価）4、授業への積極度2で総合評価する。レポートの課題は授業で扱った範囲内なら自由で、内容は自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●受講生へのコメント

この授業は私が市大にいた時に始めた科目だが、環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、先生やクラスメイトと話してみたい人、新しいスタイルの授業を経験してみたい人にお勧めである。

この授業は双方向型授業がモットーで、受講生の積極的な参加を歓迎している。毎回の授業後に感想や意見をメールで出してもらえば、翌週の授業プリントでコメントを付けて返すことにしているし、授業後にクラスメイトや私との交歓会も設けている。

環境問題では当事者の方々の話を聞くことも大事なので、ゲストを招いたり、ビデオで話を聞く機会も設ける。なお、ゲストの二木さんと北野さんは市大の卒業生である。

関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせは e-mail で：shigeru.kino@gmail.com

●教材

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』（東京教学社・第11刷）。

教室では、毎回、授業用プリントも配布する。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えてもらっているの、自由に利用してほしい。

[科目ナンバー : GE NAT 01 12]

掲載番号	科目名	現代科学と人間	単位数	2	担当教員	宮田 真人 (理) 他
120	英語表記	Today's Natural Sciences and Human Beings				

●科目の主題

自然科学の最先端知識に基づき、現代の人間生活に

及ぼす科学的成果の功罪を理解する。

●授業の到達目標

主題を理解し、有意義な考察が行えること。

●授業内容・授業計画

1. パンデミック（感染症世界流行）への警鐘：1970年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってすべての感染症を制圧したかに見えたが、それは幻想にすぎなかった。今日、出血熱、インフルエンザ、AIDS、耐性菌、プリオンなど、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は発達した医療技術を有している反面で、グローバル化、高齢化、テロリズムといった、パンデミックを誘発しうる要因も多い。既存の映画を例に用いて、現代社会における感染症を考察する。（宮田 真人）

2. ヒトゲノム解読がもたらすもの：ゲノムとは、1つの細胞内にあるDNAのすべてを指し、その細胞からなる生物を作り上げるのに必要な遺伝子を含んでいる。ヒトゲノムを読み解くことによって多くの新たな知識がもたらされたが、その情報の活用については様々な議論がある。そのいくつかの実例について考える。1) ヒトとチンパンジーのあいだ：「ヒトらしさ」はゲノムから分かるか。2) 病気のかかりやすさと遺伝子検査：自分の遺伝情報をどのように扱うか。3) 子どもを設計する親：遺伝子増強はどこまで認められるか。（増井 良治）

3. 近代科学の研究手法：今日の物質文明の繁栄をもたらした近代科学、そこでは物理学における研究手法が原点となっている。自然現象の解明を目指す際の基本的アプローチは、実験・観測を詳細に行い、その結果を客観的に整理することにある。特に、多くの物理現象では、法則性が数学的に記述されることが見いだされてきた。このような自然現象の法則性とその数学的な構造について議論する。（小栗 章）

4. 化学の光と影：化学物質が健康の役に立つとき薬と呼ぶ。様々な医薬品が多くの人の命を救っている陰で、薬や無害だと思っていた物質が実は毒であったという事例も多数ある。種々の公害や薬害がその例である。さらに、毒性のあるものを「ドラッグ」と称して販売する悪質な事件や、兵器やテロリズムの手段として化学物質が用いられる場合もある。これらの化学物質の毒性について理解し、毒を正しく怖がることについて考える。（吉野 治一）

●評価方法

質問カード（毎時間提出）・レポートにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

積極的な発言を期待する。

●教材

参考図書の指示、印刷物の配布など。

[科目ナンバー : GE NAT 01 13]

掲載番号	科目名	心と脳	単位数	2	担当教員	川邊 光一（文）
121	英語表記	Mind and Brain				

●科目の主題

脳科学は今世紀における自然科学の最も重要な研究テーマの一つとされている。脳は、外界からの感覚情報を処理し、行動や運動の制御を行う生体の司令塔としての役割を果たしている器官であるといえるが、脳の構造はあまりに複雑であるため、その機能的役割については未だ不明な点が多い。しかしながら、生理学、解剖学、心理学、分子生物学、薬理学、医学、工学などさまざまな領域からアプローチが試みられ、数々の研究手法や方法論が開発された結果、20世紀後半に脳研究は飛躍的な発展を遂げた。現在でも数多くの精力的な研究がなされており、高次精神機能と脳の関係についても解明が進みつつある。

この講義では、いくつかの精神機能をトピックとしてとりあげ、それらと脳の関係についてこれまで得られている知見について概説する。

●授業の到達目標

脳や神経系に関する基本的知識を習得し、脳と精神

機能・行動の関係についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で進められる。ただし、授業進捗の関係上、講義の順番が変更されたり、一部を省略したりすることもあるということを付記しておく。

- 1). 行動神経科学・生理心理学とは
- 2). 行動神経科学・生理心理学における研究手法
- 3). 脳の構造と機能
- 4). 神経系を構成する細胞とその機能
- 5). ニューロン・シナプスにおける情報伝達機構
- 6). 脳と睡眠・覚醒
- 7). 脳と生物時計
- 8). 脳と摂食
- 9). 脳と情動
- 10). 脳と学習・記憶
- 11). 脳と思考
- 12). 脳と精神疾患

13). 脳と薬物依存

●評価方法

期末試験の成績を基本とするが、平常点も考慮に入れる。試験は、授業内容についての深い理解が求められるので、講義には必ず出席すること。

●受講生へのコメント

授業を通して、脳と精神、行動の関係についての正しい知識を得てもらいたい。

また、本講義で扱う内容は、「心」の問題を取り扱う「心理学」の領域に関わるものである。心理学の研究手法への理解を深めてもらうため、授業時間内に行われる質問紙調査や、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極

的に参加、協力してほしい。

●教材

毎回、その日の講義に関する図表等をプリントとして配布する。

●参考書:

ブルーム, F.E. 他 (中村克樹・久保田競 監訳) 『新・脳の探検 (上・下)』 講談社ブルーバックス

カールソン, N.R. (泰羅雅登・中村克樹 監訳) 『神経科学テキスト—脳と行動 (第4版)』 丸善

ピネル, J.P.J. (佐藤敬他 訳) 『バイオサイコロジー: 脳—心と行動の神経科学』 西村書店

ベアー, M.F. 他 (加藤宏司他 監訳) 『神経科学—脳の探求—』 西村書店

[科目ナンバー : GE NAT 01 14]

掲載番号	科目名	ドキュメンタリー・環境と生命	単位数	2	担当教員	木野 茂 (非常勤)
122	英語表記	Documentary : Environment and Life				

●科目の主題

この授業は環境と生命に関する現代的な課題について考える力をつけるものである。主に取り上げる課題は、原発、公害、支援、生命、幸福、差別、難民などである。

授業の前半はTVドキュメンタリーを題材にして考え、後半はグループによる研究発表をもとに考える。

●授業の到達目標

授業の前半では、ドキュメンタリーの内容をまとめる力、意見をまとめる力、他の人の意見を理解する力など、自分で学ぶ力をつけることを目指す。

授業の後半では、グループで調べ、考え、発表し、クラスメイトとディスカッションすることにより、自分以外のクラスメイトと協働する力をつけることを目指す。

●授業内容・授業計画

前半の授業では最初に30～50分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、内容は環境と生命に関するもので、テーマは多岐に渡っている。授業で取り上げる番組一覧は第1回目の授業で発表する。

教室での鑑賞後は、番組要約を要約カードにまとめ、次週教室で提出する。

また自分の感想や考えを400字程度にまとめ、facebookでクラスメイトと交換する。翌週、最も良かったと思う意見を投票し、選ばれた人には1分間スピーチとちょっとしたプレゼントで表彰するアトラクションもある。

前半の鑑賞と並行して、課題ごとのグループ研究を

始める。

グループは各自の関心を尊重しながら3～4人程度になるよう調整する。具体的な研究テーマはグループで決めた後、グループ全体で調査研究を行う。

9-10回目頃からは、グループ研究の成果をグループ全員でプレゼンし、クラスメイトとQ&Aを行う。このときの司会進行は受講生に行ってもらおう。

●評価方法

ドキュメンタリーの番組要約2、facebookへのドキュメンタリー感想意見2、グループ研究2、facebookへのグループ研究発表に対する感想意見2、課題レポート2の割合で総合評価する。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●受講生へのコメント

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命の問題に関心を持つ人、聞くだけでなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。とくにグループワークをやってみたい人にはお勧めである。

facebookは授業外時間に投稿・閲覧が可能なコミュニケーション用の電子掲示板として利用する。その使い方および使用上の注意事項は最初の回で説明する。

また、最初の回でグループ研究のグループ編成を行うので、必ず出席してほしい。やむを得ず欠席する人は下記のアドレスにメールで事前連絡すること。

ともかくこの授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

関連科目: 「科学と社会」

問い合わせはe-mailで: shigeru.kino@gmail.com

●教材

毎回、プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 15]

掲載番号	科目名	森林環境と人間社会	単位数	2	担当教員	大久保 敦 (大教)
123	英語表記	Forest environment and human society				

●科目の主題

この授業では科学的な視点も含めた多角的視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを学習します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

●授業の到達目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。

具体的には森林環境について

- ① 興味・関心が持てるようになること
- ② 多角的視点で観る態度を身につけること
- ③ 主体的に情報を得る態度を身につけること
- ④ 保全の意識を高めること
- ⑤ 将来に渡って学び続ける基礎を築くこと

●授業内容・授業計画

- ① 森と林の違い (森林の基本概念)
- ② 身の回りの森林環境1 (野外観察実習)
- ③ 身の回りの森林環境2 (野外観察実習まとめ)
- ④ 森林の恩恵1
- ⑤ 森林の恩恵2 (ディベート)
- ⑥ 森林の恩恵3 (ディベートのまとめ)
- ⑦ 森林の生い立ち1 植物分類の基礎 (室内観察実習)
- ⑧ 森林の生い立ち2 植物の上陸と森林の出現

⑨ 日本の森林

⑩ 世界の森林

⑪ 人間社会と森林1 日本の森林問題 (1)

⑫ 人間社会と森林2 日本の森林問題 (2)

⑬ 人間社会と森林3 地球規模の森林問題 (東南アジアの熱帯林)

⑭ 人間社会と森林4 地球規模の森林問題 (アマゾンの熱帯林)

⑮ まとめ

●評価方法

1. 毎授業の課題: 70点

① 1回~14回授業課題 40点

② 最終回授業課題 30点

2. 中間レポート: 30点

1、2を総合的に評価 (記述内容を重視)

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待していません (受身の授業を期待している人には不向き)。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれ関連しているので授業目標を達成するために、全ての授業に参加することが理想です。高校時代に生物を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

[科目ナンバー : GE NAT 01 16]

掲載番号	科目名	21世紀の植物科学と食糧・環境問題	単位数	2	担当教員	飯野 盛利 (理) 他
124	英語表記	Plant Biology for Addressing Societal Challenges of the 21st Century				

●科目の主題

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題 (食糧問題) であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊がもたらす諸問題 (環境問題) である。植物の光合成によって固定

される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の視点から考える。

●授業の到達目標

植物の機能や生態系について理解し、食糧・環境問題の諸相を知り、これらの問題の解決策を探るために

自分で考え、行動できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 食糧・環境問題の現状 (担当：飯野盛利、1回)
2. 生態学から見た環境問題 (担当：伊東明、2回)

環境問題には様々な側面がある。ここでは、「生態学」の視点から環境問題を考えて見たい。生き物と環境との関わりを研究してきた生態学には、生物（人間）にとって環境とは何か、環境が変わると生物にどんな影響が出るか、など、環境問題を考えるときの参考になりそうな概念がたくさんある。講義では、「共有地の悲劇」と「生物多様性」の2つのテーマを取り上げ、生態学的な概念を使った考え方について解説し、環境問題を理解する助けとしたい。

3. 絶滅危惧植物と食料・環境問題 (担当：厚井聡、2回)

現在、日本の野生植物の1/4が絶滅の危機に瀕しているとして「絶滅危惧植物」に指定されている。絶滅危惧植物の現状とその保全を紹介し、食料・環境問題との関係を考えてい。また、保全に対する附属植物園の取組みについて紹介する。

4. 食糧・環境問題に対する植物遺伝学からのアプローチ (担当：植松千代美、2回)

不可分の関係にある食糧問題と環境問題の現状を認識することが問題解決の第一歩となる。植物科学、特に遺伝学の立場からその解決を目指す取り組みとその問題点について以下の点から解説する。(1) 環境問題と食糧問題入門、(2) 遺伝子組換え植物とその功罪。

5. 植物園から考える環境問題 (担当：伊東・植松、4回)

植物園で実施されている環境問題研究プロジェクト「都市と森の共生をめざして」の成果をふまえて森の植物園の役割を考える。(1) なぜ今、都市と森の共生か(植松)、(2) 森林の二酸化炭素固定(非常勤講師・小南裕志)、(3) 森林に暮らす動物の多様性(非常勤講師・谷垣岳人)、(4) タンポポの多様性と保全(伊東)、について解説する。

6. 地球温暖化防止のために (担当：植松、3回)

(1) 地球温暖化－国際会議の現場から－(非常勤講師・早川光俊)、(2) 菜の花プロジェクト(非常勤講師・藤井絢子)、(3) バイオエタノールを中心とする自然エネルギー利用の可能性(植松)、などについて最新の状況を紹介する。

7. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題 (担当：飯野、1回)

誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

●評価方法

授業で課す小テスト・レポートと期末に実施する試験、ならびに出席率によって評価する。

●受講生へのコメント

食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つとは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●教材

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 17]

掲載番号 125	科目名	植物の機能と人間社会	単位数	2	担当教員	曾我 康一 (理)
	英語表記	Plant Function and Human Society				

●科目の主題

植物の持つ機能には、有用で優れたものが多く存在する。植物の機能を利用したり、植物の機能を模倣したりするためには、まず、植物の持つ機能を理解する必要がある。この科目では、はじめに、植物の性質について概説し、次に、私たちの生活に植物の機能がどのように役立っているのかを具体例を示しながら解説する。

●授業の到達目標

植物は忘れられやすい存在である。しかしながら、人間をはじめとするほとんどの生物は植物に依存して生きている。この科目を通して植物に興味・関心が持てるようになることを目指す。また、人間の生存にとって植物がいかに重要であるかについて考えるきっかけ

を作ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 植物と動物
2. 植物の生殖
3. 環境シグナルに対する反応とシグナル伝達
4. 環境シグナルの受容
5. 植物ホルモン(オーキシン、ジベレリン)
6. 植物ホルモン(サイトカイニン、アブシシン酸、エチレン)
7. 組織培養技術とその利用
8. 遺伝子組換え技術
9. 遺伝子組換え植物の利用
10. 植物工場
11. 宇宙農業

自然科学と人間

12. 植物を利用した有用物質の生産
13. 植物による環境浄化
14. まとめ
15. まとめと試験

●評価方法

定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校において生物を履修していないことを前提

に授業をおこなう。また、授業毎に質問票を配布・回収し、次回以降の授業時に質問に答える。

●教材

プリントを適宜配布する。

参考書:絵とき 植物生理学入門 改訂3版 (オーム社)

[科目ナンバー : GE NAT 01 18.CO]

掲載番号	科目名	植物と人間 (演習)	単位数	2	担当教員	飯野 盛利 (理) 他
126	英語表記	Seminar : Plants and Human Life				

●科目の主題

植物は生態系における生産者として、私たち人間を含む、ほぼ全ての生物の生存に必要な有機物とエネルギーを作り出している。植物は、私たちの食料としてだけではなく、衣料や医薬品の原料として、あるいは鑑賞用としても利用されている。このように、私たちの生活は植物と切っても切れない関係にある。本講義は、理学部附属植物園で収集・保存されている植物を活用して、植物と人間の関係について学び、植物についての理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

植物園内に植栽されている植物の観察を通じて植物の多様性を体験的に学ぶ。また森林や植物進化の道筋、植物の遺伝資源としての重要性について学び、これらを伝える技術を習得する。

●授業内容・授業計画

・陸上植物の進化 (担当: 大久保敦、大教センター)

植物と人間の関係を理解する上で、植物の進化の過程を把握しておくことは重要です。かつて地球上の陸地には植物も動物も存在しない時代があった。植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿の森林に至ったのか、その過程を植物園に植栽されている実際の植物、身近な果物や野菜を観察しながらたどる。

・遺伝資源と多様性 (担当: 植松千代美)

植物園には様々なバラ科植物が植栽されているが、それらの中からナシ属野生種のコレクションを例に、

観察や簡単な実験を通して遺伝的多様性、野生種から栽培種への進化、遺伝資源の重要性などを学ぶ。

・熱帯植物の利用 (担当: 飯野盛利)

植物園で収集・保存されている熱帯植物には、鑑賞植物として親しまれているもの、食料、香辛料として、また工業用に利用されているものなどが含まれている。それらを観察、学習する。また、各自が興味をもった植物について、図書、インターネット、文献などで調べ、それをポスターにまとめることを実習する

・材と染料 (担当: 厚井聡)

植物は木材や染料として利用され、人間の生活と密接に関係してきた。園内の植物を実際に観察しながら、植物の木材や染料としての利用について学習する。

●評価方法

各担当教員が提示した課題のレポートをそれぞれ100点満点で評価し、各課題の評点を平均して科目の評価とする。また、演習科目であることを考慮して、講義時間中における発言などの積極的参加を評価し、加点する。

●受講生へのコメント

授業は夏季休暇中の研修期間に、大阪府交野市にある理学部附属植物園において、集中・オムニバス方式で行う。野外での実習が含まれるので、帽子など日除け対策を講じること。

●教材

プリントを適宜配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 01]

掲載番号	科目名	情報基礎	単位数	2	担当教員	村上 晴美 (創) 豊田 博俊 (非常勤) 永田 好克 (創) 安倍 広多 (創)
127	英語表記	Introduction to Information Processing				

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

平成 17 年度以前の「情報処理 I」

平成 17 年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータ・リテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかわかっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Web や電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピュータの基本的な仕組み、コンピュータがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

●授業内容・授業計画

①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Web ブラウザ、ワードプロセッサなどの初歩的なツールに慣れる。

③④ Web ページの作成手始め

簡単な Web ページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTML の基礎を理解する。

⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2 進数や 16 進

数の表現、情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せてコミュニケーションの便利さと問題点を覚える。

⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

⑩⑪ 洗練された Web ページを目指して

Web ページの視覚的構造をスタイルシートによって制御する方法を理解する。

⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につまきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

⑭ 表計算、プレゼンテーションなど

表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすることが望ましい。

●教材

講義メモや Web ページなどを活用する。

参考書：

情報処理学会編集 ITText 一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」

情報処理学会編集 ITText 一般教育シリーズ「情報と社会」

[科目ナンバー : GE INF 01 01]

掲載番号	科目名	情報基礎	単位数	2	担当教員	大西 克実 (創) 西村 雄一郎 (非常勤) 米澤 剛 (創) ベンカテッシュ ラガワン (創)
128	英語表記	Introduction to Information Processing				

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

平成 17 年度以前の「情報処理 I」

平成 17 年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピューターを道具として使いこなすことをコンピューターリテラシーと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピューターの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピューターと関わっていけるよう、リテラシーの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピューターの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピューターを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Web や電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピューターの基本的な仕組み、コンピューターがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

●授業内容・授業計画

担当者: 大西、西村、米澤、ラガワン

●授業内容・授業計画

- ① コンピューターとその操作の基礎
- ② 電子メールとコミュニケーション
- ③④ リテラシーと情報セキュリティ
コンピューターリテラシー、ネットワークリテラシー、メディアリテラシーやリテラシーのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権 / 著作権などの考

え方を知る。

- ⑤⑥ 情報発信－ホームページ作成
各自のホームページ作成を通して、インターネット世界での情報収集や情報発信の便利さと問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解する。
- ⑦⑧ 調べ方－情報検索
インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。
- ⑨⑩ 考え方－アルゴリズム
コンピューターで考え方を実現する方法はプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。
- ⑪⑫ 空間情報の利用
地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取扱い方法の理解を深める。
- ⑬⑭ 表計算, 文書作成など
ここまでで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがあり、演習では各自の習熟度に応じた対応を行います。担当教員はそのクラスの採点責任者ですが、講義の内容に応じて教材作成担当者などがその時間の解説・質問などを受け持つ場合もあります。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●教材

Web ページを基本的に利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	担当教員	松浦 敏雄 (創) 他
129	英語表記	Introduction to Programming				

●科目の主題

この講義では、プログラミングとは何かを体験し、それを通じて、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用擬似言語を用いて体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Java を用いる予定) を通じて、プログラミングを経験する。

●授業の到達目標

自らアルゴリズムを考案し、プログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) 変数、制御構造、順次処理
- (2) 条件分岐
- (3) 繰り返し
- (4) 図形描画
- (5) 中間試験
- (6) Java によるプログラム開発方法

- (7) 基本データ構造
- (8) オブジェクト指向
- (9) main の引数と FileI/O
- (10) クラス定義とクラス継承
- (11) GUI(1)
- (12) GUI(2)
- (13) GUI(3)
- (14) 最終課題

●評価方法

レポートおよび試験により総合的に判断する

●受講生へのコメント

エディタ、Web ブラウザなどが自由に使えることを前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

配布資料および Web ページなどを利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	担当教員	石橋 勇人 (創) 他
130	英語表記	Introduction to Programming				

●科目の主題

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

特定の言語 (Python) を通じてプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

各回、原則として1コマを講義、1コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション (授業の概要、プログラム作成から実行までの流れ、など)
- (2) 制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理

- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題
- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) GUI プログラミング(1)
- (9) GUI プログラミング(2)
- (10) 正規表現と Web アクセス
- (11) 再帰呼び出し
- (12) 最終課題(1)
- (13) 最終課題(2)
- (14) まとめ

※ 内容や順序は必要に応じて変更する場合がある。

●評価方法

各回の演習課題 (中間課題、最終課題を含む) および試験によって評価する。

●受講生へのコメント

エディタ、Web ブラウザ、電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

主として Web ページ上に掲示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	担当教員	大西 克実 (創)
131	英語表記	Introduction to Programming				

●科目の主題

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピューターについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Java を用いる予定) を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・コンパイル、コマンドプロンプト使用法
- (2) Java・形式、コメント・入力の扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if,while)
- (4) 制御構造 (for,continue,break)・配列・アルゴリズム (1) [数列]
- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム (2) [成績処理]

- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログラミング
 - (7) データ構造・再帰呼出
 - (8) 整列問題 (1)
 - (9) 整列問題 (2)
 - (10) ファイル入出力
 - (11) アプレットプログラミング (1) GUI 部品
 - (12) アプレットプログラミング (2) イベント処理
 - (13) ネットワーキング
- (それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

エディタ、Web ブラウザなどは自由に使えること (「情報基礎」程度) を前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Web ページなどで提示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 21]

掲載番号	科目名	情報の探索と利用	単位数	2	担当教員	吉田 大介 (創) 米谷 優子 (非常勤)
132	英語表記	Information Retrieval and its Application				

●科目の主題

大学では自主的に研究や学習を進め、考察を深めることが期待され、その成果として論文・レポートの作成が必須となっている。論文・レポート作成においては、テーマを絞り込み、そのテーマに即した情報をさまざまな情報源から収集し、読解し、整理し、論理的に思考を深め、新たな情報として発信する、情報活用能力が求められる。本講義では、このような知的生産の基礎を身に付けることを目的として、論文・レポート作成のプロセスを段階的に取り上げて、各ステップの要点を習得できるように、講義と演習によって実践的な力を育成する。

●授業の到達目標

論文・レポートの作成プロセスを理解し、大学の各専門分野での研究生生活を円滑に、より効果的に進めるための、知的生産に関する基礎力を育成する。

●授業内容・授業計画

- 1 授業の概要・計画 (概説)
- 2 論文・レポートの要件と作成のステップ
- 3 テーマの絞り込み・発想法
- 4-9 情報の収集
 - ・検索エンジン
 - ・学術情報総合センターの使い方
 - OPAC、閲覧・貸出、外部データベース、ILL、レファレンスサービス

- ・文献情報の探索と図書・雑誌記事・新聞記事の入手
 - ・各種データベースによる検索
 - 10 - 11 情報の読解
 - 12 - 13 論文・レポートの執筆
 - ・レポート・論文の文章の書き方
 - ・表・グラフの挿入
 - ・著作権への配慮・引用のルール
 - 14 - 15 発表
 - ・口頭発表・プレゼンテーションソフトによる発表の方法と要点
- ※理解度その他によって、授業計画は変更すること

- がある。
- 評価方法**
演習課題の提出レポートを対象に評価する（定期試験は実施しない）
 - 受講生へのコメント**
授業は講義と実際の演習を組み合わせる。演習課題の提出が必須となるので、期日を守って提出すること。
電子提出の場合は提出の際のマナー等にも気をつけること。
 - 教材**
適宜プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 31 .CO]

掲載番号	科目名	地図と地理情報	単位数	2	担当教員	木村 義成 (文)
133	英語表記	Maps and Geographic Information				

●**科目の主題**

地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google Map や Yahoo Map に代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。近年の IT 技術の進展により、地理情報は、GIS（地理情報システム）で管理・分析できるようになり、GPS（全地球測位システム）で高精度の位置情報を取得できるようになった。カーナビゲーションは、それらの一例である。本講義では、地理情報の取得・分析方法を中心に説明を行う。また、地理情報がどのような分野で、どのように活用されているかについて数多く紹介することで、日々の生活の中で、地理情報がどのように役立つかを理解してもらう。

●**授業の到達目標**

本講義を受講することにより、地理情報がどのような目的でどのように取得され、どのように活用されているかを自身で考えられるようになることが到達目標である。

●**授業内容・授業計画**

- 第 1～5 回
- ・イントロダクション
 - ・GIS (Geographic Information System) とは？
 - ・GPS (Global Positioning System) とは？
 - ・地理情報の取得方法・管理方法・表現方法

第 6～8 回

- ・地理情報を用いた空間分析法

第 9～11 回

- ・危機管理分野（防災、犯罪、感染症、救急医療）における地理情報の利用

第 12～13 回

- ・環境分野、マーケティング戦略における地理情報の利用

第 14～15 回

- ・総括、および全体質疑応答

●**評価方法**

講義中の課題やレポート等から総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

日常生活で利用されている地理情報の活用事例を中心に判り易く説明するので、受講されたい。皆さんの従来の地理という教科に対する考え方が変わると確信している。

●**教材**

講義の中で、適宜、参考文献・資料を紹介する。なお、自習書としては以下の文献を推薦する。

岡部篤行著『空間情報科学の挑戦』岩波書店、マーク・モンモニア著『地図は嘘つきである』晶文社、Paul A. Longley, et al.『Geographic Information Systems and Science』John Wiley & Sons

[科目ナンバー : GE INF 01 32]

掲載番号	科目名	情報化の光と影	単位数	2	担当教員	福井 充 (医) 他
134	英語表記					

●科目の主題

今日、インターネットを介してウェブやメールで情報をやり取りすることは、生活に不可欠の行為となっている。しかし私たちはその背後に存在するさまざまな問題について自覚する事が必要である。本科目では、現代社会の情報化に関連した問題について、経営学、経済学、法学、文学、医学という多視点から眺め、その功罪についてともに考えてみたい。

●授業の到達目標

情報化の功罪について多くの分野にわたって見聞を広め、自分の考えを表現できるようにする。

●授業内容・授業計画

経営学研究科・太田雅晴、テキ林瑜、高田輝子 (1, 2, 3)

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけではなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報システムの関係論を論じる。

- (1) 情報化とイノベーション、太田雅晴
- (2) 情報と企業行動、テキ林瑜
- (3) 情報大規模化の光と影、高田輝子

経済学研究科・中島義裕 (4, 5, 6)

市場は取引を実現させる場所であるが、同時に価格を発見する所でもある。この講義では、最初に経済学の基礎を実験経済学的手法を利用して説明する。需要曲線と供給曲線によって価格が決定されること、このグラフを利用して税金や独占、生産調整など身近なニュースの背景が理解できることを示す。その上で、情報の非対称性が価格形成にもたらす影響と、その解決策について説明する。評価は、小テストで行う。

法学研究科・国友明彦 (7, 8)

情報を不当な模倣から守る法が知的財産法であるが、ここではそのうち最も身近と思われる著作権法を取り上げる。

- 一 知的財産とは何か

二 著作権法入門：著作権を保護する理由、何が著作物か、著作権の成立、著作権（財産権）と著作者人格権の違い、著作権の効力、著作隣接権、著作物の自由利用（私的利用のための複製など）

成績評価は小テストによる。

文学研究科・山 祐嗣 (9, 10, 11)

コンピュータやインターネットの普及は加速度的な文化・文明の発展をもたらした。しかし一方で、狩猟採集環境で進化した認知機構（あるいは脳）が経験したことがないスタイルのコミュニケーションをもたらしている。それは、経験したことがない問題解決の増大であり、フェイストゥフェイスではないコミュニケーションである。本講ではその意味を考えてみたい。

医学研究科・朴 勤植 (12)

医療分野においても急速に情報化が進んでる。情報化の「光」として医療情報システムの発展と「陰」としての個人情報保護との関わりについて解説する。評価はレポートで行う。

医学研究科・福井 充 (13)

最近では、マスメディアなどで、健康食品や健康法などが取り上げられることも多く、中には根拠の乏しいものも見られる。氾濫する情報を正しく評価するための統計学的考え方について講義する。評価はレポートで行う。

全体総括 (14)

●評価方法

レポート、出席、小テストなど（各講義担当者による）。各担当者が担当1回当たり7.7点で評価したものを合計する。

レポートを提出しなかったり小テストを受けないと、その部分は0点となる。

●受講生へのコメント

出席は必須である。

●教材

必要に応じて掲示、または講義中に配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 41 .CO]

掲載番号	科目名	ジオ・リテラシー入門	単位数	2	担当教員	木村 義成 (文)
135	英語表記	Introductory Geo-Literacy				

●科目の主題

本科目では、地域調査の基本となる地図を読む能力、地図を作る能力、地図を解釈する能力、地域を統計データや現地で収集したデータから分析する能力をジオ・リテラシーとして捉えて、地理情報システム (GIS) や GPS を利用した地域調査の手法を取得する。特に本科目では座学のみならず、実習を重視する。

●授業の到達目標

自分の興味のある分野に対して、自分で地理情報を収集し、加工し、簡単な地図化や空間分析ができるようになることが本科目の到達目標である。

●授業内容・授業計画

第 1～5 回

- ・イントロダクション
- ・GIS (Geographic Information System)、GPS (Global Positioning System) とは？
- ・地理情報の取得方法・管理方法・表現方法

第 6～10回

- ・地理情報を用いた空間分析法

第 11～13回

- ・危機管理・環境・福祉医療・エリアマーケティング分野など各分野に応じた地理情報の活用法

第 14～15回

- ・総括、および全体質疑応答、最終課題の提示

●評価方法

評価は参加点と実習後の課題提出点で実施する。なお、集中講義のため、1コマでも欠席した場合は、単位の認定が行われなため注意すること。集中講義期間中に全ての講義・実習に参加できる受講生のみを対象とする。

●受講生へのコメント

本科目は、Web 履修登録のみでは、履修が認められない。別途、面接・レポート等の選抜を実施する。選抜内容は、ポータルサイトおよびサポートセンター掲示板・全学 共通教育棟掲示板にて周知する。

●教材

教材・参考資料については、教員が当日指定する。

初年次セミナー First Year Seminar

1 回生の皆さん、ご入学おめでとうございます。「初年次セミナー」は、1 年生の皆さんが大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、学び・考えるためのマナーについて、とともに思索する時間として用意されているものです。少人数のクラス編成で Active Learning を行う時間であり、皆さんがそれぞれの生きる道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願を、かたちにしたのもでもあります。

【初年次セミナーの到達目標】

平成 27 年度は 10 クラスの初年次セミナーが開講されます。具体的な授業内容はそれぞれ異なっていますが、次のような到達目標を共通して掲げています。

- ・異なる学部との議論等を通じて興味関心の幅を広げ、自分の考え方や態度を相対化できること
- ・これからの人生において大学生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになること
- ・異なる考え方や知識をもつ人々と対話・コミュニケーションができること
- ・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキル

ルを活用・増強させること

【初年次セミナーの特徴】

上記の到達目標を実現するため、初年次セミナーは次のような授業のあり方を共通して持っています。

- ・どのような問題に取り組むかについて、学生自身が考えて決定すること
- ・設定した課題・問題について、学生自身が調査等を行うこと

調べた課題について議論や発表を行うこと

レポートや報告を作成すること

このように初年次セミナーは、学生自身の主体的な学習姿勢が強く求められる授業です。そのことを理解して、積極的に授業に取り組んでください。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、私たち 1 人ひとりの中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をともに探ろうとするところです。初年次セミナーを通じてこのことを、実感してもらえればと思います。

なお、2 つ以上の初年次セミナーに履修登録することは出来ませんので注意してください。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	大久保 敦 (大教)
136	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

身近な自然（キャンパス内の植物）を対象としたフィールドワークを通して、大学での学び方を学びます。

●授業の到達目標

- ① 大学で学ぶための基本的な方法を身につけること
- ② 映像と音声を用いて効果的に自分の考えを第三者に伝える方法（ビデオ番組作成）の基礎を身につけること
- ③ グループでの作業を通して仲間と協力して円滑にチームワークを行えるようになること

●授業内容・授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 身近（キャンパス近辺）な自然に親しむ
- ③ 調査地域の分担、調査方法の基礎
- ④ プレ・プレゼンテーション
- ⑤ プレ・プレゼンテーション
- ⑥ 効果的なプレゼンテーションの方法 1

(④、⑤の プレ・プレゼンテーションをもとに)

- ⑦ 効果的なプレゼンテーション方法 2
- ⑧ 調査
- ⑨ 調査
- ⑩ 調査
- ⑪ 調査
- ⑫ プレゼンテーション準備
- ⑬ リハーサル
- ⑭ 最終プレゼンテーション
- ⑮ まとめ（最終レポート作成）

●評価方法

平常点（授業参加度（20%）、小レポート・中間発表（30%）及び最終レポート・発表（50%）を総合的に評価します。

()の数字はおおよその評価の割合を示します。

●受講生へのコメント

受講生は 15 名までとします。フィールドワークや植物、また映像や音声などのマルチメディアでのプレゼンテーションに興味があり、積極的に授業に参加し

ようとする人を期待しています（受身の授業を期待している人には不向きです）。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	西垣 順子（大教）
137	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

【文献を使って自分の研究をやってみよう！】

受講生各自が興味関心を持っているテーマを使って各自が問題（リサーチクエスション）を設定し、その問題を解くための研究を行います。設定した問題に関係のある問題を検討した書籍を2冊以上探し出して読み、それらを批判的に検討して「自分の研究成果」をまとめていきます。

●授業の到達目標

- ① 自らの興味関心を、学問的に探究しうる「問い」に変換し、資料を収集分析、批判的に検討するなどして、その問いへの自分なりの答えを探究できること
- ② 自ら立てた問いの意義と回答について、他の受講生と共有し、議論ができること
- ③ 他の受講生の立てた問いを共有し、議論に建設的に参加できること

●授業内容・授業計画

①リサーチクエスションを設定する（4月）、②文献を2冊以上読みまとめる（5月－6月上旬）、③文献の内容とそれに対する批判的検討を総合した「自分の研究成果」をレポートにする（6月後半）、④レポートを改良しつつ最終プレゼンテーションとして発表する（7月）の4つのステージで授業を進行する。

第1週 ガイダンス

第2週 リサーチクエスションを立てる・グループ

わけ

第3週 図書館ガイダンス

第4－5週 1冊目の本を紹介するプレゼン

第6－7週 2冊目の本を紹介するプレゼン

第8週 予備日

第9－10週 レポートの作り方

第11週 レポートの提出と返却

第12週 仲間のレポートをブラッシュアップ

第13－14週 最終プレゼン収録

第15週 総合的討論

●評価方法

最終レポートとプレゼンテーションが50点、議論等への参加状況50点の100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

受講生数は15名程度以下に制限します。初回の授業に必ず出席すること。教員が教えることよりも、受講生の皆さんが行動したり考えたりすることが多い授業です。積極的に参加してください。

次の2つは、単位認定に値するレポートを作るための現実的な必要条件になりますので、そのつもりで履修登録をしてください。

- ① 遅刻や欠席をせずに授業に参加すること
- ② 自習時間を授業に出席する時間（1週間あたり90分）より多く確保する。

●教材

授業中に、適宜参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	飯吉 弘子（大教）
138	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

本授業では、「大学での基本的な学びの姿勢」すなわち「自ら学び考えること」の基本を身につけることを目指している。具体的には、レポート作成の一連の流れやプロセスに沿って、高校までの学びのあり方と

は異なる「大学での学び方」の基本を理解し身につけることを目指す。すなわちレポート作成の一連のプロセスの中で、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝わるように表現することを経験する中で、とくに「自分で考える」ことの重要性に気付いてもら

初年次教育

いたいと考えている。また、「自分とは異なる考えを持つ他者とそれらを共有する経験」も重視して授業を進める。

●科目の到達目標

この授業の最終的な目標は、第1に「自ら課題を探し考える力や姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方やレポート作成の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションと意見交換の基本を学ぶ」である。

「大学生として自ら学び考えること」を学んでほしい!

●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めるが、授業進行の目安は以下の通りである。

- 1～2回：ガイダンスとテーマ選定
 - 3～5回：文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定
 - 6～8回：資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次草稿提出
 - 9～12回：資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次草稿提出・発表準備
 - 13～15回：発表と相互評価、最終レポート提出
- 毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化と意見交換を行う。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センターの活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行うが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びである。

●評価方法

授業活動への参加度合、プロセスへの真剣な取り組み、レポート・発表等を総合評価する。最終レポートや発表の評価はもとより、作業プロセスの記録・授業内提出物や資料、レポート作成の途中成果物（第1次草稿・第2次草稿ほか）等を全てファイリング保存して、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全体の評価を行う。

成績評価の割合は、授業活動への積極的参加度合20%、提出課題20%、最終発表の相互評価20%、最終レポート30%、途中資料・プロセス10%とする。

●受講者へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあいながら個別指導を行うため、受講生は15名程度までとする。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもある。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んで楽しさを実感してほしい。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方や視点・アプローチがあることを実感してほしい。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	渡邊 席子 (大教)
139	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

本セミナーは、高校性から大学生へ、やがては社会人になるために必要な基礎力を、それぞれの受講生が自分に合った形で学びとることを目指す1回生向けの少人数演習科目である。

なお、本セミナーは active learning 形式（学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式）を採用している。受講生には、積極的にセミナーに参画することを通じて、大人の知的思考方法・知的表現方法・礼節ある討論への参画姿勢を自ら学びとっていただきたい。

●授業の到達目標

本セミナーの到達目標は、「誰かに答えを教えてもらうのではなく、大学および社会で自ら学び行動するために必要な思考力の基礎を確立できること」である。

●授業内容・授業計画

本セミナーでは、個人またはグループで各種 active learning 課題に取り組む。課題への取組みを通じて、何が問題の本質であるのかを見極めながら（調べる、思考する）、受講生同士で創造的な討論を行い（聴く・話す）、800～2000字程度のレポートをまとめ（書く）、書いたものを相互評価・自己評価し（読む）、自分の知的スキルの強みを把握し、弱みのカバーを目指す。

第1回 : ガイダンス+導入課題

第2～3回 : 基礎演習1 (ショートプレゼンテーション実践を通じて、今の自分にできることを知り、もっと伸ばしたいことを把握、整理する)

第4～9回 : 基礎演習2 (ミニレポート作成を通じて、テーマに関してつき詰めて考え、調べ、思い込みの域を脱し、根拠を示して表

するための基礎を学ぶ)

第10～14回：基礎演習3（企画立案を通じて、解くべき課題を発見し、解決し、成果に結びつけるための現実的具體策を提案する）

第15回：まとめと総合自己評価

本セミナーは、単なるレポートの書き方講座や、発表・討論スキルアップ講座ではない。なぜレポートを書いて表すのか、なぜ発表や討論を行うのか、そもそもなぜエビデンスに基づいて自分の頭でものを考えるのかを含め、これから社会に出て行く大人として必要な力とは何かを、さまざまなバックグラウンドをもつ他受講生とともに、各受講生「自らが」「自分なりに」発見するための科目である。

●評価方法

- (1) 平常点（参画への意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、授業目標達成にかかる具体的な問題解決とその結果に対する適切な自己評価、時間・期限を順守できていたか等）：80点満点
- (2) 各種課題に関する学生同士の相互評価：20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・受講人数の上限を12名とする。
- ・①全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていること、②節目ごとに行う個人目標設定とその達成度評価の提出、③ミニレポート（完成版）の提出、の3点をすべて満たすことが単位認定の最低ラインである。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・セミナーの進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いていることを前提に毎回のセミナーを進行する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掘り取る」意思を持つとともに、極度に失敗を恐れることなく試行錯誤してみる積極的を有する学生、ないしは、現時点の自分の力量に不足を感じ、もっと学ぶ力を伸ばしたい／積極性を持ちたいとの強い意志のある学生の受講を希望する。

●教材

- ・教材はセミナー中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講生自身が調査の上、集めて持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー：GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	小田中 章浩（文）他
140	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

このセミナーは「歴史と記憶」をテーマにして行われる。大学生の諸君にとって「歴史」とはなんだろうか。多くの人は、中学や高校で無理やり覚えさせられた固有名詞や事項の羅列が「歴史」だと思っていないだろうか。しかし「歴史」とは、人間が世界を見るための一種の「望遠鏡」のようなものである。ただし現実の「望遠鏡」が空間的な距離を縮め、対象を拡大するものであるとすれば、歴史を見るとはもちろん「今」と「過去」を隔てている時間的な距離を狭め、かつてそこに存在していたものの像を鮮明にすることである。

この授業では、受講者の諸君と共に、こうした「歴史を見る（＝想起する）ための装置」を組み立てていく。しかしそのための決まった方法は、まだない。この授業には、歴史学、教育学、表現文化学を専門とする三名の教員が参加するが、それは過去の事実を把握すること、それについて学ぶこと、さらにそれについて物語ること、という三つの異なった視点から歴史について考えるためである。私たち教員も、学生諸君と共に

試行錯誤しながらこの作業に取り組んでいくつもりである。

●授業の到達目標

このセミナーの目標は、受講者がそこで学んだことを元にして、必要な「歴史感覚」を身につけることである。言い換えるならば、特に20世紀後半以降の現代史について、そこで起こったさまざまな出来事のある種の実感をもって把握すること、すなわち現代史を自分の記憶の一部として拡大し、そこで得られた知見を元に、これからの時代を生き抜いていくための「知恵」を身につけてもらうことである。

●授業内容・授業計画

授業は基本的にはグループによるリサーチ・ワークと発表によって行われる。リサーチは、日本が高度成長を遂げつつ、そこにさまざまな問題が生じた1960年代、および東西冷戦の終結という大きな出来事があった1980年代を対象とする。これらの時代について学生諸君がどのような「像」を作りだし、それによって何を学ぶことができるのか、さらにそれについて語

初年次教育

るにはどのような方法が有効であるのかを、グループによる報告とディスカッションによって検討する。

第1～3週：ガイダンスと教員による導入的授業

第4～7週：グループによる課題報告とディスカッション（1回目）

第8～11週：グループによる課題報告とディスカッション（2回目）

第12～15週：授業の振り返りと総合討論

●評価方法

平常点（授業中に課すレポートとディスカッションへの参加度によって評価する）

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	天野 景太（文）
141	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

「まちおこしや地域づくりの現場を『あるく・みる・きく』をテーマとした、現場学習（フィールドリサーチ）を伴ったプロジェクト遂行型のセミナーである。ゆるキャラやB級グルメのブランド化に象徴されるように、全国各地で地域の観光等における魅力を引き出すべくユニークな取り組みが行われている。そこで参加者各自で実際に行き行って調べてみたい場所を選び、調査プランを発表する。その中からセミナーして1つないし2つの場所を選び、実際に現地に出向いてカメラを携え街並みや地域の社会活動のリアルな姿を観察したり、現地の関係者に聞き取りをしたりといったフィールドワーク（6月の土・日に合宿形式で実施予定、昨年度は6月27～28日に香川県高松市の丸亀町商店街において実施した）を行い、その結果を調査日誌（フィールドノート）及び現場学習レポートにまとめ、発表する。

●授業の到達目標

授業におけるディスカッション、現場学習を通じた問題発見、レポートやプレゼンテーションの技法と作法といった基礎的なスタディスキルの獲得はもちろんのこと、プロジェクトを通じた企画・運営力、コミュニケーション力の鍛錬を通じて、実社会のリアリティを捉え、解釈するセンスを磨くこと、そして何より、自ら思考し、試行錯誤し、行動する実践を通じながら、今後のキャンパスライフや就職活動等において主体的に活躍するために必要な素養を体得することが目的である。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス、自己紹介、報告順序の決定

第2回 スタディスキル、プレゼンテーションの技法に関する講義

●受講生へのコメント

受講生は15名程度とする。中学や高校時代に歴史が好きだった学生だけでなく、歴史が嫌いだった学生、現代史についてほとんど知識のない学生の参加も大歓迎する。これまでの学校教育にはなかった、歴史を学ぶための新しい方法を教員と一緒に作ってやろうという位の、やる気のある参加者であればなおのこと良い。

●教材

授業中に、適宜参考資料を配布すると共に、参照すべき必要な文献やwebページを指示する。

第3回～第6回 調査候補地に関するプレゼンテーション（フィールド選定コンペ）

第7回～第10回 合宿プランの企画（問題関心・仮説の設定、現場で何をしようとするのか）

第11回～第14回 ふりかえり（フィールドノートの報告、相互評価）

第15回 まとめ（現場学習レポートに基づく最終報告）

●評価方法

授業に積極的に参加し、議論や現場学習に貢献するとともに、セミナーを通じていかに自己成長がみられたかが全てである。内訳はクラスにおけるプレゼンテーションやディスカッション（33%）、フィールドノート（33%）、現場学習レポート（33%）です。当然合宿は参加必須。なお一度でも授業を無断欠席したり、やむを得ない事情で欠席するにしても出席率が70%未満の場合、原則としてF評価となる。

●受講生へのコメント

本セミナーは、合宿場所の選定、フィールドワークの企画と実施、成果の考察に至る全課程を参加学生の主体性に基づいて運営する。この意味で、参加者全員がセミナーに積極的に関与し、盛り上げていくことへの意欲と実行力がなければ、セミナー自体が成立しなくなる。逆に意欲が強ければ強いほど実りあるものとなる。参加者は、「生きた」社会体験を通じて今後の糧となるなにかを得られるはずである。情熱を持った学生の参加を期待したい。なお合宿参加のため、一定の時間と費用の負担が生じることを了解の上、履修のこと。また、合宿の参加には教育講演会への加入か学生教育研究災害傷害保険（年間1,000円程度）への加入を要する。履修人数は20名を上限とする。

●教材

安福恵美子他「観光まちづくり再考」古今書院
 参考資料は授業中に資料を配付します。なお、フィールドノートに関しては、日本大学後藤研究室「東京人

観察学会」(<http://n510.com/>)、現場学習レポートに関しては担当教員の授業で過去に制作された調査報告書（研究室にて閲覧可）が参考になる。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	荻尾 彰一（理）
142	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

『宇宙科学講究』

ここでの「科学」は自然科学のみならず人文科学、社会科学を含む広義の『科学』である。この授業では、自らの興味・関心に基づいて課題を設定し、資料・文献を分析・研究し、またそのために必要な技術を学び、経過・結果を他者に伝え、議論する、という大学での学習・研究の仕方を身につけることを目指す。研究課題設定を無制約にすると、かえって設定に悩み、難しくなり、また議論も発散すると思われるので、この授業では『宇宙』をキーワードに据える。物理学・天文学・工学に限らず、宇宙における建築・法律・行政・商業・産業、宇宙に関する文化・歴史など、様々な課題が設定できると思う。問題設定からレポート提出までのプロセスで、自ら考えること、疑問をそのままにせず積極的に解決していく姿勢の重要性を認識し、そして、的確で効果的な発表・質問・討論の姿勢を身につけて、今後に役立ててほしい。

●授業の到達目標

課題を設定し自ら考える姿勢を身につけ、文献や資料の調べ方や口頭発表・レポート作成・集団での議論の基本を学ぶ、その中で最も重視したいのは、疑問に感じたことを的確に質問する積極的な姿勢である。

●授業内容・授業計画

授業進行の予定は以下の通りである。

- | | |
|-------|---------------------------|
| 1～3回 | ガイダンス、課題検討・決定 |
| 4～11回 | 研究の進捗状況報告、発表・レポート作成に関する技術 |

12回 研究発表会

13～14回 レポート作成進捗状況報告、レポート提出（14回）

15回 レポート講評、まとめ

研究の進捗状況報告は基本的に毎回全員が行うものとし、レポート作成の準備として毎回レジュメを作成し配布すること。また2回以降は発表会形式であるので、受講生が交代で座長を務め、議論をリードすること。また、時間外体験授業として、天体望遠鏡による天体観察、宇宙に関連した学内・外の研究セミナーへの参加、などの機会を設定することも検討している。

●評価方法

授業活動への参加度合い・取り組み、毎回の発表・レジュメ、最終的な研究発表、レポートを基に評価する。この授業では、設定された課題や研究成果の重要性・独創性などよりも、探求の深さ・徹底度、そのための取り組み姿勢、質問・議論・情報収集の積極性、といったプロセスを重視して評価する。

●受講生へのコメント

受講生数を15名程度に制限する。

積極的に主体的な取り組みと他者との議論を通じて「学ぶ」ことの良さ・重要性をぜひ体験してほしい。また、さまざまな学部・分野の仲間との議論・共同研究を通じて、自らの視野と人脈を拡げてほしい。

●教材

必要に応じて、参考資料として授業時間に配布する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	高橋 太（理）
143	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

『「学び」のためのインターネット』

大学での『学び』を効率的に行っていくためには、旧来の書籍・論文等の紙ベース資料のほかに、インター

初年次教育

ネットを用いた資料検索・収集・利用技術が必要不可欠である。レポートや論文作成・研究情報の収集といった場面でもインターネットがもたらす膨大な情報は大いに参考になるであろう。しかし、最新の検索技術を有する検索エンジンによる資料収集は、とすれば学習者を情報の海の中に投げ込み、コピーペーストで見栄えの良いレポートを作成することで満足させてしまいがちである。現代は、個々の学習者が、より注意深く情報の真偽を確かめ、主体的に情報を取捨選択していく必要に迫られている時代だといえる。

このセミナーでは、実際にインターネットを利用して情報検索・収集を行い、「インターネットで学ぶ」技術を学習するとともに、インターネットによる『学び』の様々な問題点を参加する諸君とともに議論し、「どのようにインターネットを創造的な『学び』に活用できるか」を考えて行きたい。

●授業の到達目標

インターネットの世界にある種々の情報を検索・入手するだけでなく、「学び」の目標に合わせてよりの確な情報源を取捨選択できるようになることがこの授業の最大の到達目標である。また、得られた情報に対して自分の意見や見解を付け加えて、批判的な取り扱いができるようになることも目標の一つである。

●授業内容・授業計画

次の諸点を授業内容とする。各課題において具体的な内容を選定する際には、受講生自らが各自の興味に従って決定する。各課題のあとには全員がすべての参加者の前でプレゼンテーションを行い、発表内容につ

いて討論を行う。

- 1) 大学・研究機関・企業等のホームページを訪問し、どのような内容の情報発信がなされているかを調べる。
- 2) 様々な情報検索エンジンを実際を使ってみて、その利点・問題点をまとめる。
- 3) 電子図書館など、インターネット上にある様々な学習・研究資源を調べ、実際に使用してみる。
- 4) インターネット上の百科事典である Wikipedia の未編集項目の一つを選び、文献調査・編集作業を行い、新たな項目としてインターネット上に公開する。

セミナーでは、実際にインターネットに接続した環境でディスカッションやプレゼンテーションを行うので、学術情報センター9階「情報処理演習室」を使用する。

●評価方法

平常点（課題への取り組み・授業参加度）（20%）、発表・討論への参加度（50%）、課題レポート（30%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講生は12名程度とする。インターネットの先は、もちろん【外】の世界なので、学生らしい節度ある行動がとれる人だけが受講して欲しい。担当者自身、コンピュータには全く詳しくなく、受講生諸君と共に学んでいけることを楽しみにしている。

●教材

教科書は使用しない。参考文献などは、授業中に適宜挙げる。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	徳原 大介 (医)
144	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

受講生の多くは子供から大人になろうとする人たちであり、大人にサポートされる立場から子供をサポートする立場になっていく人たちではないでしょうか。本セミナーが子供の健全な育成をサポートする社会人の第一歩となることを期待し、小児医療の現場に携わる小児科医とともに、子供の健康福祉に関わる社会的な問題点（不登校、虐待、貧困等）について実際の症例をもとに学び理解し、社会の未来を担う子供をサポートするために受講者や社会がどうあるべきか深く考えて欲しい。

●授業の到達目標

- (1) 担当教員が経験した実際の症例をもとに、子供の健康福祉に関わる社会的要因を抽出する。
- (2) 社会的要因に対する解決策を受講者自ら提案・

意見交換を行う。

- (3) 個々の症例のまとめ、社会的要因、解決策等について受講生全員がプレゼンテーションを行う。

●授業内容・授業計画

- 第1回 : ガイダンス
第2～3回 : 症例その1、意見交換
第4～5回 : 症例その2、意見交換
第6～7回 : 症例その3、意見交換
第8回 : 前半セミナーのまとめ、プレゼンテーション
第9～10回 : 症例その4、意見交換
第11～12回 : 症例その5、意見交換
第13～14回 : 症例その6、意見交換
第15回 : 後半セミナーのまとめ、プレゼンター

シオン

●評価方法

授業への出席は必須です。意見交換が30点、プレゼンテーションが40点、最終レポートが30点の合計100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

受講生は15名以下とします。受講生同士だけでな

く、小児医療の現場で携わる小児科医とともに積極的に意見交換してください。本セミナーを介して、子供の健全な育成をサポートする方が一人でも多く増えることを期待しています。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	担当教員	鶴田 大輔 (医)
145	英語表記	First Year Seminar				

●科目の主題

「医学最新雑誌を読んで、研究立案をしよう！」

いずれの学術領域においても日進月歩の勢いで進歩していく。中でも、医学は研究人口も多く、昨日の知識がすでに古くなっているということも珍しくない。一方で、世に現れる論文の数々の中で10年後にも生き残る金字塔のような論文は極めて少ない。本セミナーでは、初年次の学生達に、英文医学論文を一つずつ選んで頂き、それを批判的に読む習慣を身につけていただく。その上で、その論文の背景にある知識を獲得していただくとともに、現在の医学の限界とそれを突破するための研究立案をしていただくことを目的とする。非常に優秀な研究立案がなされた場合には可能な範囲で、研究者とディスカッションしたり、実際に研究の一部を担っていただくことができると考えている。

●授業の到達目標

最新医学文献を批判的に読むことができるようにする。その上で、論文の背景にある知識の整理を行い、未だ解決していない研究課題を見出す。そして、それに沿った研究立案をする。立案されたテーマに関係のある大学教員とディスカッションを行う。可能であれ

ば、研究の一部を担っていただく。

●授業内容・授業計画

授業進行予定は以下の通りとする。

- 1回 : 批判的論文購読の実践(鶴田によるパワーポイントをを用いた講義)
- 2回 : ターゲット論文の選定と批判的精読
- 3回 : 論文関連知識の整理と研究計画の立案
- 4-13回 : 2-3回を繰り返す。
- 14回 : 2-13回での最優秀研究立案の選択
- 15回 : 本学教員とのディスカッション、まとめただし、14回までに優秀な研究立案ができた場合には早期に終了して、実験を行っていただくこととする。

●評価方法

出席、取り組み態度、発表、立案の全てを客観的に評価する。

●受講生へのコメント

教科書のみでは獲得できない知識の存在を存分に味わってください。

●教材

Nature Medicine 誌、Nature 誌、Science 誌、Lancet 誌、New England Journal of Medicine 誌、Journal of Investigative Dermatology 誌

3. 基礎教育科目

[科目ナンバー : GE MAT 01 01]

掲載番号 146	科目名	線形代数 I	単位数	2	担当教員	鎌田 聖人 (理)
	英語表記	Linear Algebra I				奥原 沙季 (数学研究所員)
						河田 成人 (理)
						河内 明夫 (理 特任)
						佐官 謙一 (理 特任)
						加藤 信 (理)
						綾野 孝則 (数学研究所員)

●科目の目標

行列と行列式に関する基礎的概念と計算力の習得。

●授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質……行列式の基礎事項と計算練習。
3. 行列式の展開公式。
4. 正則行列の性質……行列の演算における除去の可能性について論じ、余因子行列を用いた逆行列の求め方を解説する。
5. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramer の公式) の解説。
6. 同次連立一次方程式の理論……非自明解を持つ条件の考察。
7. ベクトルの幾何学……空間のベクトルに関する基本事項、空間内の直線、あるいは平面のベクトル表示も解説。
8. ベクトル積……ベクトル解析の基礎として、ベ

クトル積の定義とその特徴付けを解説する。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

●コメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

高等学校の数学Cの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

●教科書等

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

三宅敏恒『線形代数学-初歩からジョルダン標準形へ』(培風館)

ハワード・アントン『アントンのやさしい線型代数』(訳: 山下純一, 現代数学社)

山形邦夫 / 和田俱幸『線形代数学入門』(培風館)

担当者によって、使用する教科書が変わるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 02]

掲載番号 147	科目名	線形代数 II	単位数	2	担当教員	河田 成人 (理)
	英語表記	Linear Algebra II				尾角 正人 (理)
						小松 孝 (理 特任)
						古澤 昌秋 (理)
						安部 哲哉 (理 特任)
						小坂 篤志 (数学研究所員)

●科目の目標

数ベクトル空間を基盤にして、線形代数の基本的手法を解説する。

●授業内容

1. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立およびそれらの判定条件に関する解説。
2. 数ベクトル空間の基底……次元に関する基本事項の解説。
3. 行列の階数……基本変形による階数の計算と関連事項の解説。
4. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法、特に、同次連立方程式の基本解の理論の解説。
5. 基底変換とその行列……基底変換の一般論、及び空間における直交座標系の取り替えに関する

具体例の計算。

6. 線形写像……線形写像の基礎概念と直交変換を素材にした、その図形面での応用。

7. 固有値問題……行列の固有値と固有ベクトルに関する基本事項、その応用としての行列の対角化 (特に対称行列の場合)、線形差分方程式の解法。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

●コメント

クラスごとに授業内容の重点の置き方が多少変わることがある。

線形代数 I の知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続

の関係で、S I 数のクラスの線形代数Ⅱの授業を必ず受講すること。

●教科書等

線形代数Ⅰと同じものを使う。

[科目ナンバー : GE MAT 01 03]

掲載番号 148	科目名	解析Ⅰ	単位数	2	担当教員	伊達山 正人 (理) 加藤 信 (理) 枘田 幹也 (理) 尾角 正人 (理) 濱野 佐知子 (理) 河内 明夫 (理 特任) 齋藤 洋介 (数学研究所員)
	英語表記	Analysis I				

●科目の目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微分積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。

それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいべき極限概念や1変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微分積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分であるから、その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

●授業内容

関数や写像の概念から始まり、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限值計算、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、広義積分、面積や曲線の長さの計算への応用 - の項目について解説し演習も行う。

そして最後に、これらの極限計算や微積分法の基礎である、実数の完備性や連続関数の諸性質について解説し、解析Ⅱへの準備を整える。

●評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業の中で行われる演習によって評価する。それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数を評価の参考に加えることもある。

●コメント

高等学校の数学Ⅲ、数学Cの知識を前提とする。解析Ⅰと解析Ⅱの内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析Ⅲ、Ⅳの前提にもなっているため、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、S I 数のクラスの解析Ⅰの授業を必ず受講すること。

●教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)
三宅敏恒『入門微分積分』(培風館)
ラング『解析入門』(岩波)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 04]

掲載番号 149	科目名	解析Ⅱ	単位数	2	担当教員	高橋 太 (理) 谷崎 俊之 (理) 橋本 要 (数学研究所員) 濱野 佐知子 (理) 堀口 達也 (数学研究所員) 兼田 正治 (理) 齋藤 洋介 (数学研究所員)
	英語表記	Analysis II				

●科目の目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置によって変化するベクトルで表される。

物理現象を記述する言葉として誕生した微分積分学は、もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。

微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。本科目では、線形代数学との対応に注意しながら、多変数関数の微積分やベクトル解析の中の積分定理について解説を行う。

理工系の学生は、本科目の中で、大学における解析学独特の内容に接することになる。

●授業内容

多変数の連続写像、多変数関数の微分、合成関数の

微分に関する連鎖律、ヤコビ行列、微分演算子とラブラシアン、テイラーの定理と極値問題、陰関数・逆関数定理、ラグランジュ乗数法、可測性と可積分性、累次積分、多重積分の変数変換公式、広義積分とガンマ関数、線積分と面積分、ガウス・グリーン・ストークスの定理、ポテンシャルと微分形式が授業予定の項目である。ただし、授業の効率の点から、いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の自習に委ねることもある。

●評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、小テストを実施したり、レポート提出を課したり、授業出席回数を記録したりして評

価の参考にすることもある。

●コメント

予備知識としては解析Ⅰや線形代数学の基本的内容を想定している。

数学科の学生は、専門科目の解析Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ数のクラスの解析Ⅱの授業を必ず受講すること。

●教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（上）』（学術図書）

三宅敏恒『入門微分積分』（培風館）

ラング『続 解析入門』（岩波）

担当者によって使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 01]

掲載番号	科目名	解析Ⅲ	単位数	2	担当教員	佐官 謙一（理 特任） 岩瀨 司（理） 橋本 要（理 特任）
150	英語表記	Analysis III				

●科目の目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係性を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠 ----- な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。中でも基本となるものは、線形方程式に関するものであるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

●授業内容

2階斉次線形微分方程式、基本解と定数変化法、定数係数線形微分方程式と演算子、行列の指数関数、

Laplace 変換による解法、常微分方程式の基本定理、Hamilton 系と勾配系、不動点の安定性、解の極限軌道 - 以上が授業予定の項目である。授業の進度によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

●評価方法

学期末試験の成績によるが、1回の試験での評価の不安定さを軽減するため、授業担当者によっては、小テストを行ったり、演習問題のレポート提出を求めたり、授業出席回数を記録したりすることもある。

●コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）及び線形代数学の基本的内容を想定している。

●教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 02]

掲載番号	科目名	解析Ⅳ	単位数	2	担当教員	釜江 哲朗（理 特任） 佐官 謙一（理 特任）
151	英語表記	Analysis IV				

●科目の目標

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。

変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的發展である。19世紀にCauchy, Riemannらによって基礎

が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。

複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。

それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粋数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。

線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった複素関数論の理論的美しさを理解することを目標とする。

●授業内容

複素平面と複素数の指数関数、正則関数、等角性と

1次関数、整級数、Cauchyの積分定理、留数の定積分計算、Cauchyの積分公式とTaylor展開、最大値原理とLiouvilleの定理、Laurent展開が予定の授業項目である。Riemann面、解析接続、調和関数、等は複素関数論の重要項目であるが、授業時間数の制約のため割愛する。

●評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが、授業担当者によっては、先行試験、レポート、授業出席回数、等を加えて総合的に評価することもある。

●コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）の基本的内容を想定している。

●教科書等

今吉洋一『複素関数概説』（サイエンス社）

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わるのである。購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 03]

掲載番号	科目名	応用数学A	単位数	2	担当教員	伊達山 正人 (理)
152	英語表記	Applied Mathematics A				吉田 雅通 (理) 小松 孝 (理 特任)

●科目の目標

本科目のテーマは確率・統計である。

統計学の目的は、我々がその性質を知りたいものの集まりがあるが、その全てのものを調べることが不可能なとき、その集まりから一部を標本として取り出し、この標本から全体の性質を推測する方法を考えることである。一部のものから全体について客観的な判断をするために、統計学が用いられる。理工系の学生にとって、基本的な統計学の応用能力を持つことは必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので、確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。無限の事象があるとき、それらの事象の確率は測度という概念を用いて定義される。

標本は確率測度の定義された空間上の関数として捉えられる。このような数学的定式化は、標本平均や標本分散等の、色々な統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

本科目では、確率論の基礎と統計学の基本的内容を

解説し、理工系学生が、有効な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

●授業内容

確率の定義、確率変数と期待値、典型的な確率分布、独立確率変数、大数の法則と中心極限定理、正規母集団と統計量、推定、仮説検定（適合度、独立性、分散分析）、回帰分析—以上が授業予定の項目である。

理論的内容についての解説は、統計学の応用に最低限必要な程度に留める。

●評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

●コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）および線形代数学の基本的事柄を想定している。

●教科書等

上記の授業内容に近い形式でまとめられている本を、各授業担当者が選んで使用する。

[科目ナンバー : GE MAT 02 04]

掲載番号	科目名	応用数学B	単位数	2	担当教員	西尾 昌治 (理) 釜江 哲朗 (理 特任)
153	英語表記					

●科目の目標

本科目のテーマは Fourier 解析と偏微分方程式である。

関数を Fourier 級数や Fourier 積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることを可能にすることにある。

Fourier 解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するに必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace 方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解は Fourier 変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、

Fourier 級数や特殊関数による展開が用いられる。

●授業内容

複素形式の、Fourier 級数、Fourier 正弦、余弦展開、Fourier 変換、Delta 関数、物理学における基礎方程式、矩形領域での初期値・境界値問題、Helmholtz 方程式と Bessel 関数・legendre 関数、円筒領域での初期値・境界値問題、Green の積分公式と Laplace 方程式 - 以上が授業予定の項目である。

●評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

●コメント

予備知識としては、解析 I、II、III 及び線形代数学の基本的事柄を想定している。

●教科書等

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

[科目ナンバー : GE MAT 02 05]

掲載番号	科目名	応用数学C	単位数	2	担当教員	吉田 雅通 (理)
154	英語表記					

●科目の目標

コンピュータの、個人レベルでの利用が容易になり、実験系・理論系を問わず理科系全般に、さらに幅広い分野で、利用されるようになってきた。また、各方面で利用できるソフトウェアの充実によって、プログラムを自分で組むことなしに、それまで困難だった多くの計算を要する思考実験や、データの統計的な取り扱いも可能になってきた。

しかし、一方踏み込んだ使用を考えるとときには、用意された機能だけでは、役に立たなくなってくる。誤差の累積などにより、計算結果に疑問が生じたとき、あるいは誤差の範囲を厳密に知る必要があるとき、また計算にあまりに多くの時間を要すると思われるときには、その計算がどのような計算手順 (アルゴリズム) でなされているかを知る必要がでてくる。そして、必要によっては、自分でプログラムを組まなければならない。その際に、問題解決のためのアルゴリズムの基

本的な知識は不可欠である。

この授業では、問題解決のための基本的なアルゴリズムを学ぶ。そのことによって、使用するプログラム言語によらずに存在する不動小数点演算の誤差の問題、問題解決のための計算量の問題等、アルゴリズム固有のことがらを正確に認識できる知識と判断力を養うことが、本講の目的である。

●授業内容

コンピュータ関連の入門コースの多くは、プログラム言語の修得と簡単なプログラミングとなっている。本講義では、応用数学A (確率・統計)、応用数学B (偏微分方程式) に現われる数学的事実からトピックスを選び、コンピュータでの数値計算の数学的側面を講義する。したがって、上記2つの講義単位取得者が望ましく、あくまで数学である事に留意されたい。

もちろん、線形代数、微積分学の知識は前提とされている。

トピックスは正規方程式、モンテカルロ法、偏微分方程式の差分近似法などである。

●評価方法

定期試験の成績で決定する。

●教科書等

特に指定しない。

[科目ナンバー : GE MAT 01 05]

掲載番号	科目名	基礎数学A	単位数	2	担当教員	齋藤 洋介 (数学研究所員) 古澤 昌秋 (理) 小坂 篤志 (数学研究所員) 金信 泰造 (理) 佐官 謙一 (理 特任)
155	英語表記					

●科目の目標

関数の微分法を中心にして、数学的手法の基礎理論を展開する。

●授業内容

1. 初等関数の定義とその性質……三角関数、指数関数、対数関数などの代表的な初等関数の定義とその性質を解説。
2. 極限の概念と微分の基礎理論……積の微分、合成関数の微分公式。
3. 初等関数の微分……有理関数、三角関数、指数関数、対数関数などの微分法。
4. テーラー展開……関数の多項式による近似の理論。
5. 2変数関数に関する基礎概念……2変数関数の極限と連続性の解説。
6. 偏導関数……2変数関数における偏微分の定義

と関連事項の解説。

7. 全微分……2変数関数の全微分の定義とその図形的意味などの解説。
8. 極値問題 (条件付き極値問題、ラグランジュの未定係数法)

●評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。特に第2部では、受講生数が僅少な場合には、演習を主体としその成績によることもある。

●教科書等

田代嘉宏『数学概論 線形代数 / 微分積分』(裳華房)
桑村雅隆『微分積分入門』(裳華房)
Pemberton/Rau "Mathematics for Economists"
(University of Toronto Press)
担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 06]

掲載番号	科目名	基礎数学B	単位数	2	担当教員	古澤 昌秋 (理) 兼田 正治 (理) 綾野 孝則 (数学研究所員) 佐官 謙一 (理 特任) 河内 明夫 (理 特任)
156	英語表記					

●科目の目標

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

●授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質。
3. 正則行列の性質……行列の演算における除法の可能性についての解説。
4. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramer の公式)
5. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立、および、それらの判定条件に関する解説。

6. 数ベクトル空間の基底……次元に関連する基本事項の解説。
7. 行列の階数……行列の基本変形による階数の計算。
8. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法。

●評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

●教科書等

田代嘉宏『数学概論 線形代数 / 微分積分』(裳華房)
三宅敏恒『線形代数 - 例とポイント』(培風館)
Pemberton/Rau "Mathematics for Economists"
(University of Toronto Press)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあ

るので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 07]

掲載番号	科目名	統計学A	単位数	2	担当教員	福井 充 (医)
157	英語表記	Statistics A				

●科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念の習得を目的とする。

●授業内容

統計学の基礎として記述統計、確率分布、検定・推定の考え方についての講義を行う。具体的には

1. 統計学とは。標本調査の考え方 (1回)
2. 記述統計・単変量 (2回): 度数分布表・ヒストグラム・箱ひげ図、平均・分散・標準偏差・中央値・パーセント点
3. 記述統計・2変量 (2回): 散布図、相関係数・回帰直線
4. 確率分布 (4回): 確率変数・確率分布の概念、代表的な確率分布 (正規分布・二項分布・ポアソン分布)
5. 検定の考え方 (4回): (1母集団の母比率比較

を例に) 有意水準と検出力、片側検定と両側検定、棄却域、P値

6. 推定の考え方 (2回): (1母集団の母比率の推定を例に) 点推定、区間推定

演習は講義時間内に適時行う。

●評価方法

定期試験 (80%程度) とレポート (20%程度) で評価する。

●コメント

解析学 (微積分)・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること。試験は関数電卓の使用を前提とする。(詳細は授業時に指示)

●教科書等

丹後俊郎著「医学への統計学 第3版」(朝倉書店)
注) この教科書は統計学B、3・4回生での医学統計学でも使用する。

[科目ナンバー : GE MAT 01 08]

掲載番号	科目名	統計学B	単位数	2	担当教員	福井 充 (医)
158	英語表記	Statistics B				

●科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では実際の問題に対する統計的手法を習得することを目標とする。

●授業内容

各種統計的手法の適用について例題を用いて講義する。具体的には

1. 1つの正規母集団の母平均・母分散についての検定・推定 (2回)
2. 2つの正規母集団の母平均・母分散の比較 (データに対応のない場合) (2回)
3. 2つの正規母集団の母平均の比較 (データに対応のある場合) (1回)
4. 2つの非正規母集団についてのノンパラメ

リック検定 (データに対応のない場合) (2回)

5. 2つの非正規母集団についてのノンパラメリック検定 (データに対応のある場合) (1回)

6. 2つの母集団の母比率の比較 (データに対応のない場合) (3回)

7. 2つの母集団の母比率の比較 (データに対応のある場合) (1回)

8. 独立性の検定 (1回)

9. 適合度検定 (2回)

演習は講義時間内に適時行う。

●評価方法

定期試験で評価する。

●コメント

解析学 (微積分)・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に

応じて各自で補うこと。また、統計学Aでの講義内容を前提とする。

関数電卓を用意すること。試験は関数電卓の使用を前提とする。

[科目ナンバー : GE PHY 03 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅰ	単位数	4	担当教員	有馬 正樹 (理) 中川 道夫 (非常勤) 牲川 章 (理 特任) 河合 俊治 (非常勤)
159	英語表記					

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象として、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、演習により理解を深めると共に応用力をつける。

●授業内容

1. 運動：空間と時間、速度
2. 運動の法則：慣性、運動法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー：1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力：ケプラーの法則、クーロン力による散乱
5. 角運動量：角運動量と力のモーメント

●教科書等

丹後俊郎著「医学への統計学 第3版」(朝倉書店)
注) この教科書は統計学A、3・4年生での医学統計学でも使用する。

6. 質点系の力学：運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量
7. 剛体の簡単な運動：剛体の運動方程式、固定軸をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント
8. 相対運動：回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

上記の内容等は、受講者諸氏の理解度等に応じて変更する場合もある。

●評価方法

授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する。

●教科書等

戸田盛和著『力学』(岩波書店)を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 03 02]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅱ	単位数	4	担当教員	浜端 広充 (理) 河合 俊治 (非常勤) 中川 道夫 (非常勤)
160	英語表記					

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

●授業内容

1. 静電場
 - ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
 - ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
 - ・コンデンサー、・誘電率
2. 定常電流
 - ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則

3. 電流と磁場

- ・磁場、・磁場に関するガウスの法則、
- ・アンペールの法則、・ビオ・サバールの法則、
- ・ローレンツ力、・磁気双極子、・透磁率、・変位電流

4. 電磁誘導と準定常電流

- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、
- ・過渡現象

5. 電磁気学の基本法則

- ・マクスウェルの方程式、・電磁波

●評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する。

●教科書等

教科書として「砂川重信著『電磁気学[改訂版]初めて学ぶ人のために』(培風館)」を用いる。また、演習

書や参考図書を適宜紹介する。

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 04 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学I-A	単位数	2	担当教員	糸山 浩 (理) 牲川 章 (理 特任)
161	英語表記					

●科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は振動及び波動の講義である。基礎物理学Iの発展と位置付けられると同時に、「場」という概念の導入にもなっている。マクロな古典的現象を対象にし、波動に関しては初歩から始め、多くの例を取り扱う。

●授業内容

1. 力学と振動：単振動と減衰振動、強制振動と減衰項付きの強制振動、仕事率、パラメータ励振、固有値問題としての連成振動、連成振動の一般論、連続極限
2. 波動（1次元）：弦の微小振動と一般解、初期値問題、境界条件、流体中の音波、定常波と変数分離、フーリエ展開、分散と群速度、波のエネルギーと運動量
3. 多成分・空間2, 3次元への拡張：粒子と場、ベ

クトルとテンソル、弾性体と流体、物体の変形と歪テンソル、応力テンソル、フック則、等方媒質中の弾性波

4. 横波ベクトルとしての電磁波
5. 幾何光学極限と回折・干渉

●評価方法

試験及び宿題（レポート）による。

●コメント

基礎物理学Iの履修を前提とする。

●参考書

「親切な物理（下）渡辺久夫著」。高校の物理からの橋渡しとして；「振動と波動」（岩波書店）寺沢徳雄、中級標準的な振動・波動の教科書；「波動」（東大出版会）岩本文明、上記書よりやや進んだ数学的記述を含む。どちらも2、3年次に進んでも有用な本。糸山による教科書が準備中である。

[科目ナンバー : GE PHY 04 02]

掲載番号	科目名	基礎物理学II-A	単位数	2	担当教員	西川 裕規 (理)
162	英語表記					

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学IIのAdvanced Courseとして設けられた電磁気学の講義で、Maxwell方程式の微分形を使いこなせるようになることを目標とする。そのために必要なベクトル解析をも学習する。また、理解を深めると共に応用力をつけるために演習を行う。なお下記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

●授業内容

1. ベクトル解析の基礎
 - ・場と線積分、面積分、体積積分、Gauss、Stokesの定理とMaxwell方程式、電荷保存則

の微分形、ベクトル解析の計算、スカラーポテンシャルとベクトルポテンシャル

2. 電磁場の波数・周波数分解
 - ・Fourier解析入門、微分形Maxwell方程式のFourier表示、源なしの電磁場（電磁波）、源を既知とした時の電磁場（Laplacian, d'AlembertianのGreen関数）
3. 電磁場と荷電粒子系
 - ・電磁ポテンシャル、場の解析力学、場の保存量（電磁エネルギー、電磁運動量等）
4. 電磁気学と特殊相対性理論
 - ・Einsteinの相対性原理とLorentz変換、Maxwell方程式、電荷保存則の書換え、物理法則の共変性、場の変換、テンソル解析入門

●評価方法

期末試験、レポートなど。

●コメント

基礎物理学Ⅱの履修を前提として講義を行う。

●教科書等

教科書、参考書等として、砂川重信著『理論電磁気

学』（紀伊国屋書店）、太田浩一著『電磁気学の基礎Ⅰ、Ⅱ』（東京大学出版会）、高橋康著『電磁気学再入門』（講談社サイエンティフィク）、戸田盛和著『理工系の数学入門コース3 ベクトル解析』（岩波書店）、井田大輔著『ベクトル解析と微分形式』（東洋書店）、深谷賢治著『電磁場とベクトル解析』（岩波書店）等を挙げる。

[科目ナンバー : GE PHY 02 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅰ-E	単位数	2	担当教員	菊地 右馬 (理 特任)
163	英語表記	Basic Physics I -E				浜端 広充 (理)
						井上 慎 (理)

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。なお下記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

●授業内容

1. 力のつりあい：変位とベクトル、力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
2. 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元の運動、円運動の速度と加速度
3. 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
4. いろいろな運動：落体の運動、単振動、等速円運動、抵抗力をうけた物体の運動

5. 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーの保存
6. 運動量と角運動量：運動量と力積、2物体の運動、角運動量
7. 慣性の力：慣性系と慣性の力、回転系における運動
8. 剛体のつりあいと回転

●評価方法

小テスト、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

●コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

●教科書等

長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE PHY 02 02]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅱ-E	単位数	2	担当教員	菊地 右馬 (理 特任)
164	英語表記	Basic Physics II -E				牲川 章 (理 特任)

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象にする電磁気学を学習する。

●授業内容

1. 電荷と静電場
 - ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
 - ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
 - ・コンデンサー
2. 定常電流と静磁場
 - ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則、
 - ・磁場、・ローレンツ力、・ビオ・サバルの法則、

- ・磁気双極子、・アンペールの法則
3. 電磁誘導
 - ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導
 4. 電磁気学の基本法則
 - ・変位電流、・マクスウェルの方程式、・電磁波

●評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

●コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

●教科書等

教科書として「長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE PHY 03 03]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅲ	単位数	2	担当教員	矢野 英雄 (理) 井上 慎 (理) 中川 道夫 (非常勤) 畑 徹 (非常勤)
165	英語表記	Basic Physics III				

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた現象論としての熱力学を学習する。熱力学の基本法則である第1、第2、第3法則、熱力学諸関数、物質中の電子運動にも適用できる気体分子運動論が理解できる。

●授業内容

第1週～第2週 (熱現象と熱力学)

・熱平衡と温度、・状態量、・理想気体の状態方程式

・ファンデルワールの状態方程式

第3週～第5週 (熱力学第1法則)

・準静的過程、・熱力学第1法則、・内部エネルギー、・熱容量と比熱、・等温過程、・断熱過程、・カルノーサイクル

第6週～第7週 (熱力学の第2法則)

・可逆と不可逆過程、・熱力学の第2法則、・熱機関の効率、・熱力学温度、・クラジウスの不等式
第8週～第10週 (エントロピー)

・エントロピー、・エントロピー増大の法則、不可逆性と確率論的意味、・微視的状态

第11週～第12週 (熱力学関数)

・エンタルピー、・自由エネルギー、・熱平衡

第13週～第15週 (気体分子運動論)

・エネルギー等分配の法則、・速度の分布則

●評価方法

主として期末試験により評価する。

●教科書等

教科書として「國友正和著、基礎熱力学 (共立出版)」を使用する。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 03 04]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅳ	単位数	2	担当教員	中尾 憲一 (理)
166	英語表記	Basic Physics IV				

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。特に、量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

●授業内容

1. 古典物理学の限界：光の粒子性、電子の波動性、粒子性と波動性の二重性、ド・ブロイの関係式

2. シュレディンガー方程式：古典的波動方程式、自由粒子のシュレディンガー方程式と平面波、物理量と演算子、時間に依存するシュレディンガー方程式、波動関数と確率解釈、確率の保存則、波束とフーリエ変換、ディラックのデルタ

関数

3. 定常状態のシュレディンガー方程式：演算子の固有値と固有関数、時間に依存しないシュレディンガー方程式、束縛状態と非束縛状態

4. 1次元問題1 (束縛状態)：変数分離と1次元のシュレディンガー方程式、井戸型ポテンシャル、調和振動子ポテンシャル

5. 1次元問題2 (反射と透過)：1次元の自由運動、階段型ポテンシャルによる反射と透過、ポテンシャル障壁の透過 (トンネル効果)

6. 3次元問題：球対称ポテンシャル中の粒子運動、球座標によるシュレディンガー方程式、球面調和関数と軌道角運動量、動径方向のシュレディンガー方程式

●評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

●コメント

基礎物理学Ⅰと解析学の基礎が理解されていること

を前提に講義を行う。特に振動・波動の学習を推奨する。

を適宜紹介する。

●教科書等

教科書は特に指定しない。また参考図書・演習書等

[科目ナンバー : GE PHY 02 03]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅳ- E	単位数	2	担当教員	畑 徹 (非常勤)
167	英語表記					

●科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、特に現代物理学が解明したミクロの世界における重要な物理現象や、そこから基礎法則を導出した量子論の概略と、その物質系への応用例を概説する。さらに研究の最前線のトピックスを紹介する。授業は下記の項目の中から適宜選択しておこなう。

●授業内容

1. 光の粒子性：熱放射とエネルギー量子、光電効果、コンプトン効果
2. 電子の波動性：ド・ブロイ波、アインシュタイン - ド・ブロイの関係式
3. 粒子性と波動性の二重性
4. 量子力学入門：シュレディンガー方程式、波動関数の解釈、エネルギー固有状態、多粒子系

(フェルミ統計とボーズ統計)

5. 物質の構造：原子、分子、固体の成り立ちと電子状態
6. 物理学最前線：量子現象のトピックス（超流動、超伝導、レーザーなどの中から進度に応じて選択）

●評価方法

期末試験、レポートなど。

●コメント

基礎物理学ⅠおよびⅡが履修されていることを前提に講義を進める。高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理Ⅲの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

●教科書等

参考書：長岡洋介著『基礎物理学シリーズ 現代物理学』（東京数学社）

[科目ナンバー : GE PHY 01 01]

掲載番号	科目名	物理学Ⅰ	単位数	2	担当教員	牲川 章 (理 特任)
168	英語表記					

●科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Ⅰでは、主に、力学と波動の分野を中心に学ぶ。

●授業内容

1. 物理学とは
 - ・物理学の学び方、物理量の表し方
2. 運動の記述

・速度、・加速度、・等速円運動

3. 運動の法則と力の法則
 - ・運動の第1, 2, 3法則
4. 力と運動
 - ・運動方程式とその解
5. 振動
 - ・単振動、・減衰振動、・強制振動
6. 仕事とエネルギー
 - ・仕事、・エネルギー、・保存力、・エネルギー保存則
7. 回転運動
 - ・角運動量、・回転運動の法則
8. 剛体の力学
 - ・剛体の運動方程式、慣性モーメント
9. 見かけの力
 - ・加速度系からみた運動

10. 波動と光

●評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

●教科書等

教科書として、原 康夫著『(第4版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

[科目ナンバー : GE PHY 01 02]

掲載番号	科目名	物理学Ⅱ	単位数	2	担当教員	村田 恵三 (非常勤)
169	英語表記					

●科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Ⅱでは、主に、電磁気学と現代物理学の分野を中心に学ぶ。

●授業内容

1. 真空中の静電場
 - ・電荷, ・クーロンの法則, ・電場のガウスの法則
2. 導体・誘電体と静電場
 - ・導体, ・誘電体, ・キャパシター

3. 電流と回路

・オームの法則, ・キルヒホッフの法則, ・CR回路

4. 電流と磁場

・電流のつくる磁場, ・ローレンツ力,
・ビオサバールの法則, ・磁場のガウスの法則
・アンペールの法則

5. 電磁誘導

・電磁誘導の法則, ・自己誘導, ・相互誘導

6. マクスウェル方程式と電磁波

7. 現代物理学の概要

・相対性理論, ・ミクロの世界と量子論,
・原子核と素粒子

●評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

●教科書等

教科書として、原 康夫著『(第4版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

[科目ナンバー : GE PHY 01 03]

掲載番号	科目名	入門物理学Ⅰ	単位数	2	担当教員	吉野 裕高 (理 特任) 佐藤 弘一 (理 特任)
170	英語表記					

●科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的理解が得られることを目指す。

●授業内容

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方を述べ、項目として、

- 1) 速度と加速度
速度, 加速度, 等速直線運動, 等加速度運動
- 2) 運動の法則 (ニュートンの運動の法則)
座標系, ベクトル, 運動の法則, 力, 放物運動
- 3) 周期運動
周期運動, 単振動, 単振り子, 等速円運動
- 4) 力と運動、エネルギー
力と仕事, 運動エネルギー, 位置エネルギー, エネルギー保存則, 運動量, 運動量保存則
- 5) 剛体の運動

剛体，慣性モーメント，重心の運動，回転運動
6) 熱と温度
熱，温度，状態方程式，プランクの法則，熱力学の法則
などの内容で講義を行う。

この授業では，講義を聞くだけでなく，項目毎に演習を行いながら，理解を深める。

●評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評

価する。

●コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、本科目が必修あるいは選択必修に指定されていない場合、基礎物理学Ⅰ－Eを履修すること。

●教科書等

原康夫著『基礎からの物理学』（学術図書出版社）

[科目ナンバー : GE PHY 01 04]

掲載番号	科目名	入門物理学Ⅱ	単位数	2	担当教員	吉野 裕高 (理 特任) 佐藤 弘一 (理 特任)
171	英語表記	Introduction to Physics II				

●科目の目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

●授業内容

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力
- 2) 電荷と電気力，電荷の保存則，静電誘導，クーロンの法則
- 3) 電場
- 4) 電場，ガウスの法則
- 5) 電位
- 6) 位置エネルギー，電位と電位差，

7) 誘電体とキャパシタ

8) キャパシタ，電気容量，電場のエネルギー，誘電体と電場

9) 電流とオームの法則

10) 電流，起電力，オームの法則

11) 電流と磁場

12) 磁場，アンペールの法則，磁気力

13) 電磁誘導

14) 電磁誘導，誘導起電力，磁場のエネルギー

15) 新しい物理学の展開

16) 光・電子の二重性，不確定原理，相対性理論，原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では，講義を聞くだけでなく，項目毎に演習を行いながら，理解を深める。

●評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

●コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学Ⅱ－Eを履修すること。

●教科書等

原康夫著『基礎からの物理学』（学術図書出版社）

[科目ナンバー : GE PEX 01 02]

掲載番号	科目名	入門物理学実験	単位数	2	担当教員	岩崎 昌子 (理) 他
172	英語表記	Introductory Physics Experiments				

●科目の目標

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定し、その整流作用を観測する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不

連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●コメント

本科目は高等学校で物理学を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理学を履修した、必修以外の学生は、基礎物理学実験Ⅰを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱと物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Ⅰおよび物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験Ⅱもしくは物理学実験S Bを履修すること。

●教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PEX 01 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学実験Ⅰ	単位数	3	担当教員	田越 秀行 (理) 他 丸 信人 (理) 他 小原 顕 (理) 他
173	英語表記	Basic Physics Experiments I				

機械工学科：①学籍番号奇数の学生は前期火曜クラス
②学籍番号偶数の学生は前期木曜クラス

●科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。
2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容

基礎物理学実験Ⅰは高校で物理学を履修した学生を対象とする。1回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2回目以降は、前半・後半各6テーマとして、1回1テーマ、原則として2名1組で実験を行い、レポートを作成する。

1. 前半テーマ

「剛体の等加速度運動」：斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」：

スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「熱の仕事当量」：電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定し、その整流作用を観測する。

2. 後半テーマ

「ヤング率・剛性率」：力による金属の伸びや曲がりからヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨張」：金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスターの特性」：トランジスターの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」：電場中での油滴の運動

を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは1週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●コメント

機械工学科の学生は火曜クラスと木曜クラスに分か

れる。学籍番号奇数の学生は前期火曜クラスを、偶数の学生は前期木曜クラスを受講すること。

本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱと物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は物理学実験S Bを履修すること。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理I、IIの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

●教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PEX 02 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学実験Ⅱ	単位数	3	担当教員	山本 和弘 (理) 他 常定 芳基 (理) 他
174	英語表記	Basic Physics Experiments II				

●科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験または基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」：大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「光の速度」：パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速を直接測定する。「光の回折」：レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。「過渡現象と交流回路」：抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象の時定数の測定、位相差の測定、インダクタンスの測定から交流についての理解を深める。「差動増幅器」：OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」：波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」：強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」：電磁場中での荷電粒子の運動を

観察し、電子の比電荷を測定する。「レーザー」：固体レーザーの発振の様子や第二高調波発生を観測を通して、非線形光学の基礎を学ぶ。

「真空」：低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」：黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係を調べる。「原子スペクトル」：水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 γ 線スペクトル」：シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 γ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを次回までに提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●コメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験または基礎物理学実験Ⅰ（それに相当するもの）を修得していなければならない。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理I、IIの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

●教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PCH 01 01]

掲載番号	科目名	基礎物理化学 A	単位数	2	担当教員	宮原 郁子 (理) 他 神谷 信夫 (理) 麻田 俊雄 (非常勤) 佐藤 和信 (理) 他
175	英語表記	Basic Physical Chemistry A				

●科目の目標

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解することを目標として、ミクロな視点から物質を理解するために必要な化学の基本概念を学ぶ。

●授業内容

- 第 1～4 回 原子の構造と量子論の基礎
- 第 5～7 回 二原子分子の化学結合－共有結合とイオン結合
- 第 8、9 回 三原子分子と結合角－分子を曲げる力

の謎

第10～12回 分子軌道法と混成－多原子分子の構造
第13～14回 分子間に働く力
(SI クラス) 第 1～7 回を宮原郁子、第 8～14回を塩見大輔が担当

●評価方法

試験の成績に出席状況を加味して評価する。

●教科書等

適宜、資料プリントを配布する。

参考書：P. W. アトキンス著「物理化学（上）」（東京化学同人）（宮原郁子、塩見大輔 担当）

[科目ナンバー : GE PCH 01 02]

掲載番号	科目名	基礎物理化学 B	単位数	2	担当教員	豊田 和男 (理) 宮崎 裕司 (非常勤)
176	英語表記	Basic Physical Chemistry B				

●科目の目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第 2 法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解して、循環過程が成立する条件を学ぶ。また、自由エネルギー概念を導入して、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

●授業内容

高校で物理を履修していない学生にも理解できるように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、自由エネルギーなど、熱力学における基本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思

考力を養う。

1. 系と環境 2. 熱力学第 1 法則（内部エネルギー、熱、仕事） 3. 熱平衡と温度 4. 状態の記述（熱力学的平衡、状態量、可逆過程と不可逆過程） 5. 蒸気機関の改良とカルノー・サイクル 6. 熱力学第 2 法則 7. エントロピー概念と熱力学温度の確立 8. 不可逆過程とエントロピー 9. 循環過程の成立条件 10. 閉じた系の熱力学（エンタルピー、熱容量、自由エネルギー）

●評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。

●教科書等

初回の講義で指示する。（豊田和男担当）

菅宏著「はじめての化学熱力学」（岩波書店）（宮崎裕司担当）

[科目ナンバー : GE OCH 01 01]

掲載番号	科目名	基礎有機化学Ⅰ	単位数	2	担当教員	坂口 和彦 (理)
177	英語表記					

●科目の目標

有機化合物は自然界に広く存在し、我々の生活に深く関わっている。有機化学は、この有機化合物を理解し扱う学問分野である。本講義では、有機化学の基礎を体系的に学習する中で、特に有機化合物の「かたち」と「性質」を理解することを目指す。専門科目としての有機化学への入門としても位置づけられる科目である。

●授業内容

1. 結合と構造異性
2. アルカンとシクロアルカン
3. アルケンとアルキン
4. 芳香族化合物
5. 立体異

性 6. 有機ハロゲン化合物 7. アルコールとフェノール

●評価方法

試験の成績、出席点、授業中の小テストなどを総合的に評価する。

●コメント

学習内容を理解し身につけるには、演習問題を解くことが重要である。

●教科書等

H. ハート /L.E. クレーン /D.J. ハート著・秋葉欣哉 /奥彬共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

[科目ナンバー : GE OCH 01 02]

掲載番号	科目名	基礎有機化学Ⅱ	単位数	2	担当教員	小寺 正敏 (理) 他
178	英語表記					

●科目の目標

機能性材料から生命現象を担う生体物質まで、現代社会のあらゆる場面で有機化合物が重要な役割を果たしている。本科目では、有機化合物を理解するうえで不可欠な有機化学の諸原理や基礎的概念を修得することをめざし、種々の官能基を持つ化合物の構造、性質、反応について系統的に学ぶ。基礎有機化学Ⅰに継続する科目であり、ⅠとⅡを連続して受講することで、有機化学への理解がますます深まる。

●授業内容

- (小寺 正敏 (理) 担当)
1. エーテルとエポキシド
 2. アルデヒドとケトン
 3. カルボン酸とその

誘導体 4. アミン 5. 複素環化合物

(白杵 克之助 (理) 担当) 6. 脂質 7. 炭水化合物 8. アミノ酸、ペプチド、タンパク質 9. ヌクレオチドと核酸

●評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習

●コメント

基礎有機化学Ⅰを受講しておくこと。授業終了後演習問題を解いて、よく復習すること。

●教科書等

H. ハート /L.E. クレーン /D.J. ハート著・秋葉欣哉 /奥彬共訳 [ハート基礎有機化学] (培風館)

[科目ナンバー : GE OCH 01 03]

掲載番号	科目名	基礎有機化学	単位数	2	担当教員	古市 公彬 (非常勤)
179	英語表記					

●科目の目標

我々の身の回りには、天然および人工の有機化合物が溢れている。近年、これらの化合物について基本的性質を知りその働きを理解することは、化学を専門と

しない理系の学生にとっても必要となってきた。ここでは化学を専門としない理系の学生を対象に、有機化学の基本概念の習得を目標として有機化合物における官能基とその性質・反応性について系統的に解説

を行い、有機化合物についての理解を深める。

●授業内容

1. 結合と構造異性、2. アルカンとシクロアルカン、アルカンとアルキン、3. 芳香族化合物、4. 立体異性、5. 有機ハロゲン化合物、6. アルコール、フェノール、とチオール、7. エーテルとエポキド、8. アルデヒドとケトン、9. カルボン酸とその誘導体、10. アミンとそれに関連した窒素化合物などの各論を系統的に講義する。

●評価方法

試験の成績、授業中のテストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

[科目ナンバー : GE OCH 01 04]

掲載番号	科目名	基礎有機化学 M	単位数	2	担当教員	飯尾 英夫 (非常勤)
180	英語表記	Fundamental Organic Chemistry M				

●科目の目標

生体においては、さまざまな有機化学反応が細胞という名のフラスコのなかで起こっている。これらの反応は有機化学の原理にしたがう。

本講義では、有機化合物の構造と性質、反応、合成の理解を基礎として、生命科学に不可欠な生体を構成する化合物(炭水化物、タンパク質・酵素、核酸などの高分子化合物)や分子集合体(膜)および医薬品の有機化学について学習する。

●授業内容

1. 有機化学の基本概念: 電子構造と共有結合、酸と塩基 2. アルカン、アルケン、アルキンの構造と

●コメント

有機化学の最初の時間で学ぶ1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また参考書の演習問題を解くことによって知識を自分のものとする事ができる。

●教科書等

参考書として H. ハート /D.E. クレーン /D.J. ハート 共著・秋葉欣哉 / 奥 彬共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

反応 3. 異性体と立体化学、共鳴理論と芳香性 4. 各種官能基の性質と置換反応および脱離反応 5. カルボニル化合物の反応と合成 6. 炭水化物、アミノ酸・ペプチド・タンパク質、脂質の有機化学 7. 酵素・補酵素と代謝の有機化学 8. 核酸の化学 9. 医薬品の有機化学

●評価方法

試験、演習、出席状況などを総合的に評価する。

●教科書

教科書: Paula Y. Bruice 著「ブルース有機化学概説第2版」(化学同人)

[科目ナンバー : GE ICH 02 01]

掲載番号	科目名	基礎無機化学	単位数	2	担当教員	早坂 和将 (理 特任) 磯邊 清 (非常勤) 市村 彰男 (非常勤)
181	英語表記	Basic Inorganic Chemistry				

●科目の目標

無機化学は、無機化合物の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。近年では、生命科学や最先端の科学技術においてもその重要さが認識されつつある。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的な考え方を習得する。

●授業内容

S II 化クラス:

無機化学の基礎を理解するため、原子構造と分子構造、分子の形と対称性、固体の構造、配位化合物(金属錯体)などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物、錯体の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

M I 医クラス:

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

コメント：適宜中間テストを行い、理解度をチェックしながら進める。

S II (数物生地) T II (機電建都情) クラス：

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素(非金属元素)や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や固体無機

物質、金属酵素などに焦点をあて、無機化学的観点から生命科学や最先端の科学技術の理解に役立つ授業内容とする。

●評価方法

出席状況、レポート、試験などの成績を総合的に評価する。

●教科書

(S II 化) シュライバー著「無機化学(上)」(東京化学同人)

(S II (数物生地))、(T II (機電建都情)) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

参考書

(S II 化)、(MI 医) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

(S II (数物生地))、(T II (機電建都情)) シュライバー著「無機化学(上)」(東京化学同人)

[科目ナンバー : GE ACH 02 01]

掲載番号	科目名	基礎分析化学	単位数	2	担当教員	東海林 竜也 (理) 市村 彰男 (非常勤)
182	英語表記	Basic Analytical Chemistry				

●科目の目標

分析化学は、物質の分離、精製、検出、同定、定量分析などの方法論を研究開発する学問分野である。分析化学では水溶液中の化学反応を利用することが多いため、本科目では主に溶液内イオン平衡について取り扱う。

●授業内容

溶液内反応に基づく分析手法の基礎理論と平衡計算(酸・塩基平衡、錯形成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡)を含む、溶液内平衡反応を理解する。そしてこれら平衡の問題を解くために厳密な取り扱いを習得した後、近似法、図的法、数値法などの各種の解法を学ぶ。また、それぞれの平衡反応を用いる滴定手法(中和滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定)につい

ても学ぶ。

●評価方法

定期試験、中間試験、レポートなど

●コメント

指数、対数、平方根等が計算可能な関数電卓を使用できることが望ましい。

理学部化学科向けは、東海林竜也が担当する。

工学部等他学部向けは、市村彰男が担当する。

●教科書等

教科書：姫野貞之、市村彰男 著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』第2版(化学同人)

参考書：土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学 I 基礎』(丸善)、H. Freiser, "Concepts and Calculation in Analytical Chemistry"

[科目ナンバー : GE CHE 01 01]

掲載番号	科目名	入門化学	単位数	2	担当教員	中澤 重顕 (理 特任)
183	英語表記	Introduction to Chemistry				

●科目の目標

化学を専門としない理系学生を対象とした科目である。高校時代に化学を学んでいない学生が高校レベルの化学の知識を越え、かつ現代化学が理解できるよう

に講義する。高校程度の基礎からはじめ、単位系や元素の周期表、現代化学の体系の基礎を習得することを目指す。医薬品、化粧品、液晶、リチウム二次電池をはじめ、日常に溢れる化学物質を理解できるように化

学・分子の世界を概観し分子の世界の法則を直観的に理解できるようになるとともに、最先端の化学研究の一端に触れることにより、最終的には自ら化学について思考できるように化学の基礎的概念のイメージを習得する。

物質社会の根底にある化学・分子の法則とはどのようなものか、分子の形がどのようにして機能と結びついているか、化学が日常生活で果している役割などを学ぶことを通じて、化学の面白さ・学問的な深さを知り、化学を身近で親しみのある科目にする。

●授業内容

- ① 高校化学の基礎的な話
- ② 化学に強くなる「化学の基礎」
- ③ 化学反応とエネルギー・熱・温度・光
- ④ 光学異性体の不思議と化学

- ⑤ 化学結合と分子を理解のための初歩的量子化学
 - ⑥ 水にまつわる化学の話
 - ⑦ タンパク質と DNA の分子科学・分子進化
 - ⑧ 生命と化学物質との関わり
 - ⑨ 最近の電池の話
 - ⑩ 化粧品・食品・料理の化学
 - ⑪ 原子・分子・微視的粒子の世界の法則
 - ⑫ 産業に活用される機能分子
- 各項目を1、2週で行う。

●評価方法

小テストと定期試験。
小テスト 40：定期試験 60 で配点する。

●コメント

●教科書等

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

[科目ナンバー : GE CEX 01 01]

掲載番号 184	科目名	基礎化学実験 I	単位数	3	担当教員	篠田 哲史 (理) 他
	英語表記	Basic Chemistry Experiments I				

●科目の目標

身近の物質変化を基にした基礎的実験を通して、現代科学および技術にとって必須の化学的知識を理解する。実験に際しては注意深く観察し、種々の現象を理論的に考える。また実験結果を整理して、自然の摂理を理解する能力を養う。

●授業内容

1. 「ガイダンス」: 実験内容の説明と安全指導
- 2～6. 陽イオンの定性分析実験: (1) 銀、銅、スズ族イオン混合試料の分離分析及各イオンの確認(2) 沈殿反応、炎色反応を利用した未知試料の分析等
7. 原子スペクトル分析実験: 原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析
- 8～11. 有機化合物の合成実験: (1) 有機実験基本操作法 (2) 純物質の単離・精製実験 “アスピリン錠剤からアセチルサリチル酸の抽出” (3) 機能性物質の合成実験 “メチルオレンジの合成” (4) 酢酸イソアミルの合成
- 12～14. 物理化学実験: (1) 「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる (2) 酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する (3) 実験結果の

まとめ方、レポート作成上の注意等に関する講義

●評価方法

実験後の口頭試問やレポートにより実験内容の理解度および実験結果の考察力を評価し、さらに、実験中の態度とともに総合的に評価する。

毎回出席して実験することを前提とし、口頭試問やレポートの受理された時点で初めて評価が行われる。

●コメント

高校化学基礎レベルの知識を必要とする。受講希望者が化学実験室の定員を越える場合は、選択科目として受講する者について抽選を行い、受講人数を制限する。各実験のはじめに指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。実験の内容は予習しておき、操作の意味を十分理解して実験にのぞむべきである。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいな理解のままにしておかないこと。補講に相当する追加実験は提供しない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに参加し、毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。学生教育研究災害障害保険および付帯賠償責任保険に必ず加入していること。

●教科書等

『基礎化学実験 改訂2版』(大阪市立大学大学院理科学研究科・基礎教育化学実験グループ編、2014、ふうろう出版)

[科目ナンバー : GE CEX 02 01]

掲載番号	科目名	基礎化学実験Ⅱ	単位数	3	担当教員	館 祥光 (理) 他
185	英語表記	Basic Chemistry Experiments II				

●科目の目標

自然科学は実験によって明らかとなった事を積み重ねて組み立てられている。特に化学は実験が重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくいことも、自ら実験することによって鮮明に理解することができる。科学的方法に従って自然と対話しながら、自分にとって多くの新しいことを発見する。また、実際のプロセスを通じて実験を推し進める方法を学ぶ。

●授業内容

TII (化) クラス (担当 館 祥光、吉野治一、板崎真澄他)

第1週 「ガイダンス」: 実験内容の説明と安全指導。

第2～4週: 遷移金属錯体の合成とその性質・機器を用いた陰イオンの分離や定性分析。

第5～9週: 芳香族化合物の合成とスペクトル解析・量子化学計算。

第10～11週: 微粒子のブラウン運動の観察・拡散定数およびアボガドロ定数の決定。

第12～14週: DNA 融解温度の測定と電気泳動・高速液体クロマトグラフィー等によるDNAの機器分析。

SII 化クラス (担当 館 祥光、ハツ橋知幸、板崎真澄他)

第1週 「ガイダンス」: 実験内容の説明と安全指導。

第2～6週 「有機化学」: 次の課題1～3を実施する。1. 有機化学実験法 2. p-ニトロアニリンの合成 3. ジベンザルアセトンの合成。また、得られた化合物のスペクトル測定を行い、分子構造を推定する。

第7～8週

「無機化学」: 1. 赤外吸収スペクトルおよびイオンクロマトグラフィーを活用した陰イオンの定性分析 2. 遷移金属錯体の合成と配位子置換反応

第9～14週

「物理化学」: 以下をテーマとする実験を実施する。初回にレポート作成、国際単位系、測定誤差と有効数字、天秤の扱いについて解説する。1. 吸収スペクトル 2. 分子力学法による炭化水素化合物の構造とエネルギー 3. 窒素レーザーによる発光寿命の測定 4. 吸着平衡 5. 核磁気共鳴

●評価方法

レポート、口頭試問および実験に対する姿勢等を総合的に評価する。

●コメント

基礎化学実験Ⅰを履修した学生に対して提供される基礎科目である。また、基礎教育科目の「基礎有機化学Ⅰ、Ⅱ」、「基礎無機化学」、「基礎物理化学A、B」を履修していることが望ましい。受講人数を制限することがある(必修を除く)。補講に相当する追加実験は提供しない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに参加し、毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。学生教育研究災害障害保険および付帯賠償責任保険に必ず加入していること。実験内容は一部変更する場合がある。

●教科書等

『改訂二版 基礎化学実験』(大阪市立大学大学院理学研究科・基礎教育化学実験グループ編、2014、ふくろう出版)

[科目ナンバー : GE CEX 02 02]

掲載番号	科目名	化学実験	単位数	2	担当教員	古澤 直人 (生) 他
186	英語表記	Exercise in Analytical Chemistry				

●科目の目標

基礎化学実験Ⅰを履修した食品栄養科学科2年次の学生が、実験を通してさらに化学的知識・技術を深め

るとともに、3年次からの学生実験の基礎を習得することを目的とする。

●授業内容

- 1) 精密機器 - HPLC の実際 (古澤) : 分析化学分野で汎用されている HPLC の原理とその有用性を知ることが目的に、HPLC を用いて食品中に残留する数種抗菌性物質の定量を行う。分析対象は sulfamonomethoxine および sulfadimethoxine とし、試料の前処理は固相抽出 (SPE) 法により行う。
- 2) 分光光度計によるブロムフェノールブルーの pKa 決定 (金東浩・生活科学) : ブロムフェノールブルー (BPB) は水素イオン濃度 (pH) の変化に伴い、変色する酸塩基指示薬である。本実験では、種々な pH の BPB 溶液の吸光度を測定し、BPB の解離平衡方程式を用いて BPB の酸解離定数 (pKa) を求めることにより、pH 滴定法および吸光度測定による酸解離定数の測定法を学ぶ。

- 3) 生化学 (市川直樹・生活科学) : タンパク質、アミノ酸の定性分析、SDS-PAGE によるタンパク質の分離、コウシ胸腺からの DNA の抽出、DNA とタンパク質の紫外外部吸収曲線の比較などを行う。
- 4) 食品の分析 (福村智恵・生活科学) : 食品に含まれる色素成分の化学的性質について実験する。また、モール法による食品中の食塩含量の定量を行う。
- 5) まとめ : 考察ならびにレポートの解説・指導を行う。

●評価方法

レポート

●コメント

補講に相当する追加実験は提供しない。

●教科書等

実験指導書を配布する。

[科目ナンバー : GE BIO 01 01]

掲載番号	科目名	生物学概論 A	単位数	2	担当教員	幸田 正典 (理) 他 伊東 明 (理) 他
187	英語表記	General Biology A				

●科目の目標

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、それのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層 (レベル) を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかを学ぶ。

●授業内容

授業の前半 (名波・伊東) では、『生態系』のしくみ (構造) と働き (機能) を理解するために必要となる、生態学の基本概念を学習する。生態学の概要を説明した後、生態系の構成要素である、個体、個体群、群集の構造と機能について具体例を紹介しながら解説する。また、生態系における物質の循環とエネルギーの流れについても学ぶ。さらに、生物多様性がどのように創造され、どう維持されているのかについて、進化的な見方にも触れながら解説する。

授業の後半 (幸田・担当者未定) では、行動生態学の視点から、様々な動物の行動や形質とその意味について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学び、生物進化と関連づけながら保全生態学の基礎的考え方についても伝える。

●評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

●コメント

資料を多数用意し配布する予定である。また、スライドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

●教科書等

参考書 (前半) : 日本生態学会編『森林生態学』(共立出版)、その他、講義時に各項目ごとに参考書を紹介する。(後半) : クレブス・デービス著『行動生態学』(蒼樹書房)、ドーキンス著『利己的な遺伝子』(紀伊国屋書店)

[科目ナンバー : GE BIO 01 02]

掲載番号	科目名	生物学概論B	単位数	2	担当教員	藤田 憲一 (理) 他
188	英語表記	General Biology B				

●科目の目標

生物は、外部環境から隔てられた体内で、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また生物は、単細胞から多細胞まで多彩な形態的構造を持つ存在である。これらの生物学的な特徴について論じる。

●授業内容

前半 (藤田 憲一 (理))

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで、生体内で活躍する基本的な低分子、炭水化物や脂質、アミノ酸などの生体分子の構造とその生体内における役割について紹介し、それら分子が相互変換する代謝とその調節について触れる。さらに生体膜を挟んだ生体分子の輸送や環境シグナルの受容についても話題を提供する。最後に生体内においてごく微量で特徴のある生理作用を示す生理活性物質についても学習する。

1. 生体膜の役割

2. 生体分子の概説
3. エネルギー獲得系の代謝
4. 生体膜の内外での物質輸送
5. 膜蛋白質の構造と機能
6. 環境シグナルの受容体
7. 生理活性物質

後半 (水野 寿朗 (理))

多細胞生物の体のなりたちと形づくりについて議論する。主に動物を対象とし、その形態学的特徴を細胞、組織、器官、解剖学的構造のスケールに整理する。またこれらの構造が作り上げられる過程も概観する。

1. 動物形態学の歴史
2. 動物の一般的な体制と組織系
3. 諸器官の形態・構造・機能 (5回)

●評価方法

前半5割、後半5割の配点で総合評価する。評価方法は定期試験を中心として、レポートを加味する。

[科目ナンバー : GE BIO 02 01]

掲載番号	科目名	生物学概論C	単位数	2	担当教員	後藤 慎介 (理) 他
189	英語表記	General Biology C				

●科目の目標

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

●授業内容

生体構成上の高分子物質 (生体高分子)、特に核酸とタンパク質の生合成とその調節のメカニズムについて概説する (寺北 明久 [理] 担当)。続いて、さまざまな動物を例に食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える (後藤 担当)。

- (1) DNAの生合成、(2) RNAの生合成1、(3) RNAの生合成2、(4) タンパク質の生合成1、(5) タンパク質の生合成2、(6) タンパク質の品質管理、(7) 遺伝子

発現の調整、(8) 摂食と消化、(9) 栄養、(10) 栄養要求と化学防衛、(11) 代謝速度とエネルギー、(12) 潜水に関する問題、(13) 代謝速度と体サイズ、(14) 移動のエネルギーと生理学的な時間、(15) 期末試験と解説

●評価方法

レポート・試験

●コメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

●教科書等

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。参考書として、ブルース・アルバーツ他著 Essential 細胞生物学 原書第3版 (南江堂) (寺北担当分)、クヌート・シュミット＝ニールセン著『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』(東京大学出版会) (後藤担当分) を勧める。

[科目ナンバー : GE BIO 02 02]

掲載番号	科目名	生物学概論 D	単位数	2	担当教員	中村 太郎 (理)
190	英語表記	General Biology D				

●科目の目標

DNA を扱う研究の大きな進展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。また、遺伝子組換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子の研究を元にした技術は、私たちの生活に欠かせないものとなっている。本講義では、まず、遺伝子の構造と機能をやさしく解説した後、その応用例や最先端の研究を紹介する。分子生物学の基礎を理解し、さらに、統一的な生命感の確立を目指す。

●授業内容

1. 遺伝子とは何か (I) : 研究の歴史
2. 遺伝子とは何か (II) : DNA の構造
3. 遺伝子とは何か (III) : 転写
4. 遺伝子とは何か (IV) : RNA の構造
5. 遺伝子とは何か (V) : RNA の種類と役割
6. 遺伝子とは何か (VI) : RNA の加工
7. 遺伝子とは何か (VII) : 翻訳

8. 遺伝子とは何か (VIII) : DNA 複製
9. 遺伝子とは何か (IX) : タンパク質をいづれくらい作るかを決定するメカニズム (原核生物)
10. 遺伝子とは何か (X) : タンパク質をいづれくらい作るかを決定するメカニズム (真核生物)
11. ウイルス (I)
12. ウイルス (II)
13. 遺伝子工学入門
14. 遺伝子解析の手法
15. 期末試験と解説

●評価方法

授業ごとに行うミニテストと期末試験の合計点

●コメント

●教科書等

(教科書は用いない。)

参考書としてアルバート他「Essential 細胞生物学」第3版 南江堂を薦める。

[科目ナンバー : GE BIO 01 03]

掲載番号	科目名	生物学概論 I	単位数	2	担当教員	幸田 正典 (理) 他
191	英語表記	An Introduction to Biology I				

●科目の目標

ヒトを含め動物たちは、地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみに注意を払いながら、動物の生理的調節機構および特にヒトの生理、形態、行動の基本について学習する

●授業内容

- 1) 生理的調節機構の例として、さまざまな動物の 1 呼吸、2 エネルギー代謝、3 体温調節機構について概説する【後藤慎介 (理) 担当; 講義回数 7 回】
- 2) 進化生物学、進化心理学や行動生理学的視点から動物のヒトを含めた動物の行動を概説する。4 動物行動の研究手法、5 自然淘汰による生物進化、6 動物の雄と雌、動物の認知行動、ヒト

の進化【幸田正典 (理) 担当; 講義回数 8 回】

動物の生活の多様性に配慮し、ヒトをはじめとする脊椎動物はもとより、無脊椎動物も含むさまざまな実例を提示する。

●評価方法

定期試験で評価する。

●コメント

授業内容 1) では以下の教科書を使用します。第 1 回目の講義までに教科書を入手しておくこと。

授業内容 2) では印刷物を資料として配布します。必要に応じてスライド、ビデオを見せます。

●教科書等

授業内容 1) 教科書: クヌート・シュミット=ニールセン「動物生理学—環境への適応」(東京大学出版会) 1 章、5 章、7 章。

[科目ナンバー : GE BIO 01 04]

掲載番号	科目名	生物学概論Ⅱ	単位数	2	担当教員	宮田 真人 (理) 他
192	英語表記	An Introduction to Biology II				

●科目の目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報がどのように発現するかを理解するためには、分子から個体にいたる多様な生命現象を理解する素養が求められる。本講義では、(I) 遺伝子がどのように維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(II) 多細胞動物の発生過程に注目し、組織・器官・形態を構築する仕組みを筋組織の形成を例に分子レベルで説明する。以上を通じ、ヒトのからだと様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

●授業内容

(I) 1. 細胞、2. タンパク質、3. セントラルドグマ、4. 転写、5. 翻訳、6. DNA複製、(宮田

真人 (理))

(II) 1. 細胞分化と遺伝子発現、2. 筋肉の分化と転写制御、3. 誘導と筋肉の分化、4. 組織における幹細胞について、5. 再生医学序論、(小宮 透 (理))

●評価方法

小テスト、出席点、受講態度、定期試験を総合して評価する。

●コメント

本科目で解説する“生命科学の基礎”が現代医学の基礎でもあること、本科目が必修であること、再試験は行わないことなど、を認識して受講に臨むこと。いかなる不正行為にも厳罰をもって対処する。

●教科書等

アルバート他「細胞の分子生物学」第五版、(ニュートンプレス)

[科目ナンバー : GE BIO 01 05]

掲載番号	科目名	生物学概論Ⅲ	単位数	2	担当教員	福永 昭廣 (非常勤)
193	英語表記	An Introduction to Biology III				

●科目の目標

近年の生物科学研究の発展はめざましく、その研究成果をもとに医療分野や農業分野における遺伝子治療・クローン動物・iPS細胞などの新しい技術の開発が行われており、看護・医療に携わる者にも、生命現象に関する幅広い知識が求められるようになってきた。本講義では、生物の基本単位である細胞の構造と機能について解説し、生命現象に関する理解を深める。

●授業内容

1. 生体を構成する物質 (3回)
2. 原核細胞と真核細胞 (1回)
3. 真核細胞の構造 (2回)
4. 生体膜と物質の出入り (2回)

5. 細胞内輸送と細胞内消化 (2回)

6. 細胞骨格 (2回)

7. 細胞間の情報伝達 (2回)

8. 細胞分裂 (1回)

●評価方法

試験の成績により評価する。

●教科書等

教科書として和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」(羊土社)を使用し、適宜、プリント教材で補う。

参考書：室伏きみ子、小林哲幸共著「やさしい細胞の科学」(オーム社)、佐々木史江他著「人の生命科学」(医歯薬出版)、アルバート他「細胞の分子生物学」(Newton Press)

[科目ナンバー : GE BEX 01 01]

掲載番号	科目名	生物学実験 A	単位数	2	担当教員	水野 寿朗 (理) 他
194	英語表記	Biological Laboratory A				

●科目の目標

理数工系の学生に期待される幅広い生物学の素養を身につけるための実験科目である。

1. 各実験テーマの基礎となる生物学的な知識について予習をすること。
2. 実験の計画と手順をよく理解し、自らの記録に基づいて結果の分析や考察を行うこと。
3. 生物学の研究に特有な実験方法や観察技術に注目しその習熟につとめること。
4. 積極的にさまざまな生物材料に触れ、また野外での採集や観察に慣れること。

●授業内容

1. ガイダンス
2. 体内時計の観察
3. 細胞分裂と染色体の観察
4. 植物の成長
5. 植物からの核酸の抽出
6. 植物の分枝パターンと葉群配置の観察 (2回)
7. 植物に由来する色素の分析
8. 植物園で学ぶ樹木の多様性
9. 花粉の形態と花粉管発芽の観察

10. 動物の胚発生の観察 (2回)

11. 酵素活性の測定 (他物質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用)、および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など (2回)

12. 実習器具のメンテナンス

(実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある)

●評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

●コメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する (必修を除く)。

修正登録で履修を希望する者は必ず初回のガイダンスに参加すること。

●教科書等

教科書を使用する。履修登録の完了している者は初回から持参すること。

『生物学実験への招待 Aコース (2016年度版)』(大阪公立大学共同出版会)

[科目ナンバー : GE BEX 01 02]

掲載番号	科目名	生物学実験 B	単位数	2	担当教員	水野 寿朗 (理) 他
195	英語表記	Biological Laboratory B				

●科目の目標

理数工系の学生に期待される幅広い生物学の素養を身につけるための実験科目である。

1. 各実験テーマの基礎となる生物学的な知識について予習をすること。
2. 実験の計画と手順をよく理解し、自らの記録に基づいて結果の分析や考察を行うこと。
3. 生物学の研究に特有な実験方法や観察技術に注目しその習熟につとめること。
4. 積極的にさまざまな生物材料に触れ、また野外での採集や観察に慣れること。

●授業内容

1. ガイダンス

2. 昆虫の形態観察と同定、標本作製

3. ヒトとハエの甘味感度テスト

4. ゴウリムシを用いた細胞小器官の形態観察とその機能の解析

5. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験計画法など (2回)

6. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、および酵母のアルコール発酵能の測定など微生物の機能に関する解析 (2回)

7. PCR (遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作 (3回)

8. 生体高分子の in vitro, in silico 検出 (3回)

(実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある)

●**評価方法**

レポートおよび出席状況により評価する。

●**コメント**

受講希望者が多数の場合、人数を制限する(必修を除く)。

修正登録で履修を希望する者は必ず初回のガイダンスに参加すること。

●**教科書等**

教科書を使用する。履修登録の完了している者は初回から持参すること。

『生物学実験への招待 Bコース (2016年度版)』(大阪公立大学共同出版会)

●**その他注意事項**

工学部化学バイオ工学科の曜日区分は、掲示もしくは工学部のガイダンスで案内する予定。

[科目ナンバー : GE GEO 01 01]

掲載番号	科目名	一般地球学A-I	単位数	2	担当教員	升本 眞二 (理)・ 江崎 洋一 (理)
196	英語表記	General Geosciences A- I				

●**科目の目標**

(科目の主題)

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったのかを主題とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上で起こる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

(科目の到達目標)

- ・地球を解明するための視点(時間と空間)に関する基本的な理解
- ・地球の形(ジオイドや標高を含む)や大きさに関する理解
- ・地形図の作成方法(投影法を含む)や地表の観測(GNSSなど)に関する理解
- ・地球の物理的性質(重力・磁力・熱など)に関する基本的な理解
- ・放射年代測定法の基本原理と各測定法の原理や対象の理解
- ・地球史の復元方法や変遷過程に関する基礎的な理解
- ・プレートテクトニクスに関する基礎的事項(運動、境界など)の理解
- ・地震とその被害に関する基礎的事項(発生場所、断層、津波など)の理解

●**授業内容**

1. 地球を解明するための視点(時間と空間のスケール)

ル)

2. 地球の形と地図 (2回)
3. 地球表層部の形態(陸地と海洋の形)
4. 地球の物理学的特性(重力・磁力・熱)
5. 岩石の年代(放射年代; 2回)
6. 地層の年代(化石; 2回)
7. 地球・生物の歴史と環境変遷 (2回)
8. プレートテクトニクス(生成から消滅, 運動学; 3回)
9. 地震と活断層

(配布する教材に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。)

●**評価方法**

演習・小テスト・レポートによる平常点(40%)と期末試験の成績(60%)で評価する。

●**コメント**

高等学校での地学の履修の有無は問わない。電卓を持参のこと。なお、地球学科の必修科目である。

●**教科書等**

教科書は使用しない。講義に関係する教材を適宜配布する。

参考書:『地球生物学』(池谷仙之・北里 洋著, 東京大学出版会, 2004)、『地球学へのいざない』(OMUPユニヴァ編集部編, 大阪公立大学出版会, 2003)、『地球学入門』(酒井治孝著, 東海大学出版会, 2003)、『生命と地球の歴史』(丸山茂徳・磯崎行雄著, 岩波新書, 1998)、『地質学1』(平 朝彦著, 岩波書店, 2001)など。

[科目ナンバー : GE GEO 01 02]

掲載番号	科目名	一般地球学A-II	単位数	2	担当教員	篠田 圭司 (理) 他
197	英語表記	General Geosciences A- II				

●科目の目標

(科目の主題)

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にともない状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球物質の多様性と時間的経過の観点から地球を定量的に理解するために、地球を構成する物質の特徴と年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

(科目の到達目標)

1. 万有引力の法則から地球や太陽の質量、太陽までの距離を定量的に求めることができること。
2. 波の屈折の法則などから地球内部構造・組成を定量的に求めることができること。
3. 太陽定数、熱放射の式から地球の平均気温、温室効果を定量的に求めることができること。
4. 放射性同位元素の崩壊の法則などから、地球の形成年代を定量的に求めることができること。
5. 火成作用変成作用による造岩鉱物の状態変化を、温度圧力による物質変化として理解できること。

●授業内容

1. 地球の重力と運動、固体地球の構造 (2回) : 万有引力と地球の運動。地震波による地球内部構造の推定法。
2. 地球を構成する物質 (2回) : 地球内部構成物質の特徴と推定法。化学組成による岩石・鉱物の

分類、鉱物の同定法など。

3. 水惑星としての地球 (4回) : 水の化学的特徴と環境に及ぼす影響。海洋と大気の形成、地球の平均気温と温室効果。大気と海洋の運動。
4. 地球の歴史 (2回) : 放射性同位体を用いた絶対年代決定法。安定同位体と環境の推定。
5. 地球の活動 (4回) : 火成作用, 変成作用など、地殻における物質の変遷。地球物質の温度圧力による状態変化の基本的な考え方。

●評価方法

主として期末試験により評価する。

●コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の物理・化学・数学の基礎的な知識を前提とする。毎回授業内容に関して理解を深めるために、基本的な計算問題を課すので、計算機を持参すること。地球学科の必修科目である。

●参考書、教材、等

地球学入門 (酒井治孝、東海大学出版)
 基礎地球科学 (西村祐二郎他、朝倉書店)
 図説地球科学 (岩波書店)
 他の参考書等は授業中に適宜指示する。
 授業内容に関連した印刷物を配布する。

[科目ナンバー : GE GEO 01 03]

掲載番号	科目名	一般地球学B-I	単位数	2	担当教員	井上 淳 (理) 他
198	英語表記	General Geosciences I				

●科目の目標

(科目の主題)

現在、私達が持っている地球像や地球の歴史に関する知識や概念は太古からあったものではない。この授業では、現在考えられている地球システムや地球の歴史がどのような実験や観察にもとづいているか、地球像や地球史に対しての考え方が古代から現代にかけてどのように変化してきたのかなど、地球科学についての基礎的な事項を地球科学の発展過程と共に解説する。

(科目の到達目標)

1. 地球システムの基本的な事項を理解する。
2. 現在私達が持っている地球像がどのような観察事象に基づき、どのようにして得られているかを理解する。
3. 太古から現在までの時代を通して、地球像や地球の歴史に対する考え方がどのように変化してきたかを理解する。
4. 現在という時代が、地球の歴史の中でどのように位置づけられるかを理解する。

●授業内容

前半では地球システムについて、後半では地球の歴史や生物の進化、特に人類の時代である第四紀に焦点をあて講義を行う。

1. 自然科学と地球科学：自然科学の考え方と地球科学
2. 地球について（3回）：地球の形・大きさ・質量・密度
3. 地質学の始まりと岩石の種類と成因
4. 堆積物と層序
5. 地球史と古生物（3回）：地球環境の変遷と生物進化
6. 大気と気候（2回）：大気循環と気候分布
7. 第四紀の自然環境史（2回）：氷期と間氷期、気

候変動に伴う自然環境変遷

8. 人類の進化（2回）：人類の発生と進化、日本列島の人類史

●評価方法

原則、期末試験の成績（80%）と最終レポートの内容（20%）で評価する。これに授業内でのミニレポートの内容などを加味して最終的な成績とする。詳しくはガイダンスで説明する。

●コメント

主に高等学校で地学を履修したことのない学生を対象として授業を行う。私語や携帯電話の使用など授業態度の悪い学生は、大きく減点するので注意すること。

●教科書等

指定しない。毎回の授業でプリントを配布する。

[科目ナンバー : GE GEO 01 04]

掲載番号	科目名	一般地球学B-II	単位数	2	担当教員	柵山 徹也（理）他
199	英語表記	General Geosciences B- II				

●科目の目標

(科目の主題)

地球で観測される様々な変動現象に関する基本的な観測事実と解釈を学ぶことによって、主に固体地球の誕生・進化プロセスや、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象の基本的なメカニズムを理解することを目標とする。

(科目の到達目標)

- ・地球の持っている大スケールの特徴（勢力圏、地形、内部構造）に関する理解
- ・観測される変動現象（地殻変動、地震や活断層運動、火山活動）の特徴とそれらの成因に関する理解
- ・プレートテクトニクス論とその成立過程の理解
- ・地球史を理解する上で重要な岩石の種類とそれらの形成過程の理解
- ・過去の地層・岩石から推定されている地球の進化に関する理解
- ・過去の地層・岩石から推定されている日本列島の形成史に関する理解

●授業内容

1. 地球圏の拡がり

2. 固体地球の内部構造と構成物質（3回）
3. 地球の形成と分化
4. 地球の変動現象とプレートテクトニクス論（2回）
5. 地震と断層
6. 岩石の種類と形成過程
7. 火山とマグマ（2回）
8. 固体地球圏の物質循環
9. 大陸の形成と変動史
10. 日本列島の地質構造と形成史

●評価方法

各項目に対する講義内容の理解をまとめたレポート（30%）および期末試験の成績（70%）で評価する。

●コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の物理、化学、数学の基礎を理解しておくこと。

●教科書等

教科書は使用しない。講義に関係する教材を適宜配布する。

参考書：「ニューステージ新地学図表」（浜島書店）、
「図説地球科学」（岩波書店）、「地質学I」（岩波書店、2001）。

[科目ナンバー : GE GEO 01 05]

掲載番号	科目名	建設地学	単位数	2	担当教員	山口 覚 (理) 他 柵山 徹也 (理) 他
200	英語表記					

●科目の目標

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

●授業内容

1. 代表的な造岩鉱物の紹介と観察
2. 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法
3. 地震と地震波
4. 地層を読む：地層に記録された過去の地球環境、環境変遷、環境変動リズム
5. 地球の歴史：地球の成り立ちと生い立ち、地球史の研究手法
6. 堆積岩の性質と分類
7. 都市の地盤構造と災害：平野の地層構成・地盤沈下・地震時の地盤挙動

8. 第四紀堆積盆地と平野・丘陵・山地の地形発達
9. 火山噴火過程と火山噴出物の種類
10. GISの基礎：GISの基礎概念、GISによる地球情報の処理
11. リモートセンシングの基礎と応用
12. 都市地盤の人工改変と防災
13. 大阪の水資源とその管理
14. 粒状土層と地下水流動
15. 総合討論

●評価方法

地球に関する基礎概念（地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、環境変化、自然災害と防止）に対する理解の程度を定期試験の成績（50%）と小テスト・レポートの成績（50%）で評価する。

●コメント

「建設地学実習」と連動した講義を行うので、同時に受講すること。

●参考書、教材、等

授業で用いる参考図表は、その都度配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 02 01]

掲載番号	科目名	建設地学実習	単位数	1	担当教員	柵山 徹也 (理) 他
201	英語表記					

●科目の目標

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

●授業内容

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 都市の水環境：大和川の水質汚染
2. 礫の形状：河床礫と海浜礫の形の比較
3. GISによる地球情報の処理と可視化
4. リモートセンシングによる環境指標の抽出
5. 粉末X線回折法を用いた鉱物の同定
6. 粒状土層の鉛直透水実験と二次元地下水流動のデータ解析
7. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法

8. 火山噴出物と火山地形の多様性
9. 地質図の書き方と読み方：地質図作図法の基礎
10. 地盤データベースでみる平野域の地盤特性
11. 砂岩組成とその造構場の推定
12. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷
13. 地震波データの特徴の読み取り、および地殻厚さの推定
14. 地形変化と災害：地形図による都市の災害地形判読
15. 総合討論

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●コメント

「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、同

時に受講すること。

●教科書等

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 03]

掲載番号	科目名	建設地学実験	単位数	2	担当教員	山口 覚 (理) 他
202	英語表記	Geosciences, Laboratory Exercises for Engineers				

●科目の目標

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

●授業内容

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 結晶による X 線回折と X 線回折法による鉱物同定
2. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法
3. 地震波データの特徴の読み取り、震源の決定・地殻の厚さの推定
4. 水流作用と波浪作用による礫の形状の違い
5. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷
6. 砂岩組成からの供給源の推定
7. 地盤特性に関わる砂・粘土の簡易実験及び地盤データベースで見る平野域の地盤特性

8. 様々な地質図法と地質構造の理解
9. 火山噴出物と火山地形の多様性
10. GISによる地球情報の処理と可視化
11. リモートセンシングの基本処理と環境指標の抽出
12. 大都市（東京・大阪）の自然災害リスク地形の判読
13. 都市の水環境 - 大和川の水質汚濁
14. 粒状土層の鉛直透水実験と二次元地下水流動のデータ解析
15. 総合討論

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●コメント

一部「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、なるべく同時に受講すること。

●教科書等

実験で用いる資料は、その都度配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 01]

掲載番号	科目名	地球学実験 A	単位数	2	担当教員	奥平 敬元 (理) 他
203	英語表記	Geosciences, Laboratory Exercise A				

●科目の目標

(科目の主題)

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実験では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

(科目の到達目標)

- ・地質学の基礎となる基本的な地質図の読み方・書き方を理解する。
- ・岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法を理解する。

- ・堆積岩の構成と分類を理解する。
- ・空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現方法を理解する。
- ・地球の大きさ、緯度・経度および地磁気偏角を総合的に理解する。
- ・パソコンを用いたデータの集計や解析と標準誤差の取り扱いを理解する。

●授業内容

- 第1・2回 地質図の描き方と読み方
- 第3・4回 岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法
- 第5・6回 火山灰や砂岩の構成鉱物の抽出と観察
- 第7・8回 堆積岩の構成と分類：礫の形状・水流

- による砂床形
- 第9・10回 地形の解析と可視化：空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現
- 第11・12回 緯度・経度、地球の大きさおよび地球の磁場
- 第13・14回 パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理
- 第15回 レポート

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポ

トで評価する。

●コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学 A- I・II」もしくは「一般地球学 B- I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。関数電卓を用意すること。

●教科書等

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 02]

掲載番号	科目名	地球学実験 B	単位数	2	担当教員	江崎 洋一 (理) 他
204	英語表記	Geosciences, Laboratory Exercise B				

●科目の目標

(科目の主題)

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実験では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

(科目の到達目標)

- ・GISによる地球情報の処理や地形解析について理解する。
- ・空中写真などを用いて、地形図の読み方を理解した上で、活断層の調査法を理解する。
- ・粉末 X 線回折による鉱物同定法を理解する。
- ・地質時代における生物変遷と絶滅生物の形態と機能について理解する。
- ・微化石の特性、摘出法、観察法について理解する。
- ・河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応について理解する。
- ・マグマの噴火機構と噴火様式を理解する。

●授業内容

- ① パソコンによるデジタル地形図の作成と3次元可視化
- ② 地球表層部の構造解析：地形図・空中写真によ

る地形判読と災害

- ③ 地層形成と平野地盤の特性：平野地盤の物理的特性・平野地盤情報のコンピュータによるデータ処理
- ④ 鉱物の同定法：鉱物による X 線の回折 (回折格子によるレーザーの回折)、粉末 X 線回折による鉱物同定
- ⑤ 地球史における生物変遷と化石記録
- ⑥ 化石の摘出・観察・解析
- ⑦ 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応
- ⑧ マグマと火山活動：マグマ分化機構と噴火様式以上の実験テーマを15回に割り振って実施する。

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学 A- I・II」もしくは「一般地球学 B- I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。関数電卓を用意すること。

●教科書等

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GRA 01 01]

掲載番号	科目名	図形科学I	単位数	2	担当教員	瀧澤 重志 (工)
205	英語表記	Graphic Science I				

●科目の目標

図形科学 I では、デザイン言語教育の一環として、図法幾何学における投影法・切断法等の作図技法、及び図形の種類について学ぶ。作図技法では、3次元の図形・空間情報を2次元に変換する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形の種類では、現代的な幾何学の成果を踏まえ、様々な図形の存在やそれらの特徴を学ぶことを目的としている。

●授業内容

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 基礎作図
- 第3週 投影法の概要と正投影
- 第4週 軸測投影
- 第5週 透視投影：直接法1
- 第6週 透視投影：直接法2
- 第7週 透視投影：消点法1
- 第8週 透視投影：消点法2
- 第9週 透視投影：距離点法

- 第10週 透視投影：簡易焦点法
- 第11週 立体図形
- 第12週 図形の演算：切断
- 第13週 図形の演算：展開
- 第14週 図形の演算：陰影
- 第15週 学期末試験

●評価方法

提出課題 (45%)、及び学期末試験の結果 (55%) により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

●コメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規 (透明30cm程度)、三角定規 (24cm程度)、製図用コンパスなどの作図用具が必要となる。詳細は初回の授業のガイダンスの際に説明する。

●教科書等

「図形科学 I」(大阪市立大学生協で販売) を使用予定。演習課題は授業の都度配布する。

[科目ナンバー : GE GRA 01 02]

掲載番号	科目名	図形科学II	単位数	2	担当教員	瀧澤 重志 (工)
206	英語表記	Graphic Science II				

●科目の目標

図形科学 II では、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピューターグラフィクス (Blender) の講義・演習を行う。図形科学 I での作図は線画によるものが中心であったが、図形科学 II では、モデリング、マテリアル、レンダリング、アニメーションなどのCGの基礎を学ぶとともに、プログラミングにより、手作業では難しい新たな造形・可視化の技法を身に付けることを目標としている。

●授業内容

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Blender の概要
- 第3週 モデリング1
- 第4週 モデリング2
- 第5週 ライティング、カメラワーク、ワールド設定
- 第6週 マテリアル、テクスチャ
- 第7週 レンダリング

- 第8週 アニメーション
- 第9週 シミュレーション
- 第10週 Blender のための Python 入門
- 第11週 Blender + Python 1
- 第12週 Blender + Python 2
- 第13週 Blender + Python 3
- 第14週 実技試験
- 第15週 最終課題の提出・講評

●評価方法

各回の提出課題 (35%)、実技試験の結果 (35%)、及び最終課題の提出作品 (30%) により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

●コメント

手描きによる図の描き方、投影法の知識などが必要となるので、図形科学 I を事前に履修しておくことが望ましい。授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となることが多い。このため、履修学生自身が所有す

るコンピューターや学術情報センターの端末を利用する必要がある。また、インターネットメールや USB メモリなどにも必要になる。

●教科書等

教科書や参考書はガイダンス時に指示する。なお、

過去の授業の提出作品は、次の URL のホームページに掲載されている。

<http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/zukeikagaku/>

4. 外 国 語 科 目

- シラバス
英 語
- 新修外国語履修の仕方について
- 新修外国語クラス分け表
- シラバス
ド イ ツ 語
フ ラ ン ス 語
中 国 語
ロ シ ア 語
朝 鮮 語
日 本 語

○ シ ラ バ ス

英語 English

(平成 19 年度以降入学者用)

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、英語カリキュラムが大幅に変更された。1 年生、2 年生ともに 25 名程の少人数・習熟度別クラス編制で、必修科目の College English (CE) が、1 年生で 4 時間、2 年生で 2 時間の合計 6 時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1 年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ 1 時間ずつ、合計週 2 時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4 技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して 1.5 倍に増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4 技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2 年生の授業では、1 年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IV を踏まえ、4 技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1 年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部の専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。

さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目の Advanced College English (ACE) を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目				選択科目
		月曜	水曜	
1 年	前期	CE I	CE II	ACE
	後期	CE III	CE IV	
2 年	前期	CE V ※2		
	後期	CE VI ※1・2		

※1. ただし、医学部医学科は 2 年前期に開講する。

※2. ただし、医学部看護学科は開講しない。

○単位数：各科目とも 1 単位。

○クラス指定制（共通テスト等の成績による）である。クラス分けは学期当初又はそれまでに全学ポータル等に掲示する。

○College English I～VI のいずれかの成績が「F (E)」(不合格) 又は「欠」であった者は、その科目については「再度履修者向けクラス」で履修しなければならない。

クラス分け表

CE I～CE IV

	CL I	EJ I	SMH I	TN I
Advanced	a	a	a	a
Upper Intermediate	b～e	b～e	b～e	b～e
Intermediate	f～j	f～j	f～j	f～j
Lower Intermediate	j～n	j～n	j～n	j～l
Elementary	o	o	o	m

CE V～CE VI

	C II	E II	J II	L II	S II	T II	H II	M II
Advanced	a～b	a～b	a～b	a～b	a～b	a～c	a	a～c
Intermediate	c～e	c～e	c～e	c～e	c～e	d～g	b～c	
Elementary	f～h	f～h	f～g	f～g	f～g	h～k	d～e	

履修科目内容

<1年>

[科目ナンバー : GE ENG 01 01]

掲載番号	College English I (CE I)
207	

●目標

中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現しようとする力を養う。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60:40とする。ただし、共通テストの未受験者は、指導者の評価にかかわらず「F (E)」とする。

●段階別到達度

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	Richards	TN I a	月・3	(Chen)
CL I b	月・1	(Sievert)	TN I b	月・3	(Jacobs)
CL I c	月・1	(Quinn)	TN I c	月・3	(Campbell)
CL I d	月・1	(Thorson)	TN I d	月・3	(Stepanczuk)
CL I e	月・1	[Leigh]	TN I e	月・3	(Vaughan)
CL I f	月・1	(Fenstermaker)	TN I f	月・3	[Mansfield]

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I g	月・1	(McAvoy)	TN I g	月・3	(Sievert)
CL I h	月・1	野田	TN I h	月・3	(Feldman)
CL I i	月・1	(Campbell)	TN I i	月・3	(Jones)
CL I j	月・1	(Stepanczuk)	TN I j	月・3	(Thorson)
CL I k	月・1	(Feldman)	TN I k	月・3	(Quinn)
CL I l	月・1	(Vaughan)	TN I l	月・3	(McAvoy)
CL I m	月・1	井狩	TN I m	月・3	(Fenstermaker)
CL I n	月・1	山本	SMH I a	月・4	(McAvoy)
CL I o	月・1	(Chen)	SMH I b	月・4	[Leigh]
EJ I a	月・2	(Stepanczuk)	SMH I c	月・4	(Fenstermaker)
EJ I b	月・2	Richards	SMH I d	月・4	(Chen)
EJ I c	月・2	(Feldman)	SMH I e	月・4	(Jacobs)
EJ I d	月・2	(Sievert)	SMH I f	月・4	(Jones)
EJ I e	月・2	(Jones)	SMH I g	月・4	(Campbell)
EJ I f	月・2	(Quinn)	SMH I h	月・4	(Stepanczuk)
EJ I g	月・2	(Thorson)	SMH I i	月・4	[Mansfield]
EJ I h	月・2	[Leigh]	SMH I j	月・4	(Sievert)
EJ I i	月・2	(McAvoy)	SMH I k	月・4	(Feldman)
EJ I j	月・2	(Fenstermaker)	SMH I l	月・4	(Vaughan)
EJ I k	月・2	(Chen)	SMH I m	月・4	(Quinn)
EJ I l	月・2	(Campbell)	SMH I n	月・4	(Thorson)
EJ I m	月・2	(Jacobs)	SMH I o	月・4	[高森]
EJ I n	月・2	[Mansfield]			
EJ I o	月・2	(Vaughan)			

※ ()は非常勤講師、[]は特任教員を示している。
以下同様とする。

[科目ナンバー : GE ENG 01 02]

掲載番号	College English II (CE II)
208	

●目標

中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、指導者の評価にかかわらず「F (E)」とする。

●段階別到達度

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
E J I a	水・1	(多賀)	SMH I a	水・3	(Feldman)
E J I b	水・1	(Selzer)	SMH I b	水・3	(Thorson)
E J I c	水・1	[Leigh]	SMH I c	水・3	(Silva)
E J I d	水・1	Richards	SMH I d	水・3	(多賀)
E J I e	水・1	(Sievert)	SMH I e	水・3	(Campbell)
E J I f	水・1	(Micklas)	SMH I f	水・3	(Lau)
E J I g	水・1	(Fenstermaker)	SMH I g	水・3	(Hudgens)
E J I h	水・1	(Feldman)	SMH I h	水・3	(Jacobs)
E J I i	水・1	(Thorson)	SMH I i	水・3	(Vaughan)
E J I j	水・1	(Lau)	SMH I j	水・3	山本
E J I k	水・1	(Campbell)	SMH I k	水・3	(Sievert)
E J I l	水・1	(Silva)	SMH I l	水・3	(Micklas)
E J I m	水・1	(Vaughan)	SMH I m	水・3	(Fenstermaker)
E J I n	水・1	[高森]	SMH I n	水・3	高島
E J I o	水・1	(Hudgens)	SMH I o	水・3	(Selzer)
CL I a	水・2	(Thorson)	TN I a	水・4	(Vaughan)
CL I b	水・2	(Lau)	TN I b	水・4	(Sievert)
CL I c	水・2	(Silva)	TN I c	水・4	(Micklas)
CL I d	水・2	山崎	TN I d	水・4	(Silva)
CL I e	水・2	(Campbell)	TN I e	水・4	(Fenstermaker)
CL I f	水・2	(多賀)	TN I f	水・4	(Feldman)
CL I g	水・2	(Hudgens)	TN I g	水・4	(Thorson)
CL I h	水・2	(Vaughan)	TN I h	水・4	(Campbell)
CL I i	水・2	山本	TN I i	水・4	(Lau)
CL I j	水・2	(Selzer)	TN I j	水・4	(Selzer)
CL I k	水・2	(Micklas)	TN I k	水・4	(Hudgens)
CL I l	水・2	(Fenstermaker)	TN I l	水・4	(Jacobs)
CL I m	水・2	(Feldman)	TN I m	水・4	田中-
CL I n	水・2	(Jacobs)			
CL I o	水・2	[高森]			

[科目ナンバー : GE ENG 01 03]

掲載番号	College English III (CE III)
209	

●目標

前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを英語で適切に表現する力を養う。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60：40とする。ただし、共通テストの未受験者は、指導者の評価にかかわらず「F (E)」とする。

●段階別到達度

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	(Sievert)	TN I a	月・3	(Fenstermaker)
CL I b	月・1	(Quinn)	TN I b	月・3	(Campbell)
CL I c	月・1	(Thorson)	TN I c	月・3	(Chen)
CL I d	月・1	[Leigh]	TN I d	月・3	(Jacobs)
CL I e	月・1	(McAvoy)	TN I e	月・3	[Mansfield]
CL I f	月・1	(Fenstermaker)	TN I f	月・3	(Stepanczuk)
CL I g	月・1	(Chen)	TN I g	月・3	(Vaughan)
CL I h	月・1	(Campbell)	TN I h	月・3	(Sievert)
CL I i	月・1	(Stepanczuk)	TN I i	月・3	(Feldman)
CL I j	月・1	(Vaughan)	TN I j	月・3	(Quinn)
CL I k	月・1	井狩	TN I k	月・3	(Jones)
CL I l	月・1	山本	TN I l	月・3	(Thorson)
CL I m	月・1	野田	TN I m	月・3	(McAvoy)
CL I n	月・1	(Feldman)	SMH I a	月・4	(Thorson)
CL I o	月・1	Richards	SMH I b	月・4	[Leigh]
EJ I a	月・2	(Feldman)	SMH I c	月・4	(McAvoy)
EJ I b	月・2	山本	SMH I d	月・4	(Fenstermaker)
EJ I c	月・2	(Sievert)	SMH I e	月・4	(Campbell)
EJ I d	月・2	[Mansfield]	SMH I f	月・4	(Chen)
EJ I e	月・2	(Quinn)	SMH I g	月・4	(Jacobs)
EJ I f	月・2	(Thorson)	SMH I h	月・4	(Jones)
EJ I g	月・2	[Leigh]	SMH I i	月・4	[Mansfield]
EJ I h	月・2	(McAvoy)	SMH I j	月・4	(Stepanczuk)
EJ I i	月・2	(Chen)	SMH I k	月・4	(Feldman)
EJ I j	月・2	(Fenstermaker)	SMH I l	月・4	山本
EJ I k	月・2	(Jones)	SMH I m	月・4	(Vaughan)
EJ I l	月・2	(Jacobs)	SMH I n	月・4	(Sievert)
EJ I m	月・2	(Campbell)	SMH I o	月・4	(Quinn)
EJ I n	月・2	(Stepanczuk)			
EJ I o	月・2	(Vaughan)			

[科目ナンバー : GE ENG 01 04]

掲載番号	College English IV (CE IV)
210	

●目標

前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学

生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、指導者の評価にかかわらず「F (E)」とする。

●段階別到達度

前期と比べ、扱う言語データ量（文字）を1.5倍ほどに増やす。前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
E J I a	水・1	高島	SMH I a	水・3	(Hudgens)
E J I b	水・1	(Hudgens)	SMH I b	水・3	(Feldman)
E J I c	水・1	(Vaughan)	SMH I c	水・3	(Campbell)
E J I d	水・1	(多賀)	SMH I d	水・3	(Silva)
E J I e	水・1	[高森]	SMH I e	水・3	(Thorson)
E J I f	水・1	[Leigh]	SMH I f	水・3	Richards
E J I g	水・1	(Sievert)	SMH I g	水・3	(Selzer)
E J I h	水・1	(Micklas)	SMH I h	水・3	(Lau)
E J I i	水・1	(Fenstermaker)	SMH I i	水・3	(Jacobs)
E J I j	水・1	(Feldman)	SMH I j	水・3	[高森]
E J I k	水・1	(Thorson)	SMH I k	水・3	(Vaughan)
E J I l	水・1	(Campbell)	SMH I l	水・3	(Sievert)
E J I m	水・1	(Selzer)	SMH I m	水・3	(Micklas)
E J I n	水・1	(Lau)	SMH I n	水・3	山本
E J I o	水・1	(Silva)	SMH I o	水・3	(Fenstermaker)
CL I a	水・2	(Thorson)	TN I a	水・4	(Lau)
CL I b	水・2	(Campbell)	TN I b	水・4	(Fenstermaker)
CL I c	水・2	(Selzer)	TN I c	水・4	Richards
CL I d	水・2	(Silva)	TN I d	水・4	(Feldman)
CL I e	水・2	(多賀)	TN I e	水・4	(Vaughan)
CL I f	水・2	(Lau)	TN I f	水・4	(Micklas)
CL I g	水・2	[高森]	TN I g	水・4	(Silva)
CL I h	水・2	山本	TN I h	水・4	(Thorson)
CL I i	水・2	Richards	TN I i	水・4	(Sievert)
CL I j	水・2	(Jacobs)	TN I j	水・4	(Hudgens)
CL I k	水・2	(Vaughan)	TN I k	水・4	(Selzer)
CL I l	水・2	(Micklas)	TN I l	水・4	(Jacobs)
CL I m	水・2	(Fenstermaker)	TN I m	水・4	(Campbell)
CL I n	水・2	(Hudgens)			
CL I o	水・2	(Feldman)			

<2年>

[科目ナンバー : GE ENG 02 01]

掲載番号	College English V (CE V)
211	

●目標

1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、指導者の評価にかかわらず「F (E)」とする。※ただし、医学科は担当教員の評価のみとする。

●段階別到達度

4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
C II a	火・1	(片岡)	H II c	木・1	(山口)
C II b	火・1	(清川)	H II d	木・1	(高橋)
C II c	火・1	(山澤)	H II e	木・1	(北岡)
C II d	火・1	(高)	S II a	木・2	(北岡)
C II e	火・1	(倉恒)	S II b	木・2	(高橋)
C II f	火・1	(熊懐)	S II c	木・2	(山口)
C II g	火・1	(筒井)	S II d	木・2	野末
C II h	火・1	(村上)	S II e	木・2	(藤井)
J II a	火・2	(筒井)	S II f	木・2	(津田)
J II b	火・2	(熊懐)	S II g	木・2	古賀
J II c	火・2	(倉恒)	E II a	木・3	(長嶺)
J II d	火・2	(清川)	E II b	木・3	(上里)
J II e	火・2	(高)	E II c	木・3	(フィゴーニ)
J II f	火・2	(山澤)	E II d	木・3	(荒木)
J II g	火・2	(笹倉)	E II e	木・3	杉井
T II a	火・3	田中一	E II f	木・3	野末
T II b	火・3	関	E II g	木・3	関
T II c	火・3	(笹倉)	E II h	木・3	高島
T II d	火・3	豊田	M II a	木・3	廣田
T II e	火・3	(山澤)	M II b	木・3	(中村)
T II f	火・3	(名和)	M II c	木・3	(大久保)
T II g	火・3	(片岡)	L II a	木・4	(フィゴーニ)
T II h	火・3	田中孝	L II b	木・4	(荒木)
T II i	火・3	(村上)	L II c	木・4	(高橋)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
T II j	火・3	野末	L II d	木・4	(長嶺)
T II k	火・3	古賀	L II e	木・4	豊田
H II a	木・1	(津田)	L II f	木・4	古賀
H II b	木・1	(藤井)	L II g	木・4	(上里)

[科目ナンバー : GE ENG 02 02]

掲載番号	College English VI (CE VI)
212	

●目標

1年生の時に学んだCE I～IV、及び、CE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。所属学部の特長性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

●段階別到達度

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
C II a	火・1	(筒井)	H II b	木・1	(津田)
C II b	火・1	(熊懷)	H II c	木・1	(高橋)
C II c	火・1	(倉恒)	H II d	木・1	(藤井)
C II d	火・1	(山澤)	H II e	木・1	(山口)
C II e	火・1	(清川)	S II a	木・2	(山口)
C II f	火・1	(片岡)	S II b	木・2	(津田)
C II g	火・1	(高)	S II c	木・2	(藤井)
C II h	火・1	(村上)	S II d	木・2	(高橋)
J II a	火・2	(高)	S II e	木・2	(北岡)
J II b	火・2	(笹倉)	S II f	木・2	廣田
J II c	火・2	(清川)	S II g	木・2	山崎
J II d	火・2	(山澤)	E II a	木・3	(大久保)
J II e	火・2	(倉恒)	E II b	木・3	(荒木)
J II f	火・2	(熊懷)	E II c	木・3	(上里)
J II g	火・2	(筒井)	E II d	木・3	(フィゴーニ)
T II a	火・3	田中孝	E II e	木・3	廣田
T II b	火・3	野田	E II f	木・3	杉井
T II c	火・3	(名和)	E II g	木・3	(中村)
T II d	火・3	(片岡)	E II h	木・3	(長嶺)
T II e	火・3	(笹倉)	L II a	木・4	田中孝

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
T II f	火・3	(村上)	L II b	木・4	(中村)
T II g	火・3	田中-	L II c	木・4	(荒木)
T II h	火・3	関	L II d	木・4	(フィゴーニ)
T II i	火・3	杉井	L II e	木・4	(大久保)
T II j	火・3	古賀	L II f	木・4	(長嶺)
T II k	火・3	(筒井)	L II g	木・4	(上里)
H II a	木・1	(北岡)			

CEVI (前期)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
M II a	木・4	(大久保)	M II c	木・4	(中村)
M II b	木・4	廣田			

◎Advanced College English (ACE)

Advanced College English は高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

- ACE 科目の受講を希望する者は、履修登録期間中に Web システムにて登録をすること。
- 各科目とも 25 名程度を上限とする。定員を上回った場合は抽選とし、抽選後の取り消しは認めない。

[科目ナンバー : GE ENG 03 03]

掲載番号	ACE: TOEFL 80 (前期・後期) (全学提供 1単位)
213	

●目標

本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準である 80 点 (従来の CBT の 213 点に相当) を取得することを目標とした訓練を行う。ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 04]

掲載番号	ACE: TOEFL 80+ (後期) (全学提供 1単位)
214	

●目標

グローバル・コミュニケーションコースの一環として、国際的に活躍するための英語運用能力を備えた人材を養成することを目指す。米国・カナダ・オーストラリアの主要大学の入学基準である TOEFL 80 (TOEFL ITP 550, Versant 48) 以上の英語力を有する学生を対象に、ドリル等の演習形式の授業を行い、4 技能 (reading, writing, listening, speaking) を鍛える。本科目は、グローバル・コミュニケーションコース登録学生以外でも、さらに上の

レベルの英語力を目指す学生も受講できる。

●評価方法

小テスト、課題、平常点を総合的に評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 02]

掲載番号	ACE:TOEIC 650 (前期・後期) (全学提供 1単位)
215	

●目標

企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 11]

掲載番号	ACE:Comparative Culture (前期) (全学提供 1単位)
216	

●目標

英語を通して、日本を新たな視点から知りたい人が対象である。評判の記事を題材にして、日本について学術的な議論をする技能を身につける。エクササイズを通じて、日本のどこが面白く驚くべきことかに気付いてもらいたい。授業中は英語のみを使用する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 07]

掲載番号	ACE:Critical Writing (前期・後期) (全学提供 1単位)
217	

●目標

ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合し、最終的に、問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する。本科目は、CE I、IIをすでに単位修得した学生を対象とする。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 06]

掲載番号	ACE:Media English (前期・後期) (全学提供 1単位)
218	

●目標

現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 09]

掲載番号	ACE : Literature (前期) (全学提供 1単位)
219	

●目標

英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因（時代背景、作家自身のこと）を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 08]

掲載番号	ACE : Presentation (後期) (全学提供 1単位)
220	

●目標

様々な専門分野に必要な、英語による口頭発表能力の向上を図るため、色々な題材を用いてプレゼンテーションの訓練を行う。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 10]

掲載番号	ACE : Discussion (前期) (全学提供 1単位)
221	

●目標

筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 01]

掲載番号	ACE : Intensive Reading (前期・後期) (全学提供 1単位)
222	

●目標

表現・内容ともにややレベルの高い評論やエッセイを素材にして、英文を正確綿密に、かつ批判的に読む力を養成する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

[科目ナンバー : GE ENG 03 05]

掲載番号	ACE : Films (後期) (全学提供 1単位)
223	

●目標

必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や、登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

前期

科目名	クラス	曜日・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEIC 650	全	月・2	[高森]
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
Critical Writing	全	月・3	山崎
Comparative Culture	全	火・1	[Mansfield]
Discussion	全	木・4	(Chen)
Intensive Reading	全	火・3	杉井
Media English	全	月・4	山本
Literature	全	火・2	野田

後期

科目名	クラス	曜日・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEFL 80+	全	木・3	(川端)
TOEIC 650	全	月・2	[高森]
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
Critical Writing	全	火・1	[Mansfield]
Critical Writing	全	木・4	(Chen)
Presentation	全	水・2	[Leigh]
Intensive Reading	全	火・2	豊田
Films	全	水・3	(多賀)
Media English	全	月・4	[高森]

掲載番号	再度履修者向けクラス (CEI・II・III・IV・V・VI)
224	

●目標

再度履修者を対象とし、CE I・II・III・IV・V・VIの再習熟をはかる。

●履修条件

受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、WEB履修登録を行った上で、各学期の最初の授業に出席すること。最初の授業に出席しない者は、受講許可を取り消すこともあるので十分注意すること。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価

CE III・IV (前期)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
全「再」	月・5	山本	全「再」	水・5	[高森]
全「再」	月・5	井狩	全「再」	水・5	田中孝
全「再」	火・4	野田			

CE I・II (後期)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
全「再」	月・5	野田	全「再」	水・5	高島
全「再」	月・5	井狩			

CE V (前期)

クラス	曜日・時限	担当者
全「再」	木・5	古賀

CE VI (前期)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
全「再」	火・4	(熊懐)	全「再」	水・5	田中一
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	木・5	豊田

CE V (後期)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
全「再」	火・4	(熊懐)	全「再」	水・5	野末
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	木・5	関

CE VI (後期)

クラス	曜日・時限	担当者
全「再」	火・4	古賀

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語(英語以外の外国語)を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることが諸君に期待する。

第 1 部

新修外国語履修の仕方について

●ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次のA、B二つのパターンがある。
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(どのパターンをとるかは、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

1年次前期	基礎1・2 Basic 1・2				応用1A Applied 1A
1年次後期	基礎3 Basic 3	基礎4 Basic 4		応用2A Applied 2A	
2年次以降	特修1 Specialized 1				
	特修2 Specialized 2				
	特修3 Specialized 3				
	.				
	.				
	.				

B.

1年次前期	基礎1・2 Basic 1・2				
1年次後期	基礎3 Basic 3	基礎4 Basic 4			
2年次前期	応用1B Applied 1B	特修1 Specialized 1	2年次以降		
2年次後期	応用2B Applied 2B	特修2 Specialized 2			
		特修3 Specialized 3			
		.			
		.			
		.			

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

●日本語教育編成表 (留学生対象)

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部学生は「基礎1・2」（2単位）および「応用1A」（1単位）を、Bパターンの学部学生は「基礎1・2」を履修すること。なお、「基礎1・2」はペア科目になっているので、月曜日と水曜日に提供されている両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターンの学部学生は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」（各1単位）を、Bパターンの学部学生は「基礎3」「基礎4」を履修すること。
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1・2」の単位を修得していないと、Aパターンの場合には「基礎3」「基礎4」ならびに「応用2A」を、Bパターンの場合には「基礎3」「基礎4」を履修することができないので、十分注意すること。
3. Bパターンの学部学生は、2年次前期で「応用1B」（1単位）を、2年次後期で「応用2B」（1単位）を履修すること。
なお、「基礎3」「基礎4」の受講後でなければ「応用1B」「応用2B」を履修することができないので、十分注意すること。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」（2単位）が提供されている。各学生は、複数提供される科目を複数回、選択することができる。
なお、「基礎3」「基礎4」のいずれかの単位を修得していないと「特修」を履修することができないので、注意すること。

備考

高校での既習者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部担当に願い出て、相談すること。

II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1・2」、「基礎3」、「基礎4」、「応用1A」、「応用2A」の不合格者は、2年次で、不合格であった科目を再度履修すること。2年次提供の「応用1B」、「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格であった科目を再度履修すること。

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表

*別途掲示する。

新修外国語クラス分け表

*クラス内の数字は、各所属学部の学籍番号下3桁を表す。

学部	科目 クラス	ドイツ語				フランス語				
		基礎1・2 基礎3、4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (12科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (10科目)	
商学部	a	001～110	/	001～110	1クラス	1クラス	/	1クラス	1クラス	
	b	111～終		111～終						
経済学部	a	001～110	/	/		1クラス	/	/		/
	b	111～終								
法学部	a	001～095	001～095	/		1クラス	1クラス	/		/
	b	096～終	096～終							
文学部	a	001～080	001～080	/		001～080	001～080	/		/
	b	081～終	081～終			081～終	081～終			
理学部	a	数学、生物	※注1参照	/		1クラス	※注1参照	/		/
	b	物理、地球								
	c	化学、理科選択								
工学部	a	機械	/	/	1クラス	/	/	1クラス		
	b	電子・物理 建築 (001～017)								
	c	電気情報 建築 (018～終)								
	d	化学バイオ								
	e	都市								
医学部看護学科		} 1クラス	/	/	/	/	/	/		
医学部	a								001～045	/
科部	b	046～終								
生活科学部	a	1クラス	/	/	居住環境	/	/	/		
	b				食品栄養 人間福祉					

※注1 このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、理学部教務担当(事務)に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部 of 学籍番号下 3 桁を表す。

学部	科目 クラス	中国語				ロシア語			朝鮮語																							
		基礎1・2 基礎3、4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (10科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)																					
商学部	a	001~075	/	001~075	1 クラス	1 クラス	1 クラス	※理 学部は 注1参 照	1 クラス	1 クラス																						
	b	076~150		076~150																												
	c	151~終		151~終																												
経済学部	a	001~055	/	/							2 クラス	{商学部 経済学部 法学部 文学部 理学部 医学部医学科 医学部看護学科 (CEJLSMN) クラス}	3 クラス	{商学部 工学部 (CT) クラス}																		
	b	056~110																														
	c	111~165																														
	d	166~終																														
法学部	a	001~095	001~095	/											1 クラス	1 クラス	1 クラス	※理 学部は 注1参 照	1 クラス	1 クラス												
	b	096~終	096~終																													
文学部	a	001~085	001~085																		/	1 クラス	1 クラス	1 クラス	※理 学部は 注1参 照	1 クラス	1 クラス					
	b	086~終	086~終																													
理学部		※注1参照			1 クラス	1 クラス	1 クラス	※理 学部は 注1参 照	1 クラス	1 クラス																						
工学部	a	機械 電子・物理	/																									/	{工学部 生活科学部 (TH) クラス}	{経済学部、 医学部医学科、 医学部看護学科 生活科学部 (EMHN) クラス}		
	b	電気情報 化学バイオ																														
	c	建築 都市																														
医学部看護学科		1 クラス									/	/	/	/														/			/	
医学部	医学部医学科	1 クラス																														
生活科学部	居住環境 食品栄養 人間福祉																															

※注1 このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、理学部教務担当（事務）に履修についての相談をすること。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらし、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を築いてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の実相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

[科目ナンバー : GE GER 01 01]

掲載番号	「ドイツ語基礎 1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)
225	

●目標

連続した、もしくは密接に連携した週2回の授業を行う。ドイツ語のアルファベットと発音の基礎から始めて、単一文、単純時称などの基本的なしくみを把握する。AV 機器なども用いて、ドイツ語を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」ためのバランスの取れた基礎能力を身につけることをめざす。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門 1・2」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション (ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音

第4週～第8週：ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

●評価方法

平常点 (出席状況や授業中の発表など) と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

〈月曜日〉

C I a (月・2) 藤原 美沙 (非常勤)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティブ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

C I b (月・2) 神野 ゆみこ (非常勤)

テキスト：大岩信太郎『新正書法による 快速ドイツ文法 (14 課)』(朝日出版社)

E I a (月・1) 竹内 一高 (非常勤)

テキスト：Motive A1 Kursbuch (Hueber Verlag)

E I b (月・1) 長谷川 健一 (文学部教員)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

J I a (月・1) 高井 絹子 (文学部教員)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

J I b (月・1) 藤原 美沙 (非常勤)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

L I a (月・2) 長谷川 健一 (文学部教員)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

L I b (月・2) 國光 圭子 (非常勤)

テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』(朝日出版社)

S I a (月・3) 國光 圭子 (非常勤)

テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3』(朝日出版社)

S I b (月・3) 土谷 真理子 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』(朝日出版社)

S I c (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

テキスト：大岩信太郎『身につくドイツ文法』(同学社)

T I a (月・4) 土谷 真理子 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』(朝日出版社)

T I b (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

テキスト：春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』(朝日出版社)

T I c (月・4) 竹内 一高 (非常勤)

テキスト：Motive A1 Kursbuch (Hueber Verlag)

T I d (月・4) 長谷川 健一 (文学部教員)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

T I e N I (月・4) 三上 雅子 (文学部教員)

テキスト：春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』(朝日出版社)

M I a (月・3) 高井 絹子 (文学部教員)

テキスト：平山茂樹、荒川宗晴『魅力あふれるドイツの町』(朝日出版社)

M I b (月・3) 竹内 一高 (非常勤)

テキスト：Motive A1 Kursbuch (Hueber Verlag)

H I (月・3) 三上 雅子 (文学部教員)

テキスト：春日正男・松澤淳・Wolfgang Schlecht『DVD わかるぞドイツ語！みえるぞドイツ』(朝日出版社)

〈水曜日〉

C I a (水・1) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

テキスト：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！レーゼン』(第三書房)

C I b (水・1) 林田 陽子 (非常勤)

テキスト：森田悟、川上博子、跡守美音『たいむりい』（朝日出版社）

E I a (水・2) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』（郁文堂）

E I b (水・2) 林田 陽子 (非常勤)

テキスト：矢羽々崇、フランク・リースナー『アンファング ドイツの街へ』（第三書房）

J I a (水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

J I b (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

テキスト：矢羽々崇『ケイコのミュンヘン 聞いて話してドイツ語』（朝日出版社）

L I a (水・1) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

L I b (水・1) 神竹 道士 (文学部教員)

テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』（朝日出版社）

S I a (水・4) 神竹 道士 (文学部教員)

テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』（朝日出版社）

S I b (水・4) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間〈話すための文法〉web練習問題付』（朝日出版社）

S I c (水・4) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

テキスト：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！ レーゼン』（第三書房）

T I a (水・3) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間〈話すための文法〉web練習問題付』（朝日出版社）

T I b (水・3) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

テキスト：清野智昭、須藤温子、會田素子『ドイツ語の時間—読解編—〈読めると楽しい！〉』（朝日出版社）

T I c (水・3) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

T I d (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

テキスト：秋田静男他『イン・ドイチュラント—ドイツ語インフォメーション 映像付—』（朝日出版社）

T I e N I (水・3) 土谷 真理子 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』（朝日出版社）

M I a (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

テキスト：春日正男、松澤淳『日本語で学ぶドイツ語』（郁文堂）

M I b (水・4) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

H I (水・4) 土谷 真理子 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE GER 02 01]

掲載番号	「ドイツ語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)
226	

●目標

「基礎1・2」での学習をふまえて、複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の構文を学習し、ドイツ語の基礎的な知識をひとつおりに身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週:<基礎1・2>の既習事項の確認

第2週~第5週:ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充

第6週~第10週:ドイツ語の基礎的な文法知識の強化

第11週~第14週:ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

●評価方法

平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

C I a(月・2) 藤原 美沙(非常勤)

テキスト:神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティブ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

C I b(月・2) 神野 ゆみこ(非常勤)

テキスト:大岩信太郎『新正書法による 快速ドイツ文法(14課)』(朝日出版社)

E I a(月・1) 竹内 一高(非常勤)

テキスト:Motive A1 Kursbuch (Hueber Verlag)

E I b(月・1) 長谷川 健一(文学部教員)

テキスト:神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティブ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

J I a(月・1) 神野 ゆみこ(非常勤)

テキスト:神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティブ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

J I b(月・1) 藤原 美沙(非常勤)

テキスト:神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティブ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

L I a(月・2) 長谷川 健一(文学部教員)

テキスト:神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティブ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

L I b(月・2) 國光 圭子(非常勤)

テキスト:神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』(白水社)

S I a(月・3) 國光 圭子(非常勤)

テキスト:神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』(白水社)

S I b(月・3) 土谷 真理子(非常勤)

テキスト:清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』(朝日出版社)

S I c(月・3) 神野 ゆみこ(非常勤)

テキスト:大岩信太郎『身につくドイツ文法』(同学社)

T I a(月・4) 土谷 真理子(非常勤)

テキスト:清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』(朝日出版社)

T I b(月・4) 神野 ゆみこ(非常勤)

テキスト:春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ文法』(朝日出版社)

T I c (月・4) 竹内 一高 (非常勤)

テキスト：Motive A1 Kursbuch (Hueber Verlag)

T I d (月・4) 長谷川 健一 (文学部教員)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

T I e N I (月・4) 三上 雅子 (文学部教員)

テキスト：春日正男、松澤淳『怖くはないぞドイツ語文法』(朝日出版社)

M I a (月・3) 高井 絹子 (文学部教員)

テキスト：平山茂樹、荒川宗晴『魅力あふれるドイツの町』(朝日出版社)

M I b (月・3) 竹内 一高 (非常勤)

テキスト：Motive A1 Kursbuch (Hueber Verlag)

H I (月・3) 三上 雅子 (文学部教員)

テキスト：春日正男・松澤淳・Wolfgang Schlecht『DVD わかるぞドイツ語！みえるぞドイツ』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE GER 02 02]

掲載番号	「ドイツ語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)
227	

●目標

「基礎3」での学習と並行して、比較的複雑なドイツ語文を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」練習を行い、基礎的なドイツ語能力の定着をはかる。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

●評価方法

平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

C I a (水・1) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

テキスト：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！レーゼン』(第三書房)

C I b (水・1) 林田 陽子 (非常勤)

テキスト：森田悟、川上博子、跡守美音『たいむりい』(朝日出版社)

E I a (水・2) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：神竹道士、高井絹子、長谷川健一『アルタナティーフ 第2外国語としてのドイツ語文法』(郁文堂)

E I b (水・2) 林田 陽子 (非常勤)

テキスト：矢羽々崇、フランク・リースナー『アンファンク ドイツの街へ』(第三書房)

J I a (水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』(白水社)

J I b (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

テキスト：矢羽々崇『ケイコのミュンヘン 聞いて話してドイツ語』(朝日出版社)

L I a (水・1) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

L I b (水・1) 神竹 道士 (文学部教員)

テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』（朝日出版社）

S I a (水・4) 神竹 道士 (文学部教員)

テキスト：神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』（朝日出版社）

S I b (水・4) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間〈話すための文法〉web 練習問題付』（朝日出版社）

S I c (水・4) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

テキスト：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子『ゲナウ！ レーゼン』（第三書房）

T I a (水・3) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間〈話すための文法〉web 練習問題付』（朝日出版社）

T I b (水・3) 廣瀬 ゆう子 (非常勤)

テキスト：清野智昭、須藤温子、會田素子『ドイツ語の時間—読解編—〈読めると楽しい!〉』（朝日出版社）

T I c (水・3) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

T I d (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

テキスト：秋田静男他『イン・ドイチュラント—ドイツ語インフォメーション 映像付—』（朝日出版社）

T I e N I (水・3) 土谷 真理子 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD 付き』（朝日出版社）

M I a (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

テキスト：春日正男、松澤淳『日本語で学ぶドイツ語』（郁文堂）

M I b (水・4) 田島 昭洋 (非常勤)

テキスト：関根裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

H I (水・4) 土谷 真理子 (非常勤)

テキスト：清野智昭『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD 付き』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE GER 02 03]

掲載番号	「ドイツ語応用1A」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
228	

●目標

AV 機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション (ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音—補強

第4週～第9週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

●評価方法

平常点 (出席状況や授業中の発表など) と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

J I a (金・3) 大森 智子 (非常勤)

テキスト：小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラネルエー』（朝日出版社）

J I b (金・3) 江川 英明 (非常勤)

テキスト：大岩信太郎『はじめての独作文 [改訂新正書法版]』（朝日出版社）

L I a (金・4) 江川 英明 (非常勤)

テキスト：大岩信太郎『はじめての独作文 [改訂新正書法版]』（朝日出版社）

L I b (金・4) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉コミュニカティブ版－マルチメディア－』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE GER 02 04]

掲載番号	「ドイツ語応用2 A」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
229	

●目標

AV 機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成する。多様なシチュエーションに対応できるドイツ語の理解能力と表現能力の習得をめざす。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：<応用1 A>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化

第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

●評価方法

平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

J I a (金・3) 大森 智子 (非常勤)

テキスト：小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラネルエー』（朝日出版社）

J I b (金・3) 江川 英明 (非常勤)

テキスト：大岩信太郎『はじめての独作文 [改訂新正書法版]』（朝日出版社）

L I a (金・4) 江川 英明 (非常勤)

テキスト：大岩信太郎『はじめての独作文 [改訂新正書法版]』（朝日出版社）

L I b (金・4) 中村 恵 (非常勤)

テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり『ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉コミュニカティブ版－マルチメディア－』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE GER 02 05]

掲載番号	「ドイツ語応用1 B」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
230	

●目標

1 年次で習得した基礎に立って、テキスト精読や実践的練習を通してドイツ語の応用能力を養成する。また、ド

ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：既習事項の確認

第2週～第3週：ドイツ語の応用能力への導入

第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成

第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

●評価方法

平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

C II a（火・2）神野 ゆみこ（非常勤）

テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり『ドイツ語の時間（ときめきミュンヘン）』DVD-ROM付コミュニケーション版』（朝日出版社）

C II b（火・2）海老根 剛（文学部教員）

テキスト：佐藤修子ほか『CD&ワークブック付き スツェーネン2 コンパクト 場面で学ぶドイツ語』（三修社）

[科目ナンバー : GE GER 02 06]

掲載番号	「ドイツ語応用2B」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）
231	

●目標

テキスト精読や実践的練習を通して、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：＜応用1B＞の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化

第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

●評価方法

平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●担当者及びテキスト

C II a（火・2）神野 ゆみこ（非常勤）

テキスト：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり『ドイツ語の時間（ときめきミュンヘン）DVD-ROM付コミュニケーション版』（朝日出版社）

C II b（火・2）海老根 剛（文学部教員）

テキスト：佐藤修子ほか『CD&ワークブック付き スツェーネン2 コンパクト 場面で学ぶドイツ語』（三修社）

◎「ドイツ語特修」（前・後期）（全学提供 各2単位）

●目標

「ドイツ語基礎3」「ドイツ語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生で、さらにドイツ語を学ぶ意欲のある者を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、適切なクラス規模での授業によって、より高度なドイツ語能力の習得をめざす。

●評価方法

平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

各クラスの授業内容は以下のとおり。

[科目ナンバー : GE GER 03 01・GE GER 03 02・GE GER 03 03]

掲載番号	「ドイツ語特修1a」(前期)・「ドイツ語特修1b」(前期) 「ドイツ語特修2」(後期)	〈ドイツ語会話〉 } (全学提供 各2単位)
232		

ネイティブ教員の担当により、ドイツ語のヒアリングおよび会話能力の養成を目的とする。ドイツ語の日常的な会話表現を実践的な練習により習得する。

「ドイツ語特修1a」全Ⅱ～Ⅳ（前・火・2）担当者名 ジモン・エルトレ（特任教員）

●授業内容

授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●テキスト

プリントを使用する。

「ドイツ語特修1b」全Ⅱ～Ⅳ（前・金・2）担当者名 ジモン・エルトレ（特任教員）

●授業内容

授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●テキスト

プリントを使用する。

「ドイツ語特修2」全Ⅱ～Ⅳ（後・金・2）担当者名 ジモン・エルトレ（特任教員）

●授業内容

授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●テキスト

プリントを使用する。

[科目ナンバー : GE GER 03 04・GE GER 03 05・GE GER 03 06]

掲載番号	「ドイツ語特修3a」(前期)・「ドイツ語特修3b」(前期) 「ドイツ語特修4」(後期)	〈映像で学ぶドイツ語〉 } (全学提供 各2単位)
233		

ドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

「ドイツ語特修3a」全Ⅱ～Ⅳ（火・3）海老根 剛（文学部教員）

●授業内容

映画の一場面を選び出し、実際に場面を再現してみる。アタマだけで理解しようとするのではなく、声とカラダを通して外国語を話す経験を体感しましょう。毎回の授業準備は必須です。

●テキスト

資料をコピーして配布する。

「ドイツ語特修3b」全Ⅱ～Ⅳ（木・3）田島 昭洋（非常勤）

●授業内容

モーツァルトの歌劇『魔笛』の台本を読み、映像を見る。庶民性と芸術性が最高度に融合した親しみやすく奥深

い本作品をとおり、ドイツ語オペラの基本を学ぶ。合わせて関連映像や担当者の歌唱実演によって理解を深める。

●テキスト

使用しない。資料は毎回コピーして配布する。

「ドイツ語特修4」全Ⅱ～Ⅳ（木・3）田島 昭洋（非常勤）

●授業内容

ウェーバーの歌劇『魔弾の射手』の台本を読み、映像を見る。本作はドイツ語圏（森）を舞台にした初のドイツ語による「ドイツ国民オペラ」として名高い。合わせて関連映像や担当者の歌唱実演によって理解を深める。

●テキスト

使用しない。資料は毎回コピーして配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 07・GE GER 03 08]

掲載番号	「ドイツ語特修5」(前期)・「ドイツ語特修6」(後期)〈独検対策〉(全学提供 各2単位)
234	

ドイツ語技能検定（独検）受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。独検においてはバランスの取れたドイツ語能力が求められるが、これで十分対応できる総合的な能力を身につけるよう授業を行う。

「ドイツ語特修5」全Ⅱ～Ⅳ（金・3）中村 恵（非常勤）

●授業内容

独検3～4級合格を目標とする。文法事項の復習・補強、聴き取り・発音等に力を入れつつ過去問題・練習問題を解答し、実力アップを目指す。

●テキスト

プリントを配布。

「ドイツ語特修6」全Ⅱ～Ⅳ（金・3）中村 恵（非常勤）

●授業内容

独検3～2級程度合格を目標とする。文法事項の復習・補強、聴き取り・発音等に力をいれつつ、過去問題・練習問題を解答し、実力アップを目指す。

●テキスト

プリントを配布。

[科目ナンバー : GE GER 03 09・GE GER 03 10]

掲載番号	「ドイツ語特修7」(前期)・「ドイツ語特修8」(後期)〈ドイツ語を読むI〉 (全学提供各2単位)
235	

新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

「ドイツ語特修7」全Ⅱ～Ⅳ（火・4）神野 ゆみこ（非常勤）

●授業内容

新聞や雑誌の記事、ホームページなどさまざまなテキストを言語で読み、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文化について理解を深める。

●テキスト

コピーを配布する。

「ドイツ語特修8」全Ⅱ～Ⅳ（火・3）海老根 剛（文学部教員）

●授業内容

読みやすく、面白い内容のドイツ語の文章を丁寧に読んでいきます。適宜、文法事項の復習や背景となる文化や

社会事情の解説も行います。毎回の予習は必須です。

●テキスト

受講者の関心に合わせて文章を選び、コピーを配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 11・GE GER 03 12]

掲載番号	「ドイツ語特修9」(前期)・「ドイツ語特修10」(後期) <ドイツ語を読むⅡ> (全学提供 各2単位)
236	

ドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

「ドイツ語特修9」全Ⅱ～Ⅳ(金・4) 大森 智子 (非常勤)

●授業内容

テイル・オイレンシュピーゲルは14世紀に実在した農民出身のいたずら者で風来坊。彼の愉快ないたずら話は民衆本として最も古く、庶民文学の代表的作品である。ケストナーが現代語で子ども向けに書き直している。

●テキスト

前田敬作編『ケストナーのテイル・オイレンシュピーゲル』(朝日出版社)

「ドイツ語特修10」全Ⅱ～Ⅳ(金・4) 大森 智子 (非常勤)

●授業内容

特修9に続いて、『ケストナーのテイル・オイレンシュピーゲル』を読む。短いいたずら話を順に読んでいくので、後期だけの履修も可能。

●テキスト

前田敬作編『ケストナーのテイル・オイレンシュピーゲル』(朝日出版社)

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

[科目ナンバー : GE FRN 01 01]

掲載番号	「フランス語基礎1・2」(前期) (学部別提供 クラス指定 2単位)
237	

●目標

「基礎1・2」では、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業ではCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1・2」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週: イントロダクション (フランス語・フランス語文化への導入)

第2週~第3週: フランス語の文字と発音

第4週~第8週: フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週~第14週: フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席をふくむ)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

C I (前・月・2) 辻 昌子 (非常勤)・(前・水・1) 小田中 章浩 (文学部教員)

テキスト: 藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

E I (前・月・1) 久後 貴行 (非常勤)・(前・水・2) 秋吉 孝浩 (非常勤)

テキスト: 藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

J I (前・月・1) 藤本 智成 (非常勤)・(前・水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

テキスト: 藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

L I a (前・月・2) 白田 由樹 (文学部教員)・(前・水・1) 福島 祥行 (文学部教員)

テキスト: クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』(朝日出版社)

L I b (前・月・2) 福島 祥行 (文学部教員)・(前・水・1) 白田 由樹 (文学部教員)

テキスト: クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』(朝日出版社)

S I (前・月・3) 津川 廣行 (文学部教員)・(前・水・4) ロラン・バレイユ (特任)
テキスト：レナ・ジュンタ、清岡智比古『Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!)』(白水社)

T N I (前・月・4) 酒井 美貴 (非常勤)・(前・水・3) 小林 裕史 (非常勤)
テキスト：藤田裕二他『タルト・タタン』(駿河台出版社)

H I a (前・月・3) 辻 昌子 (非常勤)・(前・水・4) 津川 廣行 (文学部教員)
テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

H I b (前・月・3) 酒井 美貴 (非常勤)・(前・水・4) 有田 豊 (非常勤)
テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

M I (前・月・3) 中條 健志 (非常勤)・(前・水・4) 小林 裕史 (非常勤)
テキスト：井上櫻子、ヴァンサン・ブランクール『フランスの若者は「いま」』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 01]

掲載番号	「フランス語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)
238	

●目標

「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級1」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

- 第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席をふくむ)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

C I (後・月・2) 辻 昌子 (非常勤)
テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

E I (後・月・1) 久後 貴行 (非常勤)
テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

J I (後・月・1) 藤本 智成 (非常勤)
テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』(朝日出版社)

L I a (後・月・2) 福島 祥行 (文学部教員)
テキスト：クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』(朝日出版社)

L I b (後・月・2) 中條 健志 (文学部教員)
テキスト：クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』(朝日出版社)

S I (後・月・3) 津川 廣行 (文学部教員)
テキスト：レナ・ジュンタ、清岡智比古『Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!)』(白水社)

T N I (後・月・4) 酒井 美貴 (非常勤)

テキスト：藤田裕二他『タルト・タタン』（駿河台出版社）

H I a (後・月・3) 辻 昌子 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』（朝日出版社）

H I b (後・月・3) 酒井 美貴 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』（朝日出版社）

M I (後・月・3) 中條 健志 (非常勤)

テキスト：井上櫻子、ヴァンサン・ブランクール『フランスの若者は「いま」』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 02]

掲載番号	「フランス語基礎4」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
239	

●目標

「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級2」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席をふくむ)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

C I (後・水・1) 小田中 章浩 (文学部教員)

テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』（朝日出版社）

E I (後・水・2) 秋吉 孝浩 (非常勤)

テキスト：倉方秀憲・セルジュ・ジュンタ『セヌ・ドウ・ヴィ』（早美出版社）

J I (後・水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』（朝日出版社）

L I a (後・水・1) 白田 由樹 (文学部教員)

テキスト：クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』（朝日出版社）

L I b (後・水・1) 福島 祥行 (文学部教員)

テキスト：クリスチャン・ボームルー、高橋信良『サン・ファッソン』（朝日出版社）

S I (後・水・4) ロラン・バレイユ (特任)

テキスト：レナ・ジュンタ、清岡智比古『Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!)』（白水社）

T N I (後・水・3) 小林 裕史 (非常勤)

テキスト：藤田裕二他『タルト・タタン』（駿河台出版社）

H I a (後・水・4) 有田 豊 (非常勤)

テキスト：藤田裕二『パリー・ボルドー』（朝日出版社）

H I b (後・水・4) 白田 由樹 (文学部教員)

テキスト：藤田裕二『パリーポルドー』(朝日出版社)

M I (後・水・4) 小林 裕史 (非常勤)

テキスト：井上櫻子、ヴァンサン・ブランクール『フランスの若者は「いま」』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 03]

掲載番号	「フランス語応用1 A」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
240	

●目標

「フランス語基礎1・2」履修中の者を対象として、「基礎1・2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション (フランス語・フランス語文化への導入)

第2週～第3週：フランス語の文字と発音—補強

第4週～第9週：フランス語の応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席をふくむ)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

J I (前・金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

テキスト：大木充他『グラメール・アクティヴ—文法で復言語・複文化—』(朝日出版社)

L I a (後・金・4) 藤本 智成 (非常勤)

テキスト：大久保政憲『きみと話したい! フランス語』(朝日出版社)

L I b (前・金・4) 有田 豊 (非常勤)

テキスト：大久保政憲『きみと話したい! フランス語』(朝日出版社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 04]

掲載番号	「フランス語応用2 A」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
241	

●目標

「フランス語応用1 A」履修者を対象として、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：<応用1 A>の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化

第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

J I (後・金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

テキスト：大木充他『グラメール・アクティヴー文法で復言語・複文化-』（朝日出版社）

L I a (後・金・4) 有田 豊 (非常勤)

テキスト：大久保政憲『きみと話したい！フランス語』（朝日出版社）

L I b (後・金・4) 藤本 智成 (非常勤)

テキスト：大久保政憲『きみと話したい！フランス語』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 05]

掲載番号	「フランス語応用1 B」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
242	

●目標

「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い発音の仕組み、文の構造を学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17年(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の応用能力への導入

第6週～第10週：フランス語の応用能力の初歩的養成

第11週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

C II (前・火・2) 藤田 あゆみ (非常勤)

テキスト：加藤晴久他『A la page 精選集 2010 - 2012』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 06]

掲載番号	「フランス語応用2 B」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
243	

●目標

「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17年(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

●授業内容・授業計画

第1週：<応用1 B>の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化

第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●担当者及びテキスト

C II（後・火・2）藤田 あゆみ（非常勤）

テキスト：加藤晴久他『A la page 精選集 2010 - 2012』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 03 01 ~ GE FRN 03 10]

掲載番号	「フランス語特修1～10」（前期・後期）（全学提供 各2単位）
244	

●目標

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、映画、シャンソン、旅、街、歴史、ニュース、食、文化などを通じて、フランス語の会話力、読解力を発展させることを目的とする。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語特修1」全Ⅱ～Ⅳ（前・火・3）岩本 篤子（非常勤）

●授業内容

【フランス語童謡の世界】フランスの童謡について、その背景を考えながら、歌詞の訳、歌唱を通して、フランス文化への理解を深める。

●テキスト

プリント使用

「フランス語特修2」全Ⅱ～Ⅳ（後・火・3）岩本 篤子（非常勤）

●授業内容

【フランス語ポップスの世界】60年代から現在までのフランスのポップ・ミュージックを視聴し、歌詞を訳し、時には歌うことによって、フランス文化への理解を深める。

●テキスト

プリント使用

「フランス語特修3」全Ⅱ～Ⅳ（前・火・4）藤田 あゆみ（非常勤）

●授業内容

【フランスの街と歴史文化の世界】フランスの多様な都市を、視聴覚教材も使い、歴史、産業、文化、文学、色、風習）など多様な視点から理解する。読解、聞き取り、作文、会話の総合的なフランス語学獲得を目指す。

●テキスト

教室にてプリントを配布する。

「フランス語特修4」全Ⅱ～Ⅳ（後・火・4）小田中 章浩（文学部教員）

●授業内容

【フランス語の映画の世界】『太陽がいっぱい』や『勝手にしやがれ』、『緑の光線』、『アメリ』その他のフランス映画を題材にして、生きたフランス語会話の表現方法について学ぶ。

●テキスト

教室にてプリントを配布する。

「フランス語特修5」全Ⅱ～Ⅳ（前・木・3）中條 健志（非常勤）

●授業内容

【旅するフランス語の世界】1年次の復習をしながら、フランス語圏を旅することを想定した口頭表現を練習する、

グループ活動をベースとした演習形式の授業です。旅行だけでなく、語学研修の準備にも適しています。

●テキスト

プリント配布。1年次に使用したテキストを持参してください。

「フランス語特修6」全Ⅱ～Ⅳ（後・木・3）小林 裕史（非常勤）

●授業内容

【フランス文化史の世界】魔女、悪魔憑き、吸血鬼、癡癡派など、仏文化史における興味深いトピックを取り上げ、当時の文献にもあたることで、歴史的リアルを体感しつつ、仏語、仏文化を学ぶ。

●テキスト

随時プリント配布

「フランス語特修7」全Ⅱ～Ⅳ（前・金・3）ロラン・バレイユ（特任）

●授業内容

【フランス語会話の世界Ⅰ】フランス人の生活スタイル、仕事、バカンスなどのフランス語会話の練習をします。適宜、文法説明や、聞き取り、簡単な文章の理解などを含めます。

●テキスト

Gael Crépieux, Olivier Massé 『Interaction 1』, Clé international

「フランス語特修8」全Ⅱ～Ⅳ（後・金・3）ロラン・バレイユ（特任）

●授業内容

【フランス語会話の世界Ⅱ】フランス人の生活スタイル、仕事、バカンスなどのフランス語会話の練習をします。適宜、文法説明や、聞き取り、簡単な文章の理解などを含めます。

●テキスト

Gael Crépieux, Philippe Callens 他 『Spirale (nouvelle édition)』, Hachette FLE

「フランス語特修9」全Ⅱ～Ⅳ（前・金・4）藤澤 秀平（非常勤）

●授業内容

【フランス語インターネットを通して見る世界】これまで習得したフランス語力を総動員しながら、ネットを通してフランスの「Actualité 今」を覗いてみます。ニュース動画、新聞記事、ラジオを活用しながら、フランス現代社会の一端に触れてみましょう。

●テキスト

プリントを随時配布。*電子辞書や中辞典程度の仏和辞典を用意すること。

「フランス語特修10」全Ⅱ～Ⅳ（後・金・4）久後 貴行（非常勤）

●授業内容

【フランス料理の世界】宮廷料理の流れを汲む高級料理だけではなく、各地の特産物を生かした地方料理がフランスにはあります。それらのレシピを読んだり視聴覚教材を見る事を通じて、フランス文化への理解を深めます。

●テキスト

プリント使用

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

[科目ナンバー : GE CHN 01 01]

掲載番号	「中国語基礎 1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定制 2単位)
245	

●目標

中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎 1・2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション(中国語の特徴や背景となる中国社会、文化について紹介する)
- 第2週～第5週：発音の基礎練習
- 第6週：動詞「是」、「吗」疑問文、名前の聞き方と答え方
- 第7週：副詞「也」、「都」、選択疑問文
- 第8週：「呢」疑問文、指示代詞(これ、あれ)、「的」
- 第9週：疑問詞疑問文、時点(今日、今年)
- 第10週：形容詞述語文、反復疑問文
- 第11週：所有を表す動詞「有」、量詞、「几」と「多少」
- 第12週：文末の「了」、時刻
- 第13週：連動文、日付・曜日、疑問詞「怎么」
- 第14週：総復習

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

C I a(前・月・2) 山口 博子(非常勤)・(前・水・1) 趙 冬輝(非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C I b(前・月・2) 秋岡 英行(非常勤)・(前・水・1) 王 標(非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C I c(前・月・2) 福田 知可志(非常勤)・(前・水・1) 大野 陽介(非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I a (前・月・1) 秋岡 英行 (非常勤)・(前・水・2) 王 標 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I b (前・月・1) 福田 知可志 (非常勤)・(前・水・2) 史 彤春 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I c (前・月・1) 韓 艶玲 (非常勤)・(前・水・2) 大野 陽介 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I d (前・月・1) 田淵 欣也 (非常勤)・(前・水・2) 南 真理 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

J I a (前・月・1) 大岩本 幸次 (文)・(前・水・2) 井出 克子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

J I b (前・月・1) (前・水・2) 山口 博子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

L I a (前・月・2) 岩本 真理 (文)・(前・水・1) 史 彤春 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

L I b (前・月・2) 韓 艶玲 (非常勤)・(前・水・1) 松浦 恆雄 (文)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

M H I (前・月・3) 長谷川 慎 (非常勤)・(前・水・4) 趙 冬輝 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

T I a (前・月・4) 山口 博子 (非常勤)・(前・水・3) 趙 冬輝 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

T I b (前・月・4) 長谷川 慎 (非常勤)・(前・水・3) 井出 克子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

T I c N I (前・月・4) 田淵 欣也 (非常勤)・(前・水・3) 大野 陽介 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

[科目ナンバー : GE CHN 02 01]

掲載番号	「中国語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)
246	

●目標

様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業内容・授業計画

第1週：前期の復習

第2週：指示代詞(ここ、あそこ)、方位詞、「在」と「有」

第3週：動詞の後の「了」、動詞の重ね型、前置詞「给」

第4週：経験の「过」、動作量補語、前置詞「跟」

第5週：時間量、時間量補語、前置詞「从」「到」「离」

第6週：助動詞「会」、助動詞「能」、主述述語文

第7週：比較、「多」+形容詞、年齢の尋ね方

第8週：「是～的」構文、100以上の数、金額の言い方

第9週：状態補語、二重目的語、「有点儿」

第10週：方向補語、進行の「在」、禁止

第11週：結果補語、処置文、助動詞「可以」

第12週：受身文、使役文、補語のまとめ

第13週：近い未来、「越来越～」、複文

第14週：総復習

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

C I a (後・月・2) 山口 博子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

C I b (後・月・2) 秋岡 英行 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

C I c (後・月・2) 福田 知可志 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

E I a (後・月・1) 秋岡 英行 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

E I b (後・月・1) 福田 知可志 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

E I c (後・月・1) 韓 艶玲 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

E I d (後・月・1) 田淵 欣也 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

J I a (後・月・1) 大岩本 幸次 (文)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

J I b (後・月・1) 山口 博子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

L I a (後・月・2) 岩本 真理 (文)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

L I b (後・月・2) 韓 艶玲 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

MH I (後・月・3) 長谷川 慎 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

T I a (後・月・4) 山口 博子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

T I b (後・月・4) 長谷川 慎 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

T I c N I (後・月・4) 田淵 欣也 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

掲載番号	「中国語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)
247	

●目標

様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業内容・授業計画

- 第1週：前期の復習
- 第2週：指示代詞(ここ、あそこ)、方位詞、「在」と「有」
- 第3週：動詞の後の「了」、動詞の重ね型、前置詞「给」
- 第4週：経験の「过」、動作量補語、前置詞「跟」
- 第5週：時間量、時間量補語、前置詞「从」「到」「离」
- 第6週：助動詞「会」、助動詞「能」、主述述語文
- 第7週：比較、「多」+形容詞、年齢の尋ね方
- 第8週：「是～的」構文、100以上の数、金額の言い方
- 第9週：状態補語、二重目的語、「有点儿」
- 第10週：方向補語、進行の「在」、禁止
- 第11週：結果補語、処置文、助動詞「可以」
- 第12週：受身文、使役文、補語のまとめ
- 第13週：近い未来、「越来越～」、複文
- 第14週：総復習

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

C I a (後・水・1) 趙 冬輝 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C I b (後・水・1) 王 標 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

C I c (後・水・1) 大野 陽介 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I a (後・水・2) 王 標 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I b (後・水・2) 史 彤春 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I c (後・水・2) 大野 陽介 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

E I d (後・水・2) 南 真理 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

J I a (後・水・2) 井出 克子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

J I b (後・水・2) 松浦 恆雄 (文)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』(白帝社)

L I a (後・水・1) 史 形春 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

L I b (後・水・1) 松浦 恆雄 (文)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

M H I (後・水・4) 趙 冬輝 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

T I a (後・水・3) 趙 冬輝 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

T I b (後・水・3) 井出 克子 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

T I c N I (後・水・3) 大野 陽介 (非常勤)

テキスト：杉野元子・黄漢青：『大学生のための初級中国語24回』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 02 03]

掲載番号	「中国語応用1A」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)
248	

●目標

ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

●授業内容・授業計画

第1週～第4週：発音の基礎練習

第5週：呼称、挨拶

第6週：自己紹介

第7週：これは何ですか

第8週：これはいかがですか(1)

第9週：これはいかがですか(2)

第10週：買い物(1)

第11週：買い物(2)

第12週：どこにありますか(1)

第13週：どこにありますか(2)

第14週：総復習

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

J I a (前・金・3) 王 標 (非常勤)

テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

J I b (前・金・3) 馮 艶 (非常勤)

テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

L I a (前・金・4) 范 紫江 (非常勤)

テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

L I b (前・金・4) 馮 艶 (非常勤)

テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

[科目ナンバー : GE CHN 02 04]

掲載番号	「中国語応用 2 A」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
249	

●目標

ネイティヴスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

●授業内容・授業計画

- 第1週: 何がありますか (1)
- 第2週: 何がありますか (2)
- 第3週: 何時に行きますか (1)
- 第4週: 何時に行きますか (2)
- 第5週: ホテルのフロントで (1)
- 第6週: ホテルのフロントで (2)
- 第7週: タクシーに乗る (1)
- 第8週: タクシーに乗る (2)
- 第9週: 試着と支払い (1)
- 第10週: 試着と支払い (2)
- 第11週: 苦情を訴える (1)
- 第12週: 苦情を訴える (2)
- 第13週: 紛失届を出す (1)
- 第14週: 紛失届を出す (2)

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

J I a (後・金・3) 王 標 (非常勤)

テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

J I b (後・金・3) 馮 艶 (非常勤)

テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

L I a (後・金・4) 范 紫江 (非常勤)

テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

L I b (後・金・4) 馮 艶 (非常勤)

テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『新版 1年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

[科目ナンバー : GE CHN 02 05]

掲載番号	「中国語応用 1 B」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
250	

●目標

前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週: 既習事項の確認
- 第3週～第6週: 中国語の応用能力への導入
- 第7週～第10週: 中国語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週: 中国語の応用能力の発展的養成

●評価方法

平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

C II a (後・火・2) 田渕 欣也 (非常勤)

テキスト：楊凱榮・張麗群「LOVE! 上海2 一初級～中級編一」(朝日出版社)

C II b (後・火・2) 張 新民 (文)

テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

C II c (後・火・2) 大岩本 幸次 (文)

テキスト：プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 02 06]

掲載番号	「中国語応用2B」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)
251	

●目標

中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

●授業内容・授業計画

第1週～第2週：<応用1B>の既習事項の確認

第3週～第6週：中国語の応用能力の拡充

第7週～第10週：中国語の応用能力の強化

第11週～第14週：中国語の応用能力の仕上げ

●評価方法

平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表、朗読大会ほか中国語に関わる行事への参加、などによる。

●担当者及びテキスト

C II a (前・火・2) 田渕 欣也 (非常勤)

テキスト：楊凱榮・張麗群「LOVE! 上海2 一初級～中級編一」(朝日出版社)

C II b (前・火・2) 張 新民 (文)

テキスト：塚本慶一・劉穎：『新版 2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

C II c (前・火・2) 大岩本 幸次 (文)

テキスト：洪潔清：『Chinese Adventure ～DVDで学ぶ中国文化～』(金星堂)

[科目ナンバー : GE CHN 03 01・GE CHN 03 02]

掲載番号	「中国語特修1」(前期) (全学提供 2単位)
252	「中国語特修2」(後期) (全学提供 2単位)

●目標

1回生の基礎1～4で身につけた正確な発音を基に、自由に会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行う。また口頭作文、言い換え、暗誦などを通して「話す」力も高め、会話でよく用いられる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで話せることを目指す。

●評価方法

成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「中国語特修1」全Ⅱ～Ⅳ(前・月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

●講義内容

すでに学習した文法事項を復習しながら、準中級レベルの表現を繰り返して進んでいきます。飲食、キャンパス生活、趣味、旅行など、身近なテーマに沿って、ゆとりを持って各場面に対応できるコミュニケーション力を身につけるように目指します。

●テキスト

守屋宏則・柴森：『中国語フィットネス14』（朝日出版社）

「中国語特修2」全Ⅱ～Ⅳ（後・月・3）韓 艶玲（非常勤）

●講義内容

すでに学習した文法事項を復習しながら、準中級レベルの表現を繰り返して進んでいきます。飲食、キャンパス生活、趣味、旅行など、身近なテーマに沿って、ゆとりを持って各場面に対応できるコミュニケーション力を身につけるように目指します。

●テキスト

守屋宏則・柴森：『中国語フィットネス14』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 03・GE CHN 03 04]

掲載番号	「中国語特修3」（前期）（全学提供 2単位）
253	「中国語特修4」（後期）（全学提供 2単位）

●目標

中国語検定に合格する能力の養成を目標とする。前期の特修3は、学習歴1年のレベルを想定した中国語検定4級を到達目標とする。後期の特修4は、学習歴2年程度に該当する中国語検定3級レベルへの到達を目指す。前期、後期と継続して受講することが望まれる。月に一度は模擬試験の形式により、定着度を測る。また問題の解答・解説に終始するのではなく、日本人学習者のウィークポイントに絞って、その克服に努める。

●評価方法

成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「中国語特修3」全Ⅱ～Ⅳ（前・火・3）岩本 真理（文）

●講義内容

中国語検定4級レベルのリスニング、文法問題に取り組む。常用フレーズの暗唱と学習者が不得手とする文法問題の解説により、総合的な語学力の向上を図る。受講生同士のペアによる応用会話や、個別のシャドーイング課題にも取り組む。

●テキスト

林修三『三文字エクササイズ中国語1200』（東方書店）

「中国語特修4」全Ⅱ～Ⅳ（後・火・3）岩本 真理（文）

●講義内容

中国語検定3級レベルのリスニング、文法問題に取り組む。常用例文の暗唱と学習者が不得手とする文法問題の解説により、総合的な語学力の向上を図る。受講生同士のペアによる応用会話や、個別のシャドーイング課題にも取り組む。

●テキスト

上野恵司『精選中国語基本文例集』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 05・GE CHN 03 06]

掲載番号	「中国語特修5」（前期）（全学提供 2単位）
254	「中国語特修6」（後期）（全学提供 2単位）

●目標

中国語を読む力、聴く力を鍛え、中国語の基礎的文献を理解する力を養成すると同時に、そのテキスト内容を通

して、急速な成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することを目的とする。テキストは、最近の新聞、雑誌、書籍などから、ふさわしい話題性、問題性に富むものを選び、また必要に応じて書き下ろした。この授業で、中国語を身につけながら、すでにあるステレオタイプな「中国」像ではなく、歴史的、文化的背景に基づいた新しい「中国」像を、自らの手で作り上げてもらいたい。この授業は、テキストの購読を中心とし、文の構造の分析や解釈に重点を置くほか、適宜リスニングも取り入れる。また、テキストの内容に関わる報告やレポートの提出も求める。

●評価方法

成績は、出席を前提とし、その上で平常点（報告・レポートなど）、学期末試験を総合して判定する。

「中国語特修5」全Ⅱ～Ⅳ（前・水・3）南 真理（非常勤）

●講義内容

長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。成績は、出席・平常点（報告・レポートなど）・学期末試験を総合して判断する。

●テキスト

松浦恆雄ほか：『チャイナ・アップデート』（白帝社）

「中国語特修6」全Ⅱ～Ⅳ（後・水・3）南 真理（非常勤）

●講義内容

長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。成績は、出席・平常点（報告・レポートなど）・学期末試験を総合して判断する。

●テキスト

松浦恆雄ほか：『チャイナ・アップデート』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 07・GE CHN 03 08]

掲載番号	「中国語特修7」（前期）（全学提供 2単位）
255	「中国語特修8」（後期）（全学提供 2単位）

●目標

視聴覚教材を用いて、聞き取りと会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらうようにする。

●評価方法

出席を前提とし、平常点、学期末試験を総合して判定する。

「中国語特修7」全Ⅱ～Ⅳ（前・木・3）張 新民（文）

●講義内容

最近の映画などを教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。

●テキスト

プリント配布

「中国語特修8」全Ⅱ～Ⅳ（後・木・3）張 新民（文）

●講義内容

最近の映画などを教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。

●テキスト

プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 03 09・GE CHN 03 10]

掲載番号	「中国語特修9」(前期)(全学提供 2単位)
256	「中国語特修10」(後期)(全学提供 2単位)

●目標

一回生で習った事柄を中心に、日常的な会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、できるだけ中国語を多く使って授業を行う。自然な中国語に近づけるよう訓練する。

●評価方法

出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「中国語特修9」全Ⅱ～Ⅳ(前・金・3) 范 紫江(非常勤)

●講義内容

「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。「話す」力を高め、口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。成績は全クラス共通で設定された要求水準に準拠し、平常点、出席、定期試験の内容により総合的に判断する。出席重視。

●テキスト

沈国威・安力著 中級中国語会話『新版トーク・トピックス』(白帝社)

「中国語特修10」全Ⅱ～Ⅳ(後・金・3) 范 紫江(非常勤)

●講義内容

「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。「話す」力を高め、口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。成績は全クラス共通で設定された要求水準に準拠し、平常点、出席、定期試験の内容により総合的に判断する。出席重視。

●テキスト

沈国威・安力著 中級中国語会話『新版トーク・トピックス』(白帝社)

ロシア語 Russian

学習の意義

ウクライナ問題に端を発する経済制裁や、原油価格の下落により、ロシア経済は現在失速ぎみといわれていますが、2017年には再びプラス成長に転じることが予測されています。その経済的な潜在性ととも、シリア問題等で政治的発言力を強めているロシアから目がはなせません。また、ロシアは西ヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアにも目を向けています。日本アニメは相変わらず圧倒の人気を保ち、村上春樹など日本作家の本が書店に並び、日本料理は大人気です。ロシアの魅力は何か、と聞かれたら、かつては、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴロキイなど）という答えが多かったように思われますが、広大なロシアの自然、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ラフマーニノフ、ショスタコーヴィチなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、有力選手を輩出するロシアのフィギュアスケート、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きることがありません。ロシア語は国連の公用語のひとつで、世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ソ連の崩壊から20年以上たちましたが、ロシアはつねに変化し続けています。ぜひロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。

目標と評価方法

[科目ナンバー : GE RUS 01 01]

掲載番号	「ロシア語基礎1・2」(前期)(2クラス提供 2単位)
257	

●目標

担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化(歌、映画など)を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

●評価方法

出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

●授業内容・授業計画

第1週: イントロダクション(ロシア語・ロシア文化への導入)

第2週~第3週: ロシア語の文字と発音

第4週~第8週: ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週~第14週: ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

CEJLSMN I (前・月・3) バクン・エレナ (非常勤)

●講義内容

コミュニケーションな学習の基礎作りを特徴にしている。キリル文字に慣れること、簡単な表現の習得を主要内容とする。

●成績評価の方法

「基礎1・2」で総合的におこなう。

●教科書

諫早勇一、服部文昭、大平陽一著『セメスターのロシア語』(白水社)他に適宜プリント配布

TH I (前・月・2) 江村 公 (特任)

●講義内容

平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進め、同時にロシア語の骨組みを理解してもらう。文法の基礎固めをしつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深める。

●成績評価の方法

「基礎1・2」で総合的にこなす。

●教科書

諫早勇一、服部文昭、大平陽一著『セメスターのロシア語』(白水社)他に適宜プリントを配布する。

TH I (前・水・1) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

●講義内容

文法の復習をしながら、会話練習を中心にし、ロール・プレイや問答等を取り入れ会話を養う。ビデオや教科書を通して現代のロシア人の日常生活を紹介する。

●成績評価の方法

「基礎1・2」で総合的に行う。

●教科書

プリント配布

CEJLSMN I (前・水・4) 江村 公 (特任)

●講義内容

平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進める。同時に、ロシア語の骨組みを理解してもらう。文法の基礎固めをしつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深める。

●成績評価の方法

「基礎1・2」で総合的に行う。

●教科書

諫早勇一、服部文昭、大平陽一著『セメスターのロシア語』(白水社)他に適宜プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE RUS 02 01・GE RUS 02 02]

掲載番号	「ロシア語基礎3」・「ロシア語基礎4」(後期)
258	(各2クラス提供 各1単位)

●目標

ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

●評価方法

出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

●授業内容・授業計画

〈基礎3〉

第1週:〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週~第5週:ロシア語基礎的な実践能力の拡充

第6週~第10週:ロシア語の基礎的な実践能力の強化

第11週~第14週:ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

〈基礎4〉

第1週:〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週~第5週:ロシア語の基礎的な文法知識の拡充

第6週~第10週:ロシア語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

「ロシア語基礎3」TH I（後・月・2）江村 公（特任）

●講義内容

前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ロシア文化への理解をより深める。

●成績評価の方法

平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

●教科書

諫早勇一他著『セメスターのロシア語』（白水社）、古賀義顕他著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）他に適宜プリント配布。

「ロシア語基礎3」CEJLSMN I（後・月・3）バクン・エレナ（非常勤）

●講義内容

やさしい日常の表現と基本的文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。

●成績評価の方法

平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

●教科書

諫早勇一他著『セメスターのロシア語』（白水社）、古賀義顕他著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）他に適宜プリント配布

「ロシア語基礎4」TH I（後・水・1）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

●講義内容

『会話で学ぶロシア語 初級』の残りを仕上げ、更にコミュニケーション能力のアップを目指していく。ロシアだけでなく、旧ソ連の国々も紹介する。

●成績評価の方法

平常点、定期試験の成績で総合的に行う。

●教科書

プリント配布

「ロシア語基礎4」CEJLSMN I（後・水・4）江村 公（特任）

●講義内容

前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ロシア文化への理解をより深める。

●成績評価の方法

平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

●教科書

諫早勇一他著『セメスターのロシア語』（白水社）、古賀義顕他著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）他に適宜プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE RUS 02 03]

掲載番号	「ロシア語応用1A」（前期）（全学提供「文学部必修」1単位）
259	

●目標

ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。発音が主として中心になるが、学習に参加する学生との「ふれあい」を大切に授業を行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門3」に読み替えることができる。

●**評価方法**

平常点を加味して、定期試験で行う。

●**授業内容・授業計画**

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音の補強

第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

全 I（前・金・4）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

●**講義内容**

文字と発音に慣れ、簡単な表現を習得する事を目標とする。アルファベット・発音、基本的語彙の習得、人称代名詞、動詞の現在形、過去形、格変化、前置格・前置詞、対格、命令形、生格、所有代名詞、形容詞の性と数、を取り扱う。

●**成績評価の方法**

定期試験の成績

●**教科書**

「ロシア語習字ノート」（ナウカ）、プリント配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 04]

掲載番号	「ロシア語応用2A」（後期）（全学提供「文学部必修」1単位）
260	

●**目標**

ロシア語の日常用いる平易な表現を使って、役に立つ会話を実践する。生きたロシア語の表現を学ぶクラスで、ネイティヴの教員が担当する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級3」に読み替えることができる。

●**評価方法**

平常点を加味して、定期試験で行う。

●**授業内容・授業計画**

第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化

第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

全 I（後・金・4）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

●**講義内容**

「聞く・話す・読む・書く」の基本的力を養う。運動の動詞、与格、動詞の未来形、数字と名詞の結び付き、造格、完了体・不完了体、指示代名詞の性と数、動詞・副詞、活動体・不活動体（対格）、総合練習、を取り扱う。

●**成績評価の方法**

平常点を加味して、定期試験の成績

●**教科書**

プリント配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 05・GE RUS 02 06]

掲載番号	「ロシア語応用1B」(前期)
261	「ロシア語応用2B」(後期)(全学提供 各1単位)

●目標

1年次に修得した事項をより確かなものにするため、役に立つ会話を中心に、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの教員が担当する。

●評価方法

出席状況など平常点、および定期試験で総合的に行う。

●授業内容・授業計画

〈応用1B〉

第1週: 既習事項の確認

第2週～第3週: ロシア語応用能力の導入

第4週～第9週: ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週: ロシア語応用能力の発展的養成

〈応用2B〉

第1週: 〈応用1B〉既習事項の確認

第2週～第5週: ロシア語応用能力の拡充

第6週～第10週: ロシア語応用能力の強化

第11週～第14週: ロシア語応用能力の仕上げ

「ロシア語応用1B」全II (前・月・4) バクン・エレナ (非常勤)

●講義内容

色々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。挨拶の表現・部屋の中の語彙・教室の語彙・食べ物の語彙・飲み物の語彙・家族の語彙・買い物の語彙などを学習する。

●成績評価の方法

平常点を加味して、定期試験の成績。

●教科書

ディヴォフスキイ、北岡千夏著『会話で学ぶロシア語』初級、中級(南雲堂フェニックス)

「ロシア語応用2B」全II (後・月・4) バクン・エレナ (非常勤)

●講義内容

色々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。家族の表現・交通の表現・買い物の表現・旅の表現・場所の表現・時の表現などを学習する。

●成績評価の方法

平常点を加味して、定期試験の成績。

●教科書

ディヴォフスキイ、北岡千夏著『会話で学ぶロシア語』初級、中級(南雲堂フェニックス)

[科目ナンバー : GE RUS 03 01・GE RUS 03 02]

掲載番号	「ロシア語特修1」(前期)
262	「ロシア語特修2」(後期)(全学提供 各2単位)

●目標

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲ある学生を対象に、様々な映像を活用してロシアの文化(映画など)を学びながらロシア語の知識を習得し、ロシア語の運用能力の向上を目指す。

●評価方法

平常点を加味して、定期試験で行う。

「ロシア語特修1」全Ⅱ～Ⅳ（前・水・3）江村 公（特任）

●講義内容

復習を兼ねながら、基礎で触れていない文法事項（副動詞・形動詞など）を取り上げ、読解力の養成を目指す。視聴覚教材を用いてロシアの文化を紹介する。

●成績評価の方法

平常点、定期試験を併せて総合的にこなう。

●教科書

適宜、プリントを配布する。

「ロシア語特修2」全Ⅱ～Ⅳ（後・水・3）江村 公（特任）

●講義内容

インターネット上のロシア語記事を読む。それにあわせて、映画を鑑賞し、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

●成績評価の方法

平常点、定期試験を併せて総合的にこなう。

●教科書

適宜、プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE RUS 03 03・GE RUS 03 04]

掲載番号	「ロシア語特修3」(前期)
263	「ロシア語特修4」(後期) (全学提供 各2単位)

●目標

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生を対象に、基本的文法事項の復習をしつつ、会話と読解の力の向上を目指す。ネイティブの教員が担当し、ロシアの風俗・習慣やロシア人の暮らし振りを紹介しつつ、高度のコミュニケーション能力を身につけてもらう。

●評価方法

平常点を加味して、定期試験で判断する。

「ロシア語特修3」全Ⅱ～Ⅳ（前・金・3）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

●講義内容

教科書『ロシア語教程Ⅰ』の第12課まで復習しつつ学ぶことを目標とする。関係代名詞の用法、無人称文（副詞と述語）、数詞（40-2000）、動詞の体（その3）、出発と到着の表現、形容詞、人称代名詞、所有代名詞の前置格、形容詞、所有代名詞、指示代名詞の与格、動詞の体（その4）、体調の表現、西暦年代、を取り扱う。

●成績評価の方法

平常点を加味して、定期試験の成績

●教科書

『ロシア語教程Ⅰ』（東京ロシア語学院）

「ロシア語特修4」全Ⅱ～Ⅳ（後・金・3）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

●講義内容

『ロシア語教程Ⅰ』の残りを仕上げ、コミュニケーティブ・アプローチによる運用能力の向上を目指す。数量の表現、複数生格、数詞（3000-5000000）、動詞の体（その5）、活動体対格（複数）、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞・比較級、副動詞、形動詞、を取り扱う。

●成績評価の方法

平常点を加味して、定期試験の成績

●教科書

『ロシア語教程Ⅰ』（東京ロシア語学院）

朝鮮語 Korean

学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

目標と評価方法

[科目ナンバー : GE KOR 01 01]

掲載番号	「朝鮮語基礎 1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)
264	

●目標

ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

●授業計画

- 第1回 ハングルの歴史と構造
文字の成り立ちの理解。
- 第2～4回 文字と発音(基礎母音・基礎子音・激音・濃音・合成母音など)
ハングル文字の正確な発音と書き方の習得。
- 第5～8回 単語の読み方、基礎的な構文(体言の肯定・否定・場所の表現・助詞)
文章における発音の規則、名詞を中心とした表現の習得。
- 第9～12回 用言の肯定・否定、存在詞を用いた表現
動詞・形容詞を用いた構文と語法の習得。
- 第13～15回 進行形・敬語表現・数詞(固有数詞・漢数詞)など
基礎的な会話表現と数量表現の習得。

CT I (前・月・2) 野崎 充彦(文学部教員)・(前・水・3) 北島 由紀子(特任教員)

●授業内容

ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

EMHN I (前・月・3) 野崎 充彦(文学部教員)・(前・水・4) 北島 由紀子(特任教員)

●講義内容

ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

JL I (前・月・4) 野崎 充彦 (文学部教員)・(前・水・4) 金 宝英 (特任教員)

●講義内容

ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

[科目ナンバー : GE KOR 02 01]

掲載番号	「朝鮮語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)
265	

●目標

「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級1」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

●授業計画

第1～4回 連体形・命令表現
活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。

第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現
母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。

第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など
さまざまな表現、および不規則活用の習得。

第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形
語法の仕上げと論説文体の習得。

CT I (後・月・2) 野崎 充彦 (文学部教員)

●講義内容

基礎1・2で学んだ事柄を復習しながらさらに学習を進め、規則活用や不規則活用、および日常生活でよく用いられる語法(可能・不可能表現や婉曲語法など)を習得していきます。また、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

●テキスト

高 秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

EMHN I (後・月・3) 野崎 充彦 (文学部教員)

●講義内容

前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

高 秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

JL I（後・月・4）野崎 充彦（文学部教員）

●講義内容

前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

高 秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

[科目ナンバー : GE KOR 02 02]

掲載番号	「朝鮮語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）
266	

●目標

「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト（中間テスト、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

●授業計画

第1～4回 連体形・命令表現

活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。

第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現

母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。

第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など

さまざまな表現、および不規則活用の習得。

第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形

語法の仕上げと論説文体の習得。

CT I（後・水・3）北島 由紀子（特任教員）

●講義内容

前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

金 京子・喜多 多恵子『パラセ韓国語』（啖火出版社）

EMHN I（後・水・4）北島 由紀子（特任教員）

●講義内容

前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

●テキスト

金 京子・喜多 多恵子『パラセ韓国語』（啖火出版社）

JL I（後・水・4）金 宝英（特任教員）

●講義内容

前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表

現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

- テキスト
プリント

[科目ナンバー : GE KOR 02 03]

掲載番号	「朝鮮語応用 1 A」(前期) (全学提供 1単位)
267	

●目標

「朝鮮語基礎 1・2」を履修中の人を対象に、「基礎 1・2」と連携しながら、ハングル文字の発音からはじめ、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざすのは基礎クラスと同じですが、それに加えて、ビデオ教材なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解の十分なまでにはまだ至りません。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門 3」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

全 I (前・木・3) 金 宝英 (特任教員)

●講義内容

基礎 1・2 と並行して朝鮮語の文字発音や基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

●テキスト

生越 直樹『ことばの架け橋』(白帝社)

[科目ナンバー : GE KOR 02 04]

掲載番号	「朝鮮語応用 2 A」(後期) (全学提供 1単位)
268	

●目標

「朝鮮語応用 1 A」を履修した人を対象に、「基礎 3」「基礎 4」と連携しながら、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力を養成するとともに、ビデオ教材を活用し、ニュースや映画などの生き生きした言葉に触れ、朝鮮語の感覚に慣れるようつとめます。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級 3」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

全 I (後・木・3) 金 宝英 (特任教員)

●講義内容

基礎 3・4 と並行して朝鮮語の基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

●テキスト

生越 直樹『ことばの架け橋』(白帝社)

[科目ナンバー : GE KOR 02 05]

掲載番号	「朝鮮語応用 1 B」(前期) (全学提供 1 単位)
269	

●目標

「朝鮮語基礎 1・2」の履修を終えた人を対象に、「基礎 1・2」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、新たに日常生活でよく用いられる語法や語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などが独力でできる、いわゆる独り立ちできる語学力が目的です。また、ビデオ教材(ニュース・映画など)なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、やや高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門 3」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

全Ⅱ(前・木・4) 金 宝英(特任教員)

●講義内容

基礎クラスで学び残した語法をマスターして確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の養成をめざします。具体的なシチュエーションに適した会話を通じ、短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

●テキスト

プリント

[科目ナンバー : GE KOR 02 06]

掲載番号	「朝鮮語応用 2 B」(後期) (全学提供 1 単位)
270	

●目標

「朝鮮語応用 1 B」の履修を終えた人を対象に、「応用 1 B」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、より高度な語法や語彙を習得し、日常会話や読解に使える実践的な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などのスピードアップが独力が目的です。また、ビデオ教材(ニュース・映画など)なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、比較的高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級 3」に読み替えることができます。

●評価方法

定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

全Ⅱ(後・木・4) 金 宝英(特任教員)

●講義内容

基礎クラスで習得した事柄を復習しながら、確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には日常会話でよく用いられる語法を中心に短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

●テキスト

プリント

[科目ナンバー : GE KOR 03 01・GE KOR 03 02]

掲載番号	「朝鮮語特修1」(前期)(全学提供 2単位)
271	「朝鮮語特修2」(前期)(全学提供 2単位)

●目標

語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのためにネイティブの教師が少人数クラスで集中的な授業を行い、正確な発音と作文力や読解力・語彙力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。また、受講生の要望に応じ、検定試験対策も試みます。

●評価方法

定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

特修1 全Ⅱ～Ⅳ(前・火・3) 野崎 充彦(文学部教員)

●講義内容

少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

プリント

特修2 全Ⅱ～Ⅳ(前・水・3) 金 宝英(特任教員)

●講義内容

少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

●テキスト

プリント

[科目ナンバー : GE KOR 03 03・GE KOR 03 04]

掲載番号	「朝鮮語特修3」(後期)(全学提供 2単位)
272	「朝鮮語特修4」(後期)(全学提供 2単位)

●目標

教科書の中にある言葉ではなく、映画に登場する会話や新聞・雑誌などの文章をテキストとしながら、実際に使われている「生きた言葉」に触れることを目的とします。

語学的な理解のみならず、現代韓国の社会や伝統文化など、感性においてもより深いアプローチができることをめざします。

●評価方法

定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な質疑応答が重視されます。

特修3 全Ⅱ～Ⅳ(後・火・3) 野崎 充彦(文学部教員)

●講義内容

映画やニュース、それに昔話やエッセイなど実際に使われている生きた言葉にふれ、楽しみながら学ぶことを目指します。それによって、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるようになるでしょう。

●テキスト

プリント

特修4 全Ⅱ～Ⅳ(後・水・3) 金 宝英(特任教員)

●講義内容

映画やニュース、それに昔話やエッセイなど実際に使われている生きた言葉にふれ、楽しみながら学ぶことを目指します。それによって、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるようになるでしょう。

●テキスト

プリント

日本語 Japanese

学習の意義

日本語は、他の言語と同様に、じつに奥の深い言語である。ことばが文化と密接に関連していることを考えれば、日本語の習得は日本文化・日本社会の理解とも無縁ではない。本講座は、留学生の日本語力向上と、それに付随する日本文化理解を目的としている。

留学生にとって日本語の習得は容易なことではない。もちろん「日本語の習得」といっても、その内容も基準も、状況に応じて様々である。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアの中で使われる日本語の新しい言葉を通しての趣味・娯楽など、個々人の必要度に応じて、どこが「習得」の基準になるかが決まる。しかしここでは、研究活動や大学生活において必要な日本語の習得をめざしている。

大学生活を実り豊かなものにするため、学習活動や研究活動のために必要となる日本語能力を身につけること。つまり、学習活動に必要な日本語能力とは、講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力である。また、研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで要約し、自分の問題意識を絞ってゼミで発表する、質疑応答してディスカッションする技術、さらにはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。そして、本講座の最終目標は、言葉の学習を通して、日本語の豊かさを知り、ことばや日本文化や日本社会の特質や特性を考えて、個々人の専門分野や個人研究のなかでさらに問題意識を追求していくことである。

「日本語1～5」ではそのような日本語能力の養成を、幅広い観点・多彩な角度からおこなう。なお、各講座、内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

目標と評価方法

[科目ナンバー : GE JPN 03 01 ・ GE JPN 03 02]

掲載番号	「日本語1 A」(前期)・「日本語1 B」(後期) (全学提供 各1単位)
273	

●概要

本講義は、「ニュースを読む」なかで、①日本語の基礎を確認しながら応用力を身につけ、②日本の現代社会について学び、考えるものである。日本語の能力の「読む・聞く・話す」の3つを、バランスよく伸ばすことをめざす。日本語の基礎知識を確認しながら、記事から導き出される疑問や課題について、グループディスカッションを行う。

●目標

大学での学習活動に必要な、高い日本語能力を身につける。①高度な論説文や新聞記事の読解力をつける。②むずかしい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。④時事問題や広い分野の専門的課題について、討論する技術をつける。

●評価方法

出席、発表、授業内でのディスカッション、レポートなどにより総合的に評価する。

●テキスト

授業時に指示する。

日本語1A 全(前・月・3)堀 まどか(専任)

日本語1B 全(後・月・3)堀 まどか(専任)

[科目ナンバー : GE JPN 03 03・GE JPN 03 04]

掲載番号	「日本語2 A」(前期)・「日本語2 B」(後期)(全学提供 各1単位)
274	

●目標

大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力をつける。①論文などを要約・説明・発表する。②レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を身につける。

●評価方法

出席、発表、小テスト、課題への取り組み、定期試験などにより総合的に評価する。

日本語2A 全(前・火・3)坂本 美加(非常勤)

●授業内容

簡単な作文を通じて、レポート・論文といった論理的な文章を書くために必要な基礎的事項について学ぶ。

●テキスト

二通信子・佐藤不二子『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)

日本語2B 全(後・火・3)坂本 美加(非常勤)

●授業内容

レポート・論文を書くための作文トレーニングを行う。特に、文章の構成や要約のしかたについて学ぶ。

●テキスト

二通信子・佐藤不二子『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)、その他適宜プリント配付。

[科目ナンバー : GE JPN 03 05・GE JPN 03 06]

掲載番号	「日本語3 A」(前期)・「日本語3 B」(後期)(全学提供 各1単位)
275	

●概要

本講義は、「日本の文学」に触れるなかから、①日本語の基礎を確認し、②日本での研究や学習に励むための、基礎知識や文化理解、研究の視点を身につけ、③日本の文化社会について考え、国際的な課題に応用する視点を養うことをめざす。日本語の能力のなかの、とくに「読む」力をつけること中心に、「聞く・話す・書く」の力についても、バランスよく伸ばすことをめざす。日本文学の理解を通して、日本社会や文化、日本史、などについての関心と理解を深める。

●目標

大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、さまざまな文献を読みこなす力を養う。①はばひろい文章を読み、論点を整理する。②比較の視点から研究対象を眺める態度をやしなう。③幅広く知識をひろめ、自分の関心のある分野の研究の深化につなげていく。

●評価方法

出席、発表、授業内ディスカッション、小テスト、レポートなどにより総合的に評価する。

●テキスト

授業時に指示する。

日本語3A 全(前・月・2)堀 まどか(専任)

日本語3B 全(後・月・2)堀 まどか(専任)

[科目ナンバー : GE JPN 03 07・GE JPN 03 08]

掲載番号	「日本語4A」(前期)・「日本語4B」(後期)(全学提供 各1単位)
276	

●目標

大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語で議論する能力を養う。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようにすることを目指す。

●評価方法

出席、発表、レポートなどにより総合的に評価する。

日本語4A 全(前・火・4)坂本 美加(非常勤)

●授業内容

口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が設定したテーマで発表を行い、クラスで討論する。

●テキスト

授業時に指示する。

日本語4B 全(後・火・4)坂本 美加(非常勤)

●授業内容

口頭発表技術を高める活動を中心に行う。発表スライド、発表レジュメを作成する際の日本語表現の復習と、より実践的な形での発表練習をする。

●テキスト

『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』(スリーエーネットワーク)他。

[科目ナンバー : GE JPN 03 09・GE JPN 03 10]

掲載番号	「日本語5A」(前期)・「日本語5B」(後期)(全学提供 各1単位)
277	

●概要

本講義は、「文化比較」「異文化理解」をキーワードに、日本の歴史の概略を学び、そのなかで日本語を学ぶものである。留学生それぞれが、自国の歴史や、自分の馴染みのある文化圏の視点を意識して比較しながら、日本史の独自性と特質を学び、そこに見いだされる普遍性とは何か、を考える。

※この授業は、短期留学や交換留学の学生、とくに非漢字文化圏の学習者に対応した講座である。日本語の難易度は、初中級レベルに設定する。

●目標

大学での学習活動に要する日本語能力と、日本文化の基礎知識を身につける。日本の大学生活に慣れ、日本語で発表し、ディスカッションすることが、この授業のおもな目標である。

●評価方法

出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

●テキスト

授業時に指示する。

日本語5A 全(前・水・4)堀 まどか(専任)

日本語5B 全(後・水・4)堀 まどか(専任)

5. 健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences

学習の意義

近年の著しい科学技術の発達、生活の利便性を向上させる一方で、人々の健康に大きな影を落としている。日常生活における機械化、電動化、モータリゼーションの発達等による運動不足が「生活習慣病」の要因であることは周知の事実である。かつて成人病と呼ばれたこの疾患は、もはや子ども世代にも深刻な問題を投げかけており、生涯を通して身体運動を実践することの重要性が指摘されている。発育発達の完成期を迎える大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学び、かつ体験することは、将来健康で豊かな社会生活を送るために必要不可欠なものである。

本科目では、1) 健康・スポーツ科学講義、2) 健康・スポーツ科学実習を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通してスポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

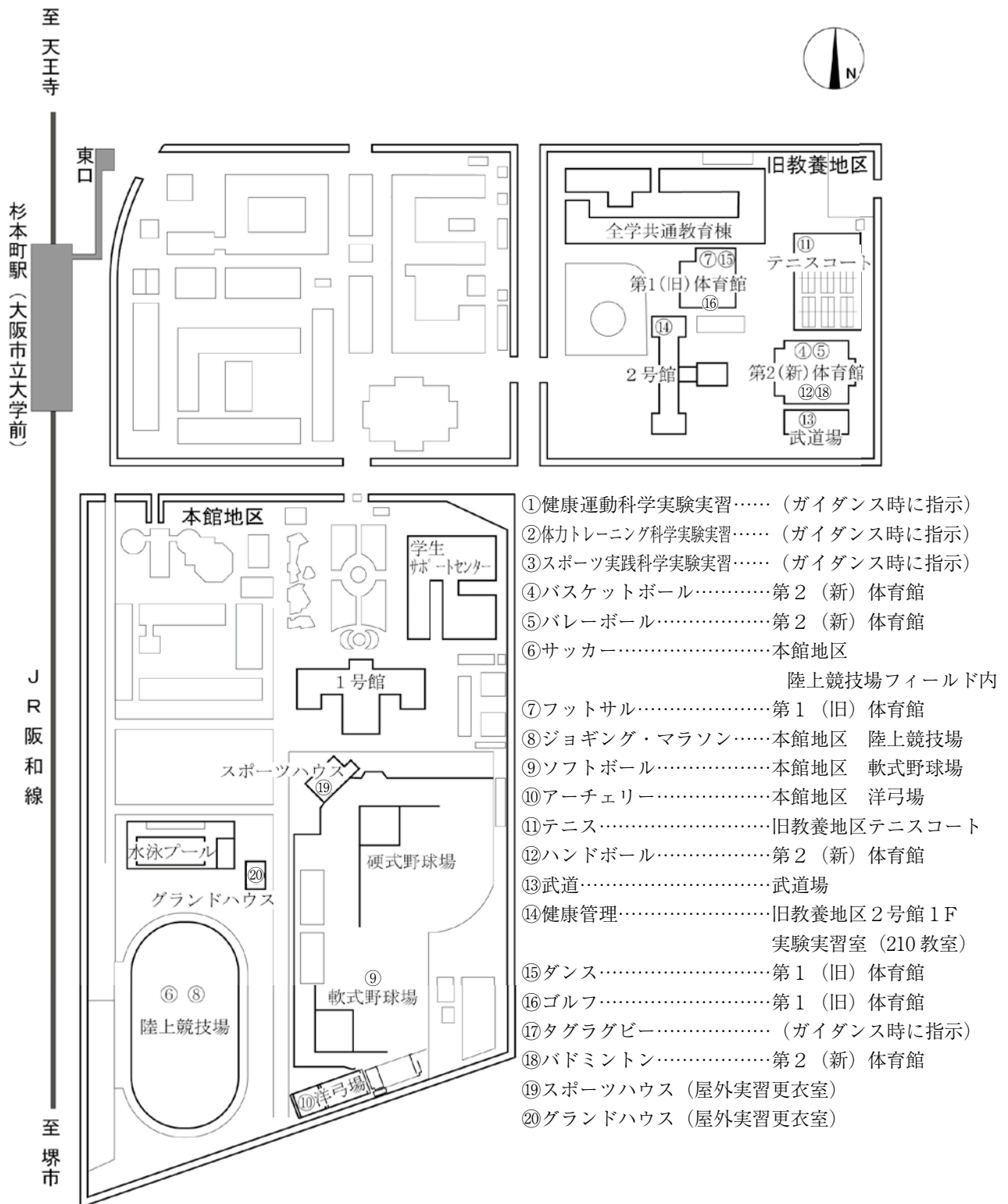
- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部の指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学講義（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 講義の履修希望者が授業定員を上回る場合、抽選により履修を制限することがある。この場合、当選者は辞退できない。
- (5) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (6) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (7) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (8) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (9) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (10) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (11) 実習を履修しようとする者は、各自で傷害保険等に加入しなければならない。
- (12) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者に対しては、「健康管理1」を開講している。
- (13) 健康上の事由により、学期途中で実習を履修できなくなった者は、担当教員の指示をうけなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示をうけなければならない。
- (14) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理1への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (15) 実習は、全開講数の3/4以上の出席がなければ、単位を修得することができない場合がある。
- (16) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (17) 実習に関するその他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途全学ポータル及び第1体育館前「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示する。

注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習では、科目によって短期間の水泳を実施する場合がある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第一体育館前「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。

○実習授業時の集合場所

(注) 前期・後期第1週は実習ガイダンスを行う。実習ガイダンスの場所は全学ポータル及び第1体育館前に掲示する。



○シラバス

[科目ナンバー : GE HEA 01 01]

掲載番号	科目名	健康運動科学	単位数	2	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
278	英語表記	Exercise Science for Health				

●科目の主題

日本人の寿命は、世界一(女性 86.83 歳、男性 80.50 歳)であるが、健康寿命(日常生活に制限のない期間)は 10 歳程度短い。また、国民医療費は増加が続き 40 兆円を超えている。このような日本の社会において、運動やスポーツのもたらす効用の重要性が認識され、健康増進法やスポーツ基本法などに基づいた「幸福で豊かな生活を営む」ことを実現するため、「健康」への関心はますます高まっている。

運動は、人間が健康に生きていくために欠かすことのできない 3 要素(栄養、運動、休養)の一つである。また、スポーツは、世界共通の人類の文化であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利でもある。

人間の体の仕組みと運動が健康に及ぼす効用について理解し、運動・スポーツを享受し、健康寿命の延伸に寄与する健康運動(生涯スポーツ)を創造するための最新の運動・スポーツ科学について教授する。

●授業の到達目標

現代社会における人間の健康において、運動がいかに重要な役割を果たしているのかを理解するとともに、種々の運動に対するからだの適応と運動が及ぼす効果について理解し、自身が目的に応じた運動実践の方法を理解する。生涯を通じて、運動を享受して実践することができる知識を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ・現代社会における健康(ガイダンス)(1)
- ・現代社会における健康の理解
- ・健康と運動・スポーツ科学について

・健康・体力について(2~5)

・健康と体力のとりえ方

・身体組成、肥満

・筋の構造と特徴

・骨格筋の形態や機能に及ぼす影響

・エネルギー代謝・健康とコンディショニング(6~7)

・ストレッチング、ウォームアップ、クールダウン、アイシング、RICE処置

・熱中症と運動時の水分補給

・健康とトレーニング(8~13)

・トレーニングの原理・原則

・健康に必要な体力要素(筋力、スピード、パワー、筋持久力、全身持久力、調整力、柔軟性)の理解とそのトレーニング法

・運動と生活習慣病

・健康と骨・栄養(14)

・まとめ(15)

●評価方法

レポート、小テスト(数回)、最終テスト、受講状況等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

できるだけ相方向的な授業を心がけています。講義を通じて身近な疑問や課題を解決して、自分の生活の中に運動を享受して実践できるように解説します。運動不足を感じている学生、これから運動やスポーツを始めようという学生の積極的な受講を期待する。

●教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE HEA 01 01]

掲載番号	科目名	健康運動科学	単位数	2	担当教員	横山 久代 (健スポ)
279	英語表記	Exercise Science for Health				

●科目の主題

昨今のマラソングームに象徴されるように、スポーツ・運動による健康や体力維持に対する国民の関心は高まっている。一方で、肥満・糖尿病をはじめとする生活習慣病は、誰しもが直面しうる common disease でありながら、心血管疾患などの死亡リスクを増大さ

せ、本邦でも深刻な健康問題となっている。さらに世界に先駆け超高齢化社会を迎える長寿国日本において、認知症・運動器疾患対策により高齢者の日常生活を自立させ、「健康寿命」の延伸を図ることは喫緊の課題である。

将来、さまざまな分野での活躍が期待される学生が、

地域保健をとりまく情勢、とりわけ生活習慣病について十分な問題意識を持ち、スポーツが本来もつ文化的価値のみならず、それら健康障害の予防手段としてのスポーツを科学的に理解し、実践する能力を養う。

●授業の到達目標

- ・生活習慣病や、今後さらなる患者数増加が予測される認知症、骨粗鬆症などの各種疾患の概要について説明できる
- ・予防、治療の方法について、特に運動の役割について説明できる
- ・スポーツを環境や社会的問題との関わりの中で捉え、市民の健康増進に結びつけるための実践方法について論述できる

●授業内容・授業計画

1. 総論（この講義全体の目標、ガイダンス）
2. 肥満とメタボリックシンドローム
3. 糖尿病の概念
4. 糖尿病の治療
5. 痛風・高尿酸血症
6. 高血圧
7. 女性の健康問題（妊娠糖尿病と骨粗鬆症）
8. 脂質異常症

9. 認知症
10. 嗜好品と健康障害
11. 運動による生体適応
12. スポーツ現場における救急医療
13. メディカルチェック
14. 各種疾患における運動の実践方法
15. まとめ

●評価方法

期末筆記試験（100%）

●受講生へのコメント

現場での勤務実績を重ねた医師の視点から、身近なケースや診療経験をふまえてわかりやすく解説するので、高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できる内容となっている。これまで、健康やスポーツにとくに関心のなかった学生の受講も歓迎する。

●教材

特定の教科書は使用しない。

参考図書：健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方（講談社、2012年発行、田口貞善監修）、スポーツ医学研修ハンドブック（文光堂、2012年発行、日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修）

[科目ナンバー : GE HEA 01 02]

掲載番号	科目名	スポーツ実践科学	単位数	2	担当教員	荻田 亮（健スポ）
280	英語表記	Kinematic and Practical Science for Sports				

●科目の主題

我々人間にとって、スポーツとは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。また、スポーツは単に楽しみとして実施するだけではなく、身体機能の向上や健康づくりのためには不可欠である。

本講義では、生涯にわたってスポーツや身体活動を実践するために必要な身体の諸機能と、目的に応じた効果的な運動・スポーツ実践についての理解を深める。

●授業の到達目標

運動に対する身体適応や、個々の目的に応じた効果的な運動方法についての理解を深めるとともに、生活の中における運動・スポーツの実践方法を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. スポーツの概念
2. スポーツの意義
3. スポーツと健康
4. スポーツと体力

5. スポーツと身体の仕組み
6. スポーツと身体の適応
7. 発育発達とスポーツ
8. 加齢・老化とスポーツ
9. スポーツ障害と予防
10. 環境の変化と身体の適応
11. 健康と運動処方
12. スポーツとトレーニング
13. ダイエットとスポーツ
14. スポーツと生活
15. まとめ

●評価方法

試験、小テスト、レポート、出席状況等により、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

運動やスポーツに興味を持ち、主体的に講義に取り組む学生の受講を歓迎する。

●教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE HEA 01 03]

掲載番号	科目名	体カトレーニング科学	単位数	2	担当教員	岡崎 和伸 (健スポ)
281	英語表記	Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription				

●科目の主題

‘体力’は、競技スポーツ選手が優れた成績を収めるために重要な因子である。また、体力は、各種疾患や生活習慣病の罹患と関係すること、体力が低下すると日常生活活動が制限されて、支援・介護が必要になることが示されている。このように、体力は競技スポーツ選手にとって重要であるだけでなく、我々の日常生活や健康に深く関わっている。

本科目では、体力の捉え方、体力に影響する因子、および、体力トレーニングについて学び、運動やスポーツを楽しむ(する・見る)ための基礎を習得する。これらを通して、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するために、どんな運動をどのくらい実施すれば良いか? といった具体的な実践方法とその習慣を獲得する。また、運動やスポーツに親しむことで、アクティブで充実した社会生活を営むための下地を養う。

●授業の到達目標

自身の‘からだ’の中で‘体力’をどのように捉えれば良いか? 実生活で経験する、年齢、環境、食生活などが体力にどのように影響するのか? 競技スポーツのパフォーマンスを決定する体力はどんなものか? を理解すること、さらに、運動による‘からだ’の応答や体力トレーニングによる‘からだ’の適応変

化を科学的に理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 体力とは何か、2. 体力と健康、3～4. 体力とスポーツ：一流スポーツ選手の体力、5. 体力に影響する因子：心理的因子と生理的因子、6. 体力トレーニングの基礎、7～8. 循環器系トレーニング、9～10. 骨格筋系トレーニング、11～12. トレーニング効果(トレーナビリティ)を決定する因子、13～14. エルゴジェニックエイド：ドーピングとサプリメント、15. まとめ

●評価方法

期末試験の成績、レポート内容、および、課題提出状況から評価する。

●受講生へのコメント

自身の‘からだ’に関する講義であり、誰でも興味を持って受講できます。毎回、講義内容に沿った簡単な課題や調査、測定、実験を行ったり、あるいは、身体を動かしたりしながら理解を深めていきます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE HEA 01 03]

掲載番号	科目名	体カトレーニング科学	単位数	2	担当教員	今井 大喜 (健スポ)
282	英語表記	Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription				

●科目の主題

体力といえば、筋の発揮するパワーや持久力が、その一般的なイメージとして定着している。しかし、体力にはそれら以外の要素も数多く存在しており、それらすべてに目を向ける必要がある。したがって体力トレーニングにおいても同様のことが言えることから、本科目では、「種々の体力要素」に関するトレーニング理論について、科学的エビデンスに基づき解説していく。

●授業の到達目標

各種の体力要素およびそのトレーニング方法について理解を深め、自ら実践できる能力を習得することを

目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 体力の捉え方、2. 健康と体力、3. 体力における精神的要素、4. トレーニングの概念、5-6. 筋・骨格系とトレーニング、7-8. 呼吸・循環とトレーニング、9-10. 脳・神経系とトレーニング、11-12. スポーツトレーニング、13. バイオフィードバックトレーニング、14. コンディショニングのための栄養、15. まとめ

●評価方法

期末試験、レポート課題等から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

いわゆる「筋トレ」についてのみ講義する科目ではない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 01]

掲載番号	科目名	アーチェリー 1	単位数	1	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
283	英語表記	Archery 1				

●科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢（安定したフォームの形成）、筋力（繰り返して射つ筋力）、集中力（メンタルコントロール）が特に重要となる。

本科目では、初めてアーチェリーという新しいスポーツに接し、アーチェリーの基本技術を習得し、集中力を養うとともに生涯スポーツに通ずるコンディショニングやトレーニングの方法についても習得する。

●授業の到達目標

アーチェリーの基本技術（射法8節;スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー）を習得し、インドア競技で実施されている18メートルからシューティングできる技術を獲得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング（ストレッチング等）や種々の筋力トレーニングの方法（アイソトニック・アイソメトリック）について理解し、応用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ・健康・スポーツ科学実習ガイダンス（1）
- ・アーチェリーの歴史と競技の概要:ガイダンス(2)

- ・弓具とその取り扱いについて（3～5）
- ・基本技術(射法8節;スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー)の習得とシューティング（3～14）
- ・索引き（3～4）
- ・近射（5～6）
- ・射距離の延長とサイトの調節（6～9）
- ・スコアリングと個々の技術向上（10～14）
- ・コンディショニング（ストレッチング）および筋力トレーニング（アイソトニック・アイソメトリック）の方法（3～10）
- ・知識の復習と総括（15）

●評価方法

知識、技術の習得状況、受講状況など総合的に判断する。

●受講生へのコメント

初心者を対象とします。積極的に参加し、アーチェリーの楽しさ、奥深さを体験するとともに、生涯スポーツへの意識を高めて下さい。

●教材

必要に応じて資料の配付、ビデオの視聴を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 02]

掲載番号	科目名	アーチェリー 2	単位数	1	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
284	英語表記	Archery 2				

●科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢（安定したフォームの形成）、筋力（繰り返して射つ筋力）、集中力（メンタルコントロール）が特に重要となる。

本科目は、アーチェリー競技についてより発展させ

た実習である。シューティング技術の向上と競技全般に渡る知識の習得と併せてアーチェリーを通して集中力を高め、生涯スポーツとしてアーチェリーを楽しむ。

●授業の到達目標

基礎的な技術（射法8節;スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー）をふまえて、10～30

mのシューティングを行う。アーチェリーの競技におけるより深い知識、より高い技術の習得および弓具の使用などを発展させた実習である。生涯スポーツとしてアーチェリーを実践できるようにすることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ・健康・スポーツ科学実習ガイダンス（1）
- ・アーチェリー競技の概要とルール（2～14）
- ・シューティングフォームおよび技術の発展（3～14）
- ・視覚情報（写真、ビデオ等）の活用（3～12）
- ・レクリエーション・アーチェリーの体験（8～9）
- ・シューティング時の重心動揺や筋活動などの変化とパフォーマンスの関係について（8～13）
- ・弓具の発展と取り扱いについて（3～13）
- ・シューティング距離の延長と競技の体験（10～

- 14)
- ・30メートル（80cm的）のシューティング（12～14）
- ・18メートル（インドア40cm的）のシューティング（13～14）
- ・復習と総括（15）

●評価方法

知識、技術の習得状況、受講状況など総合的に判断する。

●受講生へのコメント

アーチェリー1の受講者またはアーチェリー経験者が対象です。より深くアーチェリーの楽しさ、醍醐味を味わって下さい。

●教材

必要に応じて資料の配付、ビデオ等の視聴を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 17]

掲載番号 285	科目名	バスケットボール 1	単位数	1	担当教員	荻田 亮（健スポ）
	英語表記	Basketball 1				

●科目の主題

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待できる。

本実習では、バスケットボールに関わる技術の習得だけではなく、安全にスポーツを行うための基礎知識を深めるなど、スポーツの実践に関わる総合的な能力を高める。

●授業の到達目標

バスケットボールの基礎的な個人技術の習得と、その技術を集団の中で活用するための応用技能の習得を目標とする。また、安全に楽しくスポーツを実践するための基礎知識、ならびにスポーツ実践に取り組む態度の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 競技特性と安全性
2. ウォーミングアップとストレッチ
3. 姿勢と身体の調整
4. 身体の仕組みと動きの分析

5. シュート技術の分析と実践
6. パス技術の分析と実践
7. ドリブル技術の分析と実践
8. 個人技術の応用（1 on 1）
9. 個人的対峙の理解と実践
10. 集団の理解と実践（2 on 1）
11. 状況の認識と判断
12. 集団的対峙の理解と実践
13. ゲームの運営と規則
14. ゲームの実践
15. まとめ

●評価方法

知識、技術の習得状況ならびに出席状況等により、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ（体育館専用）の着用が必要となる。アクセサリ（ネックレス、ピアス、指輪等）を装着しての受講は原則として認めない。自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を歓迎する。

●教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 18]

掲載番号 286	科目名	バスケットボール 2	単位数	1	担当教員	荻田 亮 (健スポ)
	英語表記	Basketball 2				

●科目の主題

バスケットボールは、協同や連携、集団的な安全行動のための規則、技術的な協調、責任の分担などに対する理解が培われるチームスポーツである。また、組織的な戦術・戦略を通して独創性や自制心、自己表現についての知識が高められる競技種目である。

本実習では、バスケットボールを通して、チームスポーツに対する理解を深めるとともに、生涯にわたってスポーツを実践するための知識と技能を高める。

●授業の到達目標

バスケットボールを通してチームスポーツを理解し、実践できる技能の習得を目標とする。また、集団の中で安全に楽しくスポーツを実践するための基礎的な知識、ならびにチームスポーツへの取り組み方の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 集団的な安全行動と規則
2. 集団プレーの原理と原則
3. 集団プレーの分類
4. 集団的対峙の理解と実践
5. 動きの連携と協同
6. 個人の役割と責任分担

7. 空間の認識と先取り
8. 動きの認識と先取り
9. 集団技術の基礎 (2 on 1, 2 on 2)
10. 集団技術の応用と実践 (3 on 2, 3 on 3)
11. ゲームの運営と規則
12. 戦術行動の基礎と応用
13. 技術の指導法
14. ゲームの実践
15. まとめ

●評価方法

知識、技術の習得状況ならびに出席状況等により、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ(体育館専用)の着用が必要となる。アクセサリ(ネックレス、ピアス、指輪等)を装着しての受講は原則として認めない。自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を歓迎する。

●教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 07]

掲載番号 287	科目名	ジョギング・マラソン 1	単位数	1	担当教員	岡崎 和伸 (健スポ)
	英語表記	Jogging Marathon 1				

●科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりとした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195km(フルマラソン)を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギング未経験者や初心者が、ジョギングに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてジョギングやマラソンを楽しむことが出来る下地を養う。

●授業の到達目標

“ゆっくり走る”ジョギングの楽しさ、爽快感を体験し、自分にあったジョギングフォームやペース感覚を身につけること、マラソン出走と完走を目指した科学的なトレーニング方法を体験することを目標とする。また、身体運動やスポーツによる健康増進効果についても学習し、生涯にわたって身体運動やスポーツに積極的に取り組み、健康的な生活を送る習慣を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ウォーキングから“ゆっくり走る”ジョギング、マラソンレースペースでのジョギングに段階的に移

行する。ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて無理なく増加していく。ウォーキング、ジョギングをもとにしたリクリエーションなども実施し、仲間とのコミュニケーションを深める。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、
2. ジョギング体験、
3. 簡易持久力評価テスト、各自の目標設定、
4. ジョギングフォーム、各種ドリル、
5. “ゆっくり走る”ジョギング①、
6. “ゆっくり走る”ジョギング②、
7. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、
8. 補強運動、ウエイトトレーニング、
9. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）、
10. ファルトレイクラン、
- 11.

- マラソン完走のためのスポーツ科学講義（雨天時）、
12. ジョギングマップ作成、
13. ロングスローディスタンス（LSD）、
14. 簡易持久力評価テスト、自己評価

●**評価方法**

課題への取り組み、課題レポート内容から評価する。

●**受講生へのコメント**

受講に際して、ジョギングやマラソンの経験の有無、走能力の優劣は問わない。

●**教材**

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 08]

掲載番号 288	科目名	ジョギング・マラソン 2	単位数	1	担当教員	岡崎 和伸（健スポ）
	英語表記	Jogging Marathon 2				

●**科目の主題**

“ジョギング”とは、ゆっくりした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195 km（フルマラソン）を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギングやマラソン経験者が、フルマラソンや半分の距離を走るハーフマラソンの完走や目標記録の達成のためのトレーニングを実践し、それらを通してジョギングやマラソンの楽しみ方を学ぶ。

●**授業の到達目標**

持久力評価テスト結果から自己の走能力を把握し、それを参考にして目標を設定すること、また、目標達成のための練習・レース計画の立案方法、練習日誌の作成方法、科学的なトレーニング方法、ペース配分などの戦略、さらに、パフォーマンス向上のためのスポーツ科学的な知識を習得することを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

【授業内容】

ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて段階的に増加していく。授業初期に実施する各種測定結果などに基づき、各自の目標や練習・レース計画を立案する。授業で実施するトレーニングに加えて、日々の練習状況を練習日誌に記録し、

毎回それを提出する。練習日誌は、担当者のコメントと共に次回の授業時に返却する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、“ゆっくり走る”ジョギング、
2. 持久力評価テスト、各自の目標設定、練習・レース計画の立案、
3. ピッチとストライドの計測、速く走るためのフォーム、各種ドリル、
4. 無酸素性作業閾値（AT）の計測、マラソンペースの設定、
5. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、
6. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）①、
7. ファルトレイクラン、
8. 補強運動、ウエイトトレーニング、
9. ロングスローディスタンス（LSD）①、
10. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）②、
11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義（雨天時）、
12. インターバル走、
13. ロングスローディスタンス（LSD）②、
14. 持久力評価テスト、自己評価

●**評価方法**

課題への取り組み、課題レポート内容から評価する。

●**受講生へのコメント**

ジョギング・マラソン1の受講者、あるいは、ジョギングやマラソンの経験者を対象とするが、走能力の優劣は問わない。

●**教材**

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 05]

掲載番号	科目名	サッカー 1	単位数	1	担当教員	今井 大喜 (健スポ)
289	英語表記	Association Football 1				

●科目の主題

サッカーは、世界的にポピュラーであり、我々にとって身近なスポーツである。また、11人でおこなうチームスポーツである為、プレー中には仲間と数多くのコミュニケーション要し、個人の社会性を養える。さらに、広いグラウンドでプレーすることは、我々に心地良い爽快感を提供するであろう。本科目では、サッカーの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

サッカーの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、サッカーを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフense・ディフェンス別の集団技術を習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講

じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明、キック、トラップ、3. パス、ヘディング、ドリブル、4. オフェンス練習 (シュート練習含む)、5. ディフェンス練習 (キーパー練習含む)、6. セットプレー、7. 審判法、ミニゲーム、8. ゲーム①、9. ゲーム②、10. チーム毎の課題別練習、11～15. ゲーム

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。また視聴覚教材を使用する場合がある。

[科目ナンバー : GE SPO 01 23]

掲載番号	科目名	フットサル 1	単位数	1	担当教員	今井 大喜 (健スポ)
290	英語表記	Futsal 1				

●科目の主題

フットサルは、室内で行う5人制のミニサッカーであり、近年日本においても盛んに行われている。また、サッカーに比べてピッチが小さい為に、ボールに触れる回数や得点シーンの多いスポーツである。したがって、得点の喜びを味わうチャンスが、初心者にも多数あることは、フットサルの大きな魅力といえよう。本科目では、フットサルの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

フットサルの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、フットサルを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

フットサル特有のボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オ

フェンス・ディフェンス別の集団技術を習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明、キック、トラップ、3. パス、応用テクニック、4. オフェンス練習 (シュート練習含む)、5. ディフェンス練習 (キーパー練習含む)、6. 簡単なシミュレーション、7. 審判法、8. ゲーム①、9. ゲーム②、10. チーム毎の課題別練習、11～15. ゲーム

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基本的な技能の獲得から進めるので、経験の有無や

能力の優劣は問わない。

する。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

掲載番号	科目名	ソフトボール 1	単位数	1	担当教員	今井 大喜 (健スポ)
291	英語表記	Softball 1				

●科目の主題

ソフトボールは、野球に比して老若男女行える生涯スポーツとして、社会で広く認識されている。ダイナミックなウィンドミル投法により投球されるボールを、瞬時に判断して打ち返す喜びは、ソフトボールが生涯スポーツとして発展している魅力の一つであろう。本科目では、ソフトボールの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

ソフトボールの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、ソフトボールを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる、捕る、打つ、といった基礎的な個人技術を習得した後、ポジション別の守備技術や連係プレーを習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チーム

の勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明 キャッチボール、ゴロ捕球、3. ピッチング (ウィンドミル投法)、4. バッティング、5. ティーバッティング、6. ポジション別守備練習、7. 審判法、8. ゲーム① (スローピッチ)、9. ゲーム② (ファーストピッチ)、10. チーム毎の課題別練習、11～15. ゲーム

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム別の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 11]

掲載番号	科目名	タグラグビー 1	単位数	1	担当教員	鈴木 雄太 (健スポ)
292	英語表記	Tag Rugby 1				

●科目の主題

タグラグビーは、ラグビーで危険度の高いタックルをタグに置き換え、ルールを単純化したことで、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽にできるスポーツである。タグラグビーでは、チームメイトと協力してオフェンスやディフェンスを行うため、チームメイトとのコミュニケーションや役割分担が重要となる。本科目では、タグラグビーの基本技能を習得するとともに、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ態度を養う。

●授業の到達目標

タグラグビーのルールや特性を理解し、基本技能を習得することに加えて、組織的なオフェンスとディフェンスの方法を理解することを目標とする。また、

チームでの課題解決や安全管理、ゲームの運営についても学習することで、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を築くことを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ルールの理解やハンドリング、タグなどの基本技能の習得を図り、その後オフェンスとディフェンスの戦術や戦略の習得を目指す。そして、チーム毎に設定した課題を協力して解決していくとともに、安全に留意してゲームを運営する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、安全管理、ルールと用具の説明、2. タグとタグ取り

ゲーム、3. パスとキャッチ、4. ランニングプレー（ステップ、スワープ）、5. オフェンスの戦術と戦略、6. ディフェンスの戦術と戦略、7. オフェンスとディフェンスの実践（2対1、3対2）、8. サインプレーとゲーム、9. チーム毎の課題設定とゲーム運営方法、10～15. チーム毎の課題練習とゲーム運営

●評価方法

授業への取り組み、知識や技能の習得状況などから

総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、基本技能の獲得やルールの理解から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

掲載番号	科目名	ソフトボール 1	単位数	1	担当教員	鈴木 雄太 (健スポ)
293	英語表記	Softball 1				

●科目の主題

ソフトボールは野球に比べ、ボールが大きく、安全性が高いことから、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽のできるスポーツの1つである。ソフトボールには、ファーストピッチとスローピッチがあるが、特に後者はレクリエーションとして世界中で楽しまれている。本科目では、ファーストピッチとスローピッチ両方の実践を通して、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ態度を養う。

●授業の到達目標

ソフトボールのルールや特性を理解し、基本技能を習得することに加えて、ソフトボールの各ポジションの役割や連係プレーを理解することを目標とする。また、チームでの課題解決や安全管理、ゲームの運営についても学習することで、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

前半は、ルールの説明や捕る、投げる、打つといった基本技能の習得を図り、その後ポジション毎の役割や連係プレーの習得を目指す。そして、チーム毎に設定した課題を協力して解決していくとともに、

安全に留意してゲームを運営する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、安全管理、施設と用具の説明、2. ルールの説明とキャッチボール、3. ゴロ、フライの捕球とスローイング、4. 各ポジションの役割とノック、5. ピッチング、6. 素振りとティーバッティング、7. カーバリング、中継プレーとゲーム（スローピッチ）、8. 審判法とゲーム（スローピッチ）、9. チーム毎の課題設定とゲーム運営方法、10～15. チーム毎の課題練習とゲーム（ファーストピッチ）の運営

●評価方法

授業への取り組み、知識や技能の習得状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、基本技能の習得やルールの理解から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 19]

掲載番号	科目名	バレーボール 1	単位数	1	担当教員	中嶋 紀子 (非常勤)
294	英語表記	Volleyball 1				

●科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めると共に、自主性・協調性・積極性を育てる。

●授業の到達目標

基本技術の習得とゲーム展開に必要なフォーメーション・各ポジションの動きを理解し、ゲームにて実践できるようになること目標とする。

●授業内容・授業計画

1. バレーボールの競技中や準備段階の際に起きる障害例とその予防について説明。
基本技術の習得
オーバーハンドパス（ボールハンドリング・一人パス・対人パス）
2. 基本技術の習得
オーバーハンドパス（ジャンプパス・ロングパス・バックパス・移動パス）
3. 基本技術の習得
アンダーパス（片手パス・組み手パス・対人パス）
4. 基本技術の習得
アンダーパス（移動パス・対人レシーブ）
5. 基本技術の習得
スパイク（助走・ステップ・腕の振り）
6. 基本技術の習得
サーブ（サーブの種類と打ち方）・サーブカットの練習
7. 応用技術習得

チャンスボールからの連携・サーブカットからの連携

8. 応用技術の習得
フォーメーション・各ポジションの動きの説明と実践。
9. 応用技術の習得と実践
6人制バレーボールの特徴とルールの説明
ゲーム練習
- 10～15. 応用技術の習得
ゲームの実践

●評価方法

出席状況・協調性・積極性等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

真摯な態度で授業に参加すること。

授業前の準備及び後片づけなど人任せにせず、積極的に行うこと。

●教材

体育館シューズ・体操服を用意する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 20]

掲載番号	科目名	バレーボール 2	単位数	1	担当教員	中嶋 紀子（非常勤）
295	英語表記	Volleyball 2				

●科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めると共に自主性・協調性・積極性を育てる。

●授業の到達目標

ゲーム展開に必要な基本技術を習得すると共に、バレーボールのフォーメーションを理解し、ポジションの固定、更にはコンビバレーを取り入れたゲーム展開を図る。

●授業内容・授業計画

- 1～4. 基本技術の確認
パス（オーバーハンドパス・アンダーパス）
レシーブ（スパイク・サーブレシーブ）
スパイク（オープン・平行・クイック）
ブロック
- 5～6. 連携練習
パス→トス→スパイク→ブロックカバー
サーブカット→トス→スパイク→ブロック
スパイクレシーブ→トス→スパイク→ブロック

7～10. 総合技術の練習

フォーメーションの確認から攻防の実践練習

チャンスボール・サーブレシーブからの乱打練習

11～15. ゲームの実践

●評価方法

出席状況・協調性・積極性等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

この授業はバレーボール経験者かバレーボール1を受講した学生を対象とした授業であるが、受講生が少ない等の諸事情が生じた場合は未経験者の受講も認めるとする。

真摯な態度で授業に参加すること。

授業前の準備及び後片付け等人任せにせず積極的に行うこと。

●教材

体育館シューズ・体操服を用意すること。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

掲載番号	科目名	ソフトボール 1	単位数	1	担当教員	加藤 由香 (非常勤)
296	英語表記	Softball 1				

●科目の主題

ソフトボールはアメリカ発祥のスポーツで、日本には大正時代に紹介された。ソフトボールにはファーストピッチとスローピッチがある。その他に平成 24 年度から文部科学省・学習指導要領の改訂に伴い、小学生高学年から中学校の球技にベースボール型としてソフトボールが加わり「学校体育ソフトボール」が導入される。本実習では、ファーストピッチとスローピッチの基本からゲームまでと併せて、将来の学校現場での指導者を想定して、学校体育ソフトボールを紹介する。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などを養う。

●授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。

同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、ゲームで活用できるようにする。

目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について

合理的な体の使い方の観点から説明し習得させる。基本的な個人技術習得後は、ゲームに必要な応用技術を習得する。次に、チーム編成を行い、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】

- ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本練習
- キャッチボール、ゴロ捕球・フライ捕球
- 守備練習
- ウインドミルピッチング
- バッティング、バント
- グループ別バッティング・守備練習
- 審判法、ルール
- 8～10. ゲーム
11. チーム再編成、チーム別練習
- 12～15. ゲーム

●評価方法

出席状況、履修態度（積極性・協調性）、技能習得度、チーム別の課題解決策および目標達成度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基本的な技術獲得から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 10]

掲載番号	科目名	ソフトボール 2	単位数	1	担当教員	加藤 由香 (非常勤)
297	英語表記	Softball 2				

●科目の主題

ソフトボール 2 では、ソフトボール、野球経験者およびソフトボール 1 受講者を対象に、使用球もゴムボールから革ボールにグレードアップして、ソフトボール 1 で習得した基礎的な内容に加え、ソフトボールの醍醐味であるファーストピッチソフトボールにおける守備や攻撃それぞれの組織プレー、サインプレーを習得して、本格的なゲームまで行えるようにする。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などを養う。

●授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。

同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、オフィシャルルールに則ってゲームを円滑に行う。

目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

● 授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について合理的な体の使い方の観点から説明し基本技術の確認をする。基本的な個人技術確認後は、ゲームに必要となる応用技術を習得する。守備においてはランナーを想定した守備フォーメーションの習得、攻撃においては得点を取るための打撃、走塁などの攻撃方法を習得する。次に、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】

- ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本確認
- キャッチ

- チボール、守備練習
3. ウインドミルピッチング
4. バッティング、バント
5. フリーバッティング
6. 走塁、ヒットエンドラン、スクイズ、審判法、ルール
7. グループ別攻守練習
- 8～10. ゲーム
11. チーム再編成、チーム別練習
- 12～15. ゲーム

● 評価方法

出席状況、履修態度（積極性・協調性）、技能習得度、チーム別の課題解決策および目標達成度などから総合的に評価する。

● 受講生へのコメント

野球、ソフトボール経験者向けのソフトボール上級コース。

● 教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 03]

掲載番号	科目名	ゴルフ 1	単位数	1	担当教員	上野 聖志（非常勤）
298	英語表記	Golf 1				

● 科目の主題

長い歴史を持つゴルフは2016年のリオデジャネイロオリンピックで正式種目に返り咲いた事からも、今また新たに注目されているスポーツである。ゴルフ競技では精神面が強く求められると同時に、老若男女を問わずコミュニケーションを図ることが求められることから、その実践は社会における自己のコントロール能を高め、生涯にわたる自己形成に寄与する。

本実習では、ゴルフの実践を通して、技術的な向上といった側面だけでなく、生涯スポーツに関する総合的な素養を含めた全人的能力の向上を目的とする。

● 授業の到達目標

ゴルフの構成要素としては、身体の軸や体幹を意識した「運動性」、静止しているボールに対してゴルフクラブを扱いスイングを行う「技術性」、静から動を作り出すために必要な集中力やメンタルコントロールといった「精神性」、プレーの失敗後や成功後の「自己感情への対応」、そしてゴルフ競技で重んじられるルール・マナー・エチケットといった「社交性」の5要素があげられる。

本実習においては、以上にあげられる5要素の総合的な向上を目標とする。

● 授業内容・授業計画

- 競技特性と安全、ルール、マナー、道具について
- ストレッチとバッティング、距離感について
- アプローチの基本、ハンドファーストインパクトについて
- グリップ、アドレス、クラブヘッドの振り方

- 飛ばす技術、飛ばさない技術の違い、飛ばす技術のインパクトを感じる
6. コック・リコックをL字スイングで学ぶ
7. 軸をイメージした身体の動かし方、スイング軌道を作る
8. 腕の振り、胴体部分の同調した動き
9. 7番アイアンを使ったフルスイングの技術
10. ドライバー（ウッド）とアイアンショットの違い
11. 飛距離アップの為に身体とクラブの使い方
12. 様々なクラブでのフルスイング
- 13～14. 様々なクラブ、様々な技術でのポイントゲーム
15. 知識の復習と総括

● 評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況等により総合的に評価する。

● 受講生へのコメント

ゴルフは年代をつなぐスポーツでもある。将来の為に取り組むという方も歓迎したい。

一方で、長く硬い道具や、大きな力が加わるボールは扱い方を間違えると凶器にも成り得る。安全面など他者に対する配慮を含め、実習へのまじめな取り組みができない受講生は、本実習での活動を認めない場合がある。

実習内容は基本的な技術から進めるので、履修に際してゴルフ経験の有無は問わない。

受講に際しては、スポーツウェアおよび室内専用のスポーツシューズ（ゴルフシューズ不可）、ならびに

防滑用ゴルフグローブの着用が必要となる。グローブの仕様等についての詳細は授業時に説明する。

●教材

必要に応じて資料（文献、動画）などの紹介を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 25]

掲載番号	科目名	武道 1	単位数	1	担当教員	木下 勇 (非常勤)
299	英語表記					

●科目の主題

本科目は武道に原点をおいた空手道を行う。現在に於ける武道とはなんなのだろうか？ この問いに対して、武道としての空手を通じ、自身を理解し、他者を認めていく。実際には護身術としての空手を、初めて空手に接する人を前提に行う。流派として、糸東流空手道を実践する事により、この中に含まれている武道の心を学ぶ。

●授業の到達目標

現代において、暴力を用いた争いがあるてはならない。本空手道は、争いを未然に防ぎ、これを回避するために、真摯な姿勢で武道に取り組むことにより、文武両道の粋を極める事を目的とする。そのために、初心から、空手の基本である突き、蹴り、そして防御を修練し、古武道である空手道の珠玉である、型を鍛錬する。

●授業内容・授業計画

1. 礼に始まり礼に終わること。
2. 基本の突き、基本の受け。
3. 突きと受けの連続技。
4. 移動しての突きが空手の基本であること。

5. 移動しての突きと受け。
6. 基本の蹴り、蹴りと受け。
7. 基本の型、連続的な身のこなしと型の演武
8. 基本の型の修練。
9. 基本の型を用いた約束一本組み手。
10. 平安（ピーアン）2段の型。
11. 平安2段の型の修練。
12. 平安2段の型の分解その1。
13. 平安2段の型の分解その2。
14. 先取り自由一本組み手への展開。
15. 型と実践の解説。

●評価方法

基本の型を中心に型の理解、武道としての空手道を実技により問う。

●受講生へのコメント

経験の有・無、性別は問わない。健康維持・増進、体のシェイプアップが可能である。徒手空拳での身の処し方を武道の観点より例示する。

●教材

空手道衣の購入を基本とする。

[科目ナンバー : GE SPO 01 26]

掲載番号	科目名	武道 2	単位数	1	担当教員	木下 勇 (非常勤)
300	英語表記					

●科目の主題

本科目は武道に原点をおいた空手道を行う。現在に於ける武道とはなんなのだろうか？ 武技を修練して心身を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う。武道とは社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。

●授業の到達目標

武道2は、徒手空拳の空手道を通じ日常に潜む危険に対して慌てず対応する心を養う。危険を察知し、これに先取りする形で対応するのが理想である。武の道に生きるのは『先手必勝』なのか？ それとも『後の先』と言われる護身術なのか？ 現代社会では答えのな

い難しい問題である。これに対して自分なりに答えを出していく事こそこの科目の到達目標である。

●授業内容・授業計画

1. 礼に始まり礼に終わること。
- 2～5. 突き、蹴りの実際と防御
身に付いた動きとしての攻撃と防御を目標とする。
正確な突き、蹴り そして的確な防御が必要な事
- 3～10. 基本の型と鍛錬形
きわめて単純な型といわれる鍛錬形を解説し実践する

11～15. 型の応用としての実践

実践の中に型の動きを導入するのは困難である。しかし繰り返しこれを行う事で実践に使えるようになる事を目標とする。

●評価方法

武道としての空手道を実技により問う。個人の強弱ではなく技の精緻さ、相手を敬う心、護身術としての心構えを問う。

●受講生へのコメント

①武道2履修者は無条件に受け入れる。 ②武道の

心構えを学びたい者については、経験の有・無、性別は問わない。健康維持・増進、体のシェープアップが可能である。心身の安定やストレスの解消にも効果がある。徒手空拳での身の処し方を武道の観点より例示する。

●教材

空手道衣の購入を基本とする。(その他類似した武道の着衣でも可能)

[科目ナンバー : GE SPO 01 15]

掲載番号 301	科目名	テニス 1	単位数	1	担当教員	松原 慶子 (非常勤)
	英語表記	Tennis 1				

●科目の主題

テニスは、ラケットを使いネットを介しボールを打ち合うスポーツである。基礎技術の習得はもちろんのこと、ゲームの楽しみ方を知り、テニスの特性を理解する。

●授業の到達目標

本授業で、テニスの知識を深め基礎技術の習得そしてゲーム展開ができるようになる。

●授業内容・授業計画

テニスは、老若男女を問わず生涯スポーツとして人気のある種目である。本授業では、初心者を対象とし、どのようにラケットを操作すれば身体に負担が少なく効率的に打球できるかを導きながらテニスの基礎技術の習得、ルールやマナー、審判法の理解とともにゲームの楽しみ方を知る。

【授業計画】

1. オリエンテーション “テニスとは”
2. ラケットティング、グリップと打点の考え方、ショートラリー
3. グラウンドストローク (フォアハンド・バックハンド)
4. サーブの導入、フットワーク、ボディーワーク、

ラリー

5. パワーの伝達について、サーブ&リターン、ラリー
6. ゲームについて (ルールおよび進行・審判法)
7. ネットプレー
8. ダブルスのフォーメーション
9. ダブルスの戦術
10. シングルの戦術
- 11～15. リーグ戦、トーナメント等ゲームをベースに

*天候により順を変更する場合がある。

●評価方法

出席状況、履修態度、技能から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実習では、スポーツウエア、テニスシューズを用意すること。日頃から、体調管理には気をつけること。テニスは個人種目であるが、練習やゲームを通して他の学生への配慮とともにコミュニケーション能力の向上にも役立たせてほしい。

●教材

必要に応じ資料配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 16]

掲載番号 302	科目名	テニス 2	単位数	1	担当教員	松原 慶子 (非常勤)
	英語表記	Tennis 2				

●科目の主題

テニスは、上達するにつれ奥深さを知るスポーツでもある。ゲームでのあらゆる状況において、個人の能

力が遺憾なく発揮されること、またその駆け引きの中でメンタル面からポイント獲得に影響を与えることも少なくない。技術、戦術、メンタル、体力とテニスの

魅力を知る。

●授業の到達目標

テニスの技術、メンタル、体力面での向上を図り各自のゲームの質を向上させる。

●授業内容・授業計画

本授業では、テニス熟練者および経験者（テニス1履修済の者も含む）を対象とし、より実践的な内容を展開する。効率のよい動作、そして動作の正確性を高めより高度なテクニックの習得とゲームに関連させた実践的な練習を取り入れゲームレベルの向上を図る。また、テニス技術の向上にはコーディネーション能力の必要性も理解する。雨天の場合は、映像を活用しトップレベルのテニスの現状やテニスの科学についても理解を深める。

【授業計画】

1. オリエンテーション“テニスの特性”
2. 各ストロークについて

3. 応用技術、ラリー練習
 4. 効率のよい打ち方とは
 5. スキル上達のためのヒント、簡易ゲーム
 6. 各技術の自己評価と矯正法
 7. 5つのゲームの状況
 8. テニスに必要な体力
 9. シングルの戦術
 10. ダブルスの戦術
 - 11～15. リーグ戦、トーナメント等
- *天候により順は変更する場合がある。

●評価方法

出席状況、履修態度、技能から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実習では、スポーツウエア、テニスシューズ、を用意する。日頃から体調管理には気をつけ受講のこと。

●教材

必要に応じ資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 13]

掲載番号	科目名	ダンス 1	単位数	1	担当教員	加藤 真由子 (非常勤)
303	英語表記	Dance 1				

●科目の主題

ダンスの発生や歴史的発展など理解し、以下の内容を通して、自ら創り踊り発表することができるようになることを目標とする。1. ウォーミングアップ：からだほぐしと身体意識の覚醒 2. 新しい動きの探求：日常的な動きからダンス的な動きへの発展 3. イメージから動きの創造：即興や創作を通して新しい動きへの挑戦 4. 作品構成：クラスやグループによる創作 5. クラス内発表

●授業の到達目標

ダンスのスキル習得獲得だけを目標とするのではなく、他者との身体を介したコミュニケーションをはかりながらソーシャルスキルにも着目し、自らの心身への気づきと学習の場となることも目標とする。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション（授業内容や最終目標について）
2. ウォーミングアップ（リズムカルな動きでからだほぐし）
3. 移動運動のいろいろ（歩く、走るなどの空間運動）
4. 個の運動のいろいろ（曲げる、

伸ばす、縮めるなど）

5. 創作その1（移動運動と個の運動）
6. ミラーリングとシェイプ
7. 創作その2（ミラーリングとシェイプ）
8. 即興と模倣（遊びからダンスへ）
9. 創作その3（物を用いた即興）
10. いろいろなダンス（フォークダンスや現代的なリズムのダンス）
- 11～12. 作品構成
13. クラス内発表と観賞（VTR撮影）
14. VTR観賞と相互評価、自己評価
15. まとめ

●評価方法

実技のため、出席を重視する。また、受講態度、レポートの状況などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

「できる・できない」ではなく、「やってみる」という受講態度を重視します。上手に踊ることよりも、ダンスを通じた受講者同士のコミュニケーションを楽しみましょう。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 21]

掲載番号	科目名	バドミントン 1	単位数	1	担当教員	正岡 毅 (非常勤)
304	英語表記	Badminton 1				

●科目の主題

バドミントンは、屋外で楽しめるレクリエーションの性格を持つ一方で、競技としては、球速が世界最速（スマッシュ・421km）から最低（ヘアピン・ほぼ0km）の変化に富んだショットでラリーを行う非常に激しいスポーツである。6.1m x 6.7mのコート内を、高さ約1.5mのネットを挟んで戦うため、ラリーのテンポが速く、短時間に速く長く動く必要があり、瞬発力と持久力の両方が求められる。また、対人競技であるため、戦術の巧みさや精神力の強さも試合結果に大きな影響を与える。生涯スポーツとしてのバドミントンは、天候に左右されず、少人数で行えて、運動量が多く、手軽に楽しめることから、QOLの向上に寄与する魅力的な競技だと言える。

本科目では、受講者がバドミントン競技の基礎を学び、ラケットワーク・フットワーク及び各ショットの基本を習得することで、生涯スポーツとしてバドミントンに親しめる素地を養う。

●授業の到達目標

バドミントン独特の動作、シャトルの飛行感覚に慣れ、基本技術を習得し、コート内でスムーズに動きながら、様々な種類のショットを使い、狙った位置にシャトルをコントロールできるようになることを目標とする。バドミントンのルール、マナー、審判、ゲームの進行方法を学び、楽しみながらバドミントンのシングルス・ダブルスができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

初期はグリップ、スイング、フットワーク等の基礎を学び、ラリーを続けるために不可欠な技術を身に付ける。中期は半面シングルスゲームを通して、動きながら各種ショットを力強く、より正確なコン

トロールで打てる態勢を整えられるよう、ストロークとフットワークを融合させた動きを習得する。後期はゲーム中心として、ラリーの中での動き、スイング、ショットの打ち分け、レシーブ等、相手のショットに適切に対応できるように、実戦形式を数多く体験する。

【授業計画】

1 ウォーミングアップとクールダウン、基本姿勢、グリップ、スイング、シャトルの跳ね上げ、近距離での打ち合い（ネットなし）、2～3 基本ストロークの素振り、フットワーク（前後左右）、サイドハンド（フォア・バック）ドライブ、サービス（ロング、ショート）、ヘアピン、近距離での打ち合い（ネット越し）、4～5 オーバーヘッドストローク（スマッシュ、クリヤー、ドロップ）アンダーハンドストローク（ロビング）、半面シングルス、6～7 アンダーハンドストローク（ロビング）半面シングルス、8～9 プッシュ、レシーブ、レシーブ～ロビング、半面シングルス（勝ち残り）、10～11 ルール、審判、シングルス戦術、シングルスゲーム（リーグ戦）、12～13 ダブルスの基本（ルール、戦術、動き）、14～15 ダブルスゲーム（リーグ戦）

●評価方法

出席状況、履修態度、技能習得度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

体育館シューズ（バドミントン用が望ましい）、運動できる服装を準備の上受講すること。

競技経験の有無は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書・教材を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 27]

掲載番号	科目名	体力トレーニング科学実験実習 1	単位数	1	担当教員	岡崎 和伸 (健スポ)
305	英語表記	Experimental Education for Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1				

●科目の主題

自身の‘体力’の測定・評価を体験することで、体力についての理解を深め、さらに、競技スポーツや運

動における体力の役割、あるいは、我々の日常生活や健康と体力の関わり合いについての理解を深める科目である。また、実際に体力トレーニングを実施し、自

身の体力の変化を体験する。本科目は、講義「体力トレーニング科学」の内容を踏まえて展開する。

●**授業の到達目標**

自身を測定対象として、体力の測定、さらに、実生活で経験する、運動、環境、食生活などが体力に及ぼす影響の測定・解析を行い、それらから自己を客観的に評価出来ることを目標とする。また、体力トレーニングのノウハウを習得し、運動やスポーツを楽しむ(する・見る)ための基礎と、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するための習慣を養うことを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

【授業内容】

数題の実習テーマを設け、そのテーマごとに目的および内容の詳説、実験準備、実施、データ解析を行い、ショートレポートを作成する。最終的に、グループごとに自由課題に取り組み、グループディスカッションおよび研究成果の発表を実施する。また、それに関する個人レポートを作成する。

【授業計画】

1～3. 体力の計測・評価、4～5. 生活・運動習慣の計測・評価、6～7. 循環器系トレーニングの実際、8～9. 骨格筋系トレーニングの実際、10～13. グループ自由課題の計画・実施、14. データディスカッションと研究成果発表、15. まとめ

●**評価方法**

研究発表、レポート内容、および、課題提出状況から評価する。

●**受講生へのコメント**

本実習は、「体力トレーニング科学」を受講した学生が履修することが望ましい。本実習を通して、講義内容がさらに深く理解できます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

●**教材**

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 29]

掲載番号	科目名	健康運動科学実験実習 1	単位数	1	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
306	英語表記	Experimental Education for HESS 1				

●**科目の主題**

日本の社会において、運動やスポーツのもたらす効用の重要性が認識され、「幸福で豊かな生活を営む」ことを実現するため「健康」への関心はますます高まっている。

運動は、人間が健康に生きていくために欠かすことのできない要素(栄養、運動、休養)の一つである。人間の体の仕組みや体力の構成要素を知り、運動を発現したり持続する生体の適応機序について理解し、健康を維持・増進する運動について教授する。

●**授業の到達目標**

本実験実習では、自身の身体を対象として、身体組成、運動の発現(筋力・スピード・パワー)や運動の持続(筋持久力・全身持久力)について測定・分析する方法と評価について学ぶ。実習を通して、自身の身体を客観的に見つめ直し、種々体力要素の測定・評価および運動やスポーツ動作の仕組みを科学的に理解し、今後の健康づくりの実践に応用することを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- ・ガイダンス (1)
- ・自身の身体を知る(形態)(2～4)

形態と身体組成(体脂肪および四肢筋量)測定の意義と方法および測定原理を理解し、自分のか

らだを客観的に知る。

- ・運動を発現する体力(機能)を知る(5～9)
様々な測定機器を利用し、筋力(上肢・下肢)、スピード(各種反応時間等)およびパワー(脚伸展パワー、自転車駆動および垂直跳におけるパワー)の測定を行いその測定原理を理解し、それらの機能を高める方法を学ぶ。
- ・運動を持続する体力(機能)を知る(10～14)
局所の筋持久力および全身持久力について、姿勢変化や運動時の心拍数、血圧の変化および運動強度の変化に伴う呼吸循環応答と酸素摂取量の動態などから、それらの調節機序について理解し、健康づくりに必要な運動とその実践の方法について学ぶ。
- ・統括とレポートの作成(15)

●**評価方法**

レポート、受講状況により評価する。

●**受講生へのコメント**

自分自身の体を客観的に見つめ直す機会となります。積極的に参加し、運動に関する科学的な理解を楽しく深めて、目的に応じた運動の実践につなげましょう。

●**教材**

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 29]

掲載番号	科目名	健康運動科学実験実習 1	単位数	1	担当教員	横山 久代 (健スポ)
307	英語表記	Experimental Education for HESS 1				

●科目の主題

健康は「単に病気でない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的そして社会的に完全に良好な状態」(WHO)と定義されており、さまざまな生体のしくみを理解することなく健康を評価、具現化することは難しい。生理学は人の身体の働き(機能)とそのメカニズムを扱う学問であり、医学分野の基礎となっていることは言うまでもないが、その研究成果は栄養やスポーツ現場で広く応用され、我々の健康づくりに貢献している。「健康」やそれを支える基盤としての「体力」を構成する生体諸機能と、運動によりこれらに生じる変化について、実験を通じて自ら体験することにより理解を深め、健康的な日常生活の実践力を養うことを本実習の目的とする。

●授業の到達目標

- ・実習を通じて、生体の仕組みや運動することによって生じる身体機能の変化を体験し、考察できる。
- ・健康増進につながる運動の効果について説明でき、自ら実践できる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス (この実習全体の目標)
2. 血圧、心拍数の測定①
3. 血圧、心拍数の測定②
4. 心電図

5. 呼吸機能の評価
6. 血糖値の測定
7. 骨塩定量
8. コンディショニング
9. 救命処置の実際
10. 身体計測
11. 健康関連体力測定
12. 運動負荷試験① 実施
13. 運動負荷試験② データ解析、運動処方作成
14. 運動負荷試験③ グループごとの発表
15. まとめ

●評価方法

- 出席状況 (50%)
- レポート課題 (50%)

●受講生へのコメント

実習に関しては高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できるように、また臨床医としての経験をふまえた結果の考察、解説を行うため、生体のしくみや健康に関心はあるがこれまでに学習、実践の経験がなかった学生も不安なく受講できる。

●教材

- 特定の教科書は使用しない。
- 必要に応じて参考資料などを配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 31]

掲載番号	科目名	健康管理 1	単位数	1	担当教員	横山 久代 (健スポ)
308	英語表記	Health Promotion Program for The People with Physical Disability 1				

●科目の主題

従来の体力測定では、筋力や瞬発力、持久力といった要素が主たる評価項目とされてきた。それはこれらの要素が比較的測定、数値化しやすいからである。しかし、例えば変形性膝関節症を患った高齢者が楽しく毎日を送るには、何cm前屈ができるか、ということよりも、ひとりで身の回りのことができ、趣味のガーデニングに勤しめる、といったことのほうが重要である。すなわち、調整力、巧緻性、防衛体力(抵抗力)など数値化が難しい項目が実際には体力の本質をなす。何らかの身体的障害があったり、年齢を重ねたり

しても、豊かな日常生活を送れること(生きがい、身体能力、精神機能を保ち、疾病を予防できること)に重きをおいて、体力諸要素の状態を高めるべきである。

一方で、人々がスポーツをする目的は「健康増進」、「ストレス解消」、「仲間との交流」などさまざまであり、いうまでもなく、身体的能力に優れた一部のアスリートのみがその効果や楽しさを享受するものではない。身体的理由から、けがや疾病の悪化を懸念してスポーツに参加することを躊躇する場合でも、自身の身体特性を理解し、適切な運動種目、強度を選択することによりスポーツを始め、生涯にわたり実践することが可

能である。

本実習では、肢体不自由や内部障害などの医学的理由により健常人と同様の運動に参加困難な学生が、各々の「体力」と「目的」に応じた運動、スポーツを継続して取り入れるための方法を理解し、実践する能力を養う。

●授業の到達目標

- ・身体計測や体力測定により自身の身体特性について把握する
- ・日常生活動作の向上や健康増進につながるストレッチ、運動の効果について説明でき、実践方法を身につけ、自ら実践できる

●授業内容・授業計画

1. 総論（この実習全体の目標、ガイダンス）、問診
2. 血圧、心拍数の測定
3. 心電図
4. 呼吸数、呼吸機能の測定
5. 血糖値と運動
6. 身体計測
7. 体力測定 1

8. 体力測定 2

9. ストレッチ 1

10. ストレッチ 2

11. ストレッチ 3

12. 軽スポーツ 1

13. 軽スポーツ 2

14. 軽スポーツ 3

15. まとめ

●評価方法

出席状況、履修態度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

担当教員はスポーツドクターとしての競技大会での実務や、主として生活習慣病を対象とした運動処方の実績を重ねており、スポーツに関心はあるが安全面に不安を有する学生や、これまでに実践の経験がない学生でも安心して受講できる。

●教材

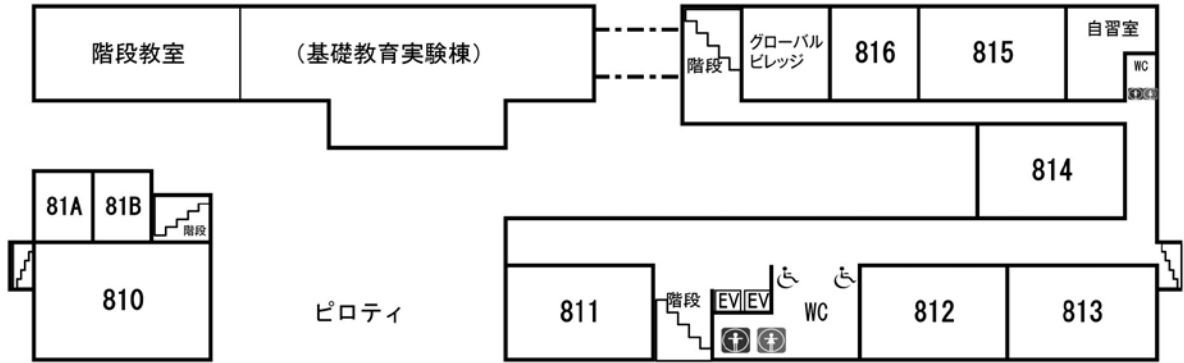
特定の教科書は使用しない。

必要に応じて参考資料などを配布する。

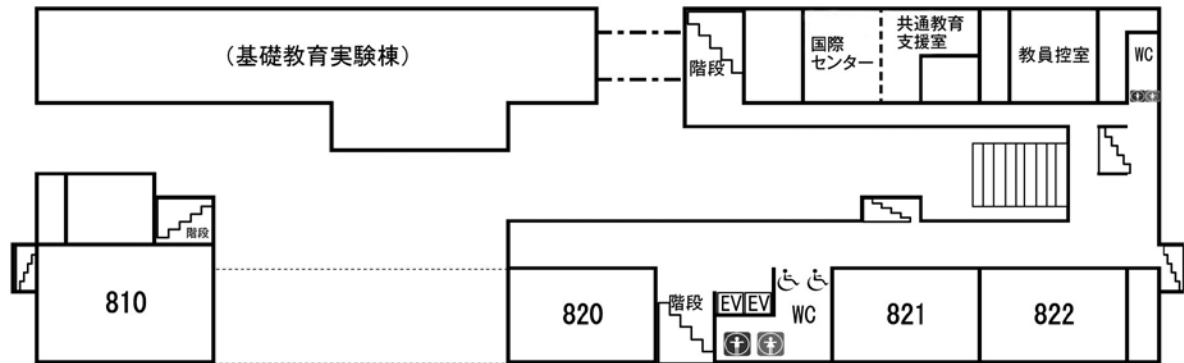
IV 教室等施設配置図

全学共通教育棟

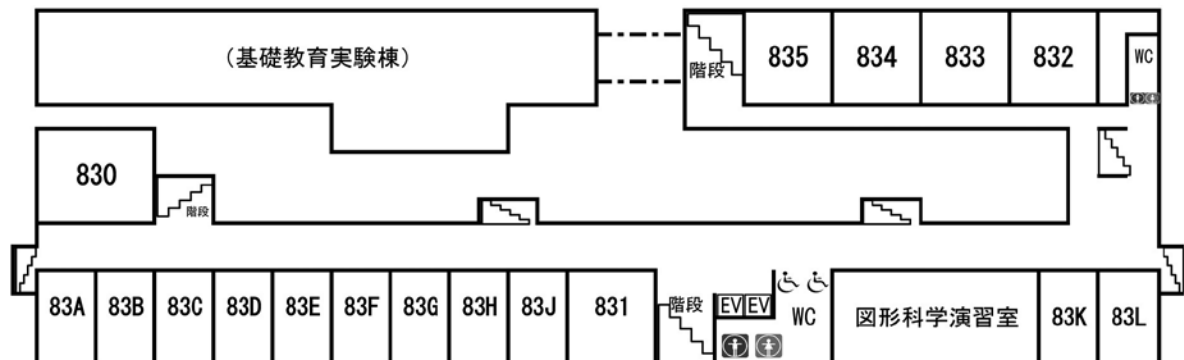
1階



2階

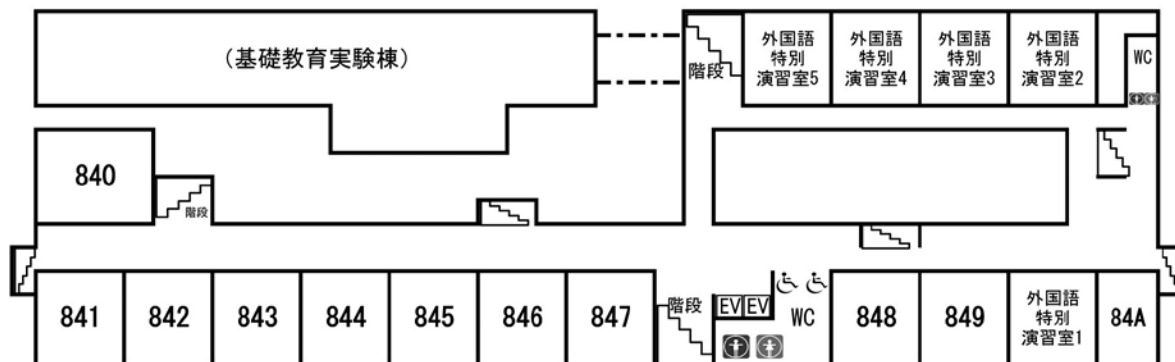


3階

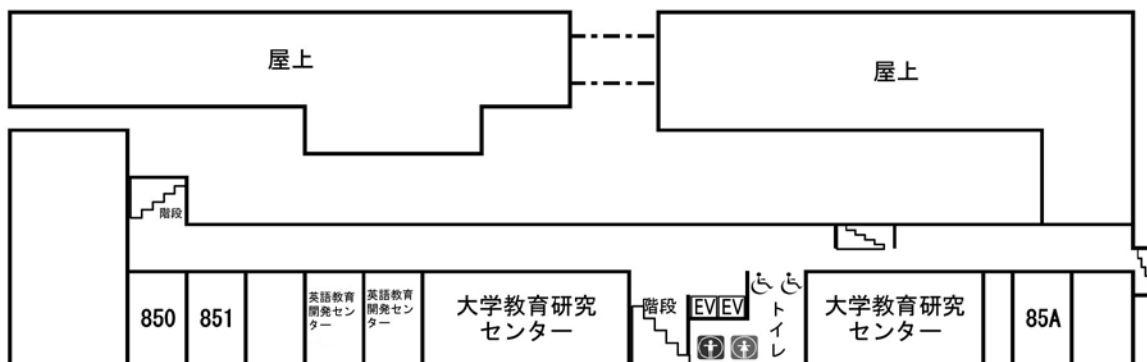


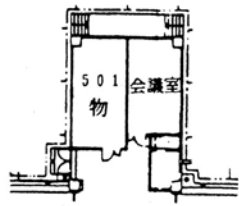
教室配置図

4階

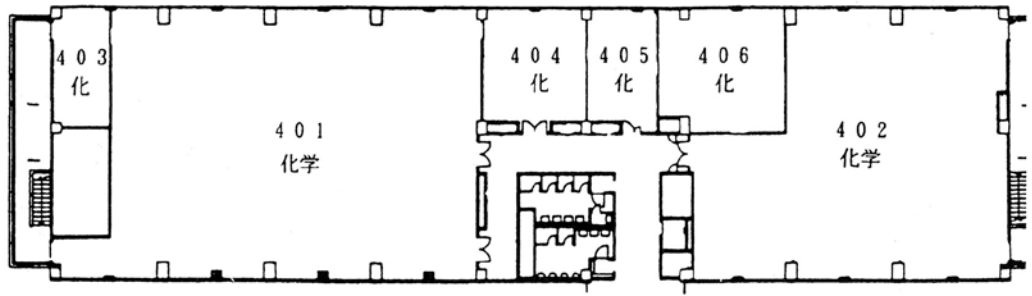


5階





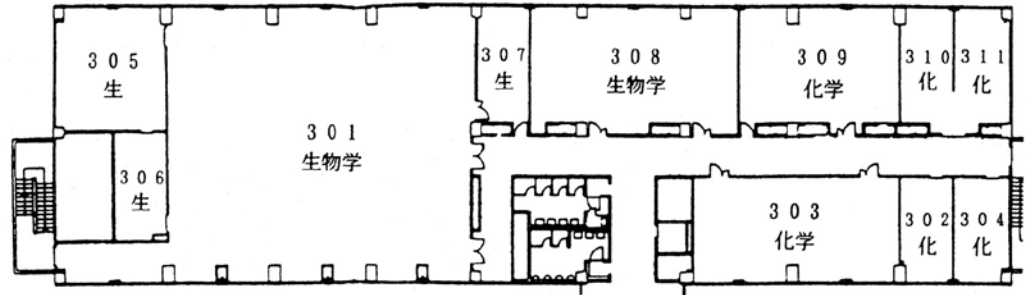
5階



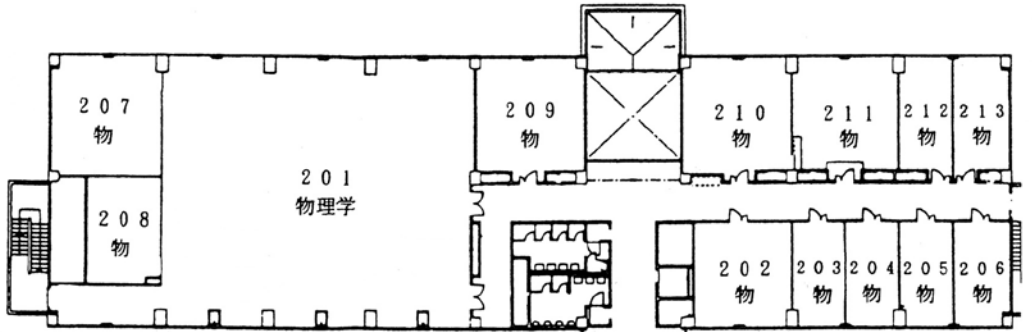
4階

基礎教育実験棟

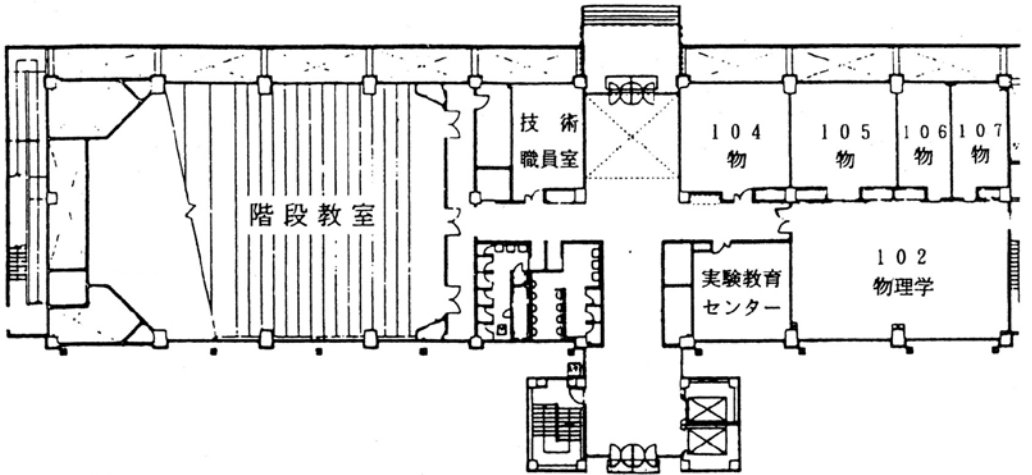
3階



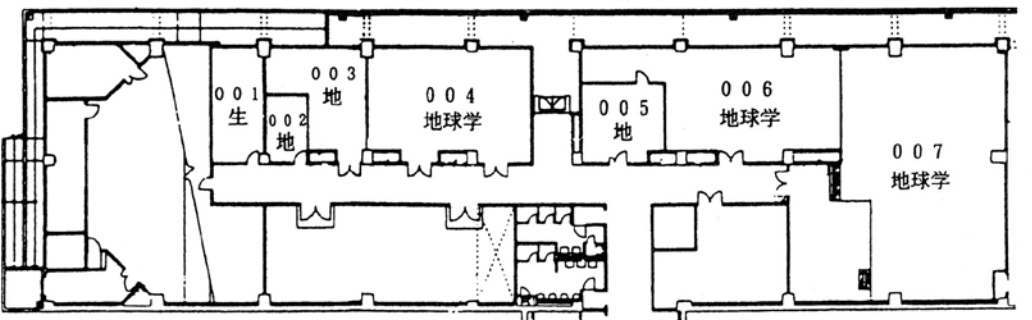
2階



1階

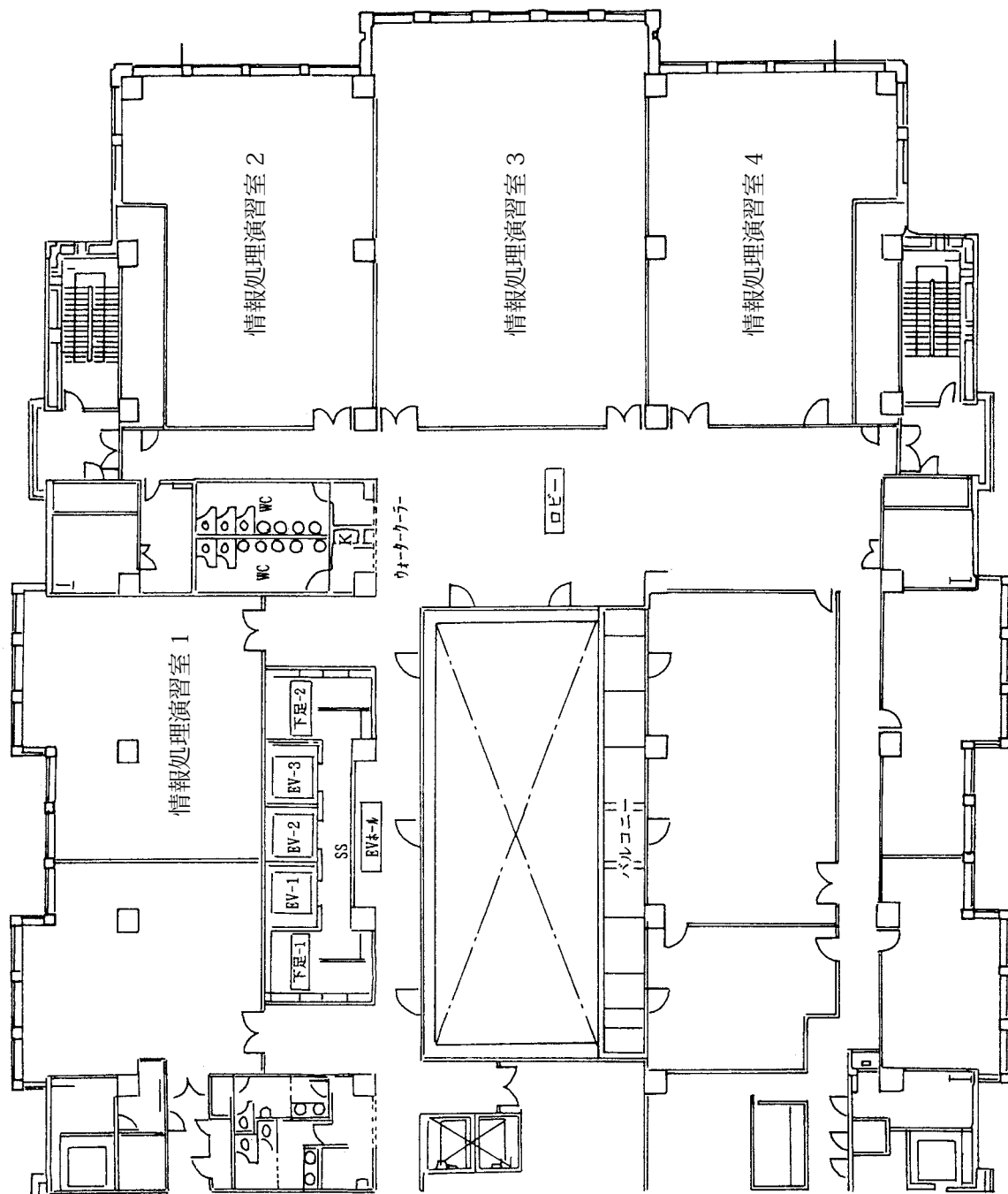
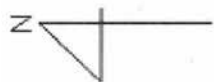


地下1階



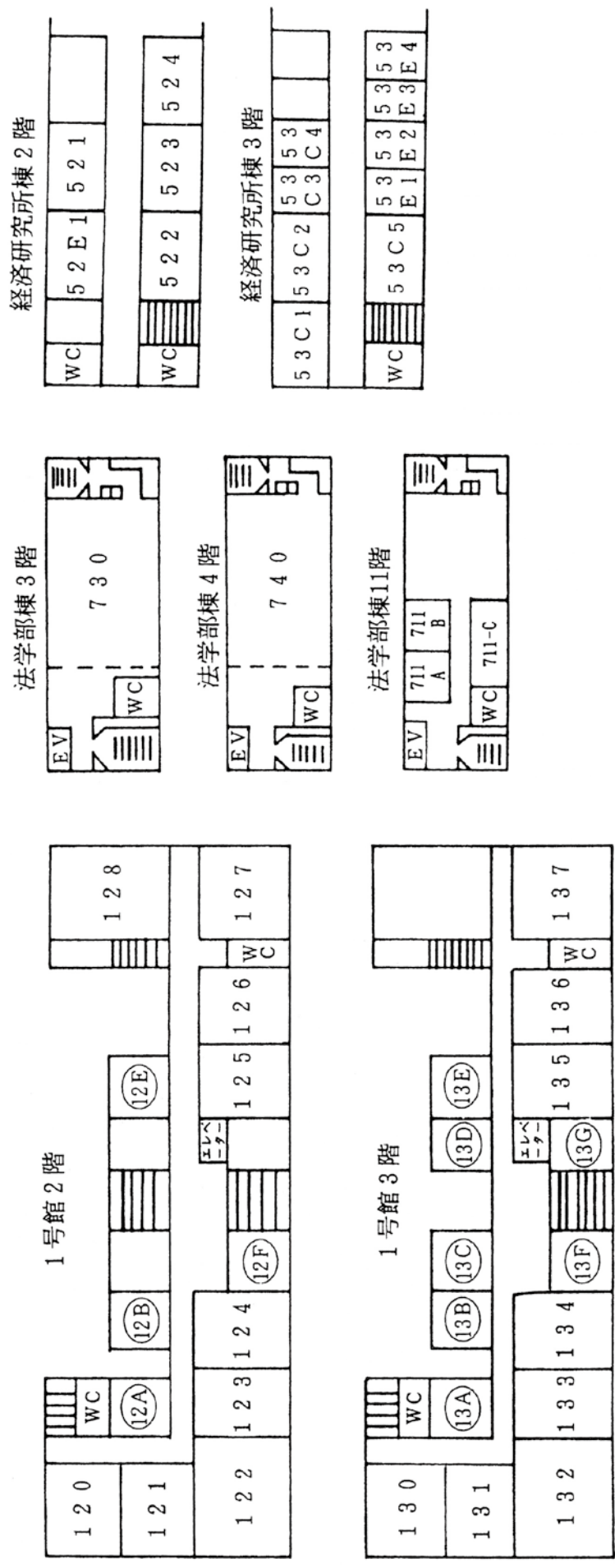
(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

学術情報総合センター 9F

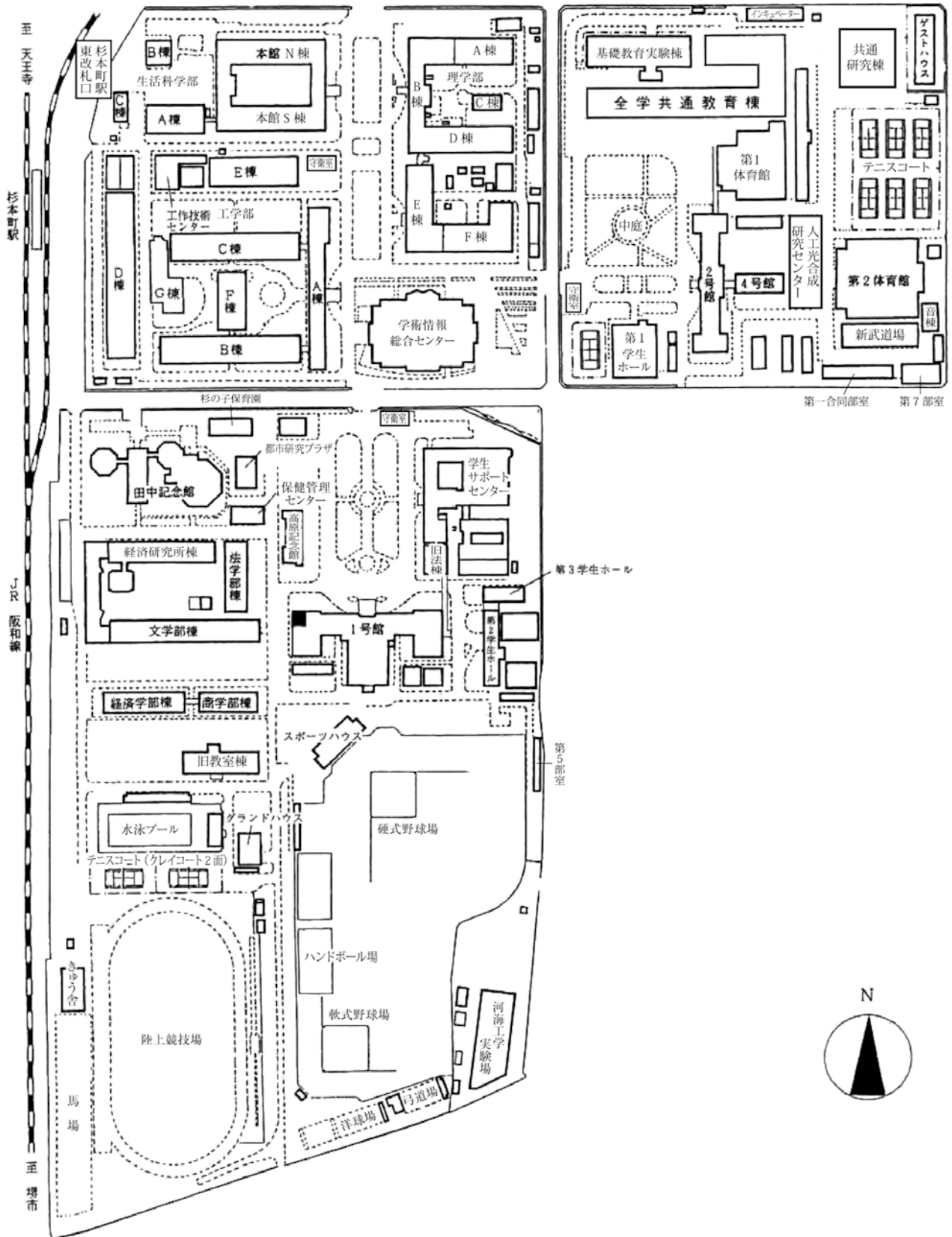


(西側省略)

本館地区各教室見取図



杉本学舎配置図



V 学 则

大阪市立大学学則

第1章 総則

〔 制 定 平成 18 年 4 月 1 日 規程 第 1 号 〕
〔 最近改正 平成 27 年 9 月 28 日 規程 第 214 号 〕

(目的)

第1条 大阪市立大学(以下「大学」という。)は、学術研究の中心として深く専門の学芸を研究し、かつ、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)の規定に従い高い学問的教養を授けるとともに、人格の向上を図ることを目的とする。

(学部等)

第2条 大学の学部(医学部を除く。)、学科、入学定員、第3年次編入学定員(第11条第1項及び第2項の規定による編入学の定員をいう。)及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	第1部(夜間授業の課程以外の課程をいう。以下同じ。)			第2部(夜間授業の課程をいう。以下同じ。)	
		入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
		名	名	名	名	名
商学部	商学科	220		880		
経済学部	経済学科	220		880		
法学部	法学科	165	5	670		
文学部	哲学歴史学科	32	3	134		
	人間行動学科	56	3	230		
	言語文化学科	67	4	276		
	人文学科					
	計	155	10	640		
理学部	数学科	24		96		
	物理学科	33		132		
	化学科	42	3	174		
	生物学科	31		124		
	地球学科	18		72		
	計	148	3	598		
工学部	機械工学科	56		224		
	電子・物理工学科	42		168		
	電気情報工学科	42		168		
	化学バイオ工学科	56		224		
	建築学科	34		136		
	都市学科	50		200		
	計	280		1,120		
生活科学部	食品栄養科学科	35		140		
	居住環境学科	43		172		
	人間福祉学科	45		180		
	計	123		492		
合計		1,311	18	5,280		

2 医学部の学科、入学定員、第2年次編入学定員(第11条第3項の規定による編入学の定員をいう。)、第3年次編入学定員(同条第4項の規定による編入学の定員をいう。)及び収容定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	収容定員
	名	名
医学科	95	570
看護学科	55	220
合計	150	790

- 3 学部に別表に掲げる講座又は学科目を置く。
- 4 大学に教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学官連携推進本部及び国際化戦略本部を置く。
- 5 大学に学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、英語教育開発センター、都市研究プラザ、新産業創生研究センター、情報基盤センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、健康科学イノベーションセンター、都市防災教育研究センター、URAセンター及び複合先端研究機構を置く。
- 6 理学部に附属植物園を、医学部に附属病院及び附属刀根山結核研究所を置く。
- 7 この規則に定めるもののほか、教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学官連携推進本部及び国際化戦略本部並びに学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、英語教育開発センター、都市研究プラザ、新産業創生研究センター、情報基盤センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、健康科学イノベーションセンター、都市防災教育研究センター、URAセンター、複合先端研究機構、理学部附属植物園、医学部附属病院及び医学部附属刀根山結核研究所については、別に定める。

(大学院)

第3条 大学に大学院を置く。

2 大学院については、別に定める。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第5条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項の学期の開始日及び終了日を変更することができる。

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 春季休業 3月20日から4月6日まで
- (4) 夏季休業 8月5日から9月15日まで
- (5) 冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで
- (6) その他学長が必要と認めた日

2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項の休業日を取りやめ、又は変更することができる。

第2章 学生

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6年とする。

2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の修業年限については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

3 第1項の規定にかかわらず、第23条の2の規定に基づき長期にわたる教育課程の履修を認められた者(以下「長期履修学生」という。)の修業年限については、当該履修を許可された年限とする。

(在学年限)

第8条 在学年限は、8年とする。ただし、医学部医学科の在学年限は、11年とする。

2 前項の規定にかかわらず、第 11 条又は第 12 条の規定に基づき入学した者の在学年限については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

第2節 入学、転学部、転学科、留学、退学、休学及び除籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、この限りでない。

(入学)

第10条 大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
 - (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験又は同規則による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による資格検定に合格した者
 - (7) 大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 大学において教育を受ける目的をもって入国する外国人が入学を願い出たときは、前項の規定による入学試験に代えて教授会における選考によることができる。
- 3 第1項各号のいずれかに該当し、かつ、大学において別に定める入学資格を有する者が入学を願い出たときは、同項の規定による入学試験に代えて教授会における選考によることができる。
- 4 第1項の入学試験に合格した者並びに第2項及び第3項により選考された者に対し、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可する。

第11条 次の各号のいずれかに該当する者で、法学部第1部、文学部第1部又は理学部化学科の第3年次への編入学(第6号に該当する者にあつては、文学部第1部への編入学に限る。)を志願するものについては、教授会が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (6) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条第1項の表の上欄に掲げる従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者(同条第2項又は第3項の規定により、これらの学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者とみなされる者を含む。)で学部長が定めるもの

第12条 前条に定めるもののほか、次の各号のいずれかに該当する者で、編入学を志願するものについては、欠員のあつた場合に限り、教授会が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
 - (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
 - (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
 - (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
 - (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
 - (6) その他大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者と同等以上の学力があると学部長が認める者
- 2 学長は、第15条第1項の規定により退学し、又は第17条第2項第1号の規定により除籍された者が再入学を願い出たときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえでこれを許可することができる。ただし、再入学の願い出は、退学又は除籍の日から3年以内に限る。

(転学部及び転学科)

第13条 本学の他学部転学部を志願する者があるときは関係学部の教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可することができる。

- 2 転学科を志願する者があるときは、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可することができる。
- 3 本条に定めるもののほか転学部及び転学科について必要な事項は、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

(留学)

第14条 外国の大学(外国の短期大学を含む。以下同じ。)に留学することを願った者については、教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで、その大学と協議し、これを許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により外国の大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、これを欠くことができる。
- 3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(退学及び休学)

第15条 病気その他やむを得ない事情のため退学しようとする者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで退学を許可することができる。

- 2 病気その他やむを得ない事情のため原則として2月以上にわたって学修することができない者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで休学を許可することができる。
- 3 前項の規定による休学の願い出は、学年ごとに行わなければならない。
- 4 病気のため療養を必要とすると認められる者については、学部長の申請により、学長が休学を命ずることができる。ただし、事前に、時宜によっては事後に、教授会の審議を経て、その意見を聴かななければならない。
- 5 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 6 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第16条 休学期間中にその事由が消滅した者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで復学を許可することができる。

(除籍)

第17条 第8条に定める在学年限内に成業することのできない者は、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで除籍する。

- 2 次の各号の1に該当する者は、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで除籍することができる。
 - (1) 授業料を納付しない者
 - (2) 病気その他の事由により成業の見込みのない者
 - (3) 教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める期間内に所定の単位を修得しない者
 - (4) 第15条第5項に定める休学期間を満了してなお就学できない者

第3節 教育課程

(教育課程の編成方針)

第18条 教育課程は、大学、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を第19条第1項及び第2項に定める区分に従って開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成にあたっては、学部及び学科等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性かん養するよう適切に配慮するものとする。

(副専攻)

第18条の2 前条第1項により編成する教育課程として、特定の課題に関する科目で構成する教育課程(副専攻)を開設し、その学習成果を認定することができる。

(授業科目及び単位数)

第19条 大学において開設する授業科目は、全学共通科目、専門教育科目、教職に関する科目及び副専攻科目とする。

2 全学共通科目は、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目及び健康・スポーツ科学科目に区分する。

3 前2項に定めるもののほか、各授業科目及びその単位数については、全学共通科目履修規程、各学部履修規程及び副専攻規程で定める。

(履修方法)

第20条 学生(医学部医学科の学生を除く。)は、全学共通科目及び専門教育科目を合計して124単位以上を修得しなければならない。

2 医学部医学科の学生は、医学部医学科履修規程で定める単位数以上の全学共通科目を修得するとともに、同規程で定めるところにより、専門教育科目を履修して試験に合格しなければならない。

3 第1項の規定にかかわらず、学部長は、教育上必要があると認めるときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、同項の単位数を増加することができる。

4 前3項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者に係る履修方法については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

(国内の他の大学等の授業科目の履修)

第21条 学生が国内の他の大学(国内の短期大学を含む。以下同じ。)の授業科目を履修することが教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで、その大学と協議し、これを承認することができる。

2 第14条及び前項の規定により修得した授業科目及び単位数については、30単位を超えない範囲で、これを大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第22条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生の行う学修で文部科学大臣が定めるものを、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

2 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで単位を与えることができる。

3 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(既修得単位等の認定)

第23条 学部長は、教育上有益と認めるときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、既修得単位(大学の第1年次に入学した者が当該入学前に大学、国内の他の大学又は外国の大学において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)をいう。)を、当該入学後大学において修得したものとみなすことができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

3 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、単位を与えることができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

4 第1項又は前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて30単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第23条の2 学長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条第1項に規定する修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(その他)

第24条 本節に定めるもののほか、履修方法、単位の計算方法及び学習の評価方法については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

第4節 卒業の認定

(卒業の認定及び学位の授与)

第25条 大学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し、所定の卒業資格を得た者に対し、学長は、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで卒業を認定する。

2 学長は、前項の規定により卒業を認定した者に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、次の区分に従って学士の学位を授与する。

商学部 学士(商学)

経済学部 学士(経済学)

法学部 学士(法学)

文学部 学士(文学)

理学部 学士(理学)

工学部 学士(工学)

医学部

医学科 学士(医学)

看護学科 学士(看護学)

生活科学部 学士(生活科学)

第5節 教員免許

(教員免許)

第26条 教員の免許状授与の所要資格を取得することのできる学部・学科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
商学部	商学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民 商業	高等学校教諭1種免許状
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民 商業	高等学校教諭1種免許状
法学部	法学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
文学部	哲学歴史学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
	人間行動学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
	言語文化学科	国語 中国語 英語 ドイツ語 フランス語	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
		人文学科	社会
	地理歴史 公民		高等学校教諭1種免許状
	国語		中学校教諭1種免許状
	理学部	数学科	数学

学 部	学 科	免許教科	免許状の種類
理学部	物理学科	理科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
	化学科		
	生物学科		
	地球学科		
工学部	機械工学科	工業	高等学校教諭1種免許状
	電子・物理工学科		
	電気情報工学科		
	化学バイオ工学科		
	建築学科		
	都市学科		
生活科学部	食品栄養科学科	家庭	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
			栄養教諭1種免許状
	居住環境学科	家庭	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状

2 前項に定めるもののほか、教員の免許状授与に係る基礎資格及び単位の修得方法等については、学長が別に定めるところによる。

第6節 賞罰

(表彰)

第27条 品性学力ともに優秀な者、又は篤行のあった者はこれを表彰する。

(懲戒)

第28条 学則その他の規定又は命令に違反した者、大学の秩序を乱した者その他学生の本分にもとると認められる者は、懲戒委員会の議決を経て学長が懲戒する。

- 2 懲戒委員会の組織は、教育研究評議会で定める。
- 3 懲戒処分は、訓告、停学及び退学の3種とする。

第3章 科目等履修生及び研修生

(科目等履修生)

第29条 特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議が選考し、学長がその意見を聴いたうえで科目等履修生として入学を許可することができる。

(特別履修学生)

第30条 学長は、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が、大学の授業科目を履修することを認めることができる。

- 2 前項の規定により大学の授業科目の履修を認められた学生を特別履修学生と称する。
- 3 第1項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により外国の大学と事前に協議を行うことが困難なときは、これを欠くことができる。

(研修生)

第31条 公の機関又は団体等から、その所属の職員につき、学修題目を定めて研修を願い出たときは、教授会又は都市健康・スポーツ研究センター教員会議が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により入学を許可された者を研修生とする。

(その他)

第32条 本章に定めるもののほか、科目等履修生及び研修生について必要な事項は学長が別に定める。

第4章 授業料その他の納付金

(納付金)

第33条 納付金の額は、次表のとおりとする。

区分		入学検定料	入 学 料		授 業 料
			本市住民及びその子	その他の者	
学生	第1部	17,000円	222,000円	342,000円	1年 535,800円
	第2部	10,000円	111,000円	171,000円	1年 267,900円
科目等履修生		9,800円	22,200円	34,200円	1単位 14,800円
研修生		9,800円	66,600円	102,600円	1月 29,700円

2 前項の規定にかかわらず、第10条第3項、第11条又は第12条第1項の規定により入学を願い出た者に係る入学検定料の額については、第1部にあつては30,000円、第2部にあつては18,000円とする。

3 第1項の規定にかかわらず、長期履修学生の授業料の額については、別に定める。

(既納付金の還付)

第34条 既納の納付金は、還付しない。ただし、次の各号の1に該当する場合には、この限りでない。

- (1) 学生に係る入学試験において、出願書類等による選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜を行う場合
- (2) 前号のほか公立大学法人大阪市立大学（以下「法人」という。）理事長が必要と認めた場合

(減免及び分納)

第35条 休学者に対しては授業料を免除する。ただし、休学した日の前日又は復学した日の属する学期の授業料を納めなければならない。

2 学年の途中で卒業する者、退学する者及び除籍された者は、その日の属する学期の授業料を納めなければならない。

第36条 特別の事情があると認めるときは、授業料の減免若しくは分納又は入学検定料若しくは入学料の減免を許可することができる。

第37条 特別履修学生に対しては、入学検定料及び入学料を免除する。

2 特別履修学生に対しては、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、授業料を免除することができる。

(その他)

第38条 本章に定めるもののほか、授業料等の納期その他納付金については別に定めるところによる。

第5章 職員組織

(職員)

第39条 大学に次の職員を置く。

- (1) 学長、副学長、教育推進本部長、研究推進本部長、地域貢献推進本部長、産学連携推進本部長、国際化戦略本部長、学部長、副学部長、研究所長、学術情報総合センター所長、病院長、学生担当部長、教務担当部長、入試担当部長
- (2) 教授、准教授、講師、助教
- (3) 事務職員、技術職員
- (4) その他必要な職員

- 2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
- 3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(組織)

第40条 大学の教育研究の発展に資するため教員組織として研究院をおく。

- 2 大学の事務を処理するため、大学に大学運営本部を、医学部に医学部・附属病院運営本部を置く。
- 3 研究院、大学運営本部及び医学部・附属病院運営本部については、別に定める。

第6章 教授会、教育研究評議会等

(教授会等)

第41条 各学部に教授会を、都市健康・スポーツ研究センターに都市健康・スポーツ研究センター教員会議を、人権問題研究センターに人権問題研究センター教員会議を、大学教育研究センターに大学教育研究センター研究員会議を置く。

- 2 教授会は教授をもって組織する。ただし、教育研究評議会の承認を経て准教授その他の教員を加えることができる。
- 3 都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議及び大学教育研究センター研究員会議については、別に定める。

第42条 学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 学科、課程及び履修方法に関する事項
 - (4) 学生の入学、留学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
 - (5) 科目等履修生及び研修生に関する事項
 - (6) 学部の内規の制定及び改廃に関する事項
 - (7) 学校教育法第93条第3項に基づき、学長及び学部長に述べる意見に関する事項
 - (8) その他学部における重要事項
- 2 教授会の議事の手続その他その運営に必要な事項については、別に定める。

(教育研究評議会)

第43条 大学に教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会は、次に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長が指名する理事
- (4) 学長が定める教育研究上重要な組織の長
- (5) 教育研究評議会が定めるところにより学長が指名する職員

3 前項第5号に定める職員を、教育研究評議員と称する。

4 教育研究評議員は、大学院の各研究科教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において、当該研究科、都市健康・スポーツ研究センター又は大学教育研究センターに所属する常勤教員のうちから選定し、学長がこれを指名する。

第44条 教育研究評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 中期目標について大阪市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (2) 地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)により大阪市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (3) この規則及び大阪市立大学大学院学則の改正並びに教育研究に関する規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 教育研究評議員の任期に関する事項
- (5) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項
- (6) 教員の懲戒処分の審査に関する事項
- (7) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- (8) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (9) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- (10) 学生の身分に関する重要事項

- (11) 学生の厚生補導に関する事項
- (12) 教授会その他の機関の連絡調整に関する事項
- (13) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (14) 前各号に掲げるもののほか、大学における教育研究に関する重要事項

(招集及び議事)

第45条 教育研究評議会は、学長が招集する。

- 2 教育研究評議会に議長を置き、学長をもって充てる。
- 3 議長は、教育研究評議会を主宰する。
- 4 教育研究評議会は、構成員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 5 教育研究評議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 この規則に定めるもののほか、教育研究評議会の運営に必要な事項については、教育研究評議会の議を経て学長が定める。

第7章 雑則

(改正)

第46条 この規則の改正は、法人の経営に関する事項については、公立大学法人大阪市立大学定款（平成16年大阪市議会議決）に定める経営審議会の、法人の経営に関する事項以外の事項については、教育研究評議会の意見を聴いて行うものとする。

(施行の細目)

第47条 この規則の施行について必要な事項は、学長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条第1項の規定（理学部生物学科第1部第3年次編入学定員に係る部分に限る。）については、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成18年度における理学部生物学科第1部第3年次編入学定員については、第2条第1項の規定にかかわらず、2名とする。
- 3 平成18年度及び平成19年度における各学部各学科（工学部機械工学科、電気工学科、建築学科、医学部並びに生活科学部居住環境学科を除く。以下この項において同じ。）の第1部収容定員、文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計、医学部看護学科の収容定員並びに医学部の収容定員の合計については、第2条第1項及び第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。
 - (1) 各学部各学科の第1部収容定員

学部	学科	平成18年度	平成19年度
		名	名
商学部	商学科	751	775
経済学部	経済学科	751	775
法学部	法学科	612	600
文学部	哲学歴史学科	120	122
	人間行動学科	196	200
	言語文化学科	227	235
理学部	数学科	90	93
	物理学科	114	119
	物質科学科	62	68
	化学科	89	97
	生物学科	98	108

学部	学科	平成 18 年度	平成 19 年度
理学部	地球学科	68	71
工学部	応用化学科	107	109
	都市基盤工学科	56	84
	応用物理学科	107	109
	情報工学科	100	106
	バイオ工学科	56	84
	知的材料工学科	100	106
	環境都市工学科	100	106
生活科学部	食品栄養科学科	130	135
	人間福祉学科	175	177

(2) 文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計

学部	平成 18 年度	平成 19 年度
	名	名
文学部	543	557
理学部	521	556
工学部	1,063	1,090
生活科学部	477	484

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成 18 年度	平成 19 年度
名	名
4,718	4,836

(4) 医学部看護学科の収容定員

平成 18 年度	平成 19 年度
名	名
160	230

(5) 医学部の収容定員の合計

平成 18 年度	平成 19 年度
名	名
640	710

3 平成 18 年度から平成 20 年度までの各年度における商学部、経済学部、法学部及び文学部各学科の第 2 部収容定員、文学部の第 2 部収容定員の合計並びに商学部、経済学部、法学部及び文学部の第 2 部収容定員の合計については、第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
		名	名	名
商学部	商学科	250	225	200
経済学部	経済学科	280	270	260
法学部	法学科	240	210	180
文学部	哲学歴史学科	36	24	12
	人間行動学科	42	28	14
	言語文化学科	42	28	14
	人文学科	60	90	120
	計	180	170	160
合計		950	875	800

4 この規則の施行の際、現に工学部に在学する者（平成 17 年 3 月 31 日までに工学部土木工学科及び生物応用化学科に入学した者に限る。）については、第 2 条第 1 項、第 26 条第 1 項及び別表の規定にかかわらず、法人の設立前の大阪市立大学学則（昭和 30 年大阪市規則第 18 号。以下「廃止前の市規則」という。）における当該規定の取扱いを準用する。

- 5 この規則の施行の際、現に商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部に在学する者（平成17年3月31日までに入学した者に限る。）については、第2条第1項、第7条、第8条及び第26条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。
- 6 平成11年3月31日までに入学した者に係る授業料の額は、第33条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

附 則（平成18年11月21日規程第173号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成18年12月19日規程第184号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第2条の改正規定は、平成18年12月19日から施行する。

附 則（平成19年3月20日規程第14号）

（施行期日）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成19年3月31日までに生活科学部人間福祉学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成19年7月24日規程第72号）

（施行期日）

1 この規則は、平成19年10月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に医学部に在学する者（平成19年9月30日までに医学部医学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成20年3月18日規程第14号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年7月29日規程第86号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月16日規程第15号）

（施行期日）

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成21年度から平成23年度までの各年度における理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員、理学部の第1部収容定員の合計、工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員並びに全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員

学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
物理学科	126名	128名	130名
物質科学科	53	32	16
化学科	123	140	157
生物学科	119	120	121
地球学科	72	70	70

(2) 理学部の第1部収容定員の合計

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
名 589	名 586	名 590

(3) 工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員

学科	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	名	名	名
機械工学科	140	168	196
電子・物理工学科	42	84	126
情報工学科	126	140	154
化学バイオ工学科	56	112	168
建築学科	118	124	130
都市学科	50	100	150

(4) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
名 4,973	名 4,970	名 4,974

3 平成 21 年度から平成 25 年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
名 490	名 500	名 510	名 520	名 530

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
名 720	名 730	名 740	名 750	名 760

4 この規則の施行の際、現に理学部に在学する者（平成 21 年 3 月 31 日までに理学部物質科学科に入学した者に限る。）及び工学部に在学する者（平成 21 年 3 月 31 日までに工学部電気工学科、応用化学科、都市基盤工学科、応用物理学科、バイオ工学科、知的材料工学科、環境都市工学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第2条第1項、第 26 条第1項及び別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成 22 年 3 月 31 日規程第 64 号）

（施行期日）

1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 平成 22 年度から平成 24 年度までの各年度における商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員、文学部の第1部の収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員並びに文学部第1部の収容定員の合計

学 部	学 科	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
		名	名	名
商学部	商学科	820	840	860
経済学部	経済学科	820	840	860
法学部	法学科	620	640	655
文学部	哲学歴史学科	127	130	132

学部	学科	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
文学部	人間行動学科	211	218	224
	言語文化学科	253	262	269
	計	591	610	625

(2) 全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
名 5,057	名 5,136	名 5,206

3 平成 22 年度から平成 26 年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
名 502	名 514	名 526	名 538	名 550

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
名 732	名 744	名 756	名 768	名 780

附 則（平成 22 年 9 月 27 日規程第 111 号）
この規則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行する。

附 則（平成 23 年 3 月 30 日規程第 139 号）

（施行期日）

1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成 23 年 3 月 31 日までに生活科学部に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第 26 条第 1 項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成 24 年 3 月 30 日規程第 17 号）

（施行期日）

1 この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 平成 24 年度から平成 25 年度までの各年度における医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

平成 24 年度	平成 25 年度
名 212	名 194

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 24 年度	平成 25 年度
名 764	名 746

附 則（平成 24 年 6 月 29 日規程第 75 号）
この規則は、平成 24 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年 1 月 31 日規程第 2 号）

この規則は、平成 25 年 2 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 25 年 3 月 29 日規程第 23 号)

(施行期日)

1 この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 平成 25 年度から平成 27 年度までの各年度における医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
名	名	名
197	195	205

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
名	名	名
735	745	757

附 則 (平成 25 年 5 月 31 日規程第 56 号)

この規則は、平成 25 年 6 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 25 年 10 月 31 日規程第 106 号)

この規則は、平成 25 年 11 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 26 年 3 月 28 日規程第 18 号)

(施行期日)

1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 平成 26 年度から平成 28 年度までの各年度における理学部生物学科及び地球学科の第 1 部の収容定員、理学部の第 1 部の収容定員の合計並びに全学部 (医学部を除く。) の第 1 部の収容定員の合計については、改正後の規則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部生物学科及び地球学科の第 1 部の収容定員

学科	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
生物学科	名 121	名 120	名 122
地球学科	69	68	70

(2) 理学部の第 1 部の収容定員の合計

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
名	名	名
592	590	594

(3) 全学部 (医学部を除く。) の第 1 部の収容定員の合計

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
名	名	名
5,274	5,272	5,276

附 則 (平成 26 年 7 月 31 日規程第 67 号)

この規則は、平成 26 年 8 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 26 年 10 月 1 日規程第 74 号)

この規則は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 27 年 2 月 10 日規程第 12 号)
この規則は、平成 27 年 3 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 27 年 3 月 31 日規程第 23 号)
(施行期日)

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 平成 27 年度から平成 31 年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
名 555	名 558	名 561	名 564	名 567

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
名 760	名 778	名 781	名 784	名 787

附 則 (平成 27 年 9 月 28 日規程第 214 号)
この規則は、平成 26 年 9 月 28 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

別表 (第 2 条関係)
商学部

部 門 名	科 目 名
経営学部門	経営学 経営学原理 経営組織論 経営学史 経営史 企業形態論 公益事業論 中小企業経営論 国際経営論 経営管理論 生産管理論 マーケティング管理論 情報管理論 経営財務論 人的資源管理論 経営統計論 オペレーションズ・マネジメント 経営戦略論 経営倫理 組織行動論 組織間関係論 コーポレート・ガバナンス論 アントレプレナーシップ論 イノベーション・マネジメント リスク・マネジメント論 サービス経営論

部門名	科目名
経営学部門	情報戦略論 経営科学 非営利組織経営論 情報社会論 情報システム開発論 データ分析論 情報産業論 情報処理演習 企業経営概論 経営情報概論 企業システム特講 マネジメント特講 情報論特講
商学部門	経済学 金融論 金融政策論 証券市場論 証券分析論 金融機関論 金融制度論 国際金融論 国際通貨体制論 外国為替論 商業論 卸売商業論 流通政策論 小売国際経営論 流通システム論 マーケティング経済論 小売商業論 経営ロジスティクス論 貿易論 通商政策論 交通論 保険論 社会保険論 貿易実務 工業論 アメリカ産業論 日本産業論 地域経営論 中小企業論 地域産業論 産業立地論 国際立地論 産業統計論 統計方法論 技術論 技術史

部門名	科目名
商学部門	サービス産業論 環境論 環境政策論 金融概論 商業概論 国際ビジネス概論 産業概論 金融論特講 流通論特講 産業論特講 国際ビジネス論特講 都市経営論特講 証券市場論特講
会計学部門	会計基礎論 会計学 財務会計論 ディスクロージャー論 会計手続選択論 企業評価論 実証会計論 経営分析論 社会関連会計論 国際会計論 中級簿記 簿記原理 管理会計論 国際管理会計論 原価計算論 コスト・マネジメント論 会計史 公会計論 会計監査論 会計情報システム論 コンピュータ会計論 英文会計論 非営利組織会計論 税務会計論 会計学概論 財務会計論特講 管理会計論特講

経済学部

部門名	科目名
経済理論部門	近代経済学（マクロ経済学1） 近代経済学（マクロ経済学2） 近代経済学（ミクロ経済学1） 近代経済学（ミクロ経済学2） 政治経済学Ⅰ 政治経済学Ⅱ

部門名	科目名
経済理論部門	経済学説史 社会思想史 応用マクロ経済学 応用ミクロ経済学 経済原論Ⅰ 経済原論Ⅱ 経済変動論 社会経済論 経済学説史特講 社会思想史特講 経済変動論特講 社会経済論特講 ミクロ経済学上級講義1 ミクロ経済学上級講義2
経済統計論部門	基礎・経済統計 経済数学 統計解析論 計量経済学 経済統計論 経済情報論 多変量解析論 計算機経済学 商業簿記基礎論 統計解析論特講 計量経済学特講 経済統計論特講A 経済統計論特講B 経済情報論特講 計算機経済学特講
経済史部門	日本経済史 西洋経済史 アジア経済史 戦後経済史 日本経済史特講 アジア経済史特講 戦後経済史特講 経済史上級講義
経済政策論部門	社会政策論 経済政策論 公共経済学 財政学 地方財政論 環境経済学 金融経済論 労働経済論 日本経済論 社会政策論特講 財政学特講 地方財政論特講

部門名	科目名
経済政策論部門	環境経済学特講 労働経済論特講 日本経済論特講 産業政策特講 1 産業政策特講 2 証券経済論特講 金融経済論特講 経済政策上級講義 日本経済の論点
経済構造論部門	産業経済論 農業経済論 産業技術論 流通経済論 交通経済論 都市経済論 経済地理学 産業組織論 産業経済論特講 農業経済論特講 産業技術論特講 流通経済論特講 交通経済論特講 都市経済論特講 経済地理学特講 産業組織論特講 企業経済論特講 経済構造上級講義
国際経済論部門	国際経済学 国際協力論 国際通貨論 経済開発論 比較経済論 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 アジア経済論 中国経済論 国際経済学特講 国際協力論特講 比較経済学特講 中国経済論特講 アジア経済論特講 経済開発論特講 国際協力論特講 各国経済論特講（経済英語 1） 各国経済論特講（経済英語 2） 各国経済論特講W（インターナショナルワークショップ） Global Economy Lectures on Economics A Lectures on Economics B

部門名	科目名
国際経済論部門	Introduction to International Economics 国際経済学上級講義 世界経済の論点

法学部

部門名	科目名
基礎法学	法哲学 法社会学 法情報学 日本法制史 日本近代法制史 東洋法制史 西洋法制史 ローマ法 基礎法学特講
公法	憲法第1部 憲法第2部 行政法第1部 行政法第2部 租税法 刑法第1部 刑法第2部 刑事訴訟法 刑事政策 公法特講
私法	民法第1部 民法第2部 民法第3部 民法第4部 民法第5部 民法特講 商法第1部 商法第2部 商法第3部 金融商品取引法 商法特講 民事訴訟法 民事執行・保全法 倒産法
社会法	労働法 社会保障法 経済法 知的財産法 社会法特講
国際関係・外国法	国際法 国際組織法 国際経済法 国際私法 英米法

部門名	科目名
国際関係・外国法	ドイツ法 フランス法 アジア法 外国法特講
政治・行政学	政治学 比較政治学 政治過程論 政治学史 日本政治外交史 欧州政治外交史 国際政治 行政学 公共政策論 都市行政論 政治学特講

文学部

学科名	コース名	科目名
哲学歴史学科	哲学	哲学 哲学史 論理学 倫理学 宗教学
	日本史	日本史学Ⅰ 日本史学Ⅱ 日本史学Ⅲ
	世界史	世界史学Ⅰ 世界史学Ⅱ 世界史学Ⅲ 世界史学Ⅳ 世界史学Ⅴ 世界史学Ⅵ
	共通	人間文化学
人間行動学科	社会学	理論社会学 社会学方法論 特殊社会学 応用社会学
	心理学	心理学 実験心理学 精神測定学 応用心理学
	教育学	教育学 教育方法学 教育心理学 教育社会学
	地理学	地理学Ⅰ 地理学Ⅱ 地理学Ⅲ 地誌学Ⅰ

学 科 名	コ ー ス 名	科 目 名
人間行動学科	地理学	地誌学Ⅱ
	共通	人間行動学
言語文化学科	国語国文学	国語学Ⅰ 国語学Ⅱ 国文学Ⅰ 国文学Ⅱ 国文学史
	中国語中国文学	中国語学Ⅰ 中国語学Ⅱ 中国文学 中国文化学
	英米言語文化	英米語学Ⅰ 英米語学Ⅱ 英米文学Ⅰ 英米文学Ⅱ 英米文学史 英米文化論
	ドイツ語フランス語圏言語文化	ドイツ語学 ドイツ文学 ドイツ文化論 フランス語学 フランス文学 フランス文化論 ドイツ語フランス語圏言語文化論
	言語応用	言語学 言語応用論 言語比較論 言語教育論 言語情報論
	表現文化	文化理論 表現文化論 表象文化論 比較表現論
	共通	言語文化論
人文学科	歴史文化	日本史学 世界史学 都市文化学
	人間行動学	社会学方法論 応用心理学 人文地理学 教育方法学
	言語文化・思想	国語学 国文学 中国文学 表現文化論 言語文化論 哲学 倫理学

理学部

学 科 名	講 座 名
数学	数理構造論 数理解析学
物理学	基礎物理学 宇宙・高エネルギー物理学 物性物理学
化学	物理化学 無機化学 有機化学
生物学	生物分子機能学 生体機能生物学 自然誌機能生物学
地球学	環境地球学 地球物質進化学

工学部

学 科 名	講 座 名
機械工学	機械工学 知的材料工学
電子・物理工学	電気工学 応用物理学 情報工学
電気情報工学	
化学バイオ工学	応用化学 バイオ工学
建築学	建築学 都市基盤工学 環境都市工学
都市学	

医学部

学 科 名	講 座 名	専 門 分 野
医学	分子生体医学	分子病態薬理学 分子病態学 分子制御生物学 システム神経科学 分子細胞生理学 機能細胞形態学 細胞情報学 細胞機能制御学 実験動物学 器官構築形態学 薬効安全性学
	都市医学	分子病理学 病理病態学 産業医学 都市環境医学 公衆衛生学 運動生体医学

学 科 名	講 座 名	専 門 分 野
医学	都市医学	運動環境生理学 生物統計学 法医学 ウイルス学 細菌学 寄生虫学
	老年医科学	免疫制御学 生体機能解析学 脳神経科学 遺伝子制御学 老年血管病態学 老年腫瘍病態学 分子制御
	臓器器官病態内科学	循環器内科学 腎臓病態内科学 呼吸器内科学 肝胆膵病態内科学 消化器内科学 代謝内分泌病態内科学 血液腫瘍制御学 神経精神医学 血行動態力学 臨床腫瘍学
	病態診断・生体機能管理医学	放射線診断学・IVR学 放射線腫瘍学 核医学 診断病理学 麻酔科学 救急医学 先端予防医療学 歯科・口腔外科学
	生殖発達医学	女性生涯医学 女性病態医学 発達小児医学 神経内科学
	臓器器官病態外科学	腫瘍外科学 消化器外科学 肝胆膵外科学 心臓血管外科学 泌尿器病態学
	感覚・運動機能医学	皮膚病態学 視覚病態学 耳鼻咽喉病態学 上気道機能病態学 脳神経外科学 脳神経病態学 整形外科学 リウマチ外科学 形成外科学

学 科 名	講 座 名	専 門 分 野
医学	医療管理医学	医薬品・食品効能評価学 総合医学教育学 臨床感染制御学 医療安全管理学
看護学	看護学	看護基礎科学 基礎看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 母性看護学 小児看護学 在宅看護学 公衆衛生看護学

生活科学部

学 科 名	講 座 名	専 門 分 野
食品栄養科学	食品栄養科学	食・健康科学
居住環境学	居住環境学	居住環境学
人間福祉学	人間福祉学	総合福祉科学 臨床心理学

VI 各学部等の電話番号・所在地

各学部等の電話番号・所在地

杉本学舎 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

学 部 等	電 話 番 号	備 考
教 務 兼 教 職 担 当	06-6605-2936	教職関係
商 学 部	06-6605-2201	
経 済 学 部	06-6605-2251	
法 学 部	06-6605-2303	
文 学 部	06-6605-2353	
理 学 部	06-6605-2504	
工 学 部	06-6605-2653	
生 活 科 学 部	06-6605-2803	
共 通 教 育 担 当	06-6605-2935	

阿倍野学舎 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

学 部 等	電 話 番 号	備 考
医学部学務課（医学科）	06-6645-3611	
医学部学務課（看護学科）	06-6645-3511	

学 部		学籍番号	
氏 名			